

# 年報の発刊にあたって

平成28(2016)年度は、独立行政法人国立文化財機構(平成19年4月発足)が定めた第4期5ヵ年中期計画(2016～2020)の初年度です。今期中期計画において、当研究所の果たすべき社会的使命と役割について「わが国の文化財研究を、基礎的なものから先端的・実践的なものまで、多様な手法により行い、その成果を積極的に公表する。また、文化財担当者の研修、地方公共団体への専門的な助言を行う。さらに、保存科学・修復技術に関するわが国の拠点としての役割を果たす。また、世界の文化財保護に関する国際的な研究交流、保護事業への協力、専門家の養成、情報の収集と活用等を実施し、文化財保護における国際協力の拠点としての役割を果たす」と定めています。

この目標を達成するため、当研究所では研究部門の所掌事項をより明確にし、部門名称の一部を改正しました。すなわち、企画情報部を文化財情報資料部と改め、従来から継続する基礎的研究や文化財情報の収集に加え、それらの発信に関する調査研究を行うこととしました。そして、保存修復科学センターを保存科学研究センターと改め、文化財の保存修復に関する科学的な調査研究を行うとともに、国立文化財機構における保存修復業務に関する一体的な取り組みを推進することを明確に打ち出しました。また、無形文化遺産部では、従来の伝統的な音楽や演劇、工芸技術といった無形文化財や民俗芸能、風俗・慣習等に加え、地域の生産技術である民俗技術などの無形民俗文化財の調査研究のほか、今年度から文化財の保存に必要な用具や資材確保のための生産技術等についても調査研究を進めることとしました。さ

らに文化遺産国際協力センターでは、アジア諸国を中心に文化財専門家養成や保存修復技術の移転等各国の要請に基づく研究・研修事業を行うなど文化力による国際貢献に力を注ぐことにしました。

そして、上記の2部2センターからなる研究部門の研究業務等をより有効かつ多面的に機能するために研究支援推進部(事務部門)とともに関係機関との連携を深めながら、全所的な取り組みを進めているところです。主な研究業務は、(1)文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進、(2)最新科学技術の応用等による文化財の保存科学や修復技術に関する調査・研究の推進、(3)文化財保護に関する国際協力の推進で、各プロジェクトの内容と進捗状況については個々に示しています。このうち、特に力を入れているのは、当研究所がこれまで蓄積してきた研究成果についてのデジタルアーカイブ化と内外の文化財関係機関とのネットワークの構築のための情報システム開発です。また、発生から6年を経た東日本大震災で救出した被災文化財の修復についての指導・助言を引き続き行うとともに、教訓として痛感した有形・無形の文化遺産の所在地把握の業務も関係機関の協力を得ながら取り組み、予防を含めた災害対策についても視野に入れた研究活動を目指しています。

今後とも文化財保護に資する基礎的な調査・研究は継続していきますが、各方面からの多様な文化財保護のための要請に対して確実に応えるべく、全所員一丸となって取り組んでいく決意です。当研究所への関係各位の一層のご支援ご協力をお願いする次第です。

2017(平成29)年6月

独立行政法人国立文化財機構  
東京文化財研究所  
所長 亀井伸雄

## 1. 機構 5

1. 組織図	7
2. 組織の概要と職員	8
(1) 研究支援推進部	8
(2) 文化財情報資料部	9
(3) 無形文化遺産部	10
(4) 保存科学研究センター	11
(5) 文化遺産国際協力センター	12

## 2. 年度計画及びプロジェクト報告 15

1. 年度計画(平成28年度)とプロジェクトとの対応	17
2. プロジェクト報告	32
① 有形・無形の文化財に関する調査研究事業	35
② 保存修復に関する調査研究事業	41
③ 国際協力・交流等に関する事業	48
④ 情報収集・成果公開に関する事業	53
⑤ 刊行物に関する事業	63
⑥ 指導助言・研修等に関する事業	67

## 3. 外部資金等による研究活動 73

1. 科学研究費助成事業	75
2. 受託調査研究・外部機関との共同研究及び外部資金による研究	105
3. その他の調査研究	122

## 4. 個人の研究業績 123

## 5. 研究交流 149

1. 職員の海外渡航 .....	151
2. 招へい研究員等 .....	156
3. 海外研究者等の来訪 .....	158
4. 主要来訪者、施設見学 .....	159

## 6. 資料 161

1. 主な所蔵資料 .....	163
1. 図書資料 .....	163
2. その他 .....	164
2. 研究所関係資料 .....	165
1. 設立の経緯 .....	165
2. 年代別重要事項 .....	165
3. 歴代所長(昭和5年～平成28年度) .....	168
4. 名誉研究員 .....	169
5. 2016(平成28)年度予算等 .....	170
3. 独立行政法人国立文化財機構中期計画 .....	175
4. 東京文化財研究所関係事業索引 .....	193





# 1. 機 構

1. 組織図 .....	7
2. 組織の概要と職員 .....	8
(1) 研究支援推進部 .....	8
(2) 文化財情報資料部 .....	9
(3) 無形文化遺産部 .....	10
(4) 保存科学研究センター .....	11
(5) 文化遺産国際協力センター .....	12

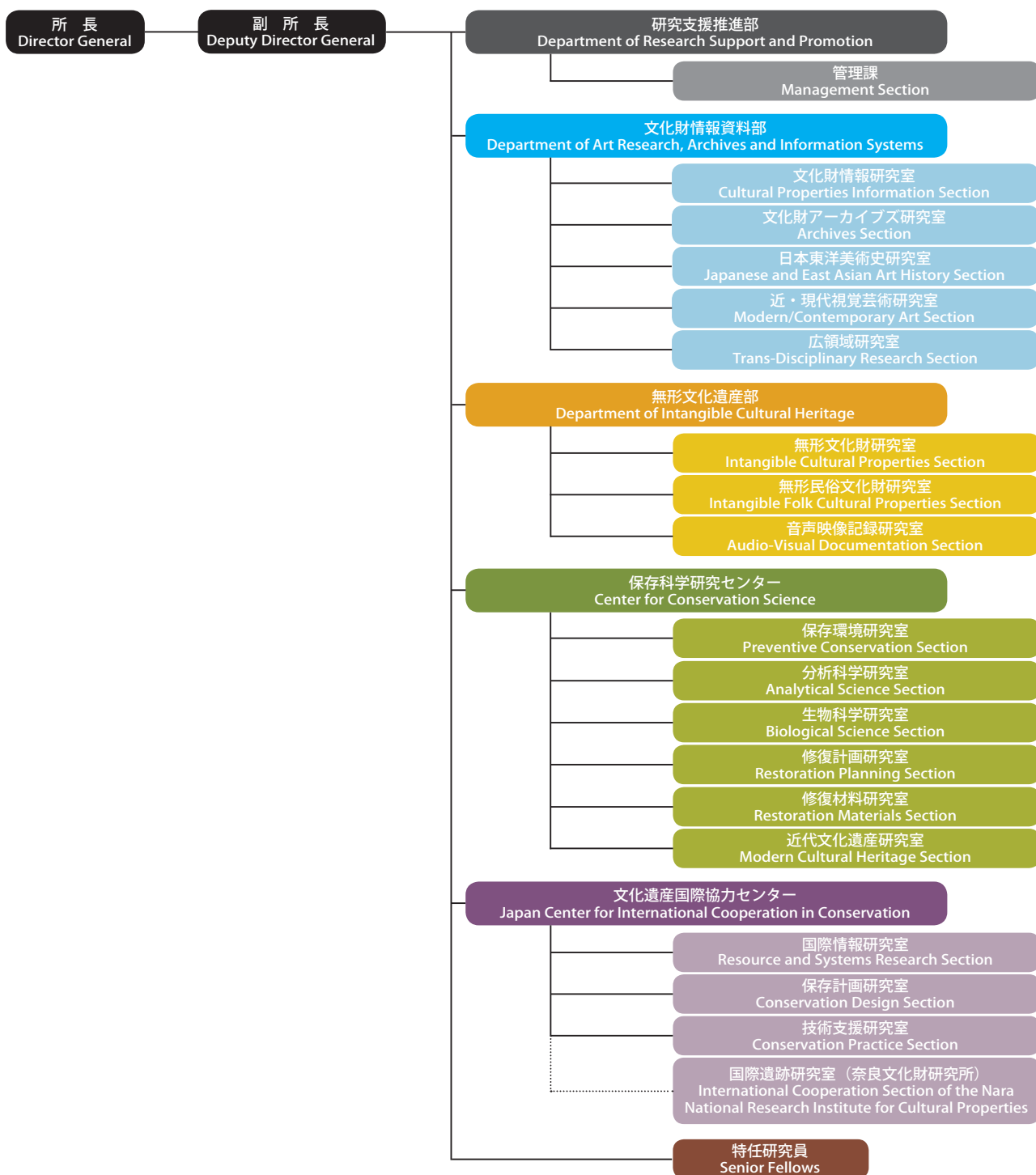


# 1. 組織図

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所

Independent Administrative Institution National Institutes for Cultural Heritage

Tokyo National Research Institute for Cultural Properties



## 2. 組織の概要と職員

所 長 亀井 伸雄（建築史）、副所長 山梨 絵美子（日本近代絵画史）

### （1）研究支援推進部

#### 〈組織概要〉

研究支援推進部は、東京文化財研究所の事務部門として、管理課（平成28年4月より管理室は管理課に変更）に総務係、企画渉外係、財務係、契約係を置き、総務、人事、他機関との渉外、国際交流、財務管理、会計、施設管理等の業務を通じ研究支援を行っている。

本年度も継続して、各係内の担当業務の整理を行うなど合理化を検討・実施し、各研究部門との連携を深め、研究所の円滑な運営に努めた。

#### 総務係

東京文化財研究所における業務方法書の変更、中期計画及び年度計画の取りまとめ、事業年度の業務実績についての評価委員会の評価に関する事務を行っている。また、情報公開に関する事務、秘書業務に関する事務、文書の授受・発送に関する事務、文化庁等の他機関、法人本部及び各施設ならびに所内の連絡調整に関する事務、人事管理に関する事務（アソシエイトフェロー、有期雇用職員、客員研究員、調査・研究アシスタントの任免に関する事務を含む）、共済組合に関する事務、栄典及び叙勲に関する事務等を行っている。

#### 企画渉外係

海外渡航に関する事務、研修及び国際研究集会等の実施に関する事務、国際交流等に係る政府機関及び関係団体との連絡調整に関する事務等を行っている。また、外部資金に関する事務、在外日本古美術品修復協力事業に関する事務、寄付金の受入、研究所視察及び見学の受入と対応、所蔵の写真、出版物等の使用許可に関する事務、規定の制定・改廃に関する事務等を行っている。

#### 財務係

財務諸表の作成に関する事務、決算報告書の作成に関する事務、監事及び会計監査人の監査に関する事務、予算・決算に関する事務、資金管理及び出納に関する事務等を行っている。

#### 契約係

物品及び役務の調達、契約の執行に関する事務、給与計算及び給与の支払いに関する事務、諸謝金及び旅費の執行に関する事務、物品、建物及び設備等の管理に関する事務等を行っている。

研究支援推進部長	外間尹隆	*1	事務補佐員	小田切真梨	
管理課長	中村 恵	*2	財務係長	古澤 誠	*10
室 長	日高信二	*3	財務係長（兼務）	日高信二	*3
総務係主任	安川政和		事務補佐員	前田桐里	
事務補佐員	小林美貴	*4	事務補佐員	町田沙織	
事務補佐員	石川絵梨子	*5	契約係長	中濱拓郎	*11
事務補佐員	滝口麻理		事務補佐員	吉丸美由紀	
事務補佐員	勝田こと		事務補佐員	荒木 晶	
事務補佐員	光富麻李香	*6	事務補佐員	小河みづほ	
事務補佐員	並木沙保里	*7	事務補佐員	柳沼由可子	
企画渉外係長	林 昌宏		事務補佐員	木村諒子	
企画渉外係主任	今城裕香		事務補佐員	白井穂奈美	*12
アソシエイトフェロー	鈴木絢香	*8	事務補佐員	杉本朋世	*12
アソシエイトフェロー	堀江映予	*9			

\* 1 平成 28 年 4 月 1 日付鹿児島大学より異動

\* 2 平成 28 年 4 月 1 日付奈良国立博物館より配置換

\* 3 平成 29 年 1 月 1 日付本部事務局より配置換

\* 4 平成 28 年 7 月 31 日付退職

\* 5 平成 28 年 8 月 1 日付採用

\* 6 平成 28 年 12 月 31 日付退職

\* 7 平成 29 年 2 月 1 日付採用

\* 8 平成 29 年 1 月 31 日付退職

\* 9 平成 29 年 3 月 6 日付採用

\* 10 平成 29 年 1 月 1 日付東京国立博物館へ配置換

\* 11 平成 29 年 3 月 31 日付東京大学へ異動

\* 12 平成 29 年 3 月 31 日付退職

## (2) 文化財情報資料部

### 〈組織概要〉

文化財情報資料部は、文化財に関する調査研究を実施するとともに、調査研究の成果・情報についてのアーカイブ化を進め、適切な情報インフラストラクチャを整備し、研究の成果・情報を適宜公開する。また国内外の研究機関との研究交流を実施する。調査研究においては、1) 黒田清輝(1866-1924)の遺言により造られた黒田記念館に設置された美術研究所以来の黒田周辺の作家等との交流を中心とした近現代作品の研究を進めるとともに、2) 日本及び東アジアの美術に関する調査研究を行い、美術史研究に資する高質な資料や情報を作成・提供する。また、3) 時代や地域などにとらわれない横断的な広領域にわたるテーマを設定し、人文学のほか、自然科学的研究手法の応用を進め、多角的な視点から研究を進める。あわせて、黒田記念館における作品と研究成果の展示について当部が担当する。4) 研究情報のアーカイブ化においては、文献資料、過去の調査記録等のデジタル化を推進し、研究のための閲覧促進を目的とする画像データベースを作成・運用する。画像資料にとどまらず文献資料及び研究情報を付加した文化財の専門的アーカイブを構築する。5) 研究成果の公開の一環として、『美術研究』(年3冊)、『日本美術年鑑』(年1冊)ほかの公刊、オープンレクチャーを開催する。所内各部門の研究情報の共有化のために総合研究会を企画・開催し、各年度の研究や事業を総括した年報編集の事務を取り扱う。6) 研究情報発信のため、所内広報委員会の情報システム部会ならびにアーカイブ委員会下にあるアーカイブズワーキンググループ協議会を運用・管理し、ウェブサイト及び外部公開データベースの充実を図る。さらに、資料閲覧室で架蔵図書等の諸資料の公開閲覧を担う。

### 文化財情報研究室

情報システムセキュリティの確保に留意しつつ、調査研究及びウェブを活用した成果公開のための情報基盤の整備を行うとともに、文化財情報データベースを拡充する。また、ウェブサイトの構築・運用を通じて研究成果公開を行う。さらに、文化財情報及び情報技術の文化財保護への活用について研究を行う。

**画像情報室：**光学理論やデジタル技術を応用した最先端の画像形成技術を開発・駆使し、視覚的な研究情報を提示する。

### 文化財アーカイブズ研究室

文化財に関する画像や図書等の情報・資料を収集・整理し、文化財情報統合アーカイブを作成し、全所的にとりまとめて公開する。

**資料閲覧室：**受け入れた文化財関連の図書や定期刊行物、展覧会カタログ、写真資料などを整理し、月・水・金曜日に所外からの利用者に公開するほか、各種の書誌や研究情報のデータベースを作成する。また、所蔵資料のデジタル化と目録作成を進め、提供する。

### 日本東洋美術史研究室

江戸時代までの日本と東アジアの美術を研究する。また、美術の価値形成の多様性を解明するため、美術史研究のための資料学的な基盤を整備する。

### 近・現代視覚芸術研究室

明治以降の日本美術を研究する。近現代美術に関わる研究資料を収集・整理し、研究手法を開発するとともに、現代美術の動向を調査・研究する。

### 広領域研究室

美術のジャンルや時代、地域を横断する課題に取り組み、文化財に関わる諸分野と連携して、広い視野から文化財を研究し、その材料・技法・制作過程等を明らかにする。

文化財情報資料部長	佐野千絵	(保存環境学)
文化財情報研究室長	二神葉子	(考古科学)
文化財アーカイブズ研究室長	津田徹英	(日本彫刻史)
日本東洋美術史研究室長	小林達朗	(日本中世絵画史)
近・現代視覚芸術研究室長	塩谷 純	(日本近代絵画史)
広領域研究室長	小林公治	(物質文化史)

主任研究員	皿井 舞	(日本彫刻史) *1
研究員	安永拓世	(日本近世絵画史)
研究員	橘川英規	(美術資料)
専門職員	城野誠治	(画像情報室・文化財写真)
アソシエイトフェロー	福永八朗	(情報システム) *2
アソシエイトフェロー	田所 泰	(日本近代美術史)

研究補佐員	竹花真由子（画像形成）
研究補佐員	野田吉郎（美術資料）*3
研究補佐員	小山田智寛（フランス美学）
研究補佐員	高橋佑太（中国書道史）*3
研究補佐員	田中 潤（近代美術史料）
研究補佐員	阿部朋絵（美術資料）
研究補佐員	細川民子（美術資料）
研究補佐員	谷口每子（画像形成）
研究補佐員	本田祐美子*4
研究補佐員	芦立麻衣子（画像編集）*5
研究補佐員	大前美由希（現代美術）*6

\* 1 平成 29 年 3 月 31 日付東京国立博物館へ配置換

\* 2 平成 28 年 12 月 31 日付退職

\* 3 平成 29 年 3 月 31 日付退職

\* 4 平成 28 年 7 月 1 日付採用、平成 28 年 8 月 31 日付退職

研究補佐員	寺崎直子（日本絵画史）*6
客員研究員	三上 豊（近現代美術）
客員研究員	丸川雄三（情報学）
客員研究員	中野照男（東洋絵画史）
客員研究員	津村宏臣（情報学）*3
客員研究員	近松鴻二（近代史料）
客員研究員	河合大介（美学・現代美術）*3
客員研究員	片山まび（東洋陶磁史）
客員研究員	田中 淳（日本近代絵画史）*7
兼務	久保田裕道（無形文化遺産部）
兼務	吉田直人（保存科学研究センター）*8

\* 5 平成 28 年 7 月 1 日付採用

\* 6 平成 29 年 1 月 1 日付採用

\* 7 平成 28 年 4 月 1 日付採用

\* 8 平成 28 年 4 月 1 日付兼務

### （3） 無形文化遺産部

#### 〈組織概要〉

無形文化遺産部は、無形文化財（伝統的工芸技術、古典芸能）、無形民俗文化財（風俗慣習、民俗芸能、民俗技術）及び文化財保存技術という、日本における無形文化遺産の全体を対象として、その保存継承に資する基礎的な調査研究を実施している。内容は多岐にわたっており、保護対象の確定や適切な保護手法の確立のためには、無形文化遺産を構成する諸要素の専門的な調査・研究が重要である。また、人によって伝承されるために、年代や社会情勢の変化に伴って変容する要素も大きい。このため、文献的研究の蓄積に加えて、伝承の実態に即した調査研究を実施している。

重要な保護手法である音声・映像による記録については、その作成の実施とともに新たな手法開発についての研究を行っている。無形文化遺産保護にとって、音声・映像記録は、記録保存的役割はもちろんのこと、その伝承ツールとしても重要な意味を持つ。このため、無形文化遺産部では、他機関では行うことのできない希少演目等の記録保存事業を実施すると同時に、既存の記録活用のために、デジタルアーカイブ構築に向けての研究を行っている。

このほかに、無形文化遺産分野についてアジアを中心に海外との研究交流も実施している。

#### 無形文化財研究室

古典芸能、伝統的工芸技術などの無形文化財、及び文化財保存技術について、伝承実態の調査や技法技術の変遷の研究など、その保護に資するための基礎的調査研究を行っている。

#### 無形民俗文化財研究室

風俗慣習、民俗芸能、及び民俗技術などの無形民俗文化財について、その保護に資するための基礎的調査研究を、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等の実地調査に基づいて行っている。また、映像記録作成、公開事業等、現実的な問題について全国の関係者との協議を実施し、その対策の検討も行っている。

#### 音声・映像記録研究室

無形文化遺産に関する記録のアーカイブ化、記録作成手法について研究を行っている。また無形文化財、無形民俗文化財の現状を把握し、後世へ継承するために、それらの音声・映像記録を作成している。

無形文化遺産部長	飯島 満（古典芸能）
無形文化財研究室長(兼務)	飯島 満（古典芸能）
無形民俗文化財研究室長	久保田裕道（民俗芸能）
音声映像記録研究室長	石村 智（文化遺産学）
主任研究員	前原恵美（古典芸能）*1

研究員	菊池理予（工芸技術）
研究員	今石みぎわ（民俗学）
アソシエイトフェロー	佐野真規（映像アーカイブ）
研究補佐員	橋本かおる（情報処理）
研究補佐員	伊藤 純（民俗学）

客員研究員  
客員研究員  
客員研究員  
客員研究員  
客員研究員  
客員研究員  
客員研究員

星野厚子 (古典芸能)  
齊藤裕嗣 (古典芸能・民俗芸能)  
山崎 剛 (工芸技術)  
原田一敏 (工芸技術)  
荒川正明 (工芸技術)  
俵木 悟 (民俗芸能)  
松山直子 (工芸技術)

客員研究員  
客員研究員  
客員研究員  
客員研究員  
客員研究員  
客員研究員  
客員研究員

今岡謙太郎 (古典芸能)  
永井美和子 (修復技術)  
大西秀紀 (古典芸能)  
鎌田紗弓 (古典芸能)  
菊池健策 (民俗学)  
宮澤京子 (文化財映像学) \*2  
森下愛子 (工芸技術) \*1

\* 1 平成 28 年 10 月 1 日付採用

\* 2 平成 28 年 4 月 1 日付採用

## (4) 保存科学研究センター

### 〈組織概要〉

保存科学研究センターは、文化財の保存科学・修復技術に関する調査・研究を行うナショナルセンターとしての役割を担っている。科学的な方法を用いて、文化財を取り巻く環境の調査や文化財の材料及び構造に関する調査を行い、文化財の保存や理解に役立つ知見の集積・発信を行っている。また、文化財の置かれた環境履歴を調査し、適切な修復材料・技術の改良・開発、評価およびメンテナンス手法に関する研究を行っている。得られた研究成果は紀要『保存科学』を通じて、すみやかに公開している(ウェブにてフリーアクセスコンテンツ)。これらの知見をもとに、「文化財の虫菌害に関する調査・助言」「文化財の材質・構造に関する調査・助言」「美術館・博物館等の環境調査と援助・助言」「文化財の修復及び整備に関する調査・研究」の4項目について、地方公共団体に対して協力をを行い、地域の文化財保護の質的向上に寄与している。また、国立文化財機構内の2研究所・4博物館の保存修復担当の研究員を保存科学研究センターの併任とし、文化財の構造・材質調査や文化財の保存管理上の課題解決等について、相互に連携して、随時取り組む体制を構築している。

### 保存環境研究室

博物館・美術館など展示・収蔵施設における文化財の安全な保存環境の確立のため、温度湿度、光、空気汚染物質などが文化財に与える影響を調べ、劣化を予防する研究を行っている。劣化因子の測定方法の基準化を図るとともに、各施設の担当者と連携し、現場での環境モニタリングや、改善のための実証研究も行っている。LED・有機ELなどの新しい光源の展示・収蔵環境に及ぼす影響や照明効果などに関する研究に重点を置いている。

### 分析科学研究室

様々な科学的分析手法によって文化財の構造・材質を調査し、劣化状態を含む文化財の物理的・化学的な特徴を明らかにする研究を行っている。X線や光を使った非破壊的な手法を中心に、各種小型可搬型機器を用いた調査方法の開発とその応用によって、文化財の構造・制作技法のみならず美術史・工芸史・考古学等との連携により制作年代・生産地研究などへ視野を拡げ、文化財の総合研究を実現、牽引している。

### 生物科学研究室

昆虫や黴など、生物による文化財の劣化機構の解明とその防除方法に関する調査研究を行っている。博物館や美術館などの展示・収蔵環境にある文化財、歴史的建造物や古墳などの屋外にある文化財の生物が原因となる劣化現象の発生原因と解決方法について調査研究を行うとともに、生物が発生・繁殖することによる観覧者や作業員などの人体への影響も視野に入れた対策の開発に力を入れている。

### 修復計画研究室

文化財の持つ本質的な価値をできるだけ改変することなく次の世代へと伝えていくために、その文化財を構成する材料の特性を確認し、それが置かれている環境を調査し、適切な修復と保存の方針を策定していくための研究を行っている。あわせて、通常的环境においてだけでなく、自然災害等による文化財の被害を最小限に止めるための計画策定に関して、防災・災害後の保全処置の両面において研究を進めている。



## 修復材料研究室

膠や漆などの伝統的材料、近代になり開発され使用されてきたものなど、従来文化財修復に使用されてきた修復材料の評価と改良を行うとともに、新しい修復材料の開発評価、及び修復への適用方法の開発を行っている。あわせて、安全な文化財修復を実現するために、文化財の伝統的制作技法や材料製作に関する調査研究を行っている。

## 近代文化遺産研究室

工場・橋梁などの大型構造物、航空機、鉄道車両などの機械器具、フィルムや洋紙などの工業製品など、日本の近代化を担ってきた文化遺産に関して、保存修復のための情報収集、技術・材料の調査及び開発を行い、次世代に適切に伝えていくための保存手法・保存計画のあり方等を研究している。

保存科学研究センター長	岡田 健	(文化財学) *1	客員研究員	小堀信幸	(船舶)
保存科学研究センター副センター長	早川泰弘	(分析化学)	客員研究員	本多貴之	(高分子分析)
保存環境研究室長	吉田直人	(分光分析学)	客員研究員	堤 一郎	(産業技術史)
分析科学研究室長	犬塚将英	(物理計測)	客員研究員	北原博幸	(建築環境学)
修復計画研究室長	朽津信明	(地質学)	客員研究員	石崎武志	(保存科学)
修復材料研究室長	早川典子	(高分子化学)	客員研究員	大場詩野子	(油画修復) *3
近代文化遺産研究室長	北河大次郎	(土木史) *2	客員研究員	吉澤 望	(建築環境工学) *3
主任研究員	森井順之	(土木工学)	客員研究員	山内泰樹	(視覚情報処理) *3
主任研究員	佐藤嘉則	(微生物生態学)	客員研究員	吉原大志	(日本近代史・地域歴史資料学) *1
アソシエイトフェロー	石田真弥	(建築史)	客員研究員	山本記子	(装潢修理技術) *8
アソシエイトフェロー	小峰幸夫	(応用昆虫学) *3	客員研究員	貴田啓子	(保存科学) *9
アソシエイトフェロー	嶋原由美	(油彩画保存修復) *4	連携併任	神庭信幸	(東京国立博物館)
アソシエイトフェロー	藤井佑果	(東洋絵画修復) *5	連携併任	高橋裕次	(東京国立博物館)
研究補佐員	石井恭子	(保存修復日本画)	連携併任	荒木臣紀	(東京国立博物館)
研究補佐員	内田優花	(保存科学) *1	連携併任	和田 浩	(東京国立博物館)
研究補佐員	佐多麻美	(保存修復) *6	連携併任	土屋裕子	(東京国立博物館)
研究補佐員	國元麻里奈	(漆工技術) *1	連携併任	瀬谷 愛	(東京国立博物館)
研究補佐員	宋 苑瑞	(地形学) *7	連携併任	横山 梓	(東京国立博物館) *10
研究補佐員	濱田 翠	(文化財科学)	連携併任	大原嘉豊	(京都国立博物館)
研究補佐員	山府木碧	(漆工品保存修復)	連携併任	羽田 聡	(京都国立博物館)
事務補佐員	矢野幹子		連携併任	鳥越俊行	(奈良国立博物館)
客員研究員	呂 俊民	(建築環境学)	連携併任	本田光子	(九州国立博物館)
客員研究員	酒井清文	(酵素工学)	連携併任	木川りか	(九州国立博物館)
客員研究員	三浦定俊	(物理計測)	連携併任	志賀智史	(九州国立博物館)
客員研究員	藤井義久	(木材科学)	連携併任	秋山純子	(九州国立博物館)
客員研究員	間 創	(保存環境学)	連携併任	高妻洋成	(奈良文化財研究所)
客員研究員	横山晋太郎	(航空機保存)	連携併任	脇谷草一郎	(奈良文化財研究所)
客員研究員	長島宏行	(航空機)	連携併任	田村朋美	(奈良文化財研究所)

\*1 平成29年3月31日付退職

\*2 平成28年4月1日付文化庁より異動

\*3 平成28年4月1日付採用

\*4 平成28年6月1日付採用

\*5 平成28年7月1日付採用

\*6 平成28年4月30日付退職

\*7 平成28年7月1日付採用、平成29年3月31日付退職

\*8 平成28年10月1日付採用

\*9 平成28年11月1日付採用

\*10 平成28年4月25日付併任

## (5) 文化遺産国際協力センター

### 〈組織概要〉

文化遺産国際協力センターは、文化遺産の保存修復及び調査研究の分野においてわが国が国際協力を推進するためのナショナルセンターとしての役割を担っており、国内外の教育研究機関や民間団体等とも連携しながら、世界各地で積極的な協力活動を実施している。その活動内容は、文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信、文化遺産保護国際協力事業の実施、文化遺産の保存修復に関する技術移転・人材育成協



力等、多岐にわたっている。

### 国際情報研究室

国際社会における文化遺産に関する理念や法制度等、文化遺産の保護制度や施策に関して、国際動向や国際協力等の情報を収集・分析している。また、国際研修等を通じて情報発信している。

### 保存計画研究室

アジア諸国等の文化遺産の保存・管理・整備・活用に関し、現地政府機関等と協力しながら、調査研究及び計画立案、さらには事業実施にあたっての技術的助言等を行っている。また、紛争や自然災害時における被災文化遺産の救済や復興活動にも協力している。

### 技術支援研究室

文化遺産の修復手法や材料及び技術に関する調査研究や人材育成への協力など、技術移転を通じて諸外国への支援を行っている。

文化遺産国際協力センター長	中山俊介	(船舶工学)	研究補佐員	嶋原由美	(油彩画保存修復) *5
国際情報研究室長	加藤雅人	(製紙科学)	研究補佐員	後藤里架	(保存修復) *9
保存計画研究室長	友田正彦	(建築学)	研究補佐員	橋本広美	(保存科学)
技術支援研究室長(兼務)	中山俊介	(船舶工学)	研究補佐員	金 善旭	(建築構造・生産) *10
主任研究員	江村知子	(日本絵画史)	研究補佐員	北山奈央子	(文化史) *11
研究員	前川佳文	(壁画保存修復) *1	事務補佐員	半戸 文	(近代史) *9
研究員	安倍雅史	(考古学) *2	事務補佐員	河野輝美	*12
アソシエイトフェロー	佐藤 桂	(建築学) *3	事務補佐員	五嶋千雪	(現代美術) *13
アソシエイトフェロー	境野飛鳥	(保護制度) *4	客員研究員	石井美恵	(染織修復・染織品保存科学)
アソシエイトフェロー	久米正吾	(考古学) *5	客員研究員	前川佳文	(壁画保存修復) *14
アソシエイトフェロー	山田大樹	(地域計画)	客員研究員	間舎裕生	(考古学) *15
アソシエイトフェロー	井内千紗	(文化政策) *6	客員研究員	大河原典子	(日本画)
アソシエイトフェロー	増渕麻里耶	(考古冶金学、分析化学)	客員研究員	杉山恵助	(東洋絵画修復)
アソシエイトフェロー	小田桃子	(東洋絵画保存修復)	客員研究員	井内千紗	(文化政策) *16
アソシエイトフェロー	川嶋陶子	(考古学)	兼務	二神葉子	(文化財情報資料部)
アソシエイトフェロー	元 喜載	(東洋絵画保存修復) *7	兼務	石村 智	(無形文化遺産部)
アソシエイトフェロー	マルティネス アレハンドロ	(建築学) *8	・国際遺跡研究室(併任)		
アソシエイトフェロー	松保小夜子	(文化政策) *8	室長	森本 晋	(奈良文化財研究所)
アソシエイトフェロー	牧野真理子	(考古学) *8	研究員	田村朋美	(奈良文化財研究所)
研究補佐員	山之上理加	(絵画修復) *9			

\*1 平成28年5月1日付採用  
 \*2 平成28年7月1日付採用  
 \*3 平成28年6月30日付退職  
 \*4 平成28年8月31日付退職  
 \*5 平成28年5月31日付退職  
 \*6 平成28年9月15日付退職  
 \*7 平成28年4月1日付採用  
 \*8 平成28年10月1日付採用

\*9 平成29年3月31日付退職  
 \*10 平成28年6月13日付採用  
 \*11 平成29年1月1日付採用  
 \*12 平成28年7月31日付退職  
 \*13 平成28年9月1日付採用  
 \*14 平成28年4月30日付退職  
 \*15 平成28年9月30日付退職  
 \*16 平成28年9月16日付採用、平成29年3月31日付退職

## (6) 特任研究員

川野邊渉 (高分子化学)  
 高桑いづみ(古典芸能)



## 2. 年度計画及びプロジェクト報告

1. 年度計画(平成28年度)とプロジェクトとの対応 .....	17
2. プロジェクト報告 .....	32
①有形・無形の文化財に関する調査研究事業 .....	35
②保存修復に関する調査研究事業 .....	41
③国際協力・交流等に関する事業 .....	48
④情報収集・成果公開に関する事業 .....	53
⑤刊行物に関する事業 .....	63
⑥指導助言・研修等に関する事業 .....	67



# 1. 年度計画(平成28年度)とプロジェクトとの対応

凡 例

- (1) 本項では、「平成28年度独立行政法人国立文化財機構に係る年度計画」から、東京及び奈良文化財研究所に関連する「2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施」以下を掲載し、運営費交付金による各プロジェクトとの対応関係を表した。
- (2) 年度計画の各項目に対応するプロジェクトは、項目の文末に示した。なお、プロジェクトの略号については、第2章2. プロジェクト報告 32～33頁を参照されたい。

## 平成28年度独立行政法人国立文化財機構に係る年度計画

独立行政法人通則法(平成十一年法律第百三十三号)第三十一条の規定により、平成28年3月31日付け27受庁財第3634号で認可を受けた独立行政法人国立文化財機構中期計画に基づき、平成28年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

### I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信(略)
2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

#### (1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

##### ① 有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究

##### 1) 我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究

ア 国内外の文化財に関する様々な情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、研究会を開催して他機関との連携を図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。[シ01](#)

イ 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究を行い、研究の基盤となる資料の整備を行う。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。[シ02](#)

ウ 近現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向付けに大きく関わった欧米等の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者および美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。その事業のひとつとして日本美術家人名データベースの作成を進める。[シ03](#)

エ 美術作品を中心とする有形文化財についてのより深い理解を得ることを目的として、その表現・技術・材料を対象として自然科学や伝統技術、また歴史学や国文学などの隣接諸分野と連携した多

角的調査研究を実施するとともに、新たな研究手法の開発・普及に取り組む。 シ04

## 2) 建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究

法隆寺古材調査を中心とする古代建築の調査研究を推進する。また、近世・近代を中心とした我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集、未指定建造物の調査、歴史的建造物の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、纏まったものより順次公表を行う。伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査研究を推進し、保存を行っている各自治体等への協力を行う。

## 3) 歴史資料・書跡資料に関する調査研究

仁和寺等、近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関する原本調査、記録作成を体系的に実施するとともに、公表に向けて整理を行う。

### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・（関連指標）論文等数
- ・（関連指標）報告書等の刊行数

### 【評価軸】

- ・我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与しているか。
- ・有形文化財の保存修復等に寄与しているか。

## ② 無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究

### 1) 重要無形文化財の保存・活用に関する調査研究等 △01 △03

無形文化財等の伝承実態に関する基礎的な調査研究及び資料の収集を行うとともに、現状記録を要する対象を精査し、記録作成を実施する。

調査研究等に基づく成果の一部については、一般向けの公開講座などを通して公表する。

また、これまでに研究所で収集・保管してきた記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。

### 2) 重要無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究等 △02

我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等、無形の民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。

さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努める。

### 3) 無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等 △05

日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員の交流や無形文化遺産関連調査を行うなど、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。

### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・（関連指標）論文等数
- ・（関連指標）報告書等の刊行数

### 【評価軸】

- ・無形文化財、無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与しているか。

## ③ 記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究

### 1) 史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究

我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。

ア 遺跡等の整備に関連する国際的な動向も踏まえた資料の収集・調査・整理等を行う。また、史跡・名勝の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行う。

イ 近世初期の庭園に関する研究集会を開催する。また、現存庭園調査を行うとともに、庭園に関す

る基礎資料の収集・整理、所蔵資料の整理を進める。

## 2) 古代日本の都城遺跡に関する調査研究

国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。

ア 古代都城の解明のため、平城宮・京跡、東大寺塔院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。

イ 出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。

ウ 飛鳥時代の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、出土遺物を中心とした資料の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、藤原宮・京跡や飛鳥・藤原地域に所在する寺院の出土部材の研究を行う。

エ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究、中国の生産遺跡（陶磁器窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究所との共同研究、遼西地域の都城遺跡等に関する遼寧省文物考古研究所との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との共同研究等を、協定に基づいて行う。また、調査研究が纏まったものより順次公表する。

## 3) 重要文化的景観等の保存・活用に関する調査研究

文化的景観及びその保護に関する基礎的・応用的な調査研究を推進し、特に重要文化的景観の整備活用に関する情報の収集・検討等を行う。また、これまでの成果を踏まえつつ、文化的景観の学術及び保護に資する検討会等を主催し、文化的景観の概念及び調査・計画手法等の体系化に取り組む。

## 4) 全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究

我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。

ア 全国の遺跡に関する資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。

イ 古代官衙・集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。

## 5) 水中文化遺産に関する調査研究

国内の水中文化遺産の調査に取り組むとともに、主に海外の水中文化遺産に関する調査研究及び保存活用の事例を調査し、今後の取組に資する。

### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・（関連指標）論文等数
- ・（関連指標）報告書等の刊行数

### 【評価軸】

- ・記念物の保存・活用に寄与しているか。
- ・古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与しているか。
- ・文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与しているか。
- ・埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与しているか。

## (2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

### ① 文化財の調査手法に関する研究開発の推進

#### 1) デジタル画像の形成方法等の研究開発 シ05

高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する多様な情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するとともに、その公開を目指して、調査・研究を行う。

#### 2) 埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発

埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に、情報取得手段としての遺跡探査と遺構・遺物の計測、それらの成果を活用する方法について研究を進める。



### 3) 年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発

出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資するとともに、年輪データの蓄積を進める。特に、奈良文化財研究所で開発、実用化したマイクロフォーカスX線CTを用いた非破壊調査手法により、調査対象の拡充と活用を図り、これらの研究成果を公表する。

### 4) 動植物遺存体の分析方法の研究開発

遺跡から出土する動植物遺体の調査を実施して古環境や動植物資源利用の歴史を明らかにするとともに、多様な調査手法の可能性を検討する。また、環境考古学研究の基礎となる現生標本を継続的に収集して、公開する。

#### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

#### 【評価軸】

- ・科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与しているか。

## ②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究

### 1) 生物被害の予防と対策に関する調査研究 ホ01

歴史的建造物、古墳環境など生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、簡易・迅速な生物モニタリング手法に関する基礎研究を行うとともに、虫菌害被害を受けた文化財に対する環境低負荷型の防除方法や生物被害痕跡のクリーニング技術の開発に向けた基礎研究を行う。

### 2) 文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 ホ02

全国の文化財施設における白色LED、有機EL光源の導入状況を把握するとともに、資料保存上、また展示照明としての問題点を抽出し、その原因の科学的検証を行うための実験システム構築に着手する。さらに、展示ケース内汚染物質軽減方法の検討と清浄化マニュアルの作成を行う。

### 3) 可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 ホ03

複数の小型可搬型機器を活用して、絵画・工芸品等に関する高精度な材質・構造・状態調査を行う。新たに導入した可搬型X線回折装置、小型FCR現像機のその場分析への適用を進める。

### 4) 屋外文化財の劣化対策に関する調査研究 ホ04

屋外に所在する石造・木質文化財を対象に、覆屋の機能・遺構の露出展示に関する課題として、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行う。また、石塔など石造文化財の災害事例及び災害対策に関する基礎的調査を行う。また、現在一時保管場所での長期的な保管を余儀なくされている被災文化財に関して、その保存・修復方法に関する研究を進める。

### 5) 文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 ホ05

美術工芸品及び建造物等の修復においてこれまでに使用されてきた伝統材料及び今後使用が想定される新しい修復材料について、調査研究と評価を行う。絵絹や染織品に用いられる絹などについて、生産地における現地調査や物性調査を行う。従来修復に困難があるとされた緑青焼けなどの現象について、機構解明のための調査研究を進める。

### 6) 考古遺物の保存処理法に関する調査研究

種々の材料調査分析法を総合的に活用して出土遺物の材質、構造及び劣化状態に関する診断調査を行い、保存処理法の開発に資する基礎的なデータを収集する。特に、鉄製遺物の効果的な新規の脱塩法を確立するための基礎研究を行う。また、木製遺物の物性、化学組成及び組織構造に関する基礎データを集積し、システムティックな含浸処理法に関する基礎研究を行う。

### 7) 遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究

環境制御による劣化抑制の成否について検証するため、平城宮跡遺構展示館等をフィールドとして、遺構の劣化の進行速度と周辺の環境についてモニタリング調査を行う。石造文化財等の劣化要因であ



る塩析出が材料の劣化に及ぼす影響に関する基礎研究を行う。さらに、埋蔵環境における金属製品の腐食プロセスを解明するため、金属腐食実験を行い、環境因子と劣化の関係を定量的に評価する。

#### 8) 建造物の彩色に関する調査研究

薬師寺東塔天井彩色等の材料調査を行い、使用されている材料の同定と彩色技法の調査研究を行う。復元された平城宮跡大極殿において、建造物塗装彩色の経年変化に関する研究を行うため、環境調査に用いる各種センサーの設置及び測定、大極殿塗装彩色及び暴露試験用塗装彩色手板の色彩測定を行う。

#### 9) 近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究 **ホ09**

近代文化遺産の特徴であるレンガ・石・コンクリート・各種金属・各種合成樹脂・各種繊維等の多種多様な材料の劣化状況や保存手法に関する基礎的調査研究を行う。特にレンガ造建造物及び構造物のこれまでの修復事例調査を実施し、保存科学的観点からその修復・保存の理念を検証し、評価する。ドイツ技術博物館との共同研究をはじめ欧米での保存や修復事例調査を行う。

#### 10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 **ホ p.47**

キトラ古墳壁画の彩色及び漆喰の状態調査並びに展示環境の制御とモニタリング方法の調査研究を行う。また、文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。

#### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

#### 【評価軸】

- ・科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に寄与しているか。

### (3) 文化遺産保護に関する国際協働

#### ① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

##### 1) 文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信

海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。

ア 世界遺産委員会をはじめとするユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、国内外において文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行う。また、収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて、今後の我が国の文化遺産保護施策の検討の用に供する。**コ01**

イ 英国・米国等の研究機関との間で文化遺産に関する研究交流を行う。

##### 2) 文化遺産保護協力事業の推進

国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。

ア 文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。

(ア) カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマーをはじめとする東南アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。**コ02**

(イ) 西アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究を実施する。また、同地域及び周辺地域（コーカサス等）における文化遺産保護協力事業に向けた予備調査をイラン・アルメニア等において実施する。**コ02**

(ウ) 上記各事業と連携しつつ、文化遺産の保護に関する研究会の開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。**コ03**

##### 3) 文化遺産の保存・修復に関する人材育成等

文化遺産保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外

国における文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。

ア 国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。また海外の文化遺産保存担当者を対象に、国内外において和紙及び紙・絹、漆及び漆文化遺産等についての保存修復の講義と実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査を行い、その結果をもとに修復を行う。 **コ04** **コ05**

イ 文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）等が実施する研修への協力を行う。 **コ05**

#### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・文化遺産保護の国際協働に関する取組状況

（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の参加者の満足度、諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）

### ② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究拠点として、以下の事業を行う。

- ・同地域における無形文化遺産保護分野の研究についての総合的情報収集、及びその成果に基づく無形文化遺産保護調査研究データベースの充実
- ・無形文化遺産保護に関する研究の活性化に資する国際会議の開催
- ・無形文化遺産保護の理解と促進に資するシンポジウムの開催
- ・同地域における危機に瀕する無形文化遺産保護に向けた政策等の調査研究及びワークショップ
- ・国際会議への出席やユネスコとの連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集

#### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際協力事業の実施件数）

## （4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

### ① 文化財情報基盤の整備・充実

文化財関係の情報を収集して発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。

- 1) 文化財に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。 **シ06**
- 2) 被災文化財関連情報に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。 **シ06**
- 3) 文化財に係る図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実する。 **シ06**

#### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・図書、雑誌等の公開に関する取組状況  
（資料閲覧室・図書資料室の開室日数、利用者数、文化財に関する資料・図書等の総件数）
- ・文化財に関するデータベースの公開件数（前中期目標の期間の実績以上）
- ・（関連指標）データベースのデータ件数
- ・（関連指標）データベース等へのアクセス件数

### ② 調査研究成果の発信

文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイト充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。

- 1) 定期刊行物の刊行 **シ07** **ム04** **ホ07**
  - ・『東京文化財研究所年報』
  - ・『東京文化財研究所概要』
  - ・『東文研ニュース』
  - ・『美術研究』（年3冊）

- ・『日本美術年鑑』
- ・『無形文化遺産研究報告』
- ・『無形民俗文化財研究協議会報告書』
- ・『保存科学』
- ・『奈良文化財研究所紀要』
- ・『奈良文化財研究所概要』
- ・『奈文研ニュース』
- ・『埋蔵文化財ニュース』

## 2) 公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等 シ08

- ・公開講座(オープンレクチャー)
- ・公開講演会
- ・現地説明会

## 3) ウェブサイトの充実 シ05

- ・東文研総合検索システム
- ・東京文化財研究所刊行物一覧
- ・学術情報リポジトリ
- ・なぶんけんブログ(探検! 奈文研、コラム作寶樓等)

### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・定期刊行物等の刊行件数(前中期目標の期間の実績の年度平均以上)
- ・講演会等の開催回数(前中期目標の期間の実績の年度平均以上)
- ・(関連指標) 講演会等の来場者数
- ・(関連指標) 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

## ③ 展示公開施設の充実

平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。

### 1) 特別展・企画展

#### (平城宮跡資料館)

- ・企画展「夏の子ども展示(仮称)」(7月9日～9月22日)
- ・特別展「地下の正倉院展」(10月15日～11月27日)
- ・ミニ展示「発掘速報展 平城2016」(29年1月24日～4月2日)

#### (飛鳥資料館)

- ・特別展「文化財を撮る一写真が遺す歴史一」(4月26日～7月3日)
- ・企画展「第6回写真コンテスト「飛鳥の石」作品展」(7月26日～9月4日)
- ・特別展「小塔の世界(仮称)」(10月7日～12月4日)
- ・企画展「飛鳥の考古学2016」(29年1月24日～4月2日)

### 2) 平城宮跡解説ボランティア研修として、平城宮跡に関する講義研修、来館者対応・接遇に関する臨地研修、特別展等開催に伴う解説研修を行う。

### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・公開施設における特別展・企画展の開催件数(前中期目標の期間の実績の年度平均以上)
- ・(関連指標) 公開施設の来館者数

## (5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等




### ① 文化財に関する研修の実施

- 1) 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 ホ08
- 2) 研修の体系を整理するとともに、研修受講生を対象としたアンケート項目を見直したうえでの調査

及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況及びニーズに関するアンケート調査を行う。

## ②文化財に関する協力・助言等

国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

- 1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。    pp.68~71
- 2) 蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
- 3) 東日本大震災の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。


## ③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。

- 1) 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力
  - ・文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備・公開、管理事業への協力
  - ・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原等への協力
  - ・国土交通省が建設する平城宮跡展示館の展示への協力
  - ・国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の開園への協力
- 2) NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力

## ④連携大学院教育の推進

連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。

- 1) 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進  p.72
  - ・東京藝術大学大学院：システム保存学（保存環境学、修復材料学）
  - ・京都大学大学院：共生文明学（文化・地域環境論）
  - ・奈良女子大学大学院：比較文化学（文化史論）

## ⑤文化財等の防災・救援等への寄与

### 1) 体制づくり

有事における文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりに向けた検討を行う。

- ・文化遺産防災ネットワーク推進会議や文化遺産防災ネットワーク有識者会議を開催する。
- ・けいはんなオープンイノベーションセンターについて、収蔵庫機能の維持管理等を行いつつ関西地区における文化財防災の拠点として活用する。
- ・全国の自治体や博物館等施設、史料ネット等へのヒアリング、情報交換会の開催、調査の実施及び会議への参加等を通じて地域文化財防災ネットワーク構築に努める。また、地域防災計画について、大規模地震防災・減災対策大綱に対応した防災計画の検討を行う。
- ・ブルーシールド日本委員会についての検討や、諸外国の防災の取組に関する調査を実施し、国内体制の構築のための知見を得る。
- ・本事業での取組についてウェブサイトでの情報公開に努める。

### 2) 調査研究等の実施

ア 文化財等の防災・救援に関する調査研究を行い、情報の収集と発信を行う。

- ・全国の文化財防災の先進事例の収集や、地方指定等文化財情報に関する収集・整理・共有化や、文化財防災体制にかかる調査研究に取り組む。
- ・データベースの作成として、被災した自然史標本等の所在情報や、歴史災害痕跡のデータベースや、全国の博物館の文化財情報保管に資するデータベース開発を行うなど、広く文化財全般の防

災ネットワーク構築に寄与する。また、文化財レスキュー活動において必要となる文化財情報や運用のあり方についての予備調査を行う。

- ・文化遺産防災総合シミュレーションのための調査や災害発生時の被害算定手法について調査を行う。

イ 保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、安定化処置及び修理、保存環境等に関する研究を実施し、指針の策定を目指す。

- ・救出時の被災文化財等の劣化診断に関する調査研究を行う。
- ・津波や水害などで被災した美術工芸品に対する脱塩処理等による安定化処理技術の確立を目指す。
- ・水濡れ資料の脱酸素処理による保管についての研究を行う。
- ・被災文化財等の安定的保管のための保存環境に関する研究を行う。

ウ 無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を実施する。

- ・無形文化遺産の防災のため動態記録作成等を通じて、被災後の継承等に関する研究を実施する。

### 3) 人材育成等の実施

文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発・普及活動として、シンポジウム、講演会、研究集会、地方公共団体担当者等への研修会、地域の防災体制構築のための人材育成等を実施する。

#### 【中期目標・計画上の評価指標】

- ・研修の実施件数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上）
- ・研修の受講者数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上）
- ・研修成果の活用状況（中期目標期間にアンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。）
- ・専門的・技術的な援助・助言の取組状況（行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1. 業務改善の取組

#### （1）組織体制の見直し

- ・理事長の裁量によって一定数の職員を配置できる仕組みを検討し、特に2019年 ICOM 京都大会、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた組織体制の見直しを行う。
- ・国際業務を担う優秀な人材の採用並びに職員の人材養成を行い、職員の能力の向上のための支援を実施する。

#### （2）人件費管理の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また人件費改革の取組について、今後の独立行政法人制度の見直し等を踏まえて検討する。

#### （3）契約・調達方法の適正化

- ・契約監視委員会を実施する。
- ・施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。

#### （4）共同調達等の取組の推進

本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、上野地区（東京藝術大学、国立科学博物館、国



立西洋美術館)における再生 PPC 用紙、トイレトペーパー、廃棄物処理、古紙等売買の共同調達を引き続き実施する。他施設についても引き続き検討を進める。

## (5) 一般管理費等の削減

### ① 機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化

- 1) 共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を引き続き図る。
- 2) 機構共通のネットワーク及びシステムにより、業務の効率的な運用及び情報の共有化を引き続き推進する。

### ② 計画的なアウトソーシング

以下の業務の外部委託を継続して実施する。

(東京国立博物館)

- ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
- ・資料館業務の一部
- ・施設内店舗業務

(京都国立博物館)

- ・看視案内業務及び設備保全業務の一部
- ・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務

(奈良国立博物館)

- ・建物設備の運転・管理業務
- ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務

(九州国立博物館)

- ・建物設備の運転・管理業務等
- ・警備業務、看視案内業務及び清掃業務

(東京文化財研究所・奈良文化財研究所)

- ・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等

### ③ 使用資源の減少

- ・省エネルギー  
光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。
- ・廃棄物減量化  
使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。
- ・リサイクルの推進  
廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。

## 2. 業務の電子化

機構ウェブサイトにおいて、機構に関する情報の提供を引き続き行い、政府の方針に沿ってオープンデータを推進し、各事務システムの継続運用とバックアップ・インフラ増強に努める。

## 3. 予算執行の効率化

運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務を設定するとともに、収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にする。

### III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

#### 1. 自己収入拡大への取組

(1) 機構全体において、展示事業等収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。

(2) 機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。

#### (3) 保有資産の有効利用の推進

(博物館 4 施設)

- ・ 講座・講演会等を開催する。
- ・ 講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
- ・ 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

(文化財研究所 2 施設)

セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・ 展示事業等収入額 (前中期目標の期間の実績の年度平均以上)
- ・ (関連指標) その他寄附金等収入額

#### 2. 固定的経費の節減

固定的経費の節減のため、II 1.(5) 一般管理費等の削減に関する事項に取り組む。

#### 3. 決算情報・セグメント情報の充実等

決算情報・セグメント情報の公表の充実について検討する。

### IV 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

#### 1. 予算

別紙のとおり

#### 2. 収支計画

別紙のとおり

#### 3. 資金計画

別紙のとおり

## V その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1. 内部統制

内部統制、リスク管理等に関する諸規程を整備し、運用する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うとともに、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。

### 2. その他

#### (1) 自己評価

運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。

#### (2) 情報セキュリティ対策

情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群・ガイドライン等を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。

また、自己点検、監査を実施し、その結果に基づいて情報セキュリティ対策を改善する。

### 3. 施設設備に関する計画

別紙のとおり施設設備に関する計画に沿った整備を推進する。

### 4. 人事に関する計画

(1) 中長期的な人事計画を策定する。その際、理事長の裁量によって、一定数の職員を配置できる仕組みを検討する。

(2) 職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度を導入する。

(3) 性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を行う。

(4) 女性の活躍を推進し、制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を実施する。

(5) グローバル化、多様化に対応するため、研修及び人事交流等の検討を進める。



平成28年度 予算

(単位：百万円)

区 分	国立博物館等	文化財研究所等	合 計
収 入			
運営費交付金	5,843	2,544	8,387
施設整備費補助金	1,305	30	1,335
展示事業等収入	1,410	65	1,475
受託収入	29	548	577
その他寄附金等	338	12	350
計	8,925	3,199	12,124
支 出			
管理経費	1,514	478	1,992
うち人件費	764	288	1,052
うち一般管理費	750	190	940
業務経費	5,739	2,131	7,870
うち人件費	1,388	1,032	2,420
うち収集保管事業費	2,100	0	2,100
うち展覧事業費	1,730	0	1,730
うち教育普及事業費	91	0	91
うち博物館研究事業費	394	0	394
うち博物館支援事業費	36	0	36
うち基礎研究事業費	0	480	480
うち応用研究事業費	0	107	107
うち国際遺産保護事業費	0	163	163
うち情報公開事業費	0	330	330
うち研修協力事業費	0	19	19
施設整備費	1,305	30	1,335
受託事業費	29	548	577
その他寄附金等	338	12	350
計	8,925	3,199	12,124

# 平成28年度 収支計画

(単位：百万円)

区 分	国立博物館等	文化財研究所等	合 計
<b>費用の部</b>	6,586	3,179	9,765
経常経費	6,573	3,171	9,744
管理経費	1,458	464	1,922
うち人件費	764	288	1,052
うち一般管理費	694	176	870
事業経費	4,669	2,609	7,278
うち人件費	1,388	1,032	2,420
うち収集保管事業費	829	0	829
うち展覧事業費	1,602	0	1,602
うち教育普及事業費	85	0	85
うち博物館研究事業費	365	0	365
うち博物館支援事業費	33	0	33
うち基礎研究事業費	0	445	445
うち応用研究事業費	0	99	99
うち国際遺産保護事業費	0	151	151
うち情報公開事業費	0	305	305
うち研修協力事業費	0	17	17
うち受託事業費	29	548	577
うちその他寄附金等	338	12	350
減価償却費	446	98	544
財務費用	0	2	2
臨時損失	13	6	19
<b>収益の部</b>	6,589	3,174	9,763
運営費交付金収益	4,349	2,450	6,799
展示事業等の収入	1,410	65	1,475
受託収入	29	548	577
その他寄附金等	338	12	350
資産見返負債戻入	446	98	544
財務収益	1	0	1
臨時利益	16	1	17
<b>純利益</b>	3	△5	△2
<b>目的積立金取崩</b>	0	0	0
<b>総利益</b>	3	△5	△2

## 平成28年度 資金計画

(単位：百万円)

区 分	国立博物館等	文化財研究所等	合 計
資金支出	8,926	3,199	12,125
業務活動による支出	5,879	2,932	8,811
投資活動による支出	3,047	265	3,312
財務活動による支出	0	2	2
資金収入	8,926	3,199	12,125
業務活動による収入	7,620	3,169	10,789
運営費交付金による収入	5,843	2,544	8,387
展示事業等による収入	1,410	65	1,475
受託収入	29	548	577
その他寄附金等	338	12	350
投資活動による収入	1,305	30	1,335
施設整備費補助金による収入	1,305	30	1,335
財務活動による収入	1	0	1
受取利息等による収入	1	0	1

## 施設整備に関する計画

(単位：百万円)

施 設 設 備 の 内 容	予 定 額	財 源
・東京国立博物館	1,057	施設整備費補助金
仮収蔵庫等整備及び本館リニューアル工事（平成28年度～32年度）	1,012	
柳瀬荘黄林閣屋根茅葺工事（28年度）	45	
・京都国立博物館	248	施設整備費補助金
本館収蔵庫等改修及び本館免震改修等工事（平成28年度～32年度）	248	
・奈良文化財研究所	30	施設整備費補助金
本庁舎建替工事（平成28年度～29年度）	30	

## 2. プロジェクト報告

### 凡 例

- (1) プロジェクトは、年度計画との対応(17頁～31頁)に従って、以下の①～⑥の分類項目ごとに各部・センターごとに配列し、プロジェクトの略番と頁を記した。  
略番で用いられている担当部門の略号は、シ：文化財情報資料部、ム：無形文化遺産部、ホ：保存科学研究センター、コ：文化遺産国際協力センター、広：広報委員会 である。
- (2) 各プロジェクト報告の掲載頁では、表題の右側に上記略番を記すとともに、頁左上にプロジェクトの担当部門を示した。  
なお、ウェブ公開版では、担当部門をシンボルカラー（文化財情報資料部：青、無形文化遺産部：黄、保存科学研究センター：緑、文化遺産国際協力センター：紫）で色分けしている。
- (3) 年度計画との対応一覧への逆引きのため、右上に年度計画の記号を記した。
- (4) また、各プロジェクト報告の掲載頁では、プロジェクトの目的、成果とその公表（論文、報告、発表、刊行物）及び研究組織の各項目を立てて内容をまとめた。なお、研究組織で〇がついている職員はプロジェクトリーダーである。

### ① 有形・無形の文化財に関する調査研究事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
シ 01	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	2-(1)-①-1)-ア	35
シ 02	日本東洋美術史の資料学的研究	2-(1)-①-1)-イ	36
シ 03	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	2-(1)-①-1)-ウ	37
シ 04	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	2-(1)-①-1)-エ	38
ム 01	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	2-(1)-②-1)	39
ム 02	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	2-(1)-②-2)	40

### ② 保存修復に関する調査研究事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
ホ 01	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	2-(2)-②-1)	41
ホ 02	保存と活用のための展示環境の研究	2-(2)-②-2)	42
ホ 03	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	2-(2)-②-3)	43
ホ 04	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	2-(2)-②-4)	44
ホ 05	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	2-(2)-②-5)	45
ホ 06	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	2-(2)-②-9)	46
ホ 一	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	2-(2)-②-10)	47

### ③ 国際協力・交流等に関する事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
ム 05	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	2-(1)-②-3)	48
コ 02	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	2-(3)-①-2)-ア-ア(イ)	49
コ 03	保存修復技術の国際的応用に関する研究	2-(3)-①-2)-ア-ウ	50
コ 04	在外日本古美術品保存修復協力事業	2-(3)-①-3)-ア	51
コ 05	国際研修	2-(3)-①-3)-ア、イ	52

## ④ 情報収集・成果公開に関する事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
シ 05	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	2-(2)-①-1)、2-(4)-②-3)	53
シ 06	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	2-(4)-①-1)2)3)	55
シ 08	平成28年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）	2-(4)-②-2)	56
ム 03	無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	2-(1)-②-1)	57
コ 01	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	2-(3)-①-1)-ア	58
――	プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等		59

## ⑤ 刊行物に関する事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
シ 07	平成27年版『日本美術年鑑』 刊行事業・出版事業『美術研究』	2-(4)-②-1)	63
ム 04	無形文化遺産部出版関係事業	2-(4)-②-1)	63
ホ 07	『保存科学』第56号の出版	2-(4)-②-1)	63
広 一	『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』		64
――	プロジェクトの一環として刊行された刊行物		64

## ⑥ 指導助言・研修等に関する事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
ホ 08	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	2-(5)-①-1)	67
シ 一	文化財の収集、保管に関する指導助言	2-(5)-②-1)	68
ム 一	無形文化遺産に関する助言	2-(5)-②-1)	69
ホ 一	文化財の虫菌害に関する調査・助言	2-(5)-②-1)	69
ホ 一	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	2-(5)-②-1)	70
ホ 一	文化財の材質・構造に関する調査・助言	2-(5)-②-1)	70
ホ 一	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	2-(5)-②-1)	71
ホ 一	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	2-(5)-④-1)	72



## 文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究(シ01)

**目 的** 国内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究の成果・データをより国際的標準に見合うかたちに整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。あわせて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

**成 果**

1. アート・ドキュメンテーション学会美術館図書室 SIG (Special Interest Group) と当研究所との共催で5月14日にセミナー室において研究会「アート・アーカイブの今」を開催した。
2. 当研究所刊行の論文を Japanese Institutional Repositories Online (JAIRO) へ掲載することを實現し、結果、国立国会図書館のNDLサーチ、国立情報学研究所のCiNii Articleでも論文をフルテキストで参照できることとなった。
3. 文化財関連文献情報のデータ群の世界発信に向けて欧米で広く使われる学術情報データベース「OCLC」へ提供するべく協議を重ねた。
4. 6月27日に国立西洋美術館との「文化財情報の海外発信にかかわる基盤形成事業実施にかかわる覚書」を締結した。
5. 11月30日にJALプロジェクトの一環として日本に招へいされた海外日本美術史料専門家(司書)との意見交換会を行った。
6. 12月に奈良国立博物館・東京文化財研究所編『国宝 絹本著色 十一面観音像』(2016(平成28)年3月)に基づいてデジタルコンテンツ化し、Web上での公開を行った。
7. 2月13～18日に、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及び同研究に関する英語文献・記事情報の採録についての運用面での協議を現地で行った。
8. アメリカ・ゲッティ研究所への図書及び文献情報の提供に向けての協議を重ね、3月19～24日に現地で本年度の確認協議を行った。

**発 表**・橘川英規：「東京文化財研究所における文化財に関する専門的アーカイブの拡充ー『日本美術年鑑』のコンテンツを国際的学術基盤へー」EAJRS(日本資料専門家欧州協会) ルーマニア・ブカレスト大学 16.9.15

・津田徹英：“On some characteristics of Japanese traditional portraits known as Nise-e (likeness picture)”イギリス・セインズベリー日本藝術研究所 17.2.16

**研究組織** ○津田徹英、佐野千絵、皿井舞、安永拓世、橘川英規、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、城野誠治、福永八朗(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人(保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、津村宏臣(客員研究員)

## 日本東洋美術史の資料学的研究(シ02)

**目 的** 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究を行い、研究の基盤となる資料の整備を行う。あわせて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。

- 成 果**
1. 逸翁美術館蔵白梅図屏風について調査を行った。
  2. 東京国立博物館蔵准胝観音像等の調査を実施した(2017(平成29)年2月23日)。
  3. 美術史研究のためのコンテンツ(日本絵画史年記資料集成)を作成するため平成11年以降の展覧会図録から年記のある作品の資料を順次収集し、入力を行った。
  4. 『記事珠』公開に向けてのパイロット版を作成するため、解説、註の作成を第2巻以降について行った。
  5. 本プロジェクトに関する研究会を行った(下記参照)。
  6. 東京国立博物館と実施してきた仏教絵画の共同研究を仏教美術全般に広げ、高精細画像の取得から光学調査全般を実施する体制に変更した。



「日本絵画史年記資料集成」  
ウェブページ

**論 文**・増記隆介：「十世紀の画師たち—東アジア絵画史から見た「和様化」の諸相」『美術研究』420 pp.1-30 16.12

・江村知子：「光琳の「道崇」印作品について—尾形光琳の江戸滞在と画風転換」『美術研究』421 pp.1-20 17.3

・安永拓世：「展覧会評 我が名は鶴亭」『美術研究』421 pp.21-30 17.3

**発 表**・西木政統：「滋賀・鶏足寺七仏薬師如来像の造像をめぐる一考察」文化財情報資料部研究会 16.5.31

・津田徹英：「詞書の筆跡からみた遊行上人縁起絵—伝世諸本の位相—」文化財情報資料部研究会「遊行上人の位相」 17.3.28

**刊行物**・奈良国立博物館・東京文化財研究所編：『法華山一乗寺蔵 国宝 聖徳太子及天台高僧像光学調査報告書—カラー画像編』 16.4

・奈良国立博物館・東京文化財研究所編：『法華山一乗寺蔵 国宝 聖徳太子及天台高僧像光学調査報告書』 17.3

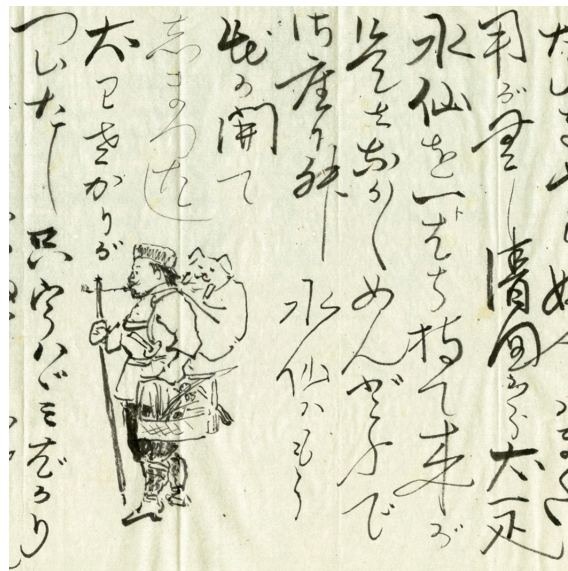
**研究組織** ○小林達朗、佐野千絵、二神葉子、小林公治、塩谷純、皿井舞、安永拓世(以上、文化財情報資料部)、近松鴻二、中野照男(以上、客員研究員)



## 近・現代美術に関する調査研究と資料集成(シ03)

**目 的** 近・現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向づけに大きく関わった欧米の動向も視野に入れて分析・考察する。あわせて、作家や関係者、及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。

**成 果** 1. 当研究所が所蔵する黒田清輝宛書簡について、3度の部内研究会を開き（五姓田義松書簡：2016（平成28）年4月21日、黒田貞子書簡：2016（平成28）年8月30日、山本芳翠書簡：2016（平成28）年12月8日）、また岡田三郎助からの書簡の翻刻を『美術研究』420号に掲載した。



「明治28年4月5日付、黒田清輝宛山本芳翠書簡」より  
日清戦争への従軍後、清国から犬一匹と水仙一鉢を持ち帰った  
山本芳翠自身の姿が描かれている。

2. 谷文晁の画風を近代に伝えた佐竹永海・永湖・永陵についての作品調査を都内で行い（2016（平成28）年8月4日）、松戸市戸定歴史館で開催された「松戸神社神楽殿の絵画と修復展」（2017（平成29）年1月21日～3月5日）の図録と講演会（2017（平成29）年2月5日）でその成果を公表した。
3. 大正期の女流美人画家、栗原玉葉に関する2度の部内研究会を開き（2016（平成28）年6月28日、2017（平成29）年1月12日）、その詳細な評伝を『美術研究』420号に掲載。また玉葉の代表作である《朝妻桜》（大正7年作）について、美術史学会東支部例会で研究発表を行った（2017（平成29）年1月28日）。
4. コンセプトチュアルな作品とパフォーマンスで知られる現代美術家の松澤宥に関する資料調査を、活動の拠点であった下諏訪で行い（2016（平成28）年10月15～16日）、そのアーカイブ構築に向けて研究協議会を開催した（2017（平成29）年3月14日）。
5. 黒田清輝と親交が深く、制作と並行して美術雑誌等で西洋美術の紹介に努めた画家、久米桂一郎の関連資料について共同研究を実施すべく久米美術館と覚書を交わし、資料のデジタル化に着手した。

**論 文**・田所泰：「栗原玉葉に関する基礎研究」『美術研究』420 pp.31-68 16.12

・塩谷純：「佐竹永湖一文晁派の伝道者として」『明治21年の佐竹永湖とその周辺 松戸神社神楽殿の絵画と修復展』図録 pp.8-13 17.1

**発 表**・山梨絵美子：「生誕150年黒田清輝とその時代」北区赤羽会館講演会 16.9.27

・山梨絵美子：「黒田清輝と五味清吉」岩手県立美術館講演会 17.1.14

・田所泰：「栗原玉葉の《朝妻桜》に関する考察」美術史学会東支部例会 17.1.28

**研究組織** ○塩谷純、橘川英規、城野誠治、田所泰（以上、文化財情報資料部）、山梨絵美子（副所長）、三上豊、丸川雄三、河合大介、田中淳（以上、客員研究員）

## 美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開(シ04)

**目 的** 絵画や彫刻、工芸といった美術作品は、その表現のあり方、制作に用いられた技術、そして利用された素材などが複合し一体となって成立したものである。本プロジェクトでは、こうしたそれぞれの構成要素がどのような実態を持ち、またどのように関わりあっているのか、関連する諸分野を広く渉猟しつつ多視点的に分析し、その関係の解明を目指すものである。こうした研究の実施により、美術「作品」に対するより深い理解の醸成が期待される。

**成 果** 1. 漆器類に関わる研究

- ・5月10・11日に大分県津久見市、県立歴史博物館、大分市歴史資料館所蔵南蛮漆器の調査及び意見交換を実施した。
- ・南蛮文化館と共同研究の覚書を取り交わし、所蔵漆器類の調査研究を行うとともに、同館所蔵品の修復について指導助言を行った。
- ・5月19日、東慶寺蔵南蛮漆器聖餅箱を東京国立博物館撮影CT画像による樹種及び年輪年代の検討作業を実施した。
- ・3月4・5日に当研究所にて公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」を開催した。発表者は国内9名・海外2名の合計11名であった。江戸時代初期を中心とした南蛮漆器の持つ多源的性格の検討、桃山時代ポルトガル人による工芸関連史料検討、同時代の琉球漆工史、南蛮漆器の炭素年代測定結果、南蛮漆器使用漆の有機化学分析結果、東アジア産南蛮漆器漆のストロンチウム同位体分析、南蛮漆器使用木材の樹種同定、螺鈿に使われた貝種分析、桃山時代の「鮫皮」利用史、装飾金具編年の検討、南蛮漆器類似のポルトガル・アジア様式調度の歴史と素材・技術分析などで、人文学から自然科学までの多岐にわたる未知の分析結果多数が報告・討議され、登壇者以外に海外からの渡航参加者13名、国内参加者約90名弱を得た。

2. 研究成果公開

- ・当研究所が所蔵するガラス乾板のデジタルデータ化に、文字情報を補訂の上、ウェブへのアップロード作業を継続的に実施した。
- ・6月11日の宝石学会、同月26日の文化財保存修復学会で、真珠科学研究所との共同研究の中間報告を口頭発表した。
- ・2月24日部内研究会にて甲賀市水口藤栄神社蔵十字形洋剣の調査研究結果について共同研究者5名による成果発表を行った。

**報 告**・矢崎純子、小林公治ほか：「螺鈿に使われる貝殻の分析―主にヤコウガイ、アワビについて」『平成28年度宝石学会(日本)講演会・総会プログラム』p.19 16.6

・矢崎純子、小林公治ほか：「螺鈿に使われる貝殻の構造的特徴―ヤコウガイ、アワビについて」『文化財保存修復学会第38回大会研究発表要旨集』pp.54-55 16.6

**発 表**・小林公治：「慶長期後半から寛永期前半にかけて流行した漆器文様・技法―絵画資料と伝世漆器との対話―」文化財情報資料部研究会 16.10.25 ほか18件

・小林公治：「藤栄神社に伝わる十字形洋剣(レイピア)の実在性と年代の検討―博物館コレクション・出土資料・絵画資料による予察―」文化財情報資料部研究会 17.2.24 ほか18件

**刊行物**・『公開研究会予稿集 南蛮漆器の多源性を探る』17.3

**研究組織** ○小林公治、佐野千絵、小林達朗、二神葉子、塩谷純、津田徹英、皿井舞、安永拓世、橘川英規、田所泰(以上、文化財情報資料部)、江村知子(文化遺産国際協力センター)、中野照男、田中淳(以上、客員研究員)

## 無形文化財の保存・継承に関する調査研究(Δ01)

**目 的** 我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

- 成 果**
1. 無形文化財に関する調査研究
    - ア) 人形浄瑠璃文楽で用いられる義太夫節浄瑠璃に関する調査研究
    - イ) 日本の伝統楽器とその製作技術に関する調査研究
    - ウ) 染織材料(麻および絹)に関する調査研究
  2. 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成
    - ア) 講談：連続口演の機会が激減している講談の実演記録を作成(一龍斎貞水師8席・神田松鯉師6席)
    - イ) 落語：伝承が危ぶまれている正本芝居噺の実演記録を作成(林家正雀師2席)
  3. 研究調査に基づく成果の公表
    - ア) 第11回無形文化遺産部公開学術講座「麻のきもの 絹のきもの」(共催・文化学園服飾博物館)の開催
    - イ) 無形文化遺産の伝承に関する研究会Ⅲ「現在に伝わる明治の超絶技巧」(共催・泉屋博古館)の開催

**論 文**・飯島満：「七世豊沢広助『義太夫 節と手順』」『無形文化遺産部研究報告』11 pp.17-37 17.3

**報 告**・山崎剛・鈴田由紀夫・原田一敏・長崎巖・荒川正明(編集構成：菊池理予)：「無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究会Ⅲ「現在に伝わる明治の超絶技巧」セッション「『明治工芸』を現代に活かす」」『無形文化遺産部研究報告』11 pp.125-139 17.3

**発 表**・菊池理予：「文化財保護における 麻のきもの・絹のきもの」第11回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座 文化クイントサロン 17.1.18

・飯島満：「伝統芸能を伝える力ー人形浄瑠璃文楽を事例にー」アジア太平洋無形文化遺産研究センター『無形文化遺産国際シンポジウム一技と心を受け継ぐー』 サンスクエア堺 17.11.19

**研究組織** ○飯島満、前原恵美、菊池理予、佐野真規(以上、無形文化遺産部)、早川典子(保存科学研究センター)、星野厚子(客員研究員)

## 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究(Δ02)

**目 的** 風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集・保管している無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行う。また選定保存技術については、国により選定された技術および未選定の技術について情報を収集し、そのなかで重要なものについては現地調査・記録作成を行う。

**成 果** 1. 風俗慣習の調査として樹木祭祀や正月儀礼等について、民俗芸能の調査としてシシ系芸能や神楽について、民俗技術の調査として箕の製作技術や鵜飼漁の技術等について、伝承や保護の実態についての現地調査や資料収集を行い、現状把握とともに現地関係者とのネットワークを構築した。

2. 東日本大震災被災地における民俗芸能、風俗慣習の調査として、浪江町の苅宿鹿舞、宮城県女川町の祭礼及び獅子舞等に関して調査を行い、資料収集・記録保存を行った。また無形文化遺産アーカイブスの開発とデータ収集を行い、「311復興支援 無形文化遺産アーカイブス」に続き、全国版の整備を進めた。

3. 第11回無形民俗文化財研究協議会を「無形文化遺産と防災一リスクマネジメントと復興サポート」をテーマに東京文化財研究所において開催し、124名の参加を得た。4件の事例報告をもとにコメンテーター2名を含めた総合討議を行った。成果は『第11回無形民俗文化財研究協議会報告書』にまとめた。

4. 選定保存技術については、未選定の文化財の保存技術の調査として、友禅の下絵に用いる染料である青花紙の製作について滋賀県草津市と共同研究を実施し、現地調査と記録作成を行っている。また選定保存技術については現在選定されている技術と、かつて選定されていた技術の概要を日・英両言語でまとめた『選定保存技術資料集 A Handbook for Selected Conservation Techniques』を刊行した。



獅子神楽調査（北海道）

- 論 文**・久保田裕道：「民俗芸能・祭礼の被災と復興」『東日本大震災 神社・祭り―被災の記録と復興― 一本編』 pp.184-191 神社新報社 16.7
- 報 告**・Migiwa IMAISHI：「Japanese Shipbuilding Skills and Traditions」, ICH Courier 29, pp.20-21 16.11  
・石村智「〔資料紹介〕木島正夫による青花紙製作の映像記録」『無形文化遺産研究報告』 11 pp.101-113 17.3
- 発 表**・今石みぎわ：「箕の製作技術と民俗―全国の事例から」国指定重要無形民俗文化財「論田・熊無の藤箕製作技術」周知事業 熊無公民館（富山県氷見市） 16.12.4
- 刊行物**・『選定保存技術資料集 A Handbook for Selected Conservation Techniques』 17.3

**研究組織** ○飯島満、久保田裕道、石村智、菊池理予、今石みぎわ（以上、無形文化遺産部）、齊藤裕嗣、菊池健策（以上、客員研究員）、江村知子（文化遺産国際協力センター）、早川典子（保存科学研究センター）



## 文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究(ホ01)

**目 的** 文化財の生物劣化現象は、自然災害あるいは日常の保存環境において生物の発育を促進する因子が存在すると起こるが、その因子は文化財を取り巻く保存環境と複雑かつ密接に関連している。保存環境と生物劣化現象について、記述を重視した基礎研究を実施するとともに、様々な生物劣化に対して、適切で効果的な対処方法を検討する応用研究を実施することを目的としている。

- 成 果**
1. 虫害のある歴史的建造物について環境低負荷型の「温風殺虫処置方法」について研究を進めた。特に、殺虫処理効果を判定するために処置前の害虫生息調査を日光山内の社寺において実施した。その際、従来の粘性トラップ調査に加えて、飛翔性昆虫を衝突させて捕獲するフライト・インターセプション・トラップ (FIT) を新たに適用し、現地での実証実験を行った。
  2. FITによって捕獲した木材害虫について、生態解明と殺虫試験利用のための個体数確保を目的とした人工飼育系の確立に向けた試験を行った。
  3. 石人山古墳にある石棺表面に繁茂する緑色着生生物について、次世代シーケンス解析を用いて藻類・菌類・細菌類の群集構造を同一採取試料で解析を行い、成果は学術雑誌を通して発信した。緑色着生生物の制御方法を検討するための基礎情報になることが期待される。
  4. 微生物被害痕跡の修復に際して、酵素を用いたクリーニングを実施するため、各酵素の基礎的な性状分析(夾雑活性など)を行い、酵素の利用可能性について評価を行った。
  5. 浮遊菌を簡易・迅速に測定できる機器を用いて、博物館での現地調査研究を通して実用性の検証を行い、得られた調査結果を学術雑誌に報告した。
  6. 津波被災文化財等の生物劣化現象の記述と初期対応に関する基礎研究を実施した。特に、木製の民俗資料に発生したカビについて、紙や木材の分解の指標となるセルロース分解能や海水への適応能力の指標となる耐塩性などの生理生化学的な性状分析を行った。津波による文化財の微生物劣化現象については、国際的にも研究報告がほとんどないため、今年度得られた成果は、国際的な学術雑誌への成果発信を行う予定である。
  7. 文化財の生物劣化に関する対策方法について、これまでに得られた研究成果や新しい機器の導入や考え方を整理して、研修や講義・講演会などを通して教育・普及活動を行った。



日光山内の社寺に設置した FIT の写真

- 論 文**・佐藤嘉則ほか：「石人山古墳装飾石棺表面に形成した着生生物群集の構造解析」『保存科学』56 pp.1-14 17.3
- 報 告**・小峰幸夫ほか：「日光の歴史的木造建造物における新たな害虫モニタリング手法の実用性の検討」『保存科学』56 pp.77-88 17.3
- ・間渕創、佐藤嘉則：「バイオエアロゾル測定を用いた博物館施設におけるゾーニングについて」『保存科学』56 pp.89-98 17.3
  - ・竹口彩、藤原裕子、藤井義久ほか：「湿度制御した温風処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定」『保存科学』56 pp.165-174 17.3
- 発 表**・佐藤嘉則：「文化財の微生物劣化」 日本防菌防黴学会第43回年次大会シンポジウム 16.9.27 ほか4件

**研究組織** ○佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、森井順之、早川典子、朽津信明、吉田直人、岡田健(以上、保存科学研究センター)、佐野千絵(文化財情報資料部)、藤井義久、間渕創、三浦定俊(以上、客員研究員)

## 保存と活用のための展示環境の研究(ホ02)

**目 的** 開発と導入が進む白色LED、有機EL光源の文化財展示照明としての「保存と活用の両立」の観点から、保存に与える影響、及び展示照明としての評価方法を検討する基礎研究を実施し、照明に関する新たな基準作成に資する。また文化財に影響を与える展示ケース内汚染物質の軽減方法に関して検討を行い、文化財施設向けの空気清浄化マニュアルの完成を目指し普及を図る。

**成 果**

1. 保存担当学芸員研修修了者の所属館に対し、白色LED導入状況や効果等を把握するためのアンケート調査を行った。集計の結果、およそ6割の施設が展示照明に白色LEDを導入していること、従来照明との色の見え方の違いなどを認識することが少なくないことなどが判明した。
2. 光源のLEDへの転換に伴う展示効果の相違を科学的に検証するための実験システムを構築し、複数の照射角と観察角の組み合わせにおける、直管形白色LEDと蛍光灯照射時の彩色手板表面における光拡散の比較を行った。両光源ともに、照射角と観察角の違いによって拡散状態に変化が生じることを示唆する結果を得た。一方、同じ照射角と観察角では両光源間の相違は認められなかった。
3. 有機ELによる展示照明を試験的に行っている施設の視察を行い、展示効果等を調査した。特に赤系色が鮮やかに見えることや、角度によって光色がやや変化する現象が一部の照明で起こることなどを認識した。
4. 展示ケース内のガス濃度評価方法、またこれを軽減するための吸着剤による効果を上げるためのファンの使用、展示台の遮蔽方法などに関する検討を行った。
5. 展示・収蔵空間における空気環境改善マニュアルを作成した。今後、具体的な公開方法について検討するものである。
6. 「保存と活用のための展示環境」に関する研究会“次世代の美術館・博物館照明指針を考える—LED・有機EL照明の活用に向けて—”を2017(平成29)年2月20日に開催した(参加者152名)。従来のハロゲンランプや蛍光灯からの転換が必然となりつつある白色LEDや有機EL照明の展示照明としてのあり方について、演色性や配光、グレアなどの観点から解説を行った。参加者からは、現場の学芸員にもわかりやすい指針を提示してほしいなどの要望があった。

**報 告**・吉田直人ほか：「彩色材料への直管形蛍光灯と白色LED光照射時における反射スペクトルの比較」『保存科学』56 pp.143-153 17.3

**発 表**・呂俊民ほか：「実験用実大展示ケースを用いたケース内空気環境の研究 ―展示ケースのガス濃度評価方法の提案―」文化財保存修復学会第38回大会 16.6.25 ほか4件

**研究組織** ○吉田直人、石井恭子、佐藤嘉則、小峰幸夫(以上、保存科学研究センター)、佐野千絵(文化財情報資料部)、呂俊民、山内泰樹、吉澤望、北原博幸、石崎武志(以上、客員研究員)、古田嶋智子(日本学術振興会特別研究員)

## 文化財の材質・構造・状態調査に関する研究(ホ03)

**目 的** 各種の可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造に関する調査方法を確立し、日本絵画における顔料の変遷についての研究を進めるとともに、金工品等における黄銅（真鍮）材料の利用実態を明らかにする。新たに導入した可搬型X線回折装置、小型FCR現像機をその場分析へ適用し、各種文化財の保存状態等に関する調査研究を進める。

**成 果** 1. 可搬型分析装置を用いたその場分析

- ・可搬型蛍光X線分析装置による材料調査として、絵画や建造物の彩色材料、さらには工芸品や金銅仏などの調査を実施した。琉球絵画における白色、青色、緑色顔料等の利用の特徴を明らかにすることができ、同時代の日本絵画との比較も行った。また、金属製品の調査では、鎌倉時代における真鍮の利用例を明らかにするとともに、金銅仏の地金・腐食生成物の高精度分析を検討した。
- ・東京文化財研究所で新たに導入した可搬型X線回折分析装置を用いて、その場分析調査を実施した。煉瓦造建造物（INAXライブミュージアム）に析出している塩類の分析を行い、塩類の種類と保存環境との関連性を明らかにした。また、この分析結果と据置型分析装置を用いて分析した結果とを比較することにより、可搬型X線回折分析装置を用いたその場分析の有用性の評価を行った。
- ・小型FCR現像機を用いて、高解像度X線透過撮影及び定量的な計測に関する検討を行った。

2. 検出器開発

- ・可搬型X線回折装置への適用を目標として、2次元イメージング検出器の開発を行った。新しい信号増幅機構（ガス電子増幅フォイル）と新しい信号読出し法を実現する信号読取基板を搭載した検出器を用いて基礎実験を行った。その結果、この検出器を用いることにより、粉末試料にX線を照射した時の回折像を捕えることに成功した。

**報 告**・早川泰弘ほか：「国宝慈光寺経における真鍮泥の利用について」『保存科学』56 pp.49-63 17.3

・犬塚将英ほか：「文化財の材質調査のための2次元イメージング検出器の開発」『保存科学』56 pp.135-142 17.3

・佐々木淑美ほか：「煉瓦造文化財の保存環境と塩類析出に関する調査－INAXライブミュージアム「窯のある資料館」を事例に－」『保存科学』56 pp.175-187 17.3

**発 表**・早川泰弘ほか：「サントリー美術館所蔵 重要文化財四季花鳥図屏風の彩色材料調査」日本文化財科学会第33回大会 16.6.4-5

**刊行物**・『琉球絵画 光学調査報告書』東京文化財研究所 17.3

**研究組織** ○犬塚将英、早川泰弘、岡田健、佐藤嘉則、吉田直人（以上、保存科学研究センター）、三浦定俊（客員研究員）、城野誠治（文化財情報資料部）



## 屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究(ホ04)

**目 的** 屋外に所在する石造・木質文化財を対象に、覆屋の機能・遺構の露出展示に関する課題として、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行う。また、石塔など石造文化財の災害事例及び災害対策に関する基礎的調査を行う。また、現在一時保管場所での長期的な保管を余儀なくされている被災文化財に関して、その保存・修復方法に関する研究を進める。

**成 果** 屋外に位置する美術工芸品や文化財建造物等の劣化要因となる周辺環境の変化について、以下の通り調査研究を進めた。

1. 覆屋の劣化軽減機能に関する調査研究では、石塔にかかる覆屋を対象に、覆屋が開放している場合(東根供養塔)、覆屋に壁がある場合(関戸宝塔)、覆屋の壁がポリカーボネートの場合(山上多重塔)で、石塔にあたる照度および紫外線強度の長期連続観測を2016(平成28)年12月まで実施し比較検討を行った。
2. 遺構の露出展示に関する調査研究では、遺跡だけではなく自然史資料にも範囲を拡大し、劣化状況に焦点を当て、劣化原因を究明し、それを取り除く方法を検討することを目的に調査を行った。主な調査地は、地震痕跡：丹那断層、郷村断層、千屋断層、木戸山西方断層活断層露頭、旧相模川橋脚、地震動の擦痕、ほかにも剥ぎ取りもしくは切り取り展示された地震痕跡資料等の保存状態調査を行った。また、地層大切断面(大島町)や牧島アンモナイト館では、地層や化石の劣化状態に関する調査を開始した。
3. 石塔の地震対策に関する調査研究では、2016(平成28)年度は熊本地震で倒壊した石塔を対象に現地調査を行い、倒壊の方向性や破損箇所の傾向について解析を行った。
4. 過去に修復された屋外文化財の保存状態評価では、園比屋武御嶽石門、天女橋など石造文化財の調査を行うとともに、今後経過観察を継続するうえで必要な項目について修復関係者からの聞き取りから得た。また、2015(平成27)年度に保存修理を実施した鎌倉大仏では、損傷記録データの整理を行うとともに、大仏内での地震計測を実施するための準備として研究所内で地震観測を行い、来年度実際に設置する上での要改善点などが確認できた。
5. 現在旧石巻市立湊第二小学校舎内に保管されている石巻文化センター被災資料を対象に、2020(平成32)年度に新しい施設ができるまでの長期間保存ができる体制づくりのため、温湿度および虫害管理に関する技術の石巻市への移転を東北歴史博物館と共同で行った。

**論 文**・朽津信明、森井順之：「保存科学から見た被災遺構の保存・活用の歴史」『保存科学』56 pp.15-32 17.3

・M. Morii, N. Kuchitsu, et al.: Conservation of Wareishi-jizo statue carved on granite cliff on the seashore, Science and Art: A Future for Stone, pp.1211-1218, 16.11

**発 表**・朽津信明、森井順之、渡邊尚恵、佐多麻美：「透明な覆屋の文化財保護効果に関する検討」文化財保存修復学会第38回大会 16.6.25

・朽津信明、森井順之、西山賢一：「風化形態の違いによる砂岩の侵蝕速度の違い」日本応用地質学会平成28年度研究発表会 16.10.26-27

**研究組織** ○朽津信明、森井順之、宋苑瑞(以上、保存科学研究センター)

## 文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究(ホ05)

**目 的** 美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため、伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い、その安定性についての評価を行う。伝統的に使用されており、科学的な解明が必要とされる材料についての化学的調査を行い、修復現場での明確な適用を検討する。伝統的な技法についての記録やその効果についての科学的解明を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。

**成 果** 1. 文化財の修復材料に関する調査

・屋外環境に使用する建造物修理材料の検討

厳島神社大鳥居の修復に使用する建造物修理材料を開発し、各種条件での耐候性を検討した。本年度は大鳥居西袖柱に実際の修復工事を施工したが、その際に開発材料を適用した。

・染織品に関する調査

藍染めを中心に本年度の調査を行った。江戸期の資料において、薄い水色の再現が問題とされていることから、生葉で染めた資料と、一般的に使用される染(すくも)などの還元建て技法の資料を作成し、分光スペクトルを用いて比較した。布の種類、布の前処理の種類、染色回数を変化させて試料を作成し、可視分光分析により測定し、基礎データとした。

2. 文化財の修復技法に関する研究

・緑青焼けに関する研究

緑青焼けと言われる現象は、緑青や群青など銅系の顔料を使用した箇所の支持体(紙・絹・木材等)が劣化する現象である。この現象は未だにメカニズムが明らかでなく、抑制方法も不明であるため、銅イオン濃度に着目し、そのメカニズムの解明を行っている。本年度は緑青の種類により異なる銅イオン濃度が生じることから、それによる緑青焼けの発生状態への影響の差異を確認した。

・粘着剤の除去に関する調査

文書資料の修理などに安易に使用されていたセロファンテープ等の粘着剤テープについて、劣化・変質により文化財を傷め、修理の難しさが指摘されており、この課題を解決するため、有機溶媒を用いた除去方法と強制劣化による劣化状態を基礎調査した。今年度はアーカイバルテープと呼ばれる美術館博物館用のテープも含めて強制劣化試験を行った。

・汚れクリーニングのための酵素の適用条件の検討

ポリビニルアルコール分解酵素を使用するにあたり、酵素による接着剤と顔料への影響、接着剤と顔料の酵素に与える影響について検討し、成果を論文にまとめた。

**論 文**・貴田啓子、岡泰央、稲葉政満、早川典子：「緑青焼け絹本絵画における裏打紙の劣化現象」『マテリアルライフ学会誌』 28(2) pp.41-48 16.5

**報 告**・早川典子：「平等院鳳凰堂東面中央扉に使用した剥落止め材料について」『鳳翔学叢』 pp.1-5 17.3

**発 表**・内田優花、早川典子：「紙に付着した粘着テープの劣化ー有機溶媒を用いた粘着テープおよびテープ痕除去方法の検討ー」文化財保存修復学会第38回大会 16.6.26 ほか 6 件

**刊行物**・Studies on the Restoration of Coating and Polychromy on Heritage Architecture, 16.3

**研究組織** ○早川典子、森井順之、岡田健、佐藤嘉則、國元麻里奈(以上、保存科学研究センター)、本多貴之、酒井清文、貴田啓子(以上、客員研究員)、中山俊介、加藤雅人(文化遺産国際協力センター)、菊池理予(無形文化遺産部)

## 近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究(ホ06)

**目 的** 近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物等の従来の文化財とは、規模、材質、製造方法等が大きく異なり、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型構造物の劣化機構の解明とその修復方法の究明、航空機、船舶、鉄道車両等の保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

**成 果** 1. 煉瓦造建造物の保存と修復に関する研究：煉瓦造建造物の保存と修復に関する現状の課題を踏まえ、4つの研究テーマ(1.煉瓦材料の差し替え・積み直し、2.目地材料のオーセンティシティー、3.耐震補強、4.防水・防湿対策)を抽出した上で、国内外に所在する約40件の歴史的な煉瓦造建造物(シャトーカミヤ旧醸造場施設、ギリシャ国ダフニ教会等)の現地調査を行い、実態把握と事例収集等を行った。研究テーマの一つである耐震補強では、欧米で先進的な取り組みを行っているイタリアの専門家を招き、国内専門家と共に研究会を行った。その結果、鉄筋コンクリートを用いた補強の留意点や、日伊で想定する地震の規模と性質の違い等の新たな知見・情報が得ることができた。

これら一連の研究を踏まえ、トヨタ産業技術記念館等において、煉瓦の劣化原因の特定、構造安定性と落下危険性の検討等を行い、劣化した煉瓦の安易な差し替え・積み直しを行わない修復方法について助言を行った。

2. 近代文化遺産の活用に関する研究：近現代建造物の保存と活用の在り方に関する協力者会議委員、全国近代化遺産活用連絡協議会協力者会議委員等として、近代文化遺産の活用に関する包括的な検討を行った。具体的には、供用下にある遺産の円滑な活用や、地域活性化を念頭においた活用構想の段階的な実現手段としての保存活用計画の可能性等について検討を行った。

3. 屋外展示物の防錆対策の研究：屋外展示されている大型構造物、鉄道車両、航空機等の文化財の防錆対策を検討するため、国内6ヶ所で試験片を使った屋外暴露試験を行い、塗装の劣化と屋外環境の相関について調査研究を行った。

4. 報告書の刊行：「近代文化遺産の保存理念と修復理念」を主題とした2015(平成27)年度の研究会の成果を報告書にまとめた。旧来の文化遺産とは規模、材料等が異なり、修復事例にも乏しい近代文化遺産の今後の保存・修復の検討に資するよう、基本的考え方について考察を行った。

**報 告**・石田真弥：「群馬県内における煉瓦の基準寸法に関する一考察―煉瓦建造物の保存活用に関する研究―11」『日本建築学会大会学術講演梗概集(九州)』 pp.681-682 16.7

・石田真弥：「明治・大正期の博覧会出品煉瓦の寸法変遷に関する考察―煉瓦建造物の保存・活用に関する研究―13」『2016年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ』 pp.611-614 17.2

・石田真弥：「内国勸業博覧会出品煉瓦の寸法変遷に関する考察―煉瓦建造物の保存・活用に関する研究―12」『日本建築学会研究報告 九州支部』56 pp.513-516 17.3

**発 表**・石田真弥：「事例報告：前橋市を中心とした絹遺産の煉瓦建造物」 シルクロードネットワーク新庄フォーラム2016 16.6

・北河大次郎：「近代水道遺産の活用に向けて」全国近代化遺産活用連絡協議会水道部会 16.10

・石田真弥：「前橋市内に残る歴史的建造物について「まちの宝を活かしたまちづくり」」 赤レンガネットワーク第26回全国大会2016半田大会 16.11 ほか2件

**刊行物**・『近代文化遺産の保存理念と修復理念』 東京文化財研究所 17.3

・『Conservation and Restoration of Western Paper』 東京文化財研究所 17.3

**研究組織** ○北河大次郎、石田真弥、山府木碧(以上、保存科学研究センター)、中山俊介(文化遺産国際協力センター)、小堀信幸、横山晋太郎、長島宏行、堤一郎(以上、客員研究員)

## 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究(ホ)

**目 的** キトラ古墳壁画の彩色及び漆喰の状態調査並びに展示環境の制御とモニタリング方法の調査研究を行う。また、文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。

**成 果** 高松塚古墳壁画に関しては、2016(平成28)年度も修理施設内での害虫等生息調査、浮遊菌・付着菌量調査、温湿度推移のモニタリングを継続し、安全な保存空間の維持に努めた。また、空調制御プロセスの解析を、構築した計測システムによって行った。

修復作業に関連する調査研究としては、壁画表面のクリーニング方法に関する検討を行った。特に以前に使用された修理材料が漆喰中に存在する中での汚れの除去方法に焦点を当てて、漆喰の強度を保ちつつクリーニングを行う方法を検討した。

キトラ古墳壁画に関しては、取り外した漆喰の再構成が終了し、2016(平成28)年8月に天井・南壁・西壁、2016(平成28)年12月に北壁・東壁を四神の館に搬送した。再構成にあたっては、使用する材料の検討とクリーニング方法の検討を行い、適用した。また、搬送に伴う壁画の状態の確認を行い、四神の館における現在の壁画状態についても継続的に観察を行っている。

奈良文化財研究所との共同により、高松塚古墳壁画の材料に関する分析調査を継続的に実施した。具体的には、テラヘルツ分光分析により、下地を形成している漆喰層の状態の調査を行った。これらの研究成果をまとめ、学術誌への投稿を行った。また、キトラ古墳の材料に関する調査を継続的に実施している。

**論 文**・半田豊、立里臨、佐藤嘉則、木川りか、佐野千絵、杉山純多：「高松塚・キトラ両古墳からの主要細菌分離株：Bacillus・Ochrobactrum両属分離株の分子系統学的位置」『保存科学』56 pp.1-14 17.3

・Y. Nagatsuka et al.: *Yamadazyma kitorensis* f.a., sp. nov. and *Zygoascus biomembranicola* f.a., sp. nov., novel yeasts from the stone chamber interior of the Kitora tumulus, and five novel combinations in *Yamadazyma* and *Zygoascus* for species of *Candida* International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology 66 pp.1692-1704 16.4 ほか3件

**研究組織** ○岡田健、早川泰弘、吉田直人、朽津信明、森井順之、佐藤嘉則、犬塚将英、早川典子、小峰幸夫、嶋原由美、藤井佑果(以上、保存科学研究センター)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター)、佐野千絵(文化財情報資料部)、川野邊渉(特任研究員)、大場詩野子(客員研究員)、木川りか(九州国立博物館)



## 無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集(Δ05)

**目 的** 無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

**成 果** 1. 韓国との交流事業では、2011(平成23)年度に韓国国立無形遺産院(当時の韓国側の組織名は韓国国立文化財研究所)と調印した「無形文化遺産の保護に関する日韓研究交流合意書」に基づき、2016(平成28)年8月30日に国立無形遺産院(全州市)において開催された「韓日無形遺産研究交流成果発表会」に6名の研究員が参加し、2名の研究員が研究発表を行くった。また同年10月31日に、本研究交流の第3フェーズとなる「無形文化遺産の保護及び伝承に関する日韓研究交流合意書」を締結した。さらに第2フェーズ(2012～2016)の成果報告書として『日韓無形文化遺産研究Ⅱ』を2017(平成29)年3月に刊行した。



韓国国立無形遺産院との共同研究

2. 無形文化遺産分野の国際的情報収集では、当初は2016(平成28)年11月28日～12月2日にエチオピア・アディスアベバで開催された「ユネスコ無形文化遺産保護条約第11回政府間委員会」に2名の研究員が参加予定であったが、現地の治安状況の悪化により渡航を中止し、ウェブキャストにより会議を傍聴した。

**論 文**・二神葉子：「無形文化遺産の保護に関する第11回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」『無形文化遺産研究報告』第11号 pp.1-16 17.3

**発 表**・菊池理予：「無形文化遺産の保護及び伝承に関する日韓研究交流(2012～2016年)」韓日無形遺産研究交流成果発表会 国立無形遺産院 16.8.30

・久保田裕道：「今後の研究交流の方法について」韓日無形遺産研究交流成果発表会 国立無形遺産院 16.8.30

**刊行物**・『日韓無形文化遺産研究Ⅱ』東京文化財研究所・国立無形遺産院 17.3

**研究組織** ○飯島満、久保田裕道、石村智、前原恵美、菊池理予、今石みぎわ(以上、無形文化遺産部)、二神葉子(文化財情報資料部)、松山直子(客員研究員)

## アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (コ02)

**目 的** 東南アジア、西アジアやその周辺地域における文化遺産保存修復事業等への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて、文化遺産の保存・修復及び管理・活用に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

- 成 果**
1. 研究会「考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築」の開催（2017（平成29）年2月13日）。ミャンマー・タイ・カンボジア・ベトナムより考古学専門家各1名を招聘（2017（平成29）年2月12日～16日）
  2. カンボジア・タネイ遺跡保存管理整備計画策定支援等
    - ア) アプサラ機構職員を対象に「タネイ遺跡保存管理整備計画策定ワークショップ」を開催（2017（平成29）年1月26日～28日）
    - イ) アンコール遺跡保存国際調整委員会技術会合及び総会への出席（2017（平成29）年1月24・25日）
  3. ミャンマー・バガン遺跡群の煉瓦造建造物保存協力
    - ア) バガン現地での準備調査及びマンダレーでの国際専門家会合出席（2016（平成28）年7月23～29日）
    - イ) 8月24日の地震発生を受けた緊急被災状況調査の実施（2016（平成28）年9月24日～30日）
  4. アルメニア及びイランにおける協力可能性調査及び関係機関協議の実施（2016（平成28）年9月26日～10月6日）
  5. イラン文化遺産手工芸観光庁次官及び同文化遺産観光研究所所長を招聘し、協力協定を締結。あわせて研究会「イラン文化遺産セミナー」を開催（2017（平成29）年3月29日）
  6. ネパールの地震被災文化遺産保護に関する技術支援（外部資金事業との連携）
    - ア) 同国文化観光民間航空省考古局との協力協定締結ほか準備作業（2016（平成28）年4月22日～26日）
    - イ) 関係機関協議及び歴史的集落保全会議への出席（2016（平成28）年11月26日～12月2日）
    - ウ) 同国の中央・地方行政担当者等8名を招聘し、歴史的集落保全に関する研修を実施（2017（平成29）年3月4日～12日）
  7. タイ文化省芸術局建造物課職員来日研修実施への協力（2016（平成28）年6月6日～8日）

**発 表**・Masahiko TOMODA: “Conservation of built heritage in Bagan” Expert Consultation Meeting on Strategic Action Planning for the Management of Bagan, Hotel Mandalay, Myanmar 16.7.28

**刊行物**・『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成28年度成果報告書』東京文化財研究所 17.3

- ・“Safeguarding of Cultural Heritage in Myanmar” TNRICP, 17.3
- ・“Protection and Research on Cultural Heritage in the Chuy Valley, the Kyrgyz Republic” Institute of History and Cultural Heritage of the National Academy of Sciences of the Kyrgyz Republic / TNRICP, 17.3

**研究組織** ○友田正彦、中山俊介、安倍雅史、山田大樹、久米正吾、佐藤桂、マルティネス・アレハンドロ、金善旭、北山奈央子（以上、文化遺産国際協力センター）、亀井伸雄（所長）、佐野千絵、二神葉子（以上、文化財情報資料部）、石村智（無形文化遺産部）、小峰幸夫（保存科学研究センター）、石井美恵、間舎裕生（以上、客員研究員）

## 保存修復技術の国際的応用に関する研究 (コ03)

**目 的** 文化遺産保護に関して諸外国が有する問題は、それぞれの地域、環境に応じて多種多様であり、それらへの対応には他国で実績のある既存の手法をそのまま適用することが必ずしもできない。そこで、本プロジェクトでは文化遺産の現地における持続可能な保存・修復・活用のための維持管理を目標に、各国における問題を分析し、現地に即した修復技法、材料を研究するとともに、当研究所を中心に諸外国の専門家ネットワークを構築し、意見交換、技術移転をすることで、現地担当者の育成を図る。

- 成 果**
1. ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究
    - ア) 煉瓦造寺院の外壁調査と保存修復方法の研究 (2016 (平成28) 年7月18日～29日、2017 (平成29) 年2月5日～21日)
    - イ) 壁画の地震被害に関する緊急調査  
2016 (平成28) 年8月24日に発生した地震により被害を受けた壁画の被災状況調査の実施 (2016 (平成28) 年9月24日～30日)
    - ウ) パガン王朝期における壁画技法と図像学に関する調査 (2017 (平成29) 年2月9日～14日)
  2. ミャンマーの伝統的漆工技術保存のための研修ワークショップの開催 (2017 (平成29) 年2月6日～8日)
  3. トルコ共和国における壁画の保存管理体制構築に向けた人材育成事業
    - ア) 事業の趣旨説明を含む下記の現地カウンターパートとの合同セミナーの開催  
ガーズィ大学芸術学部文化財保存修復学科 (2016 (平成28) 年10月31日)  
トルコ共和国文化観光省文化遺産博物館総局 (2016 (平成28) 年11月1日)  
トルコ共和国文化観光省ネヴシェヒル保存修復センター (2016 (平成28) 年11月3日)
    - イ) トルコ共和国における壁画の保全状態に関する視察調査 (2016 (平成28) 年11月3日～13日)
    - ウ) 博物館関係者および保存修復士への聞き取り調査 (2016 (平成28) 年11月3日～13日)

- 発 表**・前川佳文：「バガン遺跡煉瓦造建造物外壁の保存修復について」ミャンマー宗教文化省考古国立博物館局バガン支局 16.7.27
- ・増淵麻里耶：「東京文化財研究所のユーラシア東部における過去の壁画事業とカッパドキアでの事業の構想について」ガーズィ大学／東京文化財研究所合同セミナー 16.10.31
  - ・前川佳文：「トルコでの壁画保存事業計画について」ガーズィ大学／東京文化財研究所合同セミナー 16.10.31

- 刊行物**・『ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究 平成28年度成果報告書』東京文化財研究所 17.3
- ・『トルコ共和国における壁画技法と保存管理体制に関する報告 平成28年度成果報告書』東京文化財研究所 17.3

**研究組織** ○中山俊介、前川佳文、増淵麻里耶(以上、文化遺産国際協力センター)、嶋原由美(保存科学研究センター)



## 在外日本古美術品保存修復協力事業 (コ04)

**目 的** 日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、これらの保存修復の専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、海外で所蔵されている掛軸などの紙本絹本文化財及び漆工芸品のうち、本格的な修復が必要な作品を一旦日本に運び修復して返還することを目的としている。また、研修、共同研究等を通して日本の文化財修復に対する理解の深化、修復技術の移転を行う。

- 成 果** 1. 絵画作品の修復を行った。(修復中作品5点)  
 ア) クラクフ国立博物館(ポーランド)所蔵作品3点(宮川長春「遊女と禿図」1幅、中林竹洞「瀑布溪流図」1幅、狩野中信「月下秋景図」1幅)  
 イ) ナショナルギャラリーオブビクトリア(オーストラリア)所蔵作品2点(「親鸞聖人絵伝」4幅、佐々木泉玄「般若図」1幅)



「遊女と禿図」絵具調査



「瀑布溪流図」クリーニングの検討会

2. 海外において調査を行った。(2件)  
 ア) ライプツィヒ民族学博物館(ドイツ) 絵画調査、2017(平成29)年2月27日～3月3日  
 イ) インディアナポリス美術館(アメリカ) 絵画調査、2017(平成29)年3月21日～24日  
 3. その他、協力・共同等 (共同研究1件)  
 ドレスデン国立美術館陶器資料館所蔵の日本美術品の共同研究事業(ドレスデン国立美術館陶磁器資料館(ドイツ)所蔵「染付蒔絵鳥籠装飾広口大瓶—The Bird cage vase」1合)

**発 表** ・山田祐子ほか：「画絹の生糸形状が発色に与える影響」 第38回文化財保存修復学会大会 東海大学湘南キャンパス 16.6.26

**研究組織** ○加藤雅人、中山俊介、江村知子、元喜載、小田桃子、山之上理加、後藤里架、橋本広美(以上、文化遺産国際協力センター)、藤井佑果(保存科学研究センター)、林昌宏、鈴木絢香、小田切真梨(以上、研究支援推進部)

## 国際研修(コ05)

**目 的** 近年日本の材料や道具が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に日本の技術や知識を伝える場が求められている。本事業では海外において研修を主催、並びに文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）、メキシコ文化省国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復機関（CNCPC-INAH）等と研修を共催することで海外の修復関係者への技術移転を行う。

- 成 果**
1. ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復 (Workshops of the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk)」ベルリン国立博物館アジア美術館（ベルリン、ドイツ）
    - ア) 基礎編「日本の紙本・絹本文化財」、2016（平成28）年7月6日～8日  
参加者：15名（イタリア、オーストリア、デンマーク、イギリス、ポーランド、ドイツ、スイス、フィンランド、オーストラリア）、その他オブザーバー2名
    - イ) 応用編「掛軸の修復」、2016（平成28）年7月11日～15日  
参加者：9名（スペイン、ドイツ、オーストリア、デンマーク、イギリス、イタリア、ドイツ、ポーランド）、その他オブザーバー2名
  2. ワークショップ「染織品の保存と修復 (International Course on Conservation of Japanese Textile)」
    - ア) 協議及び研修の予行  
国立台湾師範大学（台北、台湾）、2016（平成28）年7月6日～8日、参加者：12名
    - イ) 染織品の保存と修復に関する研究会Ⅰ「染織品の保存と展示」  
東京国立博物館、2016（平成28）年6月10日、参加者：21名
    - ウ) 染織品の保存と修復に関する研究会Ⅱ「染織品の展示と修復」  
京都国立博物館、2017（平成29）年1月23日、参加者：18名
  3. 国際研修「紙の保存と修復 (International Course on Conservation of Japanese Paper)」  
東京文化財研究所、京都市他、2016（平成28）年8月29日～9月16日  
参加者：10名（リトアニア、ポーランド、クロアチア、アイスランド、韓国、ニュージーランド、エジプト、スペイン、ベルギー、ブータン）
  4. 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復 (Curso Internacional de Conservación de Papel en América Latina)」CNCPC-INAH（メキシコシティ・メキシコ）、2016（平成28）年11月9日～25日  
参加者：12名（アルゼンチン、ブラジル、コロンビア、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコ、パラグアイ、ペルー）
  5. ワークショップ「漆工品の保存と修復 (Workshops on Conservation and Restoration of Urushi Objects)」ケルン市博物館東洋美術館（ケルン、ドイツ）
    - ア) 応用編「漆工品の調査と保存・展示環境」、2016（平成28）年11月30日～12月3日  
参加者：5名（イタリア、オーストリア、オランダ、オーストラリア、ドイツ）
    - イ) 応用編「呂色上げと加飾技法」、2016（平成28）年12月6日～10日  
参加者：4名（ドイツ、アメリカ合衆国、ギリシャ、オーストリア）
  6. 招聘：国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」に係る技術移転及び研究  
2016（平成28）年3月7日～6月29日、招聘人数：1名（メキシコ）

刊行物・『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」』東京文化財研究所 17.3 ほか2件

**研究組織** ○加藤雅人、小田桃子、元喜載、山之上理加、後藤里架（以上、文化遺産国際協力センター）、早川典子、嶋原由美、藤井佑果（以上、保存科学研究センター）、菊池理予（無形文化遺産部）、林昌宏、鈴木絢香、小田切真梨（以上、研究支援推進部）、石井美恵、大河原典子、杉山恵助（以上、客員研究員）

## 文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 (シ05)

**目 的** 東京文化財研究所で行われている調査研究に関する情報及び国内外の文化財に関するさまざまな情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、それらの情報の効果的な公開の手法に関する調査研究を行う。

- 成 果**
1. デジタル画像の形成方法の研究開発
    - ア) 運営費交付金や外部資金による他プロジェクトの一環として、東京文化財研究所内外において、文化財の光学的調査やガラス乾板からの画像取得を実施、成果報告書を編纂した。
    - イ) 文化財アーカイブズ研究室と連携し、『奈良国立博物館・東京文化財研究所共同研究成果報告《国宝 絹本著色十一面観音像》』を2016(平成28)年12月21日にウェブ公開した。また、『春日権現験記第一巻・第二巻 光学調査報告書』を2017(平成29)年3月31日付で刊行した。
    - ウ) 2016(平成28)年12月20日「文化財写真に関するワークショップ」を開催した。
  2. 文化財情報基盤の整備・充実
    - ア) ネットワーク機器及びソフトウェアに対し保守・監視を実施、国立文化財機構内他施設の担当者と情報交換を行いセキュリティ水準の維持・向上に努めた。また、職員の情報セキュリティへの意識向上を目的に、3回の研修を開催した。なお、所内の情報基盤整備及びセキュリティに関する業務については、各部・センターの情報システム部会員との連携により実施している。
    - イ) 大容量ストレージシステムDataCoreに対し、2016(平成28)年10月及び2017(平成29)年3月にストレージサーバを追加、容量を増強した。
  3. 文化財情報に関する調査研究
    - ア) 文化遺産国際協力センター及び無形文化遺産部と連携して、2017(平成29)年3月13日～16日にタイ文化省文化振興局の専門家を招へいし、文化財目録に関する事例調査を行った。
    - イ) これまで構築してきたウェブデータベース及びその構築過程についてまとめ、構築による情報発信力についての効果に関する調査を行い、成果を論文や学会等で発表した。
  4. 東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信
    - ア) 研究情報の発信の一環としてウェブサイトの運用を実施した。28年度は、2件のウェブデータベースの新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善、ウェブサイトの適宜更新を実施した。また、メールマガジン、SNS(Facebook及びTwitter)を通じて、国内外の文化財関係者に対し活動報告や催事などウェブサイトの更新情報を中心に提供した。
    - イ) 2016(平成28)年6月30日付で『東京文化財研究所年報』を刊行した。編集にあたっては、各部・センターの年報部会員の協力を得た。
    - ウ) 研究成果を紹介するパネルをエントランスロビーにおいて展示した。28年度は文化遺産国際協力センターによる「選定保存技術 一漆の文化財を守り伝えるために」と題した展示を実施した。また、28年度末には無形文化遺産部の担当によりパネル及び関連の小冊子を作成、2017(平成29)年3月29日にエントランスロビーでの公開を開始した。

## ウェブサイトアクセスランキング

1	東京文化財研究所トップページ	6	久野健資料
2	『日本美術年鑑』所載物故者記事	7	『美術画報』所載図版データベース
3	ガラス乾板データベース	8	黒田記念館トップページ
4	『保存科学』	9	黒田清輝日記トップページ
5	『日本美術年鑑』所載美術界年史彙報	10	黒田清輝日記(日付別)

(平成28年度 上位10位まで)

## ウェブサイトの主な更新履歴

年月日	更新内容	関係部局
16.4.20	研究会「アート・アーカイブのいま」開催	文化財情報資料部
16.4.27	「ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業成果概要報告書」掲載	文化遺産国際協力センター
16.5.2	「ミャンマーにおける文化遺産保護に関する拠点交流事業報告書」掲載	文化遺産国際協力センター
16.5.12	「ミャンマーの木造建築文化」掲載	文化遺産国際協力センター
16.5.12	「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」掲載	文化遺産国際協力センター
16.6.6	デジタルブック版『洋紙の保存と修復』公開	保存科学研究センター
16.6.7	"Workshops on Conservation and Restoration of Urushi objects 2016" 参加者募集	文化遺産国際協力センター
16.6.10	フィルム原板データベース公開	文化財情報資料部
16.6.10	『第一回特別展覧会目録、第二回特別展覧会目録〔合本〕』掲載	文化財情報資料部
16.9.7	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅲ「現在に伝わる明治の超絶技巧」開催	無形文化遺産部
16.10.16	第50回オープンレクチャー開催	文化財情報資料部
16.10.12	中村傳三郎旧蔵資料データベース公開	文化財情報資料部
16.10.17	シンポジウム「シリア内戦と文化遺産―世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援―」開催	文化遺産国際協力センター
16.12.21	奈良国立博物館・東京文化財研究所共同研究成果報告《国宝 絹本着色十一面観音像》公開	文化財情報資料部
16.12.27	"Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk" 参加者募集	文化遺産国際協力センター
17.1.10	国際研修「紙の保存と修復 2017」参加者募集	文化遺産国際協力センター
17.1.24	公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」開催	文化財情報資料部
17.1.31	研究会「考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築」開催	文化遺産国際協力センター
17.2.8	"International Course on Conservation of Japanese Textile" 参加者募集	文化遺産国際協力センター
17.3.10	文化財情報資料部 研究会「遊行上人縁起絵の諸相」開催	文化財情報資料部

(定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く)

論 文・福永八朗：「東京文化財研究所の文化財データベース―刊行物アーカイブを中心とした、アーカイブ・データベースの目的、要件およびその実現の方法について」『美術研究』419 pp.17-26 16.6

・小山田智寛ほか：「ウェブデータベースによる画像情報の公開―尾高鮮之助調査撮影記録を例に―」『保存科学』56 pp.155-164 17.3

発 表・福永八朗：「東京文化財研究所の広域ネットワークを利用した取り組み」広帯域ネットワーク利用に関するワークショップ「ADVNET2016」16.10.14

・城野誠治「文化財写真に必要とする情報―写真で何を捉えられるのか―」文化財写真に関するワークショップ 16.12.20 ほか2件

刊行物・『春日権現験記第一巻・第二巻 光学調査報告書』17.3

研究組織 ○二神葉子、佐野千絵、津田徹英、塩谷純、小林公治、小林達朗、皿井舞、安永拓世、橘川英規、城野誠治、福永八朗、小山田智寛、高橋佑太、竹花真由子、谷口每子、芦立麻衣子（以上、文化財情報資料部）

広報委員（情報システム部会）：佐野千絵（文化財情報資料部長）

各部署情報システム部会員：中村恵、中濱拓郎（以上、研究支援推進部）、安永拓世（文化財情報資料部）、飯島満（無形文化遺産部）、吉田直人（保存科学研究センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）

広報委員（年報部会）：佐野千絵（文化財情報資料部長）

各部署年報部会員：安川政和、林昌宏（以上、研究支援推進部）、小林公治（文化財情報資料部）、久保田裕道（無形文化遺産部）、吉田直人（保存科学研究センター）、江村知子（文化遺産国際協力センター）



## 専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充(シ06)

**目 的** 当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。あわせてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

**成 果**

1. 全所的文化財情報を発信するため4半期ごとにアーカイブズWG協議会を開催した(2016(平成28)年4月21日、9月29日、12月20日、29年3月2日)。
2. 資料閲覧室のレファレンス機能の拡充の一環として、音声視聴覚ブースを設置し、公開に向けて当研究所無形文化遺産部が所蔵する音声映像資料の資料閲覧室での視聴に対応するよう環境を整え、『音盤目録』をWeb上での公開と活用を見据えてデジタル化を行った。
3. 刊行物アーカイブズシステムの運用評価を行い、成果公開のコンテンツとして、海外発信を念頭に置いて英文のともなう『在外日本古美術品保存修復事業 報告書』の公開のため担当部署との協議を行い(2016(平成28)年6月27日)、直近5年間の報告書のWeb上での公開を行うべく、掲載作品を収蔵する海外の美術館・博物館に対して公開に関する許諾申請を行った。
4. 明治・大正期刊行の雑誌類や機器類の劣化に対して、サービスの低下を招かないように資料(とくに貴重書もしくはこれに準じる資料)についてはデジタル化を進めた。
5. 所蔵『売立目録』について、収載内容が画像とともに検索できるシステムの運用評価と改良を行い、併行して収載内容のデータ入力を進めた。
6. 所蔵の近現代の美術作品カード(絵葉書資料)のデジタル化を進めた。

## 閲覧室事業の運営

1. 年度内資料受け入れ数  
和漢書 9,879件 洋書 53件、展覧会図録・報告書等 1,302件、雑誌 29,985件(合計41,219件)
2. 年度内閲覧室利用状況  
公開日総数 137日・年間利用者合計 923人

**研究組織** ○津田徹英、佐野千絵、皿井舞、安永拓世、橘川英規、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、城野誠治、福永八朗(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人(保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、津村宏臣(客員研究員)

## 平成28年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）(シ08)

目 的 文化財情報資料部の研究成果の一部を外部講師を交えて広く一般に公開する。

- 成 果
1. 2016(平成28)年11月4日、5日にかけて広く一般から聴講を募集し、第50回オープンレクチャー(かたちからの道、かたちへの道)を開催した。テーマは以下のとおりである。
    - ・橘川英規(文化財情報資料部研究員)「ドキュメンテーション活動とアーカイブズ『日本美術年鑑』をめぐる資料群とその発信について」
    - ・増渕鏡子(福島県立美術館学芸員)「よみがえるオオカミ一飯館村山津見神社・天井絵の復元をめぐって」
    - ・佐野千絵(文化財情報資料部長)「かたちを伝える技術一展示会の裏側へようこそ」
    - ・岡田健(保存科学研究センター長)「記憶するかたち、見つけるかたち—文化財の意味と価値」
  2. 所外からの聴講者は11月4日は78名、5日には81名を得た。11月4日の60名のアンケート回答者数のうち、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ80%、5日の75名の回答者のうち「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ85.4%の回答を得ることができた。



オープンレクチャーの様子

研究組織 ○小林達朗、佐野千絵、二神葉子、小林公治、津田徹英、塩谷純、皿井舞、安永拓世、橘川英規、田所泰、福永八朗、田中潤、野田吉郎、小山田智寛、高橋佑太、阿部朋絵(以上、文化財情報資料部)

## 無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 (ム03)

- 目 的** 無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。無形文化遺産部所蔵のアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。あわせて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。
- 成 果**
1. 映像資料については、再生不可となることが危惧されるHi 8(ハイエイト)を中心に媒体変換を行い、DVD19枚を作成した。
  2. 音声記録のデジタル化は、前年度に引き続き、1960年代に放送された純邦楽関連のテープ録音を中心に収録内容を確認した。また民謡テープ80時間分についてもデジタル化を実施し、収録内容の確認を行った。
  3. カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープの内、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。
  4. 無形文化遺産関連の映像資料160枚(作成DVD37枚・作成BD123枚)を所蔵資料として新たに登録した。
- 研究組織** ○飯島満、久保田裕道、前原恵美、石村智、今石みぎわ、菊池理予、佐野真規、伊藤純、橋本かおる(以上、無形文化遺産部)



## 文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (コ01)

**目的** 文化遺産の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワーク構築を推進する。

**成果** 1. 文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の国際会議やシンポジウム等に出席した。収集した情報はデータベース等に蓄積するとともに、刊行物等で情報発信を行った。



第40回世界遺産委員会（トルコ・イスタンブール）

- ・2016（平成28）年7月10日～15日、17日 第40回世界遺産委員会（イスタンブール）
- ・2016（平成28）年10月24日～26日 同・再開審議（パリ）
- ・2016（平成28）年12月13日～14日 ACCU奈良主催国際会議「アジア太平洋地域における文化遺産保護人材養成の実情と課題」
- ・2017（平成29）年1月28日 金沢大学主催「世界遺産と共に生きる」シンポジウム
- 2. 文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の調査を行った。収集した情報はデータベース等に蓄積するとともに、情報共有を行った。
  - ・2017（平成29）年1月13日 岩手県教育委員会（世界遺産の管理及び構成資産の拡張についての調査）
  - ・2017（平成29）年2月12日～16日 ヴァチカン美術館（文化財保護及び情報管理活用についての調査）
  - ・2017（平成29）年3月6日 松本市文化スポーツ部文化振興課（国内推薦候補選定の取り組み）
- 3. 対訳法令集シリーズの刊行：本年度はトルコについて、文化財保護関連の基本的法令の条文を和訳し、対訳法令集シリーズとして1冊刊行した。
- 4. 『世界遺産用語集（改訂版）』の刊行：2015（平成27）年度に刊行した『世界遺産用語集』の項目を改め、最新情報を盛り込んだ改訂版を市販本として刊行し、広く情報発信を行った。

**発表**・『世界遺産年報2017』所収「第40回世界遺産委員会ニュース」への取材協力にて成果公表を行った。

**刊行物**・『各国の文化財保護法令シリーズ[21]トルコ』東京文化財研究所 17.3

・『世界遺産用語集（改訂版）』東京文化財研究所 17.3

**研究組織** ○江村知子、中山俊介、友田正彦、加藤雅人、境野飛鳥、増渕麻里耶、橋本広美、半戸文（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（文化財情報資料部）

## プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

### 文化財情報資料部

#### 公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」(①シ04の一部として実施)

シ04プロジェクトで行っている諸研究のうち、今年度は南蛮漆器を対象として、2日間にわたり公開研究会を実施し、12本の個別発表と全体討議を行った。美術史研究者のみならず、修復家や制作者、また自然科学研究者などさまざまな分野からの専門家を中心に一般の方の参加もあり、また海外からの渡航参加者13名を含め連日ともに100名弱の参加を得るなど、本テーマに対する関心の広さが実感された。

日時：2017(平成29)年3月4日(土)・5日(日)10:30～17:30

会場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：99名(4日)、86名(5日)

発表者および題名(発表順)：

小林公治(東京文化財研究所)「南蛮漆器の多源性を探る 問題点の把握と提起」

岡美穂子(東京大学史料編纂所)「ポルトガル人のアジア交易におけるラッカー塗装工芸品と材料についての史的考察—シェラック、螺鈿、漆、蒔絵を中心に—」

宮里正子(浦添市美術館長)「古琉球期の漆文化～大交易時代にみえる漆芸について～」

小林公治・吉田邦夫(東京大学総合研究博物館)「南蛮漆器の制作年代」

本多貴之(保存科学研究センター)「南蛮漆器に使われた漆・接着剤」

吉田邦夫「南蛮漆器に用いられた漆の産地を推定する」

能城修一(森林総合研究所)「南蛮漆器に使われた木材」

黒住耐二(千葉県立中央博物館)「南蛮漆器に用いられた貝類に関する予察」

クリスティヌ・グーテ(ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館)「16世紀後半から17世紀前半の日本漆器に使われた「鮫」皮」

末兼俊彦(東京国立博物館)「17世紀における日本系金具について」

ウルリケ・ケルバー(エヴォラ大学)「南蛮漆器と密接な関係を持つ、インドおよび中国製のポルトガル・アジア様式漆塗り調度類」

神谷嘉美(東京都立産業技術研究センター複合素材開発センター)「南蛮漆器を彩る“金色線”の形状と材質」

総合討論：すべての発表後、小林の司会・進行により、上記発表者による総合討論を行った。

刊行物 予稿集を刊行した(刊行物の項に記載)。

### 無形文化遺産部

#### 第11回無形文化遺産部公開学術講座(①ム01の一部として実施)

2017(平成29)年1月18日、学校法人文化学園文化学園服飾博物館において、「麻のきもの・絹のきもの」と題して公開学術講座を行った。入場者数177名。学校法人文化学園文化学園服飾博物館共催。

#### プログラム

【趣旨説明】菊池理予(東京文化財研究所)「文化財保護における麻のきもの・絹のきもの」

【報告Ⅰ】舟木由貴子(昭和村からむし生産技術保存協会)「からむしの技術伝承—昭和村での取り組み—」

【報告Ⅱ】吉田智哉(東吾妻町教育委員会)「大麻の技術伝承—岩島での取り組み—」

【報告Ⅲ】林久美子(岡谷蚕糸博物館)「繭から糸をつくる」

【講演】菊池健策（東京文化財研究所）「民俗における 麻のきもの・絹のきもの」

【展覧会解説】吉村紅花（文化学園服飾博物館）「展覧会『麻のきもの・絹のきもの』の企画を通じてみた麻と絹の現状」

【エクスカーション】展覧会「麻のきもの・絹のきもの」  
（文化学園服飾博物館）



公開学術講座 展覧会解説

## 無形文化遺産部

### 無形民俗文化財研究協議会（①M02の一部として実施）

無形文化遺産部では、無形民俗文化財の保存・継承に寄与することを目的として、毎年無形民俗文化財研究協議会を開催している。第11回にあたる本年度は「無形文化遺産と防災一リスクマネジメントと復興サポート」をテーマとし、無形民俗文化財の防災をどのように行うべきか、さまざまな角度から報告・討議を行った。その成果は報告書として刊行した。

日時：2016（平成28）年12月9日（金）10:30～17:30

会場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：124名

テーマ：「無形文化遺産と防災一リスクマネジメントと復興サポート」

内容：【発表】

東資子（一関市教育委員会）「岩手県大船渡市から考える無形文化遺産の防災」

大本敬久（愛媛県歴史文化博物館）「四国の災害特性と無形文化遺産の防災」

大河内智之（和歌山県立博物館）「文化遺産の複製と信仰環境の維持一防犯対策の事例から一」

岡部達也（宮本卯之助商店）「祭礼具から考える無形文化遺産の保持」

【総合討議】上記報告者と下記コメンテーター、コーディネーターによる総合討議を行った。

コメンテーター：村上裕道（兵庫県教育委員会）、林 勲男（国立民族学博物館）

コーディネーター：久保田裕道・今石みぎわ（無形文化遺産部）

総合司会：飯島満（無形文化遺産部）

## 保存科学研究センター

### 「保存と活用のための展示環境」に関する研究会（②ホ02の一部として実施）

展示照明には、展示物の変質を防ぐことと高い鑑賞・調査の質を維持することの両立が求められる。博物館等において、従来光源とは大きく性質の異なる白色LEDへの転換が進む中で、また近い将来の有機ELの普及を見据え、これら新世代照明のもとでの展示はどのようにあるべきか検討を行ってきた。本研究会では、「次世代の美術館・博物館照明の技術指針」のあり方、考え方について、様々な角度から取り上げたものである。

「保存と活用のための展示環境」に関する研究会

“次世代の美術館・博物館照明指針を考える—LED・有機EL照明の活用に向けて—”  
(主催：東京文化財研究所 協賛：一般社団法人照明学会)

日 時：2017 (平成29) 年2月20日 (月) 13:30 ~ 17:30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：152名

講演者：佐野千絵 (東京文化財研究所) 「技術指針策定の目的」

吉田直人 (東京文化財研究所) 「LED使用状況に関するアンケート結果」

—美術館・博物館照明の要件と性能基準—展示物の保全と見えの観点より—

佐野千絵「展示物の保護」

吉澤望 (東京理科大学理工学部、客員研究員) 「照度と輝度対比、展示空間へのアプローチ」

溝上陽子 (千葉大学大学院融合科学研究科) 「光色と演色性」

吉塚奈月 (パナソニック) 「配光・グレア」

—美術館・博物館照明の具体的指針—

木下史青 (東京国立博物館) 「仕様基準」

藤原工 (東京理科大学理工学部、客員研究員) 「照明空間の作り方」

撥田隆治 (パナソニック株式会社) 「照明の保守および測定方法」

## 保存科学研究センター

### 第30回近代文化遺産の保存理念と修復理念に関する研究会 (②ホ06の一部として実施)

近代化遺産保護の進展に伴い、煉瓦等を用いた組積造建造物の震災対策の重要性が、年々高まっている。一方、当該分野では、近年様々な技術が開発され、対策の選択肢も増加している。本研究会では、組積造建造物の耐震対策に関する豊富な経験を有するイタリアから専門家を招き、イタリアの状況とわが国の近年の動向について比較検討を行うことで、今後の耐震対策の方向性を探るための糸口を探った。

第30回近代文化遺産の保存理念と修復理念に関する研究会

—日伊における歴史的な組積造建造物の震災対策について—

日 時：2017 (平成29) 年2月23日 (木) 13:30 ~ 16:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：33名

講演：クラウディオ・モデナ (イタリア・パドヴァ大学教授) 「伊国における震災対策」

西岡聡 (文化庁文化財調査官) 「日本国における震災対策」

## 文化財情報資料部

### 総合研究会 (シ)

総合研究会は、各研究部・センターの研究員がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。平成28年度は下記のスケジュールで実施した。

- ・第1回 2016 (平成28) 年4月5日 (火)  
発表者：山梨絵美子 (副所長) 「黒田清輝の画業—フランス／日本の移動の観点から」
- ・第2回 2016 (平成28) 年6月7日 (火)  
発表者：石村智 (無形文化遺産部) 「気候変動に立ち向かう文化遺産」

- ・第3回 2016(平成28)年7月5日(火)  
発表者：安永拓世(文化財情報資料部)「売立目録のデジタル化事業について」
- ・第4回 2017(平成29)年1月10日(火)  
発表者：前川佳文(文化遺産国際協力センター)「壁画と保存修復の世界」
- ・第5回 2017(平成29)年2月7日(火)  
発表者：北河大次郎(保存科学研究センター)「近代化遺産の世界」

## 文化財情報資料部

## 文化財情報資料部研究会(シ)

文化財情報資料部では、ほぼ月に1回のペースで美術史研究者を中心とする研究会を開催して、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。2016(平成28)年度の開催内容は下記の通り。

- 4月21日(木) 角田拓朗(神奈川県立歴史博物館)「黒田清輝宛五姓田義松書簡を読む—作家像、東京美術学校、明治洋画史—」
- 5月31日(火) 西木政統(東京国立博物館)「滋賀・鶏足寺七仏薬師如来像の造像をめぐる一考察」
- 6月28日(火) 田所泰(東京文化財研究所)「栗原玉葉に関する基礎研究—その生涯と作品について—」  
コメンテーター：五味俊晶(長崎歴史文化博物館)
- 8月30日(火) 田中潤(東京文化財研究所)「黒田清輝宛、養母黒田貞子書簡の翻刻と解題」
- 10月 3日(月) 山村みどり(日本学術振興会特別研究員)「広島で地球を針治療する—口ベルト・ヴィリヤヌエヴァ、キャリア最後のエコ・アート—」  
コメンテーター：後小路雅弘(九州大学)、中村政人(東京藝術大学)
- 10月25日(火) 小林公治(東京文化財研究所)「慶長期後半から寛永期前半にかけて流行した漆器文様・技法—絵画資料と伝世漆器との対話—」
- 12月 8日(木) 椎野晃史(福井県立美術館学芸員)「黒田清輝宛山本芳翠書簡 翻刻と解題」
- 1月12日(木) 小山田智寛(東京文化財研究所)「WordPressを利用した動的ウェブサイトの構築と効果：ウェブ版「物故者記事」および「美術界年史(彙報)」を事例として」  
田所泰(東京文化財研究所)「栗原玉葉の画業におけるキリスト教画題作品の意義」
- 1月31日(火) 河合大介(東京文化財研究所)「《模型千円札》をめぐる赤瀬川原平の理論形成に関する予備的考察」  
コメンテーター：水沼啓和(千葉市美術館)
- 2月24日(金)「甲賀市藤栄神社所蔵の十字形洋剣に対する検討」  
永井晃子(甲賀市教育委員会)「藤栄神社蔵十字形洋剣をめぐる歴史的経緯」  
小林公治(東京文化財研究所)「藤栄神社に伝わる十字形洋剣(レイピア)の実在性と年代の検討—博物館コレクション・出土資料・絵画資料による予察—」  
末兼俊彦(東京国立博物館)「藤栄神社所蔵の洋剣について」  
池田素子(京都国立博物館)「藤栄神社蔵十字形洋剣 X線CTスキャンおよび蛍光X線分析について」  
原田一敏(東京藝術大学)「藤栄神社蔵十字形洋剣について—海外資料との比較—」
- 3月28日(火)「遊行上人縁起絵の諸相」  
津田徹英(東京文化財研究所)「詞書の筆跡からみた遊行上人縁起絵—伝世諸本の位相—」  
本多康子(渥美国際交流財団)「金蓮寺本 遊行上人縁起絵について」  
井並林太郎(京都国立博物館)「遊行上人縁起絵諸本の絵相について」  
遠山元浩(遊行寺宝物館)「遊行上人縁起絵に描かれた真教と情景の一考察」  
梅沢恵(神奈川県立金沢文庫)「一遍聖絵と遊行上人縁起絵における図様の共有」



## 平成27年版『日本美術年鑑』 刊行事業・出版事業『美術研究』(シ07)

## 日本美術年鑑

2015

東京文化財研究所

## 『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。文化財情報資料部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936(昭和11)年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成27年版は、B5判、516ページとなった。なお、出版に際しては、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

## 『美術研究』

1932(昭和7)年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の2代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、80年以上にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文、研究ノート、書評、展覧会評、図版解説・研究資料等を掲載している。本年度は419号、420号、421号を刊行した。なお、出版に際しては、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

## 美術研究

## 無形文化遺産部

2-(4)-②-1)

## 無形文化遺産部出版関係事業(ム04)

## 『無形文化遺産研究報告』

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。

## 『無形民俗文化財研究協議会報告書』

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第11回にあたる本年度は、「無形文化遺産と防災一リスクマネジメントと復興サポート」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。

## 無形文化遺産研究報告

第10号 2016

無形文化遺産部(所長)・無形民俗文化財研究協議会(会長)の提唱により、本報告書は、  
 1. 無形民俗文化財の調査・研究・保存・継承に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。  
 2. 無形民俗文化財の調査・研究・保存・継承に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。  
 3. 無形民俗文化財の調査・研究・保存・継承に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。  
 4. 無形民俗文化財の調査・研究・保存・継承に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。  
 5. 無形民俗文化財の調査・研究・保存・継承に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。  
 6. 無形民俗文化財の調査・研究・保存・継承に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。  
 7. 無形民俗文化財の調査・研究・保存・継承に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。  
 8. 無形民俗文化財の調査・研究・保存・継承に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。  
 9. 無形民俗文化財の調査・研究・保存・継承に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。  
 10. 無形民俗文化財の調査・研究・保存・継承に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。

独立行政法人国立文化財機構  
東京文化財研究所  
無形文化遺産部ひらかれる無形文化遺産  
— 魅力の発信と外からの力 —2015  
独立行政法人国立文化財機構  
東京文化財研究所 無形文化遺産部

## 保存科学研究センター

2-(4)-②-1)

## 『保存科学』56号の出版(ホ07)

## 『保存科学』56号

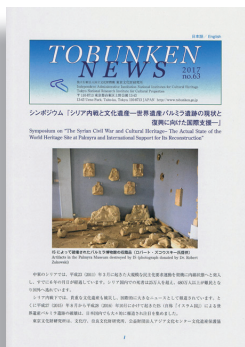
岡田健、稲葉政満(東京藝術大学大学院美術研究科教授)、佐野千絵、中山俊介、早川泰弘の5名からなる編集委員会を編成、投稿された17件全ての原稿に対して、査読委員による査読を実施、報文2件、報告14件、計16件の掲載を決定した。

## 保存科学

第56号

独立行政法人国立文化財機構  
東京文化財研究所  
保存科学研究センター

『東京文化財研究所概要』は研究所の組織や活動内容を、写真を多用して日英2ヶ国語により簡潔に紹介している。2016(平成28)年度の概要はA4判37ページ。



『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』はそれぞれ、各部・センターからの部会員で構成される東京文化財研究所広報委員会の概要部会、ニュース部会が作成し、編集事務はいずれも研究支援推進部企画渉外係が担当している。

法山 聖一編  
國家 靖親王子及夫人尊像  
光武調查報告書  
立上 一冊  
——

本書は、兵庫・一乗寺蔵聖徳太子及天台高僧像に関して奈良国立博物館との共同研究の成果を公開するものである。構成は2分冊とし、『光学調査報告書―カラー画像編』においては、全10幅の細部の描写を捉えたカラー画像を紹介した。2016年4月刊行、179ページ。『光学調査報告書』は、カラー画像に加え、蛍光画像、近赤外線画像、X線透過画像に加え、従来読み取りが困難であった賛文などを記した色紙形や短冊形の近赤外線画像をおさめ、多角的に本作品を捉えるものである。2017年3月刊行、167ページ。

景雲寺藏  
 四王聖觀大士及大菩薩僧像  
 光緒二十七年  
 查報二四



2017（平成29）年3月4日・5日に開催した公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」の予稿集として発行した。本研究会の開催趣旨、プログラム、12本の発表要旨および関連地図を所載する。日本語を基本としているが、一部は英訳も掲載。本文は白黒印刷。2017年3月刊行、33ページ。

本書は、東京文化財研究所が宮内庁三の丸尚蔵館と共同で2003（平成15）年から実施してきた、鎌倉時代を代表する絵巻物の大作「春日権現験記絵」の修理前の光学調査の成果報告書で、同作品全20巻のうち、巻一・巻二を対象としている。2017年3月刊行、151ページ（縦組み）・XRF103ページ（横組み）。

月刊「三才圖會」編輯部  
 春日雜現談記繪  
 卷一・卷二  
 光字現象報告書





### 『琉球絵画 光学調査報告書』

沖縄県内に所在する琉球絵画11作品に関する光学調査の結果をまとめた報告書である。琉球絵画とは、琉球王朝時代に琉球の地で描かれた絵画のことを指すが、その多くは第二次世界大戦の戦禍によって消失し、十分な研究が行われることなく現在に至っている。本書では、高精細カラー画像を多数掲載するとともに、蛍光X線分析による彩色材料調査の結果をあわせて収録した。

2017年3月刊行、255ページ。

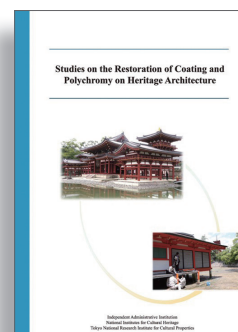
(②ホ03の一環として実施)

### Studies on the Restoration of Coating and Polychromy on Heritage Architecture

本書は、2009年から2015年までに遂行された「文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究」プロジェクトの中で開催された5回の研究会内容を抜粋し英訳したものである。建造物の彩色修理について様々な分野の専門家からの知見を紹介している。

2017年3月刊行、227ページ。

(②ホ05の一環として実施)



### 『未来につなぐ人類の技 16

#### —近代の文化遺産の保存理念と修復理念—

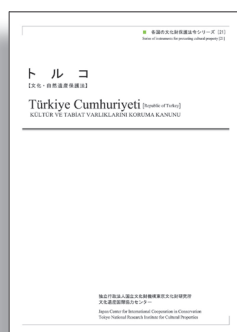
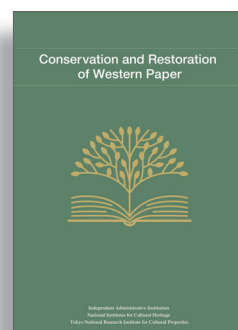
本書は、2016(平成28)年1月に東京文化財研究所で開催した『近代の文化遺産の保存修復に関する研究会』における、ドイツの産業遺産専門家、日本の産業考古学会、文化財建造物修理、近代史の専門家による講演内容を取りまとめたものである。近代の文化遺産(特に建造物)と、従来の文化遺産の保存と修復に関する考え方の相違点等を、具体的な事例をもとに抽出、分析し、今後の保存対策について考察を行っている。2017年3月刊行、58ページ。

(②ホ06の一環として実施)

### Conservation and Restoration of Modern Paper

本書は、日本・カナダ・メキシコにおけるアーカイブ担当者または修復技術者の講演内容を取りまとめた「未来につなぐ人類の技 15—洋紙の保存と修復」(2015(平成27)年3月刊行)の英訳版である。酸性紙の保存と修復、没食子インクを使った文書の保存と修復などに関する話題を中心として、国内外の具体的な事例をもとに、考察を行っている。2017年3月刊行、86ページ。

(②ホ06の一環として実施)



### 『各国の文化財保護法令シリーズ[21] トルコ』

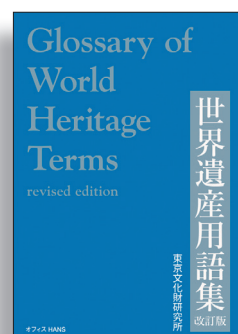
本冊子は、トルコの文化遺産保護に関する法令「文化・自然遺産保護法」を、原文のトルコ語から和訳したものである。巻末に原文もあわせて掲載している。日本語・トルコ語、2017年3月刊行、113ページ。

(④コ01の一環として実施)

### 『世界遺産用語集(改訂版)』

世界遺産の推薦や保全状況報告の際に重要となる80項目の用語について、英語とその和訳、定義をまとめた用語集。2015年度の刊行物を増補改訂し市販本として作成した。2012~2016年の世界遺産委員会などでの議論や関連事項についての解説も付している。2017年3月刊行、A5判、150ページ、オフィスHANS 定価1500円+税。

(④コ01の一環として実施)

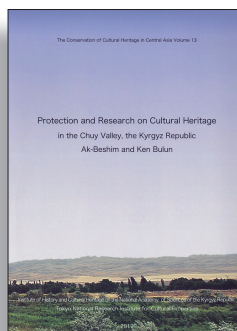
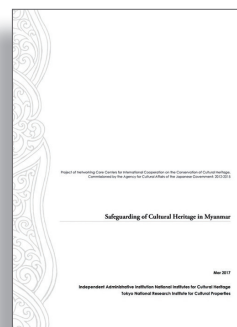




『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成28年度成果報告書』  
平成28年度にアジア諸国等文化遺産保存修復協力として、カンボジア、ミャンマー、アルメニア、イラン、ネパールほか各国を対象に実施した諸事業の内容と事業成果、関連資料・報告等を収録。  
日本語、2017年3月刊行、144ページ。  
(③コ02の一環として実施)

### Safeguarding of Cultural Heritage in Myanmar

平成25～27年度に文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業として実施した、「ミャンマーにおける文化遺産保護に関する拠点交流事業」報告書（平成28年3月に日本語版を刊行）のうち、建造物分野と美術工芸（壁画・漆）分野に関する内容を英訳・再構成したもの。英語、2017年3月刊行、137ページ。  
(③コ02の一環として実施)

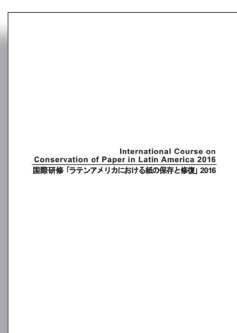
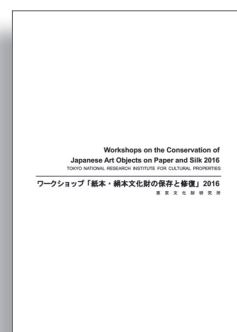


### Protection and Research on Cultural Heritage in the Chuy Valley, the Kyrgyz Republic - Ak Beshim and Ken Bulun

平成28年度に刊行した日本語版の報告書、『キルギス共和国チュウ川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡ー2011～2014年度ー』を英訳したもの。両遺跡における考古学的調査の成果や、漢文史料に基づくアク・ベシム遺跡に関する歴史学的考察等を収録。  
英語、2017年3月刊行、125ページ。  
(③コ02の一環として実施)

### 『Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk 2016 / ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2016』

2016年7月6日から15日にかけてドイツ技術博物館の協力のもとでベルリン国立博物館アジア美術館（ドイツ）を会場に開催したワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」における講義及び実習の実施内容を掲載した。  
日本語・英語、2017年3月刊行、103ページ。  
(③コ05の一環として実施)

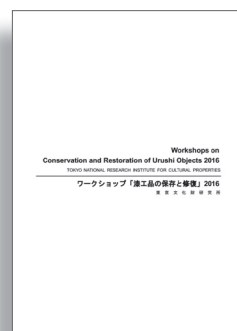


### 『International Course on Conservation of Paper in Latin America 2016 / 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2016』

2016年11月9日から25日にかけてメキシコ文化省国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復調整機関を会場に実施した国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」における講義及び実習の実施内容を掲載した。  
日本語、2017年3月刊行、107ページ。  
(③コ05の一環として実施)

### 『Workshops on Conservation and Restoration of Urushi Objects 2016 / ワークショップ「漆工品の保存と修復」2016』

2016年11月30から12月10日にかけてケルン市博物館東洋美術館（ドイツ）を会場に開催したワークショップ「漆工品の保存と修復」の講義及び実習の実施内容を掲載した。  
日本語・英語、2017年3月刊行、65ページ。  
(③コ05の一環として実施)



## 博物館・美術館等保存担当学芸員研修(ホ08)

## 1. 博物館・美術館等保存担当学芸員研修

日程：2016(平成28)年7月11日(月)～22日(金)

参加者数：32名

資料の「保存」は博物館や美術館といった文化財施設に課せられた大きな使命であるが、これは単に「保管」することではなく、資料の「文化財」としての価値が環境要因に起因する物理的、化学的变化によって損なわれることを防ぎ、後世に伝えることである。従って、「保存」は極めて自然科学的な行為であるが、それにも関わらず保存を担当する学芸員がそのための専門知識や技術を学ぶ機会が極めて乏しい。そのため、東京文化財研究所では、1984(昭和59)年以来毎年、資料保存を担当する学芸員などを対象とした「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を実施し、現場で自らの手で保存環境を把握し、必要な改善を行うことの出来る人材を育成してきた。これまでの修了生は800名近くとなり、各地で資料保存の重責を担っている。2016(平成28)年度は、33回目となる本研修を2週間実施した。

(講師の所属に記載のない場合は東京文化財研究所)

7月11日(月)

岡田健「文化財保存 概論」

早川泰弘「保存環境 各論－文化財の材質・構造－」

宇田川滋正(文化庁)「－文化財公開施設の設計－」

7月12日(火)

吉田直人「保存環境 各論－温湿度－」

佐藤嘉則「生物被害 概論」

吉田直人「保存環境 各論－空気環境－」

7月13日(水)

小峰幸夫「生物被害 各論－虫－」

佐藤嘉則「生物被害 各論－カビ－」

犬塚将英「文化財の科学調査」

佐藤嘉則・小峰幸夫「生物対策実習」

7月14日(木)

山口孝子(東京都写真美術館)「劣化と保存 各論－写真－」

森井順之「文化財施設の防災」

朽津信明「屋外資料の保存環境」

吉田直人「保存環境 各論－光・照明－」

7月15日(金)

北河大二郎「劣化と保存 各論－近代文化財－」

ケーススタディ テーマ打ち合わせ

7月19日(火)

「環境調査実習－ケーススタディ－」(於：神奈川県立歴史博物館)

7月20日(水)

吉田直人「展示照明の今後」

早川典子「劣化と保存 各論－修復材料－」

岡田健「防災のための体制づくり」

7月21日(木)

坂本雅美(紙本保存修復家)「劣化と保存 各論－紙資料－」

山本記子(国宝修理装演師連盟)「劣化と保存 各論－日本画－」

ケーススタディ発表

7月22日(金)

木島隆康(東京藝術大学)「劣化と保存 各論—油彩画—」

吉田直人「東文研が行う環境調査・助言」

## 2. 保存担当学芸員フォローアップ研修—水俣条約による水銀規制と展示照明等への影響—

1984(昭和59)年に始められた「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」受講者はそれぞれの施設で、また、地域の中核的存在として資料保存の重責を担っている。しかし、保存に関する知識や技術は日々新しくなる。本研修は、資料保存に必要な最新の知識を持てるように行うものである。

白色LEDの色温度バリエーションや演色性が向上し、展示照明に耐えるレベルのものが増えてきた。一方で、これらの性能が同等にも関わらず、既存光源での見え方とは異なるケースも見受けられる。本研修では、人工光源の種々の特性と視認性との関係に関する基礎と最新情報、また白色LEDの特性を活かした展示空間デザインについて取り上げた。

日 程：2016(平成28)年6月16日(木) 13:30～17:15

参加者：103名

プログラム：吉田直人「趣旨説明・展示照明用LEDの開発状況」

吉澤望(東京理科大学理工学部)「照明光と色彩知覚に関する基礎」

溝上陽子(千葉大学大学院融合科学研究科)「照明の演色性評価指標に関する基礎知識と最新の動向」

木下史青(東京国立博物館)「LEDを用いた展示空間のデザイン」

文化財情報資料部

2-(5)-②-1)

## 文化財の収集、保管に関する指導助言(シ)

平成28年度は以下の組織等において指導助言を行った(21件)。

- ・文化庁買取評価員
- ・文化庁国有文化財等(美術工芸品)保存修理事業協力者会議 協力者
- ・文化庁文化審議会専門委員
- ・迎賓館の改修に関する懇談会委員
- ・東京国立博物館 修理請負候補者選定委員会委員
- ・東京国立近代美術館 海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業 実行委員会
- ・京都国立近代美術館企画競争審査委員会(美術系図書の書誌情報遡及入力業務)
- ・秋田県立美術館アドバイザー会議委員
- ・東京都美術館運営委員会委員
- ・江戸東京博物館作品収蔵委員会委員
- ・静岡県立美術館専門委員
- ・高知県立歴史民俗資料館 資料調査
- ・秋田市千秋美術館協議会美術作品等評価審査委員会委員
- ・松戸市戸定歴史館 佐竹永湖にかかわる展覧会の文化財調査
- ・豊島区文化デザイン課美術品活用委員
- ・横須賀市美術館美術品選定評議委員
- ・近江八幡市文化観光課 市指定文化財 木造釈迦如来立像の修理事業
- ・八尾市教育委員会 八尾市史編纂委員会
- ・大分市美術館美術品収集委員会委員
- ・大和文華館 展覧会にかかわる文化財調査
- ・南蛮文化館 保管にかかわる文化財調査

## 無形文化遺産に関する助言(ム)

- 無形文化遺産の保存・伝承・活用に関する各種委員会等へ出席し、以下の指導・助言を実施した。
- ・文化庁への助言（文化財保存技術に関する調査 2/6・7・8・17 東京都台東区・墨田区・中央区、2/9 京都市東山区、2/10・13 愛知県名古屋市）
  - ・文化庁への助言（国際芸術交流支援事業協力者会議審査委員会 3/8 文化庁）
  - ・文化庁への助言（無形文化遺産特別委員会作業部会 10/21・12/8・1/17 文化庁）
  - ・東京都武蔵野市への助言（武蔵野市文化財保護委員会 7/12・9/6・12/6・2/14 武蔵野公会堂・武蔵野ふるさと歴史館）
  - ・岐阜県岐阜市への助言（岐阜市鶺鴒観光船事業のあり方検討委員会 5/26・10/20・1/10 岐阜市役所）
  - ・岐阜県岐阜市への助言（岐阜市長良川鶺鴒い習俗総合調査専門委員会 8/17 岐阜市歴史博物館）
  - ・岐阜県関市への助言（関市小瀬鶺鴒習俗総合調査専門委員会 8/16 関市武芸川事務所）
  - ・岐阜県岐阜市・関市への助言（長良・小瀬鶺鴒習俗総合調査合同委員会 1/31 岐阜市役所）
  - ・国際交流基金（舞台芸術専門家会議 7/19 国際交流基金）
  - ・日本芸術伝統振興会への助言（民俗芸能公演及び琉球芸能公演専門委員会 9/24・25・1/21・22・3/5・3/23 国立劇場）
  - ・東京都歴史文化財団への助言（第48回東京都民俗芸能大会 3/18・19 東京芸術劇場）
  - ・一般財団法人日本青年館への助言（第65回全国民俗芸能大会企画委員会 4/13・9/5・11/26・1/24・3/1 日本青年館事務局・国立オリンピック記念青少年総合センター）

## 文化財の虫菌害に関する調査・助言(ホ)

これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献した（佐藤嘉則、小峰幸夫）。

主な虫菌害問題の相談元は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺等の文化財保存担当あるいは文化財修復関係機関等であった。対応件数は、合計で41件あり、内18件については派遣依頼等を受けて現地にて調査をしたもの、あるいは研究所にて試験等を実施したものなど、より詳細な解析が必要な事案であった。

虫菌害の相談内容は、保存公開施設内における文化財害虫の発生、カビの大規模発生など一般的な虫菌害被害のみならず、屋外の装飾古墳の彩色面に発生した植物根の対処や建造物のげっ歯類による加害対処など多岐にわたった。被害の規模も文化財展示収蔵施設全体に関する事柄から、個別の作品に対する事柄まで多様であった。また、2016（平成28）年4月に発生した熊本地震による被災文化財等のカビ被害に対する初期対応など緊急性を伴う事案も含まれた。

生物被害の傾向としては、2016（平成28）年は秋の長雨によりカビの被害事例が例年より多く見受けられ、空調設備が不十分な博物館、美術館、図書館などで被害が起きていた。相談案件の中には、基礎的な知識や対策があれば未然に防ぐことが出来たであろう事例も多く含まれていたことから、文化財の生物被害対策に関する基礎的な知識の習得と対策の実践を織り込んだポスター制作などを通して、文化財の生物被害に対する普及・啓発活動を強化する必要がある。

国指定品の収蔵、展示を予定する52館を対象とした環境調査を行い、計53通の報告書を作成した。



## 文化財の修復及び整備に関する調査・助言(ホ)

**目 的** 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

**成 果**

1. 2016(平成28年)度実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、特別史跡キトラ古墳壁画、国宝臼杵磨崖仏、国宝銅造阿弥陀如来坐像(鎌倉大仏)、国宝平等院鳳凰堂、国宝二条城障壁画、国宝円覚寺洪鐘、史跡屋形古墳群、史跡日岡古墳、史跡楠明重定古墳、史跡塚花塚古墳、史跡竹原古墳、重要文化財通潤橋、史跡石人山古墳、史跡薬師堂石仏、史跡観音堂石仏、史跡日野江城、史跡清戸迫横穴、重要文化財羅漢寺石仏、史跡下馬場古墳、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡葦山反射炉、史跡萩反射炉、史跡高島炭坑跡、史跡原爆ドーム、史跡桜京古墳、重要文化財菅尾磨崖仏、重要文化財末広橋梁、重要文化財巖島神社大鳥居、重要文化財岩水寺所蔵木造地藏菩薩像像内経、重要文化財伏見稻荷大社御茶室障壁画、重要文化財旧鶴岡警察署、重要文化財旧弘前偕行社、重要文化財泉穴師神社、重要文化財琉球芸術調査写真附調査記録、重要文化財近代教科書関係資料、名勝錦帯橋、興福寺油污損文化財、熊本県内被災古墳。

2. 地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

絵金屏風、大山崎町宝積寺石造塔、小豆島町石造文化財、臼杵市銅造普賢菩薩坐像、臼杵市内キリシタン遺跡、横浜市田谷の洞窟、町田市西谷戸横穴墓群、日本航空協会蔵「飛燕」、四国村所蔵「夏目漱石直筆絵はがき」、登録有形文化財奥津発電所調整池、関市若栗橋、日本郵船所有「氷川丸」、横浜市「日本丸」、根津美術館蔵石造浮屠、慶応義塾大学蔵計算機、三原市磨崖和霊石地藏、真鶴町指定有形文化財如来寺石仏群、富山市大山恐竜足跡化石群、岡崎市観音寺所蔵熊毛兜。

**研究組織** ○朽津信明、北河大次郎、早川典子、森井順之、岡田健、早川泰弘(以上、保存科学研究センター)、中山俊介、加藤雅人(以上、文化遺産国際協力センター)

## 文化財の材質・構造に関する調査・助言(ホ)

**目 的** 様々な文化財資料について、その材質や構造を明らかにするために、科学的調査を実施する。可搬型の機器を用いて、文化財資料が置かれている場所での現地調査も実施する。

**成 果** ○材質調査

- ・日本画(岡田美術館、2016(平成28)年4月)
- ・仏像断片(文化庁、2016(平成28)年7月)
- ・彫像等(学習院大学、2016(平成28)年8月)
- ・絵画(東京大学、2016(平成28)年8月)
- ・仏像(深大寺、2016(平成28)年9月)
- ・扉板絵(平等院、2016(平成28)年9月)
- ・漆工品(石川県立美術館、2017(平成29)年2月)



- ・仏像（恵明寺、2017（平成29）年2月）
- ・絵図（江川文庫、2017（平成29）年2月）
- ・絵画（國學院大學、2017（平成29）年3月）

#### ○構造調査

- ・陶磁器（ドレスデン国立美術館、2016（平成28）年5月）
- ・絵画（東京大学、2016（平成28）年8月）
- ・出土遺物（明治大学、2016（平成28）年8月）
- ・剥製標本（国立科学博物館、2016（平成28）年10月）
- ・漆工品（サントリー美術館、2017（平成29）年2月）

以上、調査・助言件数 15件

**研究組織** ○犬塚将英、早川泰弘（以上、保存科学研究センター）

保存科学研究センター

2-(5)-②-1)

### 美術館・博物館等の環境調査と援助・助言（ホ）

国指定品の収蔵、展示を予定する49館を対象とした環境調査を行い、計50通の報告書を作成した。

東京都美術館、公益財団法人ひろしま美術館、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館、新潟市美術館、たばこと塩の博物館、松戸市立博物館、海の道むなかた館、堺市博物館、長浜市長浜城歴史博物館、佐川美術館、名古屋市美術館、豊田市美術館、樂美術館、群馬県立歴史博物館、日野市立新撰組のふるさと歴史館、安芸高田市歴史民俗博物館、静岡市教育委員会、印刷博物館、公益財団法人馬事文化財団、沖縄県立博物館・美術館、公益財団法人日本習字教育財団観峰館、神奈川県立金沢文庫、苫小牧市美術博物館、広島県立歴史博物館、公益財団法人泉屋博古館、公益財団法人福山市かなべ文化振興会菅茶山記念館、公益財団法人松伯美術館、北海道立帯広美術館、八幡市立松花堂庭園・美術館、大分市歴史資料館、長崎歴史文化博物館、下関市立歴史博物館、久留米市美術館、國學院大學博物館、鹿児島県歴史資料センター黎明館、京都府立京都学・歴彩館、吹田市立博物館、高志の国文学館、京都国立近代美術館、富山県水墨美術館、大阪市立美術館、安城市歴史博物館、足利市立美術館、東京都写真美術館、宮崎県立美術館、泉屋博古館分館、MOA美術館、宇和島市立伊達博物館、八代市立博物館未来の森ミュージアム

また、全国の博物館、美術館、社寺、その他文化財収蔵施設の保存環境、及び新築・施設改修・増築などの相談に対して助言を行い、必要に応じた現地調査なども適宜行った。

保存環境に関する相談件数 627件

## 東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進(ホ)

**目 的** 1995(平成7)年4月より東京藝術大学と連携してシステム保存学コースを開設し、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と、保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の2講座から成る。6名の所員が連携教員として授業を開講している。

**成 果** ○今年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論(前期、火曜1限)	2単位	佐野千絵・吉田直人・佐藤嘉則	19名
修復計画論(前期、木曜1限)	2単位	岡田健・朽津信明	7名
修復材料学特論(前期、木曜2限)	2単位	岡田健・早川典子	7名
保存環境学特論(後期、火曜1限)	2単位	吉田直人・佐藤嘉則	6名

文化財保存学演習

テーマ「文化財と光の色々な関係ー見る・守る・調べるー」、講師：吉田直人

日時：2016(平成28)年6月14日(火)13～17時



講義風景

○修士学生指導

英語論文輪講(前期、水曜3限) 2単位 システム保存学修士1年生対象

担当教員 佐野千絵・早川典子

修士論文指導 随時 担当教員 佐野千絵・早川典子 システム保存学修士1年生対象

○入学試験

平成28年度東京藝術大学大学院美術研究科博士課程(前期・後期) 受験者がなく実施せず。

○成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力

教室会議参加(10回)、入試合同判定会議(2回)、博士・修士審査会への協力(5回)

**研究組織** ○佐野千絵(文化財情報資料部)、岡田健、朽津信明、吉田直人、早川典子、佐藤嘉則(保存科学研究センター)

### 3. 外部資金等による研究活動

1. 科学研究費助成事業 .....	75
2. 受託調査研究・外部機関との共同研究及び外部資金による研究 .....	105
3. その他の調査研究 .....	122



# 1. 科学研究費助成事業

研究種目	研究課題	研究代表者	頁
基盤研究(B)	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	小林公治	77
〃	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発 —旧修理材料や微生物痕の除去—	早川典子	78
基盤研究(B)海外	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と 遺跡保存管理体制の確立	前川佳文	79
〃	ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究	亀井伸雄	80
基盤研究(C)	虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究	犬塚将英	81
〃	黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—	大河原典子	82
〃	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	朽津信明	83
〃	津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	佐野千絵	84
〃	日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究	早川泰弘	85
〃	空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び 防災計画策定への応用	二神葉子	86
〃	平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究	小林達朗	87
〃	平安時代前期における神仏習合の展開とその彫刻に関する研究	皿井舞	88
〃	江戸～昭和期の常磐津節演奏家に関する基盤研究	前原恵美	89
挑戦的萌芽研究	実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の一指針として—	菊池理予	90
若手研究(A)	染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—	菊池理予	91
〃	墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—	宇高健太郎	92
若手研究(B)	紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	貴田啓子	93
〃	アイヌと和人の文化交渉史に関する研究 —明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に—	今石みぎわ	94
〃	イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	山田大樹	95
〃	リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館における ゾーニングについての研究	間渕創	96
〃	放射光を用いた中央アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発	増渕麻里耶	97
〃	肥沃な三日月地帯の東翼ザグロス地域における新石器化に関する考古学的研究	安倍雅史	98
特別研究員奨励費	墨、煤、膠の製法と性状の体系化	宇高健太郎	99
〃	毘沙門天像の成立と展開—唐・宋・元から平安・鎌倉へ—	佐藤有希子	100
〃	彩色材と和紙からなる紙質文化財における和紙の劣化機構	貴田啓子	101
特別研究員奨励費 (外国人特別研究員)	2018 年出版予定の書籍のための、1989 年以降の日本の現代美術の研究	橘川英規	102
研究活動スタート支援	江戸時代における初期文人画の基礎的研究 —中国絵画学習とその地域性について—	安永拓世	103





## 対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—

**目 的** 「アジアの特産物」である「螺鈿」は、多源独立的に発生発展したのではなく、中心的・先進的地域の影響や技術・工人の移動を伴いながら消長を繰り返してきたと見られる。本研究ではこの問題を具体的に跡付ける事を目的とし、人類が地球的規模で移動を開始した15-17世紀（大航海時代）を中心として、日本本土や朝鮮半島、また沖縄や中国の螺鈿を取り上げ、人文学および自然科学的方法により、螺鈿器に内包される交流の実態を明らかにしようとするものである。

**成 果**

- ・2016(平成28)年7月に、大阪府池田市の逸翁美術館、広島市の広島県立美術館にてそれぞれ南蛮漆器の調査を実施し、さらに大分県立美術館で開催された国際シンポジウム「南蛮工芸」に参加の上、発表者や参加研究者らと意見交換を行った。
- ・2016(平成28)年9月に、甲賀市藤栄神社が所蔵し国内唯一の遺存例と見られる十字形洋剣(レイピア)について、京都国立博物館にて金工史研究者と共に熟覧調査を実施し、またCTスキャン・蛍光X線調査を行った。
- ・2016(平成28)年9月から10月にかけて、研究分担者や研究協力者らと共にポルトガル国内各地で南蛮漆器および関連する漆器や木製器物類の調査を、さらにその後スペイン国内各地およびイスタンブールにて南蛮漆器やイスラム螺鈿器などの調査を行った。
- ・2016(平成28)年11月に、明治大学で開催された漆サミット2016において、「ポルトガルに伝世する南蛮漆器及び関連漆器の現況」と題した発表を行い、さらに同月、浦添市美術館で開催された「琉球の漆文化と科学2016～螺鈿と文化～」にて、「アジアの螺鈿史瞥見—真珠光沢への希求—」と題した発表を行った。
- ・2016(平成28)年12月、大阪市立美術館にて開催された特別展に出陳された南蛮漆器類を、翌2017(平成29)年1月に京都国立博物館での展示に出陳されている南蛮漆器類の調査を行った。
- ・2017(平成29)年2月には、浦添市美術館で開催された国際シンポジウム「アジアに広がる螺鈿の文化と歴史」に参席し、登壇者や参加研究者との意見交換を行った。
- ・2017(平成29)年3月に開催した東京文化財研究所公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」に登壇者として招へいしおよびこれに参加された海外専門家とともに、目黒雅叙園にて近現代螺鈿漆装飾の調査を行い、その後招へい研究者2名と共に、徳川美術館、南蛮文化館、長崎歴史文化博物館、日本二十六聖人記念館などでの調査を実施した。

**報 告**・小林公治：「ポルトガルに伝世する南蛮漆器及び関連漆器の現況」『漆サミット(第3日目)プログラム』pp.2-3 16.11

・小林公治：「アジアの螺鈿史瞥見—真珠光沢への希求—」『琉球の漆文化と科学2016～螺鈿と文化～』pp.3-4 16.11

**発 表**・小林公治：「ポルトガルに伝世する南蛮漆器及び関連漆器の現況」漆サミット 16.11.5

・小林公治：「アジアの螺鈿史瞥見—真珠光沢への希求—」琉球の漆文化と科学2016～螺鈿と文化～ 16.11.19

**研究組織** ○小林公治、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、吉田邦夫(東京大学総合研究博物館)、能城修一(森林総合研究所)、末兼俊彦(東京国立博物館)、早川典子(保存科学研究センター)



浦添市美術館での発表状況



目黒雅叙園における調査の様子

## 酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発—旧修理材料や微生物痕の除去—

**目 的** 本研究では、酵素を利用した文化財上の汚れ除去に関する基礎的な研究を行い、実際の修復現場における適用を目指す。文化財上の汚れの除去は保存修復において重要な作業の一つである。しかし作品本体を汚損するリスクを避けるため、安全に行える限定的な処置しかなされない側面もあり、十分な効果のあるクリーニングができずに終わる事例も多い。本研究では、酵素というきわめて選択的な化学反応をする生体触媒を用いることにより、喫緊の課題である安全で効果的な除去方法の開発を行う。酵素は反応選択性が高いため、汚れの種類を分析し、それぞれに効果のある酵素を探索した上、それらの文化財材料への影響まで含めて評価する必要がある。本研究ではこれらを包括的に研究し、文化財の保存修復への貢献を目的とする。

**成 果** 本研究は三つの調査研究から成り立つ。一つは材料化学的調査であり、除去対象とする汚れの化学構造の把握を目的とする。二つ目は微生物酵素学的調査であり、材料の分析をもとに酵素の選定やその機能の評価を行う。三点目は現場での適用である。

1. 材料化学的調査。2016(平成28)年度はアクリル樹脂の物性について化学分析を行った。文化財修復に多く使用されるアクリル樹脂のうちエマルジョン液で使用されるものについて強制劣化試験を行い、得られた試料をGC-MSで分析した。
2. 微生物酵素学的調査。2016(平成28)年度は、ポリビニルアルコール分解酵素による顔料の変色の有無、接着力への影響評価を行った。これらの成果は前年度までの成果と合わせて論文投稿を行った。  
また、劣化して不溶化したポリビニルアルコールについて分解酵素の探索を行った。
3. 現場での適用。建造物彩色に使用されたポリビニルアルコールの除去に酵素を用いた事例について、実際に適用を行った。

**論 文**・酒井清文、早川典子、楠京子、山中勇人、川野邊渉：「ポリビニルアルコール分解酵素の劣化ポリビニルアルコール除去への応用—酵素と接着剤および色材間の相互作用—」『文化財保存修復学会誌』60 pp.22-35 17.3

**発 表**・Shun Okamoto, Takayuki Honda: Chemical analysis of UV irradiated B-72 by Py-GC/MS and EGA-MS, PYRO2016, Factory of Pharmacy (France), 16.5.9-12 (フロンティア・ラボ賞)

**研究組織** ○早川典子、佐藤嘉則(以上、保存科学研究センター)、酒井清文、本多貴之(以上、客員研究員)、川野邊渉(特任研究員)、山中勇人(大阪市立工業研究所)

## ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立

**目 的** 両遺跡では近年、古代ローマ時代の壁画の特徴のひとつである多層塗り漆喰構造を原因とする複数層間での剥離が発生し、剥落損失の危機を迎えている。しかし、これまでに繰り返し行われてきた保存修復によって様々な修復材料が表層面を中心に堆積していることから、従来の壁画保存修復技術では対処できない難しい状況にある。本研究では、当該遺跡における先行研究をもとに、作品への負担を最小限に抑えた形での堆積物除去方法の開発と、遺跡保存管理体制の確立を目指す。

**成 果** 4年計画の第1年次にあたる本年度は、現地専門家の協力を得ながら、次年度以降の研究方針をより明確なものとするため、情報収集のための視察調査を中心に実施した。

### 1. ポンペイ遺跡にみられる古代ローマの壁画技法に関する調査

ポンペイ遺跡、エルコラーノ遺跡の壁画を対象に、目視による非破壊調査と写真記録撮影を実施した。その結果、壁画制作時における作業工程が明らかとなり、今日みられる損傷傾向との関連性について貴重な情報が得られた。

### 2. 過去の保存修復方法に関する調査

ポンペイ遺跡、エルコラーノ遺跡の壁画を対象に、過去に実施された保存修復箇所の確認と、今日における作品への影響について考察を行った。表面に塗布された蜜蝋や合成樹脂は、使用時における希釈濃度の影響から光沢を放ち、壁画のオリジナル性を損ねる要因のひとつとなっている。また、壁画の吸放湿性能を低下させることから、漆喰層や彩色層の剥落を促す要因になっていることが明らかとなった。

### 3. 壁画の保全状態に関する調査

ポンペイ遺跡、エルコラーノ遺跡、オプロンティス邸を対象に、壁画の保全状態に関する視察調査及び聞き取り調査を実施した。その結果、各遺跡が今日抱える問題点が明らかとなった。

### 4. 保存修復プロジェクト

上記の各種調査を通じて、ポンペイ遺跡の壁画を対象とする壁画保存修復プロジェクトの草案を作成した。

**研究組織** ○前川佳文、増渕麻里耶(以上、文化遺産国際協力センター)、朽津信明(保存科学研究センター)

## ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究

**目 的** 本研究は、ブータン王国の伝統的版築造建造物を対象に、平面・立面・断面形式及び各細部様式等を調査し、間取り・意匠・構造について類型化及び編年を試みるとともに、構造技法の年代的特徴を明らかにすることによって、その相対的年代観の判定指標を確立することを目的とする。

**成 果** 研究初年次である本年度は、ブータン西部地域所在の版築造古建築の基礎的把握及び次年度以降における詳細調査計画策定のため、カウンターパートである同国内務文化省文化局遺産保存課(DCHS)と共同で以下の調査を実施し、あわせて適切な調査手法の検討を行った。

### 1. 第1回現地調査(2016(平成28)年8月28日～9月5日)

はじめにDCHSと今後の基本的調査方針等につき協議。その後、プナカ県内にて6村、計8棟の古民家を調査、さらにハ県内にて8村、計14棟を調査し、これらも含めて詳細調査候補物件として35棟程度を抽出した。プナカ県では、高地にあるノルブガン村でL字型平面の特徴的民家形式が集中して見られ、小規模な持仏堂に居住部分を付加することによってこのような形式が成立した可能性が想定される。一方、ハ県内の各村では最上階の両側面版築壁が袖壁状に正面に達する間に木造開口部を組み込む形式が比較的多いが、このような形式は他県では殆ど見られない。また、いずれの県においても古式と思われる民家数棟を特定することができた。

### 2. 第2回現地調査(2017(平成29)年3月4日～16日)

前回調査の結果と、その際に得られた情報をもとに、ティンブー県及びプナカ県内での調査を行った。ティンブー県では、高地集落であるゲネカ郡内等で基礎的調査を行ったほか、コマ村等で3棟を対象に実測を含む詳細調査を実施した。また、ティンブー市内の文化局庁舎でDCHSほか関係機関スタッフを対象とするワークショップを開催した。その後プナカ県に移動し、チャンユル、チャンジョカ、ガラカ、ツォーサ、ジャジンカ、ノルブガンの各村で、計13棟の民家について実測を含む詳細調査を実施した。これにより、開口のごく少ない閉鎖的外観の建物が増改築を経てラブセと呼ばれる出窓を持った開放的外観へと変貌していく過程について考察する上での多くの手がかりが得られた。

**発 表**・Nobuo KAMEI: "Conservation of rural houses in Japan" Workshop on the preservation of traditional rural houses in Bhutan, Department of Culture, Thimphu, Bhutan 17.3.7

・Masahiko TOMODA: "Results of previous survey on the traditional rammed earth buildings in Bhutan" 同上

**研究組織** ○亀井伸雄(所長)、友田正彦、マルティネス・アレハンドロ(以上、文化遺産国際協力センター)、江面嗣人、福本雅美(以上、岡山理科大学)、海野聡、前川歩、福嶋啓人(以上、奈良文化財研究所)、佐藤桂(早稲田大学)



## 虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究

**目 的** 茨城県ひたちなか市の虎塚古墳では、近年、壁画の一部に劣化現象が進行している可能性が示唆されてきた。これまでの先行研究により、壁画の構造と材料に関する知見は得られたが、劣化のメカニズムについては十分に解明されているとは言えない。本研究の目的は、虎塚古墳壁画のより良い保存環境の設定を検討するために、壁画の劣化のメカニズムを明らかにすることである。

- 成 果**
1. 虎塚古墳石室内で採取された落下物の調査
    - ・虎塚古墳では石室内の側壁の近くの床面にポリカーボネート製のシートを設置して、落下物の採取を継続的に行っている。これらの資料を顕微鏡で観察し、重量の測定を行った。また、これらの落下物が採取された箇所や季節変動についての検討も行った。
    - ・虎塚古墳壁画の劣化と壁画表面における微生物の存在と影響の有無を調べるために、落下物の一部から微生物解析を実施した。
  2. 虎塚古墳壁画を模した試験片の作成と基礎実験
    - ・劣化のメカニズムを調べるために、虎塚古墳壁画を模した試験片の作成を行った。
    - ・その際に、赤色顔料を生成するための加熱温度を数通り試みて、加熱温度と赤色顔料の劣化との関係性を調べた。
    - ・これらの試験片を恒温槽に入れて、温度環境の変化を強制的に与えた場合の劣化の有無を調べた。
    - ・恒温槽内で特定の試験片表面の温度を低下させて強制的に結露を生じさせるための実験系の構築を行った。
  3. 茨城県の古墳の調査
    - ・虎塚古墳との比較のために、同じような気象条件におかれている茨城県水戸市近辺にある古墳の調査を実施した。
    - ・これらの古墳内では結露の有無の調査、微生物調査等を実施した。また、上記の試験片を設置し、その状態の変化の観察・記録を行った。



茨城県の装飾古墳に設置した試験片

**研究組織** ○犬塚将英、佐藤嘉則(以上、保存科学研究センター)、谷口陽子(筑波大学)、矢島國雄(明治大学)

## 黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—

**目 的** 上村松園が活躍した近代日本画壇では、西洋絵画の影響と大会場での公募展覧会を発表の場とする新潮流が興り、近世までの絵画と比較して作品が巨大化した。巨大化した画面に対応するように新しい材料、技法、表現が生まれたと考えられる。しかしこれまで、その新しい技法表現に関する学術的な研究はほとんどされてこなかった。

明治から大正期の日本画材について少しずつ新知見が蓄積される中で、同時代の中核となる画家、上村松園の技法材料とその表現を調査分析し、芸術性を技術面から解明する必要性を大きく感じるようになった。また、上村松園作品の多くが制作されてから100年前後を経過し、平成28年度から「序の舞」(東京藝術大学美術館所蔵、国指定重要文化財)が修復されるなど、作品群が修復時期を迎えつつある。この現状を踏まえ、松園の技法を分析することは作品をよりよいコンディションで修復するために必要不可欠となっている。また、技法や表現を解明するには、画材の科学的な分析に加えて、日本画実技に立脚した技法の実証実験による結果を集積することが重要であると考えます。

本研究では、スケッチ、模写、下絵、本画作品を調査し、上村松園の使っていた技法とその表現の種類について分析する。それを日本画実技による再現実験によって検証し、松園の技法と表現の特徴を明らかにしたい。さらに、技法材料の同定、絵画構造、表現効果の研究成果は所蔵先の博物館美術館と共有して、作品展示や修復に活用できることを期待している。

**成 果** 本年度は、松園の視点を明確にするため、松柏美術館所蔵の上村松園縮図帳を調査分析した。縮図帳には、松園が行った写生や模写が描かれており、さらに岩絵具や色の名称が描きこまれている。これを色別、モチーフ別、その他の要素でデータ化した。

今回調査対象とした縮図帳、「松園画帖」は61枚で、古画の模写、動植物の写生、画家と同時代の市井の人々のスケッチなどが墨線と淡彩で描かれていた。模写の原本が特定できたものは、春日権現験記絵、隨身庭騎絵巻、円山応挙「布袋、南天、芭蕉図」「狗子図」であった。特定には至っていないものでは、桃山時代風俗図、祭礼図、水墨山水図があった。古代中国風の人物像には、中国春秋戦国時代の故事にちなんだ人物名が描き込まれており、松園が幅広いジャンルの絵画を目にし、学んでいたことがわかった。

色彩については、ロク(緑青)、グン・郡(群青)、コフン(胡粉)、朱、金、など伝統的な顔料名が簡潔に記載され、ボカシなどの技法に関する言葉も散見された。地色と模様の色を意識的に書き分けていた。特に着物や小物の模様について詳細に書き込まれており、時には水彩絵の具で彩色している部分もあった。

来年度はこの他の縮図帳を引き続き分析するとともに、本画に使われた顔料や絵絹の調査を行う予定である。

**研究組織** ○大河原典子(客員研究員)、宮廻正明(東京藝術大学)、高林弘実(京都市立芸術大学)



## 環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究

**目 的** 古墳内部に生息する緑色生物が、繁茂しにくい環境を明らかにして与えることで軽減し、それにより古墳の公開活用の促進に寄与することを目的とする。

**成 果**

1. 国指定史跡・石人山古墳において、石棺表面に緑色生物が繁茂している箇所としていない箇所とでの環境データを連続して一年間以上取得でき、これにより両箇所における年積算照度の差を具体的に把握することができた。
2. 2015(平成27)年度に設置したテストピースについて、その後の経過観察を引き続き行った。今のところ、藻類繁茂は顕著にはなっていない。
3. 石人山古墳で観察された緑色生物を塗布した状態のテストピースを、石人山古墳の石棺でそれぞれ繁茂しやすい・しにくいと考えられる箇所に設置して、その後の経過観察を開始した。
4. 石棺表面に繁茂する緑色生物について、その同定を行った。その結果、*Tolypothrix*属、*Halospirulina*属、*Cyanidium*属といった藍藻や原始紅藻に類縁の遺伝子配列が検出された。
5. 関連として、国指定史跡・フゴッペ洞窟においても同様の計測を行い、ここでは緑色生物が繁茂している箇所の方がしていない箇所よりも照度が低い結果を得ることができた。それらの地点での年積算照度を計測中であり、石人山古墳での値と比較予定である。
6. 関連として、国指定史跡和歌山城跡にある穴蔵状遺構において、藻類が繁茂する箇所としない箇所との分布域を調査し、それぞれの照度と水分条件を調査した。

**論 文**・佐藤嘉則、西澤智康、小沼奈那美、犬塚将英、森井順之、木川りか、朽津信明：「石人山古墳装飾石棺表面に形成したに形成した着生物群集の構造解析」『保存科学』56 pp.1-14 17.3

**研究組織** ○朽津信明、犬塚将英、森井順之、佐藤嘉則(以上、保存科学研究センター)、西澤智康(茨城大学)、脇谷草一郎(奈良文化財研究所)

## 津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策

**目 的** 東北地方太平洋沖地震では、津波によって文書を含む多種多様な文化財が被災した。水損被災した資料には臭気があり、この被災資料の臭気について、悪臭物質の同定、悪臭の元となる原料物質の想定と確認、悪臭物質の発生速度の把握、および悪臭物質の除去方法について総合的に研究し、水損被災資料の一次保管場所、安定化処理後の一時保管場所の必要条件の解明に資する。

**成 果** 2015(平成27)年度までに行った臭気付着不織布のサンプリングおよび臭気分析、着色付着物分析に加えて、2016(平成28)年度には以下の活動(実験を含む)を行った。

- ・臭気付着不織布のサンプリングと分析

- ・臭気問題の生じた資料の、安定化処置各工程の処理水のサンプリングと分析

簡易アンモニウムイオン濃度測定、pH測定、生物的汚れの評価、タンパク残留測定、簡易硫化物イオン濃度測定

被災資料から発生する悪臭物質は、低級カルボン酸、硫化物(化学形不明)、アンモニアが主であった。これらの物質は汚泥中の有機物の嫌気性発酵で生じたと推定された。

悪臭物質を低減するための対策として、一次洗浄で十分にタンパク質を除去すること、また処置ごとに生物汚れの程度を監視していくことが有効とわかった。

対策として、嫌気性条件にならないように湛水しての脱塩や脱脂処理の際、空気バブリングを行い好気性条件を保つようにすると悪臭物質の生成量が低減する可能性がある。好気性条件での分解では硫酸などの無機酸類は生じるので、pH監視が必要である。

付着している悪臭への対策としては、風通しを良くして悪臭物質の放散を促進させる方法のほか、箱内に活性炭シートなどの吸着剤を入れて悪臭成分を吸着させる方法が考えられた。

安定化処置作業にあたっては作業者保護のため、ニトリル手袋や保護メガネなどの保護具を装着し、専用の作業着を着用して定期的に洗濯していくのが良い。保管場所には換気扇、処置作業場にはドラフトなど専用の臭気対応可能な設備の設置が望まれる。また修復作業者の健康被害を抑止するために、作業場所、保管場所では酢酸、アンモニアなど検知管で測定できる物質については計測、監視すると良いと思われる。

研究成果は岩手県立博物館で継続して行われている安定化処置の改善にすみやかに反映された。また、読売新聞2017.3.2夕刊紙面で、「震災6年 古文書修復 次は脱臭」というタイトルで、研究成果が取り上げられた。

**報 告**・佐野千絵ほか：「津波被災紙資料から発生する臭気の実験と発生メカニズムの推定」『保存科学』56 pp.121-134 17.3

- ・内田優花ほか：「津波被災紙資料におけるATP+AMP拭き取り検査の活用」『保存科学』56 pp.113-120 17.3

**発 表**・佐野千絵ほか：「津波被災紙資料から発生する臭気の実験とその対策」第33回日本文化財科学学会大会 16.6.4-5

- ・内田優花ほか：「岩手県津波被災紙資料の表面清浄度調査方法の検討」第33回日本文化財科学学会大会 16.6.4-5

**研究組織** ○佐野千絵(文化財情報資料部)、研究協力者：内田優花(保存科学研究センター)、赤沼英男(岩手県立博物館)

## 日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究

**目 的** 日本絵画の彩色材料の中で、白色材料としては鉛白・胡粉・白土の3種の顔料が古くから用いられてきた。この中で、鉛白と胡粉はその用途や主たる利用時期が大きく異なっていることが明らかになりつつある。そこで本研究では、各時代を代表する日本絵画を非破壊・非接触の科学的手法によって調査し、用いられている白色顔料の種類と用途を明確にするとともに、時代ごとの鉛白・胡粉の利用目的や適用範囲を整理し、これまで漠然と認識されていた日本絵画における鉛白・胡粉の利用状況の実態を明確にすることが目的である。

**成 果** 本研究課題の2年目として、日本絵画における白色材料の利用実態を明らかにするために、以下の調査を実施した。また、これまでに蓄積した膨大なデータ（日本絵画200作品以上）について、第3年次（2017（平成29）年度）での報告書刊行を目指して、データ解析を進めた。

### 1. 鎌倉期絵画の調査

鎌倉期絵画を代表する春日権現験記絵巻（宮内庁三の丸尚蔵館）について第十七巻、第十八巻の裏面に関する彩色材料調査を実施した。この調査をもって全20巻に関する彩色材料調査を終了したが、表面に使われている白色顔料は鉛白だけであることが確認された。一方、裏彩色としてはもっぱら白土が使われていることが確認され、ごく一部分に胡粉が使われていることが見出された。

### 2. 江戸期絵画の調査

江戸中期の画家・伊藤若冲の3作品（岡田美術館）の彩色材料調査を実施した。これまでに調査した動植綵絵30幅（宮内庁三の丸尚蔵館）や菜蟲譜（佐野市立吉澤記念美術館）と同様、白色顔料としては胡粉だけが使われていることが確認された。

また、幕末期に長崎で描かれた絵画（東京大学附属図書館）の調査を実施したところ、使われている白色材料は胡粉だけであり、これまでに調査した洋風画とは異なることが明らかになった。

さらに、琉球王朝時代に描かれた琉球絵画（沖縄県立博物館・美術館、沖縄美ら島財団）の調査も実施し、これらの作品にはもっぱら鉛白だけが使われていることが確認された。琉球絵画については、来年度も調査を継続する予定である。

### 3. 明治期以降の絵画の調査

これまで、調査例の少ない明治期以降の作品（東京藝術大学、江川文庫）について彩色材料調査を実施した。これらについては現在データ解析中であるが、白色顔料として胡粉が見出されるとともに、近代になって新たに開発された人工白色顔料も使われていることがわかった。

**研究組織** ○早川泰弘（保存科学研究センター）、城野誠治（文化財情報資料部）

## 空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用

**目 的** 本研究では、文化財の所在地及び属性に関する空間情報データベースと、自然災害、特に地震や地滑り、洪水、台風による文化財の被災履歴、これらに加えて、各機関から提供されている自然災害の将来の発生予測の情報との連携を通じた、文化財の災害被害の軽減に対する文化財データベースの効率的な活用方法の提案を目的とする。具体的には、これまでに構築してきた文化財GISデータベース及び確率論的地震動予測地図を基礎として、地震以外の自然災害の情報とも連携させ、総合的な文化財防災のためのリスクコミュニケーションに貢献するような地理情報データベースの構築と提供を試みる。

さらに、このような空間情報データベースとの連携により、世界遺産にリスト記載への推薦書や保全管理状況報告書のような、簡潔でわかりやすい説明が求められる場面においても活用可能な防災計画の策定を目指す。

**成 果** 平成28年度は、下記の通り2016(平成28)年10月19日～21日にイタリア・ローマでの聞き取り調査を行った。

1. ローマ第3大学本部において、2016年8月24日にイタリア中部のノルチャ付近で発生した地震(イタリア中部地震: Terremoto Centro Italia)の際の、市民防災隊(Protezione Civile)の活動について聞いた。市民防災隊は国の政府機関であるとともに、地方(Regione)や基礎自治体(Comune)ごとに組織され、人のみならず文化財の救援にも対応する。イタリア中部地震では、震源付近の古くぜい弱な建物が多い地域で建物の倒壊が多く発生した。基礎自治体の市民防災隊は、損傷程度の診断を経て、立ち入り可能とされた建物にのみ入って文化財の救出を行うなど、他組織と連携した救援活動を実施したことがわかった。
2. 同大学建築学部では、イタリア中部地震の際の複数の大学の混成チームによる建造物の被害状況調査について聞いた。同学部のCamillo Nuti教授によれば、2009年ラクイラ地震(Terremoto dell'Aquila del 2009)などの際に文化財の分野で言われていた、修復部位の損壊程度がオリジナルの部分に比して大きいとの状況は確認されず、梁の追加などにより補強された建物の損傷は小さく、補強が施されなかった建物は大きく損壊したとのことである。また、ラクイラ地震の後、近隣の学校などの公共施設では耐震補強が実施されたため、イタリア中部地震による被害は限定的であったという。一方、筆者が長期にわたり調査を行っている文化財保存修復高等研究所(Istituto Superiore per la Conservazione e il Restauro, IsCR)による文化財危険地図(Carta del Rischio del Patrimonio Culturale)はその存在も知らなかったとのことであった。以上から、イタリアにおける修復や補強の地震防災上の効果や、文化財GISによるハザードマップの、文化財防災及び救援に対する活用の状況について再確認が必要であると考えられた。
3. 国立地球物理火山学研究所(Istituto Nazionale di Geofisica e Vulcanologia, INGV)で、歴史的建造物の地震波への応答に関するモニタリングや、地震発生状況のモニタリング、及び地震発生時の観測データの市民への提供方法について聞いた。INGVには見学可能なモニタリングルームが設置され、交代制で研究者が常駐し、地震発生時には研究者の検討を経たうえで、市民に通知する仕組みとなっているとのことであった。
4. 文化財保存修復研究センター(ICCROM)では、建造物の地震防災を専門とする文化庁から出向中の西川英佑職員と面会した。同職員は、ICCROMでの日本の地震防災に関する経験や技術に対する関心は高く、日本の当該分野における貢献の可能性が大きいと示唆した。

**研究組織** ○二神葉子(文化財情報資料部)



## 平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究

**目 的** 平安仏画を研究対象に、従来の写真やすでに公開されている一部のデジタル画像では見ることの不可能な、素材と技法の詳細について、肉眼での直接観察をも超える、精度の高い、かつ光源に配慮した独自の画像を取得し、これを美術史的観点から研究する。

特に、絵具と金銀の材質、およびその技法の詳細を究明し、繊細華麗であることによって日本美術史上特に高く評価されている平安仏画の美しさが立脚しているものを認識し、その表現性と技法の具体を連関させて考察することにより、平安仏画が指向していたものを従来よりも踏み込んで明らかにすることを目指す。

### 成 果 1. 東京国立博物館蔵孔雀明王像の検討

前年度に高精細画像撮影を行ったものについて、東京国立博物館研究員を交えて検討を行った。孔雀羽部の金泥に大きさのむらがあるものが使用されていること、光背に目視では認識しがたい精細な色彩が使われていることなど、美術史的視点に立って平安仏画の性質を考える材料を得ることができた。また、細かな描写変更が行われていることが、従来指摘されていることについて考察を行った。これはむしろ、仁和寺の大師様図像が重視されていたことのあらわれであり、裏腹の関係といえ、従来比較される宋代の孔雀明王との違いについて考察を行った。

### 2. 東京国立博物館蔵准胝観音像・普賢菩薩像の高精細カラー撮影

東京国立博物館との共同調査により、准胝観音像および普賢菩薩像の全図カラー分割撮影を行った。



准胝観音像の高精細カラー分割撮影

**研究組織** ○小林達朗、城野誠治(以上文化財情報資料部)、江村知子(文化遺産国際協力センター)

## 平安時代前期における神仏習合の展開とその彫刻に関する研究

**目 的** 神仏習合思想の理解が大きく刷新された昨今、神像や神のためにつくられた仏像が、本来もっていた文脈を掘り起こし、信仰の実態と造形との関係を考察する必要がある研究段階にきている。こうした状況を踏まえ、初期の神仏習合の動向を総体として捉えるためには、神像の発生という問題だけではなく、神宮寺などのためにつくられた仏像の双方を視野に入れた視覚をあらためて設定する必要があるのではないかと考えた。

そこで、神仏習合の動向を総体として捉え、関連彫像の造形的特徴と造像背景を明らかにするという目的を達成するために、本研究では神宮寺に着目する。神宮寺は、神像を安置する場合、仏像を安置する場合、神像・仏像の双方を安置する場合など、いくつかのパターンがある。こうしたパターンは、神仏習合思想のいくつかの類型と符合するか、もしくは神仏習合思想の歴史的な展開過程と軌を一にする可能性があるからである。

- 成 果**
1. 昨年度まで行ってきた「社寺明細帳」等の調査を踏まえ、引き続き可能な範囲で実地調査を実施するとともに、これまでに収集してきた資料の整理を行った。
  2. 昨年度は地方神が国家神へと変容し、その後また性格を変化させながら在地にひろがっていくという特異な動きを見せる八幡神についての調査を進めたが、今年度は在地の神像の造形とその歴史的展開を考えるために、石川・須須神社および同・白山神社の神像調査を行った。
  3. 期間中に調査した像について成果発表の準備を行った。

**研究組織** ○皿井舞(文化財情報資料部)



## 江戸～昭和期の常磐津節演奏家に関する基盤研究

**目 的** 本研究は、江戸～昭和期の常磐津節演奏家研究に新たな視点を加えるべく、「吉原細見」および江戸祭礼資料を当該研究資料として検証して基礎情報の整理と公開するとともに、常磐津節重鎮の演奏家へのインタビューによる情報集積を行うことを目的とする。平成28年度は本研究の最終年次にあたるため、特に「吉原細見」および江戸祭礼資料について、本研究の成果を公表することに重点を置く。

**成 果** 1. 報告書『吉原細見』に見られる男芸者一覧(稿)について

- ①「吉原細見」名寄せに見られる男芸者一覧についてはほぼ調査を終えていたが、調査過程において、名寄せの無い明和5(1768)年以前の「吉原細見」にも、住まいに応じて専門芸を持つ男芸者が記載されている例が散見されたことから、可能な範囲で実見し(66種)、報告書に加えることとした。
- ②芸名索引を作成するにあたり、名寄せや住まいの位置等から、芸姓が改まっているものの同一人物と推定される例が多く見られたため、これらについては別の芸名も参照しやすいように異名を併記した索引を整えた。
- ③「吉原細見」の男芸者には、常磐津節演奏家研究はもとより、常磐津節以外の三味線音楽(義太夫節、一中節、河東節、富本節、清元節、長唄等)、さらには音楽を越えて声色、人形遣い等の分野で活躍したと思われる男芸者の芸名も見受けられた。そこで、現段階で収集できた情報をできる限り公表し、常磐津節研究に限らずより幅広い専門分野の研究に資するよう、網羅的な男芸者の一覧を作成するとともに、展開の期待されるテーマについて小考を付した。
- ④③の経緯を踏まえ、本報告書はウェブサイトでの公表が望ましいと考え、印刷媒体だけでなく、ウェブサイトで公開することとした(2017(平成29)年3月)。
- ⑤①、②にあたり、天理大学附属天理図書館、西尾市岩瀬文庫、明治大学図書館、関西大学図書館、国立国会図書館古典籍資料室、東京都立中央図書館特別文庫室で補足調査を行った。

2. 江戸祭礼資料による常磐津節研究について

- ①江戸祭礼資料を活用した論文として、すでに昨年度「江戸祭礼資料による常磐津節研究一嘉永4(1851)年の神田祭を中心に一」(有明教育芸術短期大学紀要 第7号、71-81頁、2016(平成28)年3月)を執筆したが、本年度はさらに時代およびジャンルを広げ、より俯瞰的に常磐津節研究の可能性を探ることとした。その成果は「江戸祭礼と歌舞伎をめぐる三味線音楽演奏者の動向一常磐津節を中心に一」(『神田明神研究論集』、神田神社、2017(平成29)年4月刊行予定)として公刊予定。
- ①の執筆にあたり、東京都立中央図書館特別文庫室、東京都江戸東京博物館、千代田区立日比谷図書館、天理大学附属天理図書館、東北大学附属図書館(狩野文庫)で補足調査を行った。

**研究組織** ○前原恵美(無形文化遺産部)

## 実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の一指針として—

**目 的** 本研究は、能楽の芸態を形成する上で不可欠な能装束の伝承における危機的状況に鑑み、その実態調査により、能楽を取り巻く文化財の保護に関する包括的な研究を行い、分野横断的な検証を加えることを目的とする。本研究はこれまで有形文化財と無形文化財に分断された保護体制の中で保護対象とみなされず、対応が遅れている実演用の能装束の保存継承に焦点を当て、その制作・保存管理・修復に関する情報の整理分析を行い、問題点を検証することにより、新たな修理方法を見出す。

最終年度である2016(平成28)年度は、主に1.宝生家に伝来する能装束の修理状況等の聞き取り調査の整理、及び2.染織文化財の修理材料の整理、3.染織文化財の修理材料の科学調査を行った。これらの成果は、2017(平成29)年5月発行予定の報告書に掲載、及び、2017(平成29)年7月に開催される文化財保存修復学会でポスター発表を行う。

**成 果** 1. 宝生家に伝来する能装束の修理状況等の整理

前年度までに行ったア.従来の修理の確認、イ.破損傾向とその原因の確認、ウ.実演家からの聞き取りによる確認を踏まえ、本年度も引き続き宝生和英氏(研究協力者)、公益社団法人宝生会の協力を得て、イ.破損傾向とその原因の確認と、情報整理を行った。

ア.従来の修復の確認:前年度までの調査により実演用能装束は、演能前や虫干し等の際に応急処置的に補修を行うことが多く、オリジナルへの可逆性を重視する染織文化財の修理とはかけ離れた修理が行われていること。また、修理材料についても細かな検討を加えられてはいないことが明らかとなった。本年度の調査対象においても同様のことが確認できた。

イ.破損傾向とその原因の確認:前年度から引き続き、能には決まった着装方法(出立)があり、それぞれの出立や所作(能の型)により負荷のかかる位置が固定するため、各出立に使用する装束の種別を整理し、それらの破損箇所について調査を継続した。⇒本年度は調査を行ったそれぞれの出立に特徴的な所作を確認しつつ、負荷に関する情報を得よう考慮した。その上で、出立と装束にかかる負荷の関係について整理を行った。

ウ.実演家からの聞き取りによる確認:2014(平成26)年度までの聞き取り調査では、a.実演に耐えうる強度を確保しつつ動きに沿う裂の柔らかさを損なわないこと、b.薄物の場合は透け感も重視すること、さらにc.通気性も確保すること等の意見を受けた。それにより展示を目的とした染織文化財の修理と実演用能装束の修理には異なる視点からの検討が必要であることが解った。2015(平成27)年度にはこれまで染織文化財に使用されてきた修理材料の整理(2.染織文化財の修理材料の調査参照)を行った。

2. 染織文化財の修理材料の調査

2015(平成27)年度の調査で東京文化財研究所の資料閲覧室に所蔵されている修理報告書(1965(昭和40)年～2013(平成25)年)において、染織文化財に関する修理の情報を整理した。約240点にわたる修理情報からは、昭和40年代前半/昭和40年代後半から昭和50年代/昭和60年代以降と修復材料が変わってきていることが明らかとなった。2016(平成28)年度はこれらの中からいくつかの修理材料を抽出し、適正の検証を行った。

**研究組織** ○菊池理予、橋本かおる(以上、無形文化遺産部)、岡田宣世(女子美術大学)、田中淑江、後藤純子、長谷川紗織、田代斐音(共立女子大学)、門脇幸恵(日本芸術文化振興会)、宝生和英(宝生会)、北島恭代(染織品保存修復技術者)

## 染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—

**目 的** 本研究は染織品の様式変遷や模様の流行に関する従来の染織史研究を踏まえ、中世以降、日本各地に見られる染織技術がどのような伝播経路を辿りそれぞれの産地にもたらされたのか、そして産地に根付いた技法にはいかなる材料や道具が用いられてきたのか、工程はどのように分業され継承されていったのかに着目し研究を行うものである。本研究では特に染織技術を取りまく材料や道具に着目し、産地間の比較検討や交流の情報を整理することで、染織技術の伝承について検証する。さらに研究対象を現在にも受け継がれる技術を主な対象に据えることで、染織技術を後世に受け継ぐ最善の方策を提示することを目指す。

**成 果** 本研究は、染織技術調査、江戸時代の藩政資料及び地方史、鎌倉時代以降の染織技法書と染織技法が描かれた絵画資料の調査研究、それらの技術に対応する染織品や実物調査を基盤として推進する。

前年度は、1. 日本における染織技法の分布 (平成 28 年度版) の整理と実地調査、及び 2. 中世以降の日本における染織技法の分布の整理 (染織技法書及び藩政史料等) を行った。本年度は前年度から引き続き 2 を中心に作業を行い、全都道府県史から染織技術関連項目の抽出を行った。来年度以降は、これらの情報の整理を進めながら、現地調査を推進する。

### 1. 現在の日本における染織技法の分布 (平成 28 年度版) の整理と実地調査

昨年度整理した染織技法の分布に今年度の指定情報・解除情報等の確認を行い更新した。また、本年度は 2 の情報整理に時間を要したため実地調査を行うことが難しかった。来年度以降は、本年度の成果を生かして実地調査を中心に研究を推進する。

### 2. 中世・近世・近代の日本における染織技法の分布の整理 (染織技法書及び藩政史料等)

本研究に先立ち、申請者は科学研究費補助金若手研究 (B) 「染織技法の分業化の展開に関する基礎的研究—技法書・絵画資料・実作品の分析を通して」(平成 21 年度採択、平成 25 年度終了) を通じて、室町時代以降の文献資料 (227 件) に見られる染織技法や、技術の担い手、用いられた道具等に関する情報を整理してきた。その中で、指導を目的として技術者を招く事例等、技術の伝播を考える上でも重要な背景が確認された。そこで、本研究では新たに情報を補完すべく都道府県史を中心に染織技術の関連項目についての情報整理を行っている。

本年度は、前年度に情報整理を行った北関東の現地調査を行う予定であったが、情報を確認していくと、技術の伝播を考察するには、街道の整備や流通品の情報等、より細かな精査が必要ながことが明らかになった。また、伝播の方法 (技術者の招聘、商人の関わり) は、江戸時代の専売を背景に行われたもの、明治維新後の国外からの影響を受けたもの等の分類が可能であると推測された。そのため、本年度は網羅的に全都道府県史から染織関連項目の抽出を行うこととした。

**研究組織** ○菊池理予 (無形文化遺産部)

## 墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—

- 目 的**
- ・墨、煤、膠の製造技術は、製品の性状と、それが使用された各時代の書画文化財の表現や芸術性に大きく影響している。本研究ではこれらの関連について実践的に体系化する。製膠技術史、製墨技術史を踏まえた新しい知見に基づく書画研究の可能性を拓き、さらに文化財修復への応用展開を目指す。
  - ・膠については、過年度研究を踏まえてさらに広範な製造条件下での試作を行い、製造条件と物理化学特性、用途適性の関係について体系化を進める。また再現製造した松煙煤の性状を明らかにし、既報で扱った各試料との性状の相違を、墨として使用した際の表現効果への影響を含め実践的に明らかにする。

**成 果** 1. 膠試料の応用的性状の検証

膠試料の試作と分析を、過年度研究から継続して進めた。また各膠試料について複数の日本画製作者と文化財修復技術者による用途適正評価を行い、用途適性と物理化学特性の関係解明を進めた。なお過年度研究において、十分な経験を有する複数の日本画制作者による用途適性評価を行っており、物理化学的諸性質と作業性や堅牢性等とのあいだの有意な関連を確認している。本研究ではこれに準じて、膠の物理化学特性と用途適性の関連解明を、より広範な製造条件下において進めた。

2. 墨試料の製造実験と試料性状の評価

過年度に製造した松煙煤試料中に、製造設備由来と思われる紙質繊維が認められたため、機械的な篩処理によってこれの除去を行った。また墨試料の製造を、当該年度までに得られた膠及び煤を使用し各条件下で行った。さらに、より定量的に墨試料製造実験を行うための恒温連続混練装置の設計検討を行い、当該装置を製造した。予備試験において当該装置の動作性等を確認した。

3. 建造物文化財における彩色屏絵1件について、剝落止め処置に使用される膠試料を提供した。
4. 造物文化財における彩色屏絵1件について、剝落止め処置に使用される膠試料を提供した。
5. 日本画文化財1件について、剝落止め処置に使用される膠試料を提供した。
6. 日本絵画文化財1件について、剝落止め処置に使用される膠試料を提供した。
7. 中国書跡文化財1件について、剝落止め処置に使用される膠試料を提供した。

**発 表**・宇高健太郎：「膠研からのお知らせ—リーフレット発行について—」 膠文化研究会第9回公開研究会 16.7.9

・宇高健太郎：「膠の性状に関する研究」 文化財保存修復学会第38回大会 16.6.25-26

**研究組織** ○宇高健太郎(日本学術振興会特別研究員)

## 紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発

**目 的** 日本画などにみられる「緑青焼け」は、銅を含む顔料により基底材の劣化が著しく促進され、変色、脆弱化を伴う深刻な問題である。本研究では、日本の書画における修復処置として、現行の裏打紙取り替え工程、および水洗工程に着目し、「緑青焼け」に対する処置としての効果を評価する。一方、「緑青焼け」劣化現象の主要因である銅イオンの拡散を抑制するため、紙資料の修復処置として水洗浄後にゼラチン水溶液による処置を試み、その効果を明らかにする。

### 成 果 1. 緑青顔料分散液中の銅イオン量測定

緑青焼けの主要因は、緑青に含まれる銅成分である。緑青顔料の安定性を調べるため、緑青顔料における水溶性銅イオン量を確認した。緑青顔料を通常の日本画で用いる濃度の膠水溶液中で攪拌した分散液と、純水中で攪拌した分散液中における、溶出銅イオン量を測定した結果、純水中では、銅イオンがわずかに溶出するのに比べ、膠水溶液中では、銅イオン量が多いことが明らかとなった(図1)。膠の主成分であるコラーゲン分解物と銅イオンとの相互作用があることが示唆された。

### 2. 焼緑青の安定性

緑青の安定性を検討するため、含まれる銅の状態が加熱処理により異なっている焼緑青に着目し、緑青顔料と比較した。顔料を塗布後、湿熱劣化処理した楮紙は緑青よりも焼緑青でセルロース分子量が低下し、劣化が進行することがわかった。

### 3. 緑青の洗浄

緑青膠分散液上澄み中に銅成分が存在し、紙に滴下すると、緑青顔料が存在しないにも関わらず「緑青焼け」による劣化が生じた。そこで、顔料膠分散液の上澄み液を除き、顔料を洗浄し、再び顔料膠分散液を作製し、銅イオン量を確認した。洗浄回数を増やすと、銅イオン濃度が減少した(図2)。洗浄により顔料膠分散液の緑青由来銅イオンが除かれると考えられた。緑青膠分散液の上澄みのみをろ紙に滴下(上澄み1)、同様に、洗浄を繰り返し行ったときの分散液の上澄み試料を上澄み2、上澄み3とした。上澄み液を滴下したろ紙を湿熱加速劣化処理を行い、色およびセルロース分子量の経時変化を確認した結果、変色の度合は、上澄み1>上澄み2>上澄み3の順となり(図3)、セルロース分子量も同様の傾向がみられた。

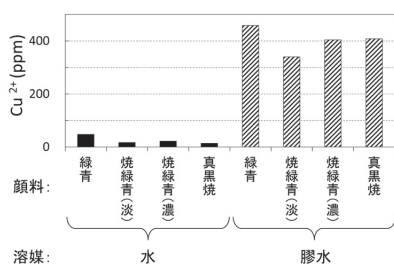


図1 各種緑青顔料灰汁中の銅イオン濃度

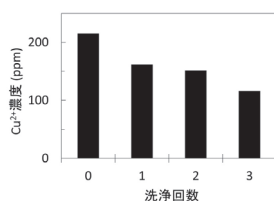


図2 顔料分散液のCu²⁺濃度

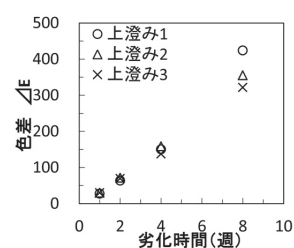


図3 上澄み紙試料の色の経時変化(80°C, 65%rh)

報 告・貴田啓子：「緑青焼けによる紙の劣化」科学的な材料とその使用方法の講習会 16.8.8-9

発 表・貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子：「緑青および焼緑青が和紙に及ぼす影響～灰汁中の銅イオンの存在～」文化財保存修復学会第38回大会 16.6.25-26

・貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子：「緑青顔料由来の銅成分が和紙の劣化に及ぼす影響」マテリアルライフ学会第21回春季研究発表会 17.2.24

研究組織 ○貴田啓子(客員研究員)



## アイヌと和人の文化交渉史に関する研究—明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に

**目 的** 本研究は、石川県で発見された明治期の奉納イナウおよび国内の類似資料の調査研究を核に、近世後期から近代における、アイヌ民族と和人(本州以南の人々)の文化交渉史を再考することを目的とする。イナウはアイヌが最も重要視する祭具である。それがなぜ和人によって本州の社寺に奉納されたのか、その経緯・背景を現地調査や関連資料の分析によって解明することにより、日本列島におけるイナウ関連習俗の全体像を追究する。さらには、その過程を通して、北前船交易等を介したアイヌと和人の文化交渉や、和人によるアイヌ文化受容の実態を広く検証・考察することで、従来の研究では見落とされてきた「北からの文化の道」を実証的に提示することを目指す。

**成 果** 本州の社寺に奉納されたイナウは、これまでに石川県で9点、青森県で27点、岩手県で1点が確認されている。初年度である本年はこれらのイナウについて分析を進めるとともに、類似資料の所在調査を行った。また、研究協力者を通じての情報収集や基礎的な文献調査を実施し、年度末には研究会を実施した。

実地調査として、研究協力者である北原次郎太氏(北海道大学アイヌ・先住民研究センター)、戸潤幹夫氏(石川県立歴史博物館)とともに、岩手県大船渡市尾崎神社、青森県下北半島、北海道余市町などで調査を行った。このうち2016(平成28)年5月に実施した尾崎神社の調査では、御宝物「いなう」が北海道道東地方の形式を持つイナウであること、尾崎神社が近世から重要な海上信仰の拠点であったことなどが明らかとなり、イナウの来歴について検討するための素材を得た。

また、石川県の奉納イナウについては専門機関に樹種同定を依頼し、現在でもイナウ材として頻用されるミズキとヤナギの製である可能性が高いとの結果を得た。

2017(平成29)年2月には北海道大学にて研究協力者や近世・近代アイヌ史の専門家による研究会を開催。幕末のアイヌ場所における和人とアイヌの関わりのあり方について、専門家から新たな知見と助言を得、今後の研究の方向性を再検討する機会を得た。

**報 告**・今石みぎわ：「本州の社寺に奉納された明治期のイナウについて」『民具マンスリー』49(12) pp.1-10 17.3

**発 表**・今石みぎわ：「明治期の奉納イナウにみる和人とアイヌの文化交渉について」日本民俗学会第68回年会 千葉商科大学 16.10

・今石みぎわ：「海とイナウと削りかけ—民俗学から考える奉納イナウ」研究会「明治期の和人によるイナウの奉納習俗を考える」北海道大学アイヌ・先住民研究センター 17.2

**研究組織** ○今石みぎわ(無形文化遺産部)



## イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究

**目 的** 近年、大きく変容しつつあるイランの歴史的都市景観を適切に制御するため、文化遺産としての「真正性」および「住民意向」を尊重した歴史的市街区における都市再興プロジェクトのあり方を検討し、おもに世界遺産バッファゾーン内の歴史的都市景観を継承するための計画指標を考察することを目的とする。

**成 果**

1. 2016(平成28)年10月5日から14日にかけて、エスファハーンにおける現地調査とリソースパーソンとの面会を通して研究に必要な情報を得るとともに、調査対象地における調査体制を整えた。具体的には、エスファハーン大学にて研究の協力者である Mehrdad Hejazi 准教授と研究について議論するとともに、6、8～10日と調査に帯同いただき多くの情報を得た。10月6日に文化遺産・手工芸・観光庁エスファハーン支部 Allayah 局長ら、10月9日にはエスファハーン市都市計画局 Hossein Jafari 局長及びエスファハーン大学 Asadallah Karimi 教授、10日にはエスファハーン大学都市工学部長の Dr. Shanehsaz 教授と面会し、対象地の計画進捗状況やそれに対する考え方、エスファハーンにおける都市再生事業についての説明を受け、また資料を得た。調査対象地区であるマスジャデ・ジャーメ中心地区における概観調査を実施し、エスファハーン大学の学生を通じて、調査範囲及び調査項目の確定を行うため18名への簡易インタビューを実施した。
2. 2017(平成29)年1月1日から11日にかけて主にタブリーズ、マシュハドにおいてエスファハーンとの比較事例調査を実施し、各歴史的都市景観の保全体制や課題についての情報を得た。具体的には、世界遺産リストに記載されているタブリーズのバーザールにおける景観保護に係る制限等について、マシュハドの中心にある聖廟広場周辺の道路の地下化の状況と都市の変遷について調査した。同出張中タブリーズ・イスラーム芸術大学で実施された「The Conference on the Historic Urban Landscape」のなかで、日本及びイランにおける歴史的地区の景観保存の動向に関する講演とそれについての意見交換を同建築学部長 Mirgholami 教授らと行った。
3. 2016(平成28)年5月から2017(平成29)年1月にかけて、本研究の遂行に必要なペルシャ語文献6点を翻訳した。
4. 下記の通り、現地調査の内容を当該研究と関連する研究会で発表するとともに、本研究で扱う都市形態変遷に関する調査手法を用いて作成した論文については日本建築学会に投稿、発表を行った。

**報 告**・山田大樹ほか：「ネパール・カトマンズ盆地の歴史的集落コカナの町並み変容とその要因～ Nyala Dan 通り沿いにおけるケーススタディ～」『日本建築学会学術講演梗概集』都市計画 pp.1009-1010 日本建築学会 16.8 ほか1件

**発 表**・山田大樹：「エスファハーンにおける世界遺産の現状と課題」中世建築研究会 東京大学 16.11.5 ほか3件

**研究組織** ○山田大樹(文化遺産国際協力センター)

## リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究

**目 的** 自然共生型博物館では、微生物（主にカビ）の発生源である林（里山・鎮守の森等）に囲まれており、またこれをフィールドとした博物館活動のため、野外由来微生物による汚染許容区画と清浄維持区画の明確な区分による微生物管理が必要になる。本研究では連続的な浮遊菌濃度の測定が可能であるリアルタイム浮遊菌測定を取り入れることで、より正確性の高いゾーニング手法の検討を行う。

**成 果** 本研究は3年間での遂行を計画している。

(1) リアルタイム浮遊菌測定と従来法による浮遊菌濃度の相関

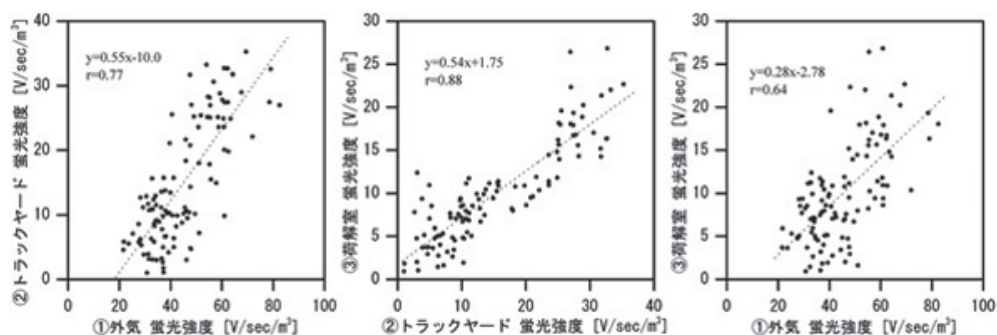
(2) モデル施設における瞬間的・短時的な影響を与える要因の抽出と定量化

(3) ゾーニングのパイロットテストと自然共生型博物館への適用するための汎用性の検証  
の3項目をサブテーマとする。

第1年次である2015(平成27)年度は、同一区画内であれば従来の培地法による浮遊菌測定と非培養法であるリアルタイム浮遊菌測定法(バイオエアロゾル測定)に相関がみられることや、短時間的な微生物環境の変化の検出にはバイオエアロゾル測定が有利なことが、博物館施設では区画によってバイオエアロゾルに含まれる浮遊菌の存在比が大きく異なる場合があり、単純に代替することはできないことなどが明らかになった。

2年次である2016(平成28)年度は、モデル施設において瞬間的・短時的に変化する外気由来微生物や来館者の影響の把握について実験を行った。施設内の隣接する3つの区画にバイオエアロゾル測定器をそれぞれ1台ずつ設置し、同時に測定を行うことで、外気の影響を受ける区画や展示室とその周辺の区画について定量的な分類が可能であった。また来館者を要因とした、展示室における一日のうちのバイオエアロゾル変化を検出することができた。これらによりバイオエアロゾル測定を用いることで、博物館施設における、より正確性の高いゾーニングが可能であることが示唆された。

3年次である2017(平成29)年度は、予定通りモデル施設全体においてバイオエアロゾル測定によるゾーニングを行い、汎用性の検証を実施する予定である。



外気と隣接する区画におけるバイオエアロゾルの相関

**報 告**・間瀬創ほか：「博物館施設におけるゾーニングへのバイオエアロゾル測定の活用」『保存科学』56号 pp.89-98 17.3

**発 表**・間瀬創：「三重県総合博物館における生物対策」書庫管理(カビ対策)に関する説明聴取会ほか2件

**研究組織** ○間瀬創(客員研究員)

## 放射光を用いた中央アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発

**目 的** 本研究は、放射光の高輝度X線を利用した古代鉄製品に対する非破壊での分析・観察方法の開発を通じ、人類による製鉄の起源として注目を浴びる古代ヒッタイト文明 (1650-1200 BC) の製鉄技術を解明することをその第一の目的としている。ヒッタイト帝国の本拠地のあった中央アナトリア (現トルコ共和国アナトリア高原中央部) の遺跡から出土する鉄器・製鉄関連遺物の自然科学的分析を通じ、従来の考古学的様式分類では不可能だった「在来品と外来品の判別」の指標となる化学種や組成比の特定を目指す。

**成 果** 3年計画の第2年次にあたる本年度は、①大型放射光施設 SPring-8 での測定を主軸に、②国外での資料調査、③研究発表を通じた関連専門家との意見交換を行い、実験データの考察を進めるとともに最終年度に向け研究目標の明確化をはかった。

## ① SPring-8 での鉄製品の非破壊測定

2016 (平成 28) 年 6 月 1 日～3 日、大型放射光施設 SPring-8 のビームライン BL20B にて、放射光 X 線 CT を用いた中央アナトリア出土鉄製品の非破壊測定を実施した。昨年度の予備測定で使った BL28B2 に比べ本ビームラインの CT 像は分解能が高く、測定条件を工夫することで、腐食層のみならず鍛造技術の特徴を示す非金属介在物の分布も十分観察可能な再構成画像を得ることができた。本結果を受け、11 月 18 日～20 日にも同ビームラインにて測定を行いデータの蓄積をはかった。さらに 11 月 20 日～21 日、同施設の BL08W にて放射光高エネルギー蛍光 X 線分析を実施した。分析に供した 35 点の鉄製品のうち 32 点からバリウム、およびランタンなどの希土類元素が検出された。これらは製作地の同定につながる化学種である可能性が高い。

## ② 資料調査

2016 (平成 28) 年 9 月および 11 月、ロンドン大学およびトルコ共和国に所在するアナトリア考古学研究所にて、古代鉄製品および製鉄関連遺物に関する資料調査を実施した。

## ③ 研究発表

本年度は 2 報の論文と 2 本の研究発表を行った。なお SPring-8 での各実験の成果は、SPring-8 の利用課題実験報告書 (Web データベース) に掲載されている。

**論 文**・増渕麻里耶：「中央アナトリア、カマン・カレホユック出土鉄製品に見る「鉄器時代」のはじまりに関する一考察」『西アジア考古学』17 pp.89-103 16.5

・Mariya MASUBUCHI 2017 The Chemical Characterization of Iron and Steel Objects from Kaman-Kalehöyük *Anatolian Archaeological Studies* 20 pp.51-62 Japanese Institute of Anatolian Archaeology 17.3

**報 告**・増渕麻里耶ほか：「放射光 X 線 CT を用いた古代鉄鋼製品の製作技術の解明」『SPring-8 利用課題実験報告書』2016A (Web データベース)

・増渕麻里耶ほか：「高エネルギー放射光蛍光 X 線分析を用いた中央アナトリア出土古代鉄製品の産地推定」『SPring-8 利用課題実験報告書』2016B (Web データベース) ほか 1 件

**発 表**・増渕麻里耶：「LA-ICP-MS を用いた鉄製文化財の組成分析—トルコ共和国出土古代鉄製品の特性化への応用」日本分析化学会第 65 年会 北海道大学 16.9.16

・増渕麻里耶：「中央アナトリアにおける製鉄文化解明の試み (8) —放射光を用いた鉄製品の組成分析と非破壊観察方法の開発—」第 27 回トルコ調査研究会 学習院大学 17.3.5

**研究組織** ○増渕麻里耶 (文化遺産国際協力センター)

## 肥沃な三日月地帯の東翼ザグロス地域における新石器化に関する考古学的研究

**目 的** 西アジアの肥沃な三日月地帯は、地中海式農耕の起源地として知られている。1990年代には、肥沃な三日月地帯のなかでも、とくに西側のレヴァント地域(シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、パレスチナ)で最初に農耕・牧畜が開始されたと考古学界では考えられていた。

しかし、今世紀に入り急速に発展を遂げた遺伝子研究は、対照的に東側のザグロス地域(イラン、イラク)でも独自に農耕・牧畜が誕生した可能性を示している。これまで研究の空白地帯であったザグロス地域における農耕・牧畜の起源、並びに同地域からの農耕・牧畜の拡散の具体的なプロセスを解明するため、イラン・ザグロス地域に入り考古学調査を実施している。

**成 果** 2016(平成28)年度には、テヘラン大学が発掘調査を実施している初期農耕村落址ホルマンガン遺跡とガブコシ遺跡に関する調査を実施した。

ホルマンガン遺跡は、イラン南西部、ザグロス山脈南部ファールス地方にある土器新石器時代のテル型の遺跡である。2016年より、テヘラン大学のモルテザ・ハニプール氏によって発掘調査が進められている。

ホルマンガン遺跡に関しては、出土炭化物8点の放射性炭素年代測定と出土打製石器の分析を実施した。炭素年代測定の結果、この遺跡は前6200年から前6000年の時期に年代付けられることが判明した。

また打製石器を分析した結果、前後の時代に比べ、狩猟具である幾何学形石器がきわめて多いことが判明した。前6200年から前6000年の時期は、気候が寒冷・乾燥化した8.2kaイベントの時期にあたるため、農耕・牧畜を補うために一時的に狩猟の役割が高まった可能性が示唆された。

ガブコシ遺跡は、イラン東部、ザグロス山脈の南東端にあたるケルマーン州最古の農耕村落址で、ホルマンガン遺跡と同時期の土器新石器時代の遺跡である。2015(平成27)年度に引き続き、ガブコシ遺跡出土の打製石器を分析した。石器の技術的特徴から、ガブコシ遺跡の資料は、イラン南西部ファールス地方の土器新石器時代の遺跡のものと非常に類似していることが判明した。これと同様のことが土器の分析からも支持されている。

この結果、おそらくは中央ザグロスで開始されたザグロス型の農耕・牧畜文化が、ファールス地方を経由して、ケルマーン州にまで達していたことが判明した。ガブコシ遺跡は、ザグロス山脈の最東端に立地しており、これより東側には広大な沙漠が広がっている。ガブコシ遺跡より東側の地域の石器資料をみると、ガブコシ遺跡のものとはまったく異なる石器伝統が広がっている。このことから、おそらくケルマーン州がザグロス型の農耕・牧畜文化が広がった最東端であったと推定された。

**研究組織** ○安倍雅史(文化遺産国際協力センター)

## 墨、煤、膠の製法と性状の体系化

- 目 的**
- ・墨、煤、膠について、製造時の条件が製品性状に及ぼす影響をより広範に体系化する。また各時代・地域におけるそれらの製造方法の違いが、書画文化財の画面効果や芸術性に、どのように影響を及ぼしていたのかを明らかにする。またこれにより製膠技術史、製墨技術史を踏まえた新しい知見に基づく書画研究の可能性を拓く。
  - ・近代以前の書画制作材料及び修復材料の製造技術を多種復元し、さらに体系化・公知化することによって保存する。近現代の墨や膠は、技術が失われたことによる品質低下と、添加薬剤等に起因する変質がしばしば問題となっている。申請者は過年度研究においてもその成果を民間機関に提供し、これまでに古典的膠製品9種類の量産に携わった。またそれらの製品は、実際に教育及び文化財修復の現場で活用されはじめている。当該申請研究においてもその成果を活用し、各製造者へのより発展した技術提供や公知化を行う。

- 成 果**
1. 古典的膠製造技術の復元を過年度研究よりさらに進めた。
  2. 近代以前の各種文献を参考として、各条件で古典的原料/製法による墨復元の予備試験を進めた。墨液における分散安定性には膠と煤の荷電傾向および表面官能基等が理論上強く関係するため、こうした諸要素に特に留意して条件を検討した。
  3. 本研究では墨試料を各条件で試作し、摩墨後墨液における凝集体規模経時測定を通して、製造条件が凝集化進行速度に及ぼす影響を明らかにする。当該実験では高濃度検液を扱うことが重要であるため、レーザ回折式粒度分布測定装置(島津製作所製SALD-7500)に、高濃度測定ユニット(島津製作所製HC75J)を接続し、これを行うにあたっての予備試験を進めた。
  4. 各墨試料における滲み拡散性評価を進めた。当該評価にあたっては、唐紙への滴下等によって一定の定量性を担保した。また現存する清代及び江戸期等の各種古墨試料についても同様の評価実験を行い、試作墨との照合を進めた。これらの結果と、過年度に明らかにした古墨試料中の膠分子量分布及び含有煤の粒子径分布の照合を行い、試料組成と性状の関連モデルについて検討を進めた。
  5. 当該研究等における成果をもとに、膠の基礎知識に関する刊行物英語翻訳版発行に向けた校正等を進めた。

- 発 表**
- ・宇高健太郎：「膠研からのお知らせーリーフレット発行についてー」 膠文化研究会第9回公開研究会 16.7.9
  - ・宇高健太郎：「膠の性状に関する研究」 文化財保存修復学会第38回大会 16.6.25-26

**研究組織** ○宇高健太郎(日本学術振興会特別研究員)



## 毘沙門天像の成立と展開―唐・宋・元から平安・鎌倉へ―

**目 的** 本研究「毘沙門天像の成立と展開―唐・宋・元から平安・鎌倉へ―」は、東アジアの仏教において大変重要視された毘沙門天が、7世紀から14世紀においてどのように信仰され、また関連する美術作品を生み出してきたかという問題について考察するものである。

第二年次は、①慶派による造像に注目し、鎌倉時代に制作された伝快慶作・毘沙門天像（京都・青蓮院所蔵、以下青蓮院像）を中心に調査研究を行った。②北宋の真宗朝に制作された南京・大報恩寺址出土七宝阿育王塔（大中祥符四年・1011）に注目し、中原では元時代に受容されたと考えられているインド・チベット風の四天王図像が、北宋時代すでに用いられていた可能性について考察した。

いずれも資料や経典の収集・分析、作品調査を踏まえた上で、造形的特質と思想背景・人的環境という三点から個々の作品の史的意義を実証的に位置づけようとした。

**成 果** 2016（平成28）年度における主な研究実施状況及び成果は以下の通りである。

### 1. 京都・青蓮院毘沙門天像の調査・研究および関連作品の調査・研究。

2016（平成28）年4～7月、青蓮院像に関する文献史料および先行研究の収集・分析、関連作品（快慶作・伝快慶作等）についての資料の収集、造形の分析、青蓮院聖教中の関連史料の翻刻を行った。

2016（平成28）年8月、青蓮院像の熟覧および写真撮影。醍醐寺霊宝館・不動明王像の熟覧を行った。

2016（平成28）年9月、アメリカ・メトロポリタン美術館にて青蓮院伝来不動明王像の熟覧・写真撮影を行った。

高野山大学図書館にて青蓮院聖教写本の閲覧・複写。京都・泉屋博古館にて青蓮院伝来の毘沙門天像の調査・撮影を行った。

2016（平成28）年10月～12月、8～9月に収集した写真資料・文献資料の整理および分析を行った。

### 2. 北宋時代～元時代の毘沙門天像に関する調査・研究。

2017（平成29）年1月～3月、北宋時代（真宗朝）に制作された南京・大報恩寺址出土阿育王塔にあらわされた毘沙門天像に関する考察を行った。

真宗朝で天書降下や封禅など国威発揚事業が行われたことに注目し、同時期に制作された舍利塔からの出土品の制作意義を推測した。大報恩寺址出土阿育王塔にはチベット風の四天王像があらわされており、従来は元時代以降に受容されたと考えられていたインド・チベット仏教の図像が、北宋時代に局所的ではあるが用いられていた可能性について検討中。

2017（平成29）年2月、河北省で仏教文物の調査をし、北宋時代前期に制作された舍利塔や碑石、彫刻作品の熟覧および写真撮影を行った。大報恩寺址出土阿育王塔について、真宗朝で制作された宗教文物全体における位置づけを明らかにしようと試みている。

**研究組織** ○佐藤有希子（日本学術振興会特別研究員）



## 彩色材と和紙からなる紙質文化財における和紙の劣化機構

**目 的** 紙質文化財の劣化を促進する要因としては、外的要因の光、温湿度などがあり、また内的要因のひとつには、顔料等に由来する金属イオンの影響がある。各種の条件で加速劣化させた和紙のモデル試料を作製し、光、温湿度の影響による劣化の特徴を確認し、紙中のセルロース及びヘミセルロースの金属イオンの影響による劣化反応の進行部位を検討することにより、紙の劣化機構の一端を明らかにするとともに、よりよい保存処置や修復および保存環境を検討することを目的とする。

### 成 果 1. 粒度の異なる緑青顔料分散液中の銅イオン量

緑青焼けの主要因とされる銅成分の安定性を確認するため、粒度の異なる緑青顔料中の顔料膠溶液中の銅イオン含有量を測定した(図1)。

日本画の技法に従い、顔料に少量の膠を添加し、顔料膠分散液を試料とした。全ての顔料において、銅イオンが検出され、特に粒度の最も小さい白緑では、膠水溶液中に水溶性の銅イオンが多く存在することがわかった。

### 2. 加速劣化緑青焼け紙試料のセルロース分子量

和紙に緑青顔料を塗布し、湿熱加速劣化処理により緑青焼けの劣化を再現した。紙試料裏面にみられる緑青焼けによる褐色化は、目視観察では、白緑よりも緑青9番の変色が大きかった。しかし、本試料は、裏面にも顔料の発色がみられ、測色では正確な変色の評価が困難である。そこで、紙のセルロース分子量を測定し、劣化の評価を行った(図2)。劣化前の楮紙では、 $M = 2.0 \times 10^6$ にピークトップをもつ分子量分布を示す。湿熱劣化後、低分子側に分子量分布がシフトした。緑青焼けのみられる緑青9番塗布の試料では、さらに分子量が低下し、白緑塗布の試料は、セルロースの分子量低下が最も大きかった。

1. 及び 2. の結果より、緑青顔料の水溶性銅イオン量は、粒度に依存し、緑青焼けの促進にも影響を及ぼす可能性が示唆された。

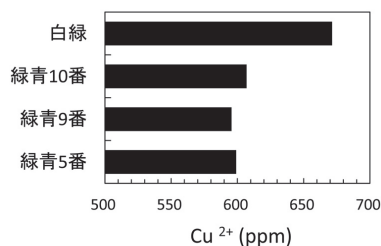


図1 各種緑青顔料分散液の銅イオン濃度

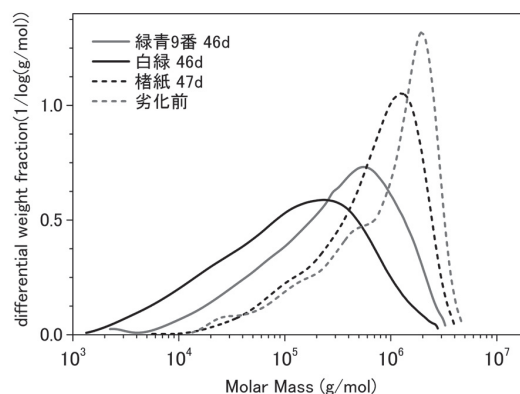


図2 各種緑青塗布楮紙のセルロース分子量分布  
(劣化処理: 80°C, 65% rh, 46または47日間)

**論 文**・貴田啓子、岡泰央、稲葉政満、早川典子：「緑青焼け絹本絵画における裏打紙の劣化現象」『マテリアルライフ学会誌』28(2) pp.41-48 16.5.31

**発 表**・貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子：「粒度の異なる緑青顔料が和紙の劣化に及ぼす影響」マテリアルライフ学会第27回研究発表会 16.7.14-15

・貴田啓子：「銅イオンが和紙の緑青焼けに及ぼす影響」第16回東京藝術大学保存科学研究室発表会 16.11.17

**研究組織** ○貴田啓子(客員研究員)

## 2018年出版予定の書籍のための、1989年以降の日本の現代美術の研究

**目 的** 近年欧米で戦後日本美術への注目が高まる中、1989年以降の美術に関する洋書は東京を中心とした美術の西洋化に焦点が絞られ、未だグローバル化する欧米文化に対する危機感から創成した地域特有の美術に関する研究は少ない。このような傾向が続くと、日本現代美術の解釈が近視眼的となり、グローバル化する美術史に対する偏った理解に陥りかねない。

本研究では、この偏りを軽減することを目的に、グローバル化による諸問題に対する美術家やアートプロデューサーらの取り組みを、地方でのフィールドワークにより検証する。そして日本現代美術の芸術運動や美術展、芸術家に関する資料の確認と内容把握を体系的に行い、調査内容をアーカイブズとして国内外の研究者に公開する。最終的にはこれら研究成果を海外出版社から刊行することで、広く世界に発信する。

**成 果** 3年計画の第1年次にあたる本年度は、フィールドワーク・調査、執筆、調査資料・内容の整理・公開を行った。執筆のための基礎情報の蓄積と来年度以降の研究方針の明確化に努めた。

1. フィールドワーク・調査

- ・以下のフィールドワーク・調査を行った。佐賀町エキジビットスペース(8.26、視察とディレクター取材)、瀬戸内国際芸術祭(9.11-13、視察と福武総一郎取材)、福岡アジア美術館滞在調査(9.14-15)、アートファンタジー対馬(9.16、視察とディレクター取材)、福島ビエンナーレ(10.28-29、視察とディレクター取材)、琵琶湖ビエンナーレ(11.5-6、ディレクター取材)、アートベース直島(11.7-8)、県北ビエンナーレ(11.18-20)、3331アーツ千代田プロジェクトスクール(11.22、27)、三鷹いのちと平和映画祭(12.4、視察とディスカッション)、埼玉トリエンナーレ(12.9、視察)、ジェンダー研究会(12.18)、ワシントン・Archive of American Art(17.2.14、アーカイブズ調査)、京都市立芸術大学ギャラリー(3.5)。
- 作家インタビュー：田附勝(8.24)、千葉由美子(9.23)、藤原えりみ(10.12)、柳幸典(11.7-8)、開発好明(11.11)、青木野枝(12.5)、山城千賀子(12.4)、砂入博司(17.1.12)、山本糾(12.8)、安部典子(2.17)、播磨みどり(2.17)、桑山忠明(11.5、17.2.18、2.27、3.10)。
- ・上記、フィールドワークにて収集した画像、音声資料の整理を行った。

2. 執筆

第1章(1970-89) 1970年安保前後から89年までの冷戦下の日本美術の動向をアメリカ美術や都市化、高度経済期の影響と、それに対する危機感から創成した日本特有の美術を、九州、関西(大阪/京都)、東京を中心に精査。具体的には福岡、大阪・京都、長野、東京で起きている美術運動を、展覧会やアーカイブ調査により検証。国際交流基金ライブラリーにて、70年以降の日本の文化戦略を、また米国国立国文書館にて日米間の冷戦下文化交流を調査。

活動発表の一環として、調査中の題材の中から個人作家、展覧会に関する小論文、展覧会評などを執筆。

3. 研究発表・論文発表

以下の研究発表・論文を行った。

**発 表**・山村みどり、カレッジアーツアソシエーション年次学会 パネル：Dismantling the Center/Periphery Model in Global Art Historyにディスカッサントとして登壇、セゾン文化、アジアにおける冷戦の構図などに関して発表。

**論 文**・"Rakuko Naito: Creating the Only One That Exists on Earth," in *Rakuko Naito*, exh. cat. (2016)

- ・"Echigo-Tsumari Triennial," CAA. Review (December) 2017
- ・"Yukinori Yanagi," *Art in America* (January) 2017

**研究組織** ○橘川英規(文化財情報資料部)、山村みどり(日本学術振興会特別研究員)

## 江戸時代における初期文人画の基礎的研究—中国絵画学習とその地域性について—

**目 的** 江戸時代の絵画研究において、中国絵画からの影響と、そのアレンジに関する時代的・地域的な考察は、きわめて重要な問題である。

本研究では、江戸時代の文人画家のネットワークにおける中国絵画学習の様相を解明することで、その表現の時代差と地域差を再検討する。日本の初期文人画家を代表する祇園南海・彭城百川・柳沢淇園の三者は、従来、現存作例が少なかったが、近年、祇園南海の新出作例が相次いで発見されるなど、三者それぞれの地域や人的交流に即した、より具体的で個別な研究が求められている。また、三者が、ほぼ同時代に紀州、名古屋、奈良という異なる地域で活躍したことを考えると、三者の相違が地域差を反映している可能性も高い。そこで、三者の現存作品の悉皆的な調査を行い、その表現における中国絵画からの影響を具体的に抽出することで、三者が活躍した地域との関連性や、文人ネットワークとの交流を明らかにしたい。

**成 果** 1. 祇園南海の作品調査・撮影・データ整理

祇園南海の作品について、合計16件(掛軸12件、画卷1件、メクリ3件)の調査を行い、それぞれについて、全図・部分の詳細な写真を撮影し、その写真資料をもとに、データ整理を行った。

2. 彭城百川の作品調査・撮影・データ整理

彭城百川の作品について、合計27件(掛軸12件、屏風5件、襖1件41面、小襖1件2面、屏風内貼交5件、書簡1件、短冊2件)の調査を行い、それぞれについて、全図・部分の詳細な写真を撮影し、その写真資料をもとに、データ整理を行った。

3. 柳沢淇園の作品調査・撮影・データ整理

柳沢淇園の作品について、合計96件(掛軸64件、卷子1件、屏風1件、額1面、屏風内貼交20件、版本1件、印譜2件、書簡5件、日記1件)の調査を行い、それぞれについて、全図・部分の詳細な写真を撮影し、その写真資料をもとに、データ整理を行った。

**刊行物**・「祇園南海 熊野勝景図巻」『中国国華博物館国際交流系列叢書 東方画藝 15至19世紀中韓日絵画』時代出版伝媒股份有限公司 pp.74-79

**研究組織** ○安永拓世(文化財情報資料部)



## 2. 受託調査研究・外部機関との共同研究及び外部資金による研究

### (1) 受託調査研究

研 究 課 題	研究代表者	依頼元	頁
文化遺産国際協力拠点交流事業 「大洋州島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業」	石村智	文化庁	107
文化遺産国際協力拠点交流事業 「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	友田正彦	文化庁	108
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	中山俊介	文化庁	109
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	岡田健	文化庁	110
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	岡田健	文化庁	111
近代産業遺産（美術工芸品）に関する海外事例調査事業	中山俊介	文化庁	112
絵金屏風の保存修理に関する調査研究	岡田健	公益財団法人 熊本市美術文化振興財団	113
万世特攻平和祈念館金属類収蔵品劣化対策事前調査事業	北河大次郎	南さつま市	114
文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流） 「ミャンマー・バガン遺跡群における地震被害に関する調査」	友田正彦	文化庁	115
文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流） 「シリア内戦下における被災文化財に関する調査」	安倍雅史	文化庁	116
日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法 の検討	佐藤嘉則	公益財団法人 日光社寺文化財保存会	117

### (2) 共同研究

研 究 課 題	担当部局	依頼元	頁
航空資料保存の研究	保存科学研究センター	一般財団法人日本航空協会	118

### (3) 助成金

研 究 課 題	研究代表者	依頼元	頁
「遊行上人縁起絵」の調査・研究 一遊行寺（清浄光寺）本を中心に一	津田徹英	一般財団法人仏教美術協会	119
タイ及び日本所在の幕末期日本製伏彩色螺鈿製品に関する 調査研究	二神葉子	公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団	120
日本絵画の色と材料「Color & Material」	早川泰弘	公益財団法人 出光文化福祉財団	121



### 3. その他の調査研究

研 究 課 題	研究代表者	頁
文化財防災ネットワーク推進事業	岡田健	122

## 文化遺産国際協力拠点交流事業「大洋州島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業」

**目 的** 本受託事業は、大洋州島しょ国において気候変動により影響をこうむる可能性の高い文化遺産を対象に、その保護及び記録のための技術移転・人材育成を行うことを目的とする。殊に文化的景観や無形文化遺産は衰退・消滅の危機に瀕しており、その保護・記録は緊急の課題である。そのための情報共有・意見交換を行い、ドキュメンテーション作成についての技術的研修、それらの文化遺産の保存・活用の在り方を検討するものである。平成28年度事業では特に、大洋州地域に共有された文化遺産であるカヌー文化の保護と活用に焦点を絞った。

**成 果** 1. 2016(平成28)年5月26日には、グアムで開催された第12回太平洋芸術祭の中で第1回「カヌーサミット」を開催した。これはUNESCOと太平洋芸術祭事務局の協力の元、東京文化財研究所に加えて南山大学、Traditional Arts Committee, Guam、Tatasi Subcommittee, Guamとの共同で開催された。ここではメラネシア・ポリネシア・ミクロネシアの各地域においてカヌー文化の保存と活用に携わる専門家や航海士らが一堂に会し、伝統的な航海術や、文化復興への取り組みについての紹介や議論が行われ、参加者は100余名に及んだ。

2. 2016(平成28)年10月27日にはフィジーの南太平洋大学において、現地カウンターパートらとの研究協議を行った。加えて、南太平洋大学で現在復元中の伝統的カヌーを視察し、意見交換を行った。



カヌーサミットの様子（グアム）



南太平洋大学での意見交換（フィジー）

3. 2017(平成29)年3月20日～25日にかけて、フィジーの南太平洋大学の専門家4名を招へいし、研修事業を行った。その中で、3月22日に東京文化財研究所で「カヌー文化研究会」を開催し、フィジーおよび日本の専門家が計6本の発表を行った後に総合討議を行い、意見交換を行った。さらに3月24日には国営公園沖縄海洋博記念公園海洋文化館において大洋州地域のカヌー資料の共同調査を行った。

4. これまで3カ年にわたる事業の総括として、フィジーにおける現地ワークショップの映像記録を元に、DVD『気候変動に立ち向かう文化の力』を作成した。

**発 表**・石村智：「第一回カヌーサミット開催報告」日本オセアニア学会第34回研究大会・総会 松江しんじ湖温泉夕景湖畔すいてんかく 17.3.26

**刊行物**・DVD『気候変動に立ち向かう文化の力』 17.3

**研究組織** ○飯島満、久保田裕道、石村智、佐野真規（以上、無形文化遺産部）、鈴木絢香（研究支援推進部）、宮澤京子（客員研究員）

**備 考** 本研究は、文化庁より委託された。

## 文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」

**目 的** 2015年4月に発生したゴルカ地震で被災したネパールの文化遺産復興を支援するため、カウンターパートである同国文化観光民間航空省考古局をはじめとする関係機関との協働のもと、建築史・建築構造・都市計画・修復技術・無形文化遺産等の各分野において、共同作業を含む専門的調査を実施するとともに、ワークショップの開催、研修の実施等を通じて技術移転を促進するなど、同国内の文化遺産保護体制整備に貢献する。

**成 果**

- ・カトマンズ・ハヌマンドカ王宮内で倒壊したシヴァ寺の回収部材分類整理及び記録作業、構造的に不安定な状態のアガンチェン寺に対する応急補強計画策定調査、前年度成果報告会の実施(2016(平成28)年4月27日～5月8日)
- ・アガンチェン寺応急補強工事实施のための調整・準備(2016(平成28)年5月30日～6月4日)
- ・歴史的集落コカナにおける都市計画分野の調査(2016(平成28)年6月4日～9日)
- ・アガンチェン寺応急補強工事監理、ユネスコ日本信託基金事業運営委員会出席(2016(平成28)年6月13日～19日)
- ・同上工事監理(2016(平成28)年7月3日～9日)
- ・コカナにおける調査成果住民報告会開催、カトマンズ盆地内の歴史的集落を有する6市への聞き取り調査、同上工事監理(2016(平成28)年9月1日～14日)
- ・コカナのシカリ祭を対象とする無形文化遺産調査(2016(平成28)年10月4日～9日)
- ・煉瓦壁・モルタル材料強度試験用の試験体作成(2016(平成28)年10月25日～11月1日)
- ・アガンチェン寺修復に向けた調査内容検討及び実測調査、歴史的集落所管6市と共催による「カトマンズ盆地内の歴史的集落の保全に関する会議」開催(2016(平成28)年11月20日～12月6日)
- ・材料強度試験の実施(2016(平成28)年12月19日～28日)、(2017(平成29)年1月6日～10日)
- ・シヴァ・アガンチェン両寺修復に向けた現地調査等(2017(平成29)年2月14日～19日)
- ・ネパール人構造専門家2名の本邦招聘及び研究会「2015年ネパール地震の被災文化遺産の修復」開催(2017(平成29)年2月21日～27日)

**論 文**・森朋子ほか：「文化遺産の視点から見たカトマンズ盆地コカナの考察 2015年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況報告 その1」『日本建築学会学術講演梗概集・都市計画』pp.23-24 16.8 ほか3本

**発 表**・友田正彦：「ネパール建築遺産の震災被害と復旧に向けた課題」日本イコモス研究会 16.12.10 ほか2件

**刊行物**・“Project for Investigation of Damage Situation of Cultural Heritage in Nepal, Survey of Historic Settlement” TNRICP, 16.8

- ・『ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業 歴史的建造物の構造に関する調査報告書』(日本語版、英語版) 東京文化財研究所 16.10
- ・『平成28年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」報告書』東京文化財研究所 17.3

**研究組織** ○友田正彦、山田大樹、金善旭(以上、文化遺産国際協力センター)、久保田裕道、石村智(以上、無形文化遺産部)、黒津高行、西本真一、上田学(以上、日本工業大学)、多井忠嗣(和歌山県文化財センター)、西村幸夫、森朋子、腰原幹雄、佐藤弘美(以上、東京大学)、多幾山法子(首都大学東京)、宮本慎宏(香川大学)、ビジャヤ・K・シュレスタ(クオパエ科大学)

**備 考** 本事業は、文化庁より委託された。構造学的調査は東京大学生産技術研究所腰原幹雄研究室、歴史的集落関係調査は東京大学大学院工学系研究科西村幸夫研究室にそれぞれ再委託して実施した。

## 文化遺産国際協力コンソーシアム事業

**目 的** 文化遺産国際協力コンソーシアム（以下、コンソーシアム）が掲げる、「海外の文化遺産保護に関する国内の連携・協力を推進する」という目標のもと、事務局として各種分科会活動や情報データベースの構築、シンポジウム・研究会の開催等を行うことによって日本の文化遺産国際協力を支援・促進する役割を担う。

**成 果** 1. コンソーシアムの会議の開催

ア) 運営委員会を2回開催し、活動方針を協議したほか、活動報告として総会1回を開催した。  
イ) 企画分科会、東南アジア・南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会、欧州分科会、アフリカ分科会、中南米分科会を計13回開催した。

2. 情報収集と情報発信

ア) ウェブサイト上の文化遺産国際協力事業のデータベースに関し、ユーザーである関係機関に聞き取り調査を行うなど現状の問題点と課題を整理し、改善へ向けて計画を立てた。

イ) 文化遺産の不法輸出入等防止のための情報収集を行った。

ウ) コンソーシアム紹介パンフレットと日本の文化遺産国際協力紹介冊子の配布を通して、コンソーシアム活動のPRを行った。

エ) 広報活動促進のため、コンソーシアム公式ウェブサイトをリニューアルした。

オ) 研究会「シルクロードー世界遺産登録後の問題と日本の課題ー」、「世界情勢と文化遺産保護の未来」を開催した。

カ) 文化遺産国際協力コンソーシアム設立10周年記念のシンポジウム「文化遺産からつながる未来」及び特別講演会「ミャンマーにおける文化遺産保護の現状と課題」を開催した（文化庁、国際交流基金アジアセンターと共催）。

キ) 「緊急企画『2016エクアドル地震』による文化財被害状況報告会」を開催した。

ク) 会員向けのメールニュース（コンソーシアムイベント告知、国内外文化遺産関連イベントの案内等）を25回（臨時便を除く）配信した。

ケ) 会員向けウェブサイトに分科会議事録・配布資料などを掲載し会員との情報共有をはかった。

コ) コンソーシアムが提供する会員向けサービスの見直しを行うとともに、従前の会員制度の改善について検討を行った。

3. 文化遺産国際協力の推進に資する調査

欧州各国の文化遺産国際協力の政策や体制について、欧州分科会での審議を通して情報収集用の調査フォーマットを作成し、国内専門家に委託して情報収集を行った。調査対象国を7カ国設定し、うち4カ国について調査した。

**刊行物**・『世界遺産としてのシルクロードー日本による文化遺産国際協力の軌跡ー』（日本語版：16.6 英語版：16.10）

・『アセアン+3 文化遺産フォーラム2015 東南アジア諸国と共に歩む～多様な文化遺産の継承と活用～』（日本語版・英語版：16.12）

・小冊子（設立10周年記念シンポジウム配布資料）『文化遺産国際協力コンソーシアム設立10周年記念文化遺産からつながる未来』（日英併記 16.9）

**研究組織** ○中山俊介、加藤雅人、江村知子、井内千紗、川嶋陶子、松保小夜子、牧野真理子、河野輝美、五嶋千雪（以上、文化遺産国際協力センター）、中野照男（客員研究員）

**備 考** 本事業は、文化庁より委託された。

## 国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務

**目 的** 高松塚古墳壁画彩色及び漆喰の状態調査並び保存・修理・活用に関して技術的に協力する。

**成 果** 壁画の修理内容に関連する事項

1. 壁画表面のクリーニング方法に関する検討を行った。特に以前に使用された修理材料のある中での汚れの除去方法に焦点を当て、漆喰の強度を保ちつつクリーニングを行う方法を検討した。

壁画の修理環境に関連する事項

2. 従前より行っている、修理施設内での害虫等生息調査、浮遊菌・付着菌量調査、温湿度推移のモニタリングを継続し、安全な保存空間の維持に努めた。また、空調制御プロセスの解析を、構築した計測システムによって行った。
3. 高松塚古墳の微生物分離株を、菌株のデータ集、基本台帳、シーケンスデータファイルとあわせて、公的機関である理化学研究所バイオリソースセンターに寄託した。

壁画の保存活用に関連する事項

4. 2016(平成28)年9月24日～9月30日と2017(平成29)年1月21日～29日に実施された文化庁による国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設(国営飛鳥歴史公園内)の一般公開に際して研究員(6人)を派遣した。
5. 関連する装飾古墳の調査では、史跡屋形古墳群、史跡日岡古墳において保存環境調査を行うと共に、史跡下馬場古墳では久留米市教育委員会が行う保存環境調査に対する助言を行った。
6. 古墳壁画保存関連の事業全般について情報共有を行い、効率的で正確な作業を行うために、2016(平成28)年6月3日、10月5日、2017(平成29)年2月1日の3回にわたり、奈良文化財研究所と古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議を開催した。
7. 2016(平成28)年6月10日、12月19日に開催された文化庁の「古墳壁画の保存活用に関する検討会」(第20回、21回)に、奈良文化財研究所とともに事務局として出席した。

**研究組織** ○岡田健、早川泰弘、吉田直人、朽津信明、森井順之、佐藤嘉則、犬塚将英、早川典子、小峰幸夫、嶋原由美、藤井佑果(以上、保存科学研究センター)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター)、佐野千絵(文化財情報資料部)、川野邊渉(特任研究員)、大場詩野子(客員研究員)、木川リカ(九州国立博物館)

**備 考** 本研究は、文化庁より委託された。



## 特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務

**目 的** キトラ古墳壁画の彩色及び漆喰の状態調査並びに展示環境の制御とモニタリング方法の調査研究を行う。

**成 果** 壁画の保存修復措置に関する事項

1. 取り外した漆喰の再構成が終了し、2016(平成28)年8月に天井・南壁・西壁、2016(平成28)年12月に北壁・東壁を四神の館に搬送した。

再構成の際に使用する材料の検討、クリーニング方法の検討を行い、適用した。また、搬送に伴う壁画の状態の確認を行い、四神の館における現在の壁画状態についても継続的に観察を行っている。

2. キトラ古墳の微生物分離株を菌株のデータ集、基本台帳やシークエンスデータファイルと併せて、公的機関である理化学研究所バイオリソースセンターに寄託した。

3. 修復に使用した材料の記録として、実際に使用した材料と模擬漆喰を用いて、記録用の再構成モデルを作成した。

**発表**・早川典子：「キトラ古墳壁画を守る」 キトラ古墳壁画体験館四神の館開館記念シンポジウム  
16.9.18

**研究組織** ○岡田健、早川泰弘、吉田直人、朽津信明、森井順之、佐藤嘉則、犬塚将英、早川典子、小峰幸夫、  
鳴原由美、藤井佑果(以上、保存科学研究センター)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター)、佐野千絵(文  
化財情報資料部)、川野邊渉(特任研究員)、大場詩野子(客員研究員)、木川りか(九州国立博物館)

**備 考** 本研究は、文化庁より委託された。

## 近代産業遺産（美術工芸品）に関する海外事例調査事業

**目 的** 欧米を中心とした博物館などで保存活用されている近代産業遺産（鉄道・船舶・航空機など）を現地にて調査し、日本における今後の近代産業遺産の保存と活用に適用可能な知見を得る。

**成 果** 近代産業遺産（美術工芸品）の保存と活用に関して、船舶・鉄道・航空機を主な対象として、国内の有識者を選定し、当所職員とともに海外（イギリス・ドイツ・アメリカなど）の先進事例となる博物館などにおける調査を実施した。

- ・ヴァーサ博物館 (Vasa Museum) (ストックホルム/スウェーデン)
- ・ドイツ博物館 (Deutsches Museum) (ミュンヘン/ドイツ)
- ・ドイツ技術博物館 (Deutsches Technikmuseum Berlin) (ベルリン/ドイツ)
- ・ドイツ船舶博物館 (Deutsches Schiffahrtsmuseum) (ブレーマーハーフェン/ドイツ)
- ・鉄道博物館 (National Railway Museum) (ヨーク/イギリス)
- ・イギリス海軍航空隊博物館 (Fleet Air Arm Museum) (ヨービルトン/イギリス)
- ・スミソニアン博物館 (Smithsonian National Air and Space Museum) (ワシントンDC/アメリカ)
- ・B&O 鉄道博物館 (B&O Railroad Museum) (ボルティモア/アメリカ)
- ・インデペンデンス シーポート博物館 (Independence Seaport Museum) (フィラデルフィア/アメリカ)
- ・USS ニュージャージー (USS New Jersey) (フィラデルフィア/アメリカ)
- ・イントレピッド海上航空宇宙博物館 (Intrepid Sea, Air & Space Museum) (ニューヨーク/アメリカ)
- ・USS グローラー (USS Growler) (ニューヨーク/アメリカ)

それぞれに関して、船舶、鉄道、航空機の専門家とともに調査を実施し、国内における同種の近代産業遺産の保存と活用において適用しうる知見を得、報告書にまとめた。



ヴァーサ博物館における修復措置に関する調査

**報 告**・『近代産業遺産（美術工芸品）に関する海外事例調査事業報告書』東京文化財研究所、17.3.31

**研究組織** ○中山俊介（文化遺産国際協力センター）、北河大次郎、石田真弥（以上、保存科学研究センター）、小堀信幸、堤一郎、長島宏行（以上、客員研究員）、小野田滋（公益財団法人鉄道総合技術研究所）、荻田重賀（一般財団法人日本航空協会）

**備 考** 本研究は、文化庁より委託された。

## 絵金屏風の保存修理に関する調査研究

**目 的** 本研究は、燻蒸時の事故により顔料の変色など作品の劣化が生じた赤岡絵金保存会（高知県香南市）所蔵の屏風について、文化財の修復に資する情報を得ることを目的とする。

**成 果** 2016（平成28）年度は、12月までに屏風5点の表具付けが完了し、いよいよ地元保存会への返却が近くなったので、収蔵施設である絵金蔵の保存環境を調査し、適切な保存環境及び保管方法についての検討を実施した。  
作業の概要は以下のとおり：

### 1. 絵金蔵の保管環境に関する調査

収蔵庫、前室の保管環境について現地調査を行い、温湿度の推移に関するデータの分析を行った。クリーニングが終了した絵画は、事故による変色個所については湿度の変化に対して注意を払うべき状態にあるため、現状の収蔵展示施設での保管方法と取り扱い方法についての指針を作るための基礎調査を行った。

### 2. 保管用ガスバリア袋の作成

収蔵施設での安定的な保管を確保するために、作品を脱酸素剤とともに保管用の袋に入れることを想定し、その作成を行った。

**研究組織** ○岡田健、早川典子、吉田直人、早川泰弘（以上、保存科学研究センター）、城野誠治（文化財情報資料部）、川野邊渉（特任研究員）

**備 考** 本研究は、公益財団法人熊本市美術文化振興財団より委託された。

## 万世特攻平和祈念館金属類収藏品劣化対策事前調査事業

**目 的** 万世特攻平和祈念館は2016（平成28）年で開館23年となり、収藏品の劣化が認められる。そこで2014（平成26）年度に実施した紙資料の調査に引き続き、紙資料以外の収藏品に関して、その長期的な保存継承を目指して、収藏品の劣化状況等の現状把握と今後の保存対策に係る調査を実施した。

### 成 果 1. 現状把握のための調査

紙資料以外の収藏品587点（航空機、航空機部品、その他遺族から寄贈された軍服、勲章、刀剣など）について、規模素材等の諸元の確認、写真撮影、劣化状況調査等を行い、ファイルメーカーを用いてデータベースを作成した。

### 2. 今後の保存対策に係る調査

緊急に修理が必要と判断された資料3点（航空機部品2点、布製品1点）を特定し、具体的な劣化の原因と今後の対策について助言等を行った。

また、その他の収藏品についても、多くの航空機部品が屋外倉庫に収納され、屋内収蔵庫においても温湿度管理が不十分な環境で多くの衣類が高密度に収納されることで、劣化が進行しており、かつ、日常管理も行き届いていない状況であった。そのため、収納スペースの確保、展示品入替時の衣類のクリーニング、管理体制の充実、保存修理計画の策定等について助言を行った。



調査風景



**報 告**・『万世特攻平和祈念館金属類収藏品劣化対策事前調査事業 調査報告書』東京文化財研究所、16.10.31

**研究組織** ○北河大次郎、石田真弥、山府木碧（以上、保存科学研究センター）、中山俊介（文化遺産国際協力センター）、長島宏行、石井美恵（以上、客員研究員）

**備 考** 本研究は、南さつま市より委託された。

## 文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）「ミャンマー・バガン遺跡群における地震被害に関する調査」

**目 的** 2016（平成28）年8月24日に発生した地震により大きな被害を受けた、ミャンマー中部所在のバガン遺跡群について、その被災状況を専門的視点から把握・分析するとともに、現地の関係当局による今後の復旧の円滑化に資することを主な目的とする。

**成 果** 下記の通り、2回の現地調査を実施した。

1. 建築構造物の被災状況等に関する調査（2016（平成28）年10月25日～11月10日）

文化財保存、建造物修理、建築構造、測量の各分野の専門家計8名を派遣し、煉瓦造の歴史的建造物の被災状況確認、被災した建造物に関する構造学的分析、緊急的保護対策の状況、被災状況の記録分析といった観点から調査を行った。調査結果の概要とそれに基づく考察・提言内容は、英文の速報“Post-earthquake Damage Assessment Survey of Cultural Heritage Buildings at Bagan Archaeological Zone - Quick Report”にまとめて、ミャンマー宗教・文化省考古・国立博物館局（DOA）やユネスコ・バンコク事務所等、関係機関に提出した。また、上記調査内容のうち、常時微動計測やカナダ・カルトン大学に依頼して実施した3次元計測及び地震前取得データとの比較分析については、バガンの典型的煉瓦造建造物に関する今後の構造学的詳細検討における基礎データとして活用することとしている。

2. 壁画の被災状況等に関する調査（2017（平成29）年2月15日～20日、22日～28日）

文化財保存修復、材料科学、耐震工学の専門家計4名を派遣し、歴史的建造物の被災状況の確認、建造物内部に描かれた壁画と被災建造物の構造との関係についての検討、緊急的保護対策案及び望ましい修復材料の検討といった観点から調査を行った。調査はDOAの現地職員と共同で実施し、復興に向けた具体的対策案の確立に向けて、今後も協力関係を継続していく。

**報 告**・友田正彦ほか：「Post-earthquake Damage Assessment Survey of Cultural Heritage Buildings at Bagan Archaeological Zone - Quick Report」東京文化財研究所 16.12

**発 表**・友田正彦：「ミャンマー・バガン遺跡の震災被害状況について」文化遺産国際協力コンソーシアム第30回東南アジア・南アジア分科会 16.12.6

・佐藤弘美：「バガンにおける寺院遺跡の地震被害調査（速報）」2016年日本建築学会地震災害調査速報会 16.11.29

**刊行物**・『平成28年度 文化庁委託文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）「ミャンマー・バガン遺跡群における地震被害に関する調査」事業報告書』東京文化財研究所 17.3

**研究組織** ○友田正彦、前川佳文、マルティネス・アレハンドロ、金善旭（以上、文化遺産国際協力センター）、北河大次郎（保存科学研究センター）、中内康雄（公益財団法人文化財建造物保存技術協会）、多幾山法子（首都大学東京）、佐藤弘美（東京大学）、ダビデ・メッツィーノ（カルトン大学）、ダニエレ・アンジェロット（フィレンツェ国立修復研究所）、マリア・レティツィア・アマドーリ（ウルビーノ大学）、デニス・ザネッティ（Mezzadringeria）

**備 考** 本事業は、文化庁より委託された。



## 文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「シリア内戦下における被災文化財に関する調査」

**目 的** 本事業は、シリア内戦による文化遺産の被災状況に関する情報を収集し、かつ内戦終了後すみやかに国際的な支援に移行できるよう現地専門家や国際機関とのネットワークを構築することを目的とした。

**成 果** 下記の通り、聞き取り調査及び国内シンポジウムを実施した。

1. 聞き取り調査

国際支援をはじめるにあたり、どのような援助が求められているかの把握するため、聞き取り調査を計画した。

まず、2016(平成28)年11月21日に東京文化財研究所においてユネスコ世界遺産センターアラブ諸国ユニット主任であるナーダ・アル・ハッサン氏に聞き取り調査を実施した。

続いて、2017(平成29)年3月24日に東京文化財研究所において、シリア古物博物館総局長であるマモーン・アブドゥル・カリーム氏に聞き取り調査を行うことを計画した。しかし、シリア政府から出国許可が下りなかったため、聞き取り調査をキャンセルした。

2. 国内シンポジウム

海外から4名の専門家を招聘し、シリア内戦下における文化遺産の被災状況に関するシンポジウムを東京、奈良の2か所で実施した。シンポジウムを通じて、現地に関する最新の情報を収集するとともに、日本国内にシリアの文化遺産保護の重要性を広く訴えかけることを目的とした。

東京シンポジウム(2016(平成28)年11月20日)には100名弱、奈良シンポジウム(同23日)には200名強の参加者があった。



シリア、パルミラ博物館の現状 (Robert Zukowski 氏撮影)

**報 告**・シンポジウム「シリア内戦と文化遺産―世界遺産/パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援―」東京国立博物館 16.11.20

・シンポジウム「シリア内戦と文化遺産―世界遺産/パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援―」東大寺金鐘ホール 16.11.23

・『平成28年度文化遺産保護国際貢献事業専門家交流(シリア)事業報告書』東京文化財研究所 17.3

**研究組織** ○安倍雅史、中山俊介、友田正彦、山田大樹(以上、文化遺産国際協力センター)、森本晋、影山悦子、佐藤由似(以上、奈良文化財研究所)、西村康、玉置茂、中井公、脇谷華代子(以上、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所)、西藤清秀(奈良県立橿原考古学研究所)、常木晃(筑波大学)

**備 考** 本事業は、文化庁より委託された。

## 日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討

**目 的** 歴史的木造建築物の被覆燻蒸処理は、一度にほぼ確実に害虫を駆除できる反面、安全対策上の制約が多い。また、大規模な処理に対しては、近い将来に対応できる業者・技術者がいなくなる恐れがあること、予防工事が別途必要になること、日光のような冷涼な気候では実施期間が夏の短い期間に限定されるなどの課題も多くある。さらに日光には甲虫駆除対策の必要な建築物が他にも多数あることから、他の生物劣化(シロアリ食害や腐朽)も含めて、包括的かつ長期的に繰り返し実施できる殺虫方法で、さらに有効で安全な手法で、経済的にも妥当な方法の確立が求められている。

**成 果** 本研究は、これらの事情を背景として、被覆燻蒸の代替策として、「湿度制御下での温風処理」に着目し、その効果と日光の木造建築物への適用可能性について調査や検証実験を通して評価しようとするものである。

2016(平成28)年は、前年に製作したチャンバーの性能評価、建物処理用実用化装置の試作と性能評価、実際の建物に日常発生しているひずみの測定と評価、数値流体力学(Computational Fluid Dynamics, CFD)を用いた気流解析、従来の飛翔性昆虫捕獲用粘着トラップと、飛翔性昆虫を衝突させて落下したものを捕獲するフライト・インターセプション・トラップ(Flight Interception Trap, FIT)の実証試験を行った。

チャンバーの性能評価は、温風処理の条件を変えて装置の運転状態を確認するとともに、処理条件ごとの部材の温度分布、表面ひずみや材質の変化などへの影響を評価した。建物処理用実用化装置の試作と性能評価では、実際の建物処理を想定した温湿度制御ユニットを作成し、小型建造物(モデル処理建物)の温風処理を実施した。その際、処理空間内での温度分布、土中温度、設置した資料木材の温度、含水率や表面ひずみなど詳細に計測し、データの解析を行った。日光の現場において、実際の建物に日常発生しているひずみの測定と評価では、温湿度とひずみを測定し、その結果から温風処理によって発生するひずみの許容値の検討を行った。モデル処理建物を対象にCFDを用いて、気象条件を考慮した非定常解析を行った結果、処理空間内の空気は十分に循環し、温度と相対湿度は均等となる結果であった。

FITによる実証試験では、現在害虫が発生していると考えられる、輪王寺大猷院霊廟本殿・相の間・拝殿、輪王寺本堂西側鐘楼、東照宮五重塔、中禅寺鐘楼で試験を行った結果、チビキノコシバンムシやエゾマツシバンムシなどの加害虫であるシバンムシ類を捕獲することができた。

前述の研究や試験の結果報告、プロジェクトメンバー内での情報共有や今後の研究計画を協議することを目的とした会議を2016(平成28)年6月、11月の合計2回実施した。

**発 表**・Aya Takeguchi, Yuko Fujiwara, Yoshihisa Fujii, Rika Kigawa, Yoshinori Sato, Tomoko Kotajima, Masahide Inuzuka: Strain change on surface of wood and Urushi layer under humidity controlled warm air treatment, 2nd International symposium Wood Science and Craftsmanship Kyoto University 16.8.22

**研究組織** ○佐藤嘉則、犬塚将英、小峰幸夫(以上、保存科学研究センター)、藤井義久、北原博幸(以上、客員研究員)、木川りか(九州国立博物館)、原田正彦(公益財団法人日光社寺文化財保存会)、福岡憲(公益財団法人文化財建造物保存技術協会)

**備 考** 本研究は、公益財団法人日光社寺文化財保存会より依頼された。

## 航空資料保存の研究

**目 的** 紙や写真を主体とする航空に関する資料は、活用に重点がおかれてきたこともあり保存状態が悪いものが多く、このままでは貴重な資料の散逸を免れない状況にある。したがって、原資料を損なわずに今後も有効に活用するために、2015（平成27）年度に引き続き資料の種類や劣化の状態を調査し保存方法・修復方法の開発を行った。

### 成 果 1. 膨大な個人資料の記録・保存

2012（平成24）年度に寄贈頂いた以下の資料に関して引き続き整理、記録、デジタル化、保存処置を実施した。

ア）旧文部省奉職時にグライダーの開発に携わった山崎好雄氏が遺した、日本で開発・設計された各種グライダーの図面や文献等各種一式。山崎氏は、日本におけるグライダー開発・設計の第一人者であり、開発段階からの各種資料まできちんと残されており、日本におけるグライダーの歴史を知る上で非常に貴重な紙資料群である。2016（平成28）年度は継続して整理、選別、保存処置を行い、整理の終わった資料の中から「ゲッピンゲンⅢ型 ミニモア」グライダーの青焼図面12枚のデジタル化を行った。

イ）戦中に操縦訓練を受け、戦後は事業用操縦士でもあった作家・平木國夫氏が遺した日本の民間航空に関する資料一式。平木氏は日本の民間航空に関する著作を多数執筆しており、残された資料は主として執筆の際に調査、収集した資料からなり、写真や聞き取りの記録など多岐にわたる貴重な資料群である。2016（平成28）年度は継続して整理、選別を行った。

ウ）これらの資料のうち、ア）については、選別終了後は保存環境の改善を図り、さらに長く保存する処置をとるとともにデジタル化を行い、貴重な資料として公開するべく、日本航空協会とも相談の上、今後も作業を行う。また、イ）については、整理、選別を継続して行う。

### 2. 青焼図面のデジタル化

2015（平成27）年度に寄贈いただいた飛燕のエンジン等に関する青焼資料4冊のデジタル化を行った。資料のうち『「ハ60」41型 発動機取扱法』はわずかに99機生産され日本航空協会が所有する飛燕二型に搭載されたエンジンの取扱説明書となる。



デジタル化を行った青焼き資料『「ハ60」41型 発動機取扱法』

**研究組織** ○北河大次郎、石田真弥、山府木碧（以上、保存科学研究センター）、長島宏行、荻田重賀（以上、一般財団法人日本航空協会）

**備 考** 本研究は、一般財団法人日本航空協会と共同で実施した。

## 『遊行上人縁起絵』の調査・研究—遊行寺(清浄光寺)本を中心に—

**目 的** 中世時衆(時宗)に伝来した高僧伝絵というとき、一遍聖絵を思い浮かべることが多いが、標題の絵巻も等閑視することはできない。この絵巻は一遍(1239—89)と時宗二祖である他阿真教(1237—1319)の行実を描くものである。他阿の弟子と見られる宗俊によって徳治2(1307)年制作された。それゆえ一遍聖絵と区別して「宗俊本」の名で呼ばれることも多い。この宗俊の手になる原本は散逸してしまい、現存のものは、これをもとにしながら転写の過程で新たな表現を加味したようである。「宗俊本」系に属する現存作例を念頭に置くと、一遍聖絵より宗門内で広く受容されたことは明らかであり、もっぱら中世において制作がなされた。10巻構成を基本とする。ただし、現存の作例のなかで首尾一貫した10巻揃いのものは非常に数が少ない。本調査・研究では「遊行上人縁起絵」の中世に遡る現存諸本を詞書・絵相の双方に及んで把握することにつとめ、それら相互の関係性に留意しつつ、14世紀後半のやまと絵の展開再考を視野にいて調査・研究を行うものである。

**成 果** 1. 現存作例および関連作例・資料の熟覧

- ・ 神奈川・遊行寺本「遊行上人縁起絵」全10巻、および関連資料の調査(遊行寺宝物館 16.9.7、10.14、10.21、11.9、12.27)、
- ・ 広島・常称寺本「遊行上人縁起絵」全4巻、および関連資料の調査(広島県立歴史博物館、常称寺 16.12.1-3)
- ・ 京都・金蓮寺本「遊行上人縁起絵」全20巻と別巻1巻(京都国立博物館 16.12.15、17.1.24)
- ・ 京都・金光寺本「遊行上人縁起絵」全4巻(同寺 17.1.23)
- ・ 長野・金台寺本「遊行上人縁起絵」全1巻(東京国立博物館 17.2.21)
- ・ 東京国立博物館(田中親美旧蔵)本「遊行上人縁起絵」全2巻(東京国立博物館 17.2.21)
- ・ 関連作品として京都・佛光寺本「善信聖人親鸞伝絵」全2巻(同寺 17.12.14)

2. 上記の熟覧時の知見を踏まえて文化財情報資料部研究会「遊行上人縁起絵の諸相」(東京文化財研究所地階セミナー室、17.3.28)を開催した。

**発 表**・津田徹英(東京文化財研究所)：「詞書の筆跡からみた遊行上人縁起絵—伝世諸本の位相—」 文化財情報資料部研究会「遊行上人縁起絵の諸相」 17.3.28

- ・ 本多康子(公益財団法人渥美国際交流財団)：「金蓮寺本 遊行上人縁起絵について」 同上
- ・ 井並林太郎(京都国立博物館)：「遊行上人縁起絵諸本の絵相について」 同上
- ・ 遠山元浩(遊行寺宝物館)：「遊行上人縁起絵に描かれた真教と情景の一考察」 同上
- ・ 梅沢恵(神奈川県立金沢文庫)：「一遍聖絵と遊行上人縁起絵における図様の共有」 同上

**研究組織** ○津田徹英(文化財情報資料部)、高岸輝(東京大学)、遠山元浩(遊行寺宝物館)、梅沢恵(神奈川県立金沢文庫)、土屋貴裕(東京国立博物館)、本多康子(公益財団法人渥美国際交流財団)、井並林太郎(京都国立博物館)

**備 考** 本研究は、一般財団法人 仏教美術協会よりの研究等助成を得た。



## タイ及び日本所在の幕末期日本製伏彩色螺鈿製品に関する調査研究

**目 的** タイ・バンコクに所在するワット・ラーチャプラディットは、1864年にラーマ4世により建立された一級王室仏教寺院である。寺院拝殿の窓及び出入口の扉には、薄貝による人物・風景及び花鳥の図柄の伏彩色螺鈿による装飾が施され、その特徴から幕末期に日本から輸出されたと考えられる。そこで、東京文化財研究所はこの螺鈿扉の修理計画策定のための調査研究を実施し、製作技術や材料、修理方法について検討を行っている。しかし、螺鈿扉の生産地や生産業者に関する情報は得られておらず、日本においても伏彩色螺鈿の系譜は明らかにされているとはいえない。そこで本調査研究では、平成26年度、27年度に引き続き、ワット・ラーチャプラディットの扉の修理事業への技術支援に関連して、同寺院と同様の螺鈿製品に関する日本での基礎的な調査を行う。

**成 果** 2016(平成28)年度は、下記の熟覧調査を実施した。

1. 2017(平成29)年2月27日、大谷大学博物館(京都市)において、1890年頃にシャム国王から贈与された貝葉(ヤシの葉文書)経典64点のうち特徴的な9点を熟覧するとともに、タイで貝葉の調査を行っている大谷大学真宗総合研究所の清水洋平研究員から話を聞いた。同研究員によれば、装飾性の高い貝葉は、信徒が寺院に奉納するために特別に作らせており、その由来に関する記録が残されるのが通例であるとのことであった。バンコク国立図書館には螺鈿及び蒔絵が用いられた日本製の貝葉夾板(貝葉の表紙板)が所蔵されているが、これについても記録が残っている可能性が考えられ、現地での再調査の必要性が示唆された。また、同研究員が現地で撮影した貝葉収納箱の写真には、図柄の特徴から日本製と思われるものが見られ、幕末から明治にかけての日本製漆工品が、現在知られているより広範にタイにおいて使用されていた可能性が考えられた。
2. 2017(平成29)年3月17日～18日、長崎歴史文化博物館(長崎市)において、幕末から明治初めにかけて制作されたと考えられる蒔絵・伏彩色螺鈿の作品13点を熟覧した。うち、楼閣山水図手提げ箱(Dホ32)には、上記1.のバンコク国立図書館所蔵の貝葉夾板と技法及び形状が酷似する牡丹の図柄が見いだされ、同一の職人あるいは工房による制作の可能性が示唆された。
3. アユタヤ近郊に所在する寺院ワット・ニヴェット・タンプラワットには、日本製伏彩色螺鈿の葉巻入れが所蔵されている。そこで、2017(平成29)年3月28日、たばこと塩の博物館(墨田区)において、喫煙具を中心とした伏彩色螺鈿の作品16点を熟覧した。

**研究組織** ○二神葉子、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、山下好彦(漆工品保存修復研究)、勝盛典子(神戸市立博物館\*)、香雪美術館\*\*)、Ampol Summavuti、Surayoot Wiriyadamrong、Weeraya Juntradee(以上、タイ文化省芸術局)、Narongchai Hutachai(タイ王立工芸学校) \*平成28年8月31日まで \*\*平成28年9月1日から

**備 考** 本研究は、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団の助成を得た。



## 日本絵画の色と材料「Color & Material」

**目 的** これまでに200作品以上の日本絵画の光学調査を実施し、図像表現や彩色材料に関する調査研究を続けてきた。それらの調査結果を解析していくと、白色顔料がある時代を境に大きく切り替わっていること、緑色顔料にこれまで考えられていた以上の多様性があること、など新たな事実がいくつも明らかになってきた。これらの調査で明らかになった日本絵画における彩色材料の変遷や多様性について、膨大な調査結果に基づいた客観的事実を、高精細画像と科学的調査結果を提示しながら公開することが目的である。

**成 果** 古墳時代から江戸時代までの代表的絵画について、高精細画像撮影と科学的な材料分析を併用した光学調査の結果について出版・公開を行う予定である。白色顔料について鉛白から胡粉への転換、赤色顔料について辰砂と鉛丹の併用、緑色顔料について亜鉛やヒ素を含む緑青の利用実態、青色顔料について群青とプルシアンブルーの使い分けなどについて、光学調査によって明らかになった研究成果を提示・解説する。

本出版・公開で提示する予定の代表的絵画作品は下記の通りである（●：国宝、◎：重要文化財）。

- ・古墳時代：●高松塚古墳壁画
- ・奈良時代：●吉祥天像
- ・平安時代：●伴大納言絵巻、●源氏物語絵巻、●信貴山縁起絵巻、●十一面観音像
- ・鎌倉時代：●阿弥陀聖衆来迎
- ・室町時代：◎四季花鳥図屏風
- ・桃山時代：◎泰西王侯騎馬図屏風、◎洋人奏楽図屏風
- ・江戸時代：●彦根屏風、●燕子花図屏風、◎菜蟲譜（若冲作品）、琉球絵画

**研究組織** ○早川泰弘（保存科学研究センター）、城野誠治（文化財情報資料部）

**備 考** 本研究は、公益財団法人 出光文化福祉財団の助成を得て実施した。

## 文化財防災ネットワーク推進事業

**目 的** 本事業は、文化庁と連携しつつ非常災害時における文化財等の防災に関するネットワークを構築するとともに、そのために必要な人材の育成、情報の収集・分析・発信を行い、それらを踏まえ有事における迅速な文化財等の救出活動を行うための体制を構築するため、国立文化財機構に「文化財防災ネットワーク推進本部」を設置し、実施するものである。

- 成 果**
1. **地域防災ネットワークの確立促進（北海道・東北地方）**：2016（平成28）年度から機構各施設が全国を全国知事会議の地方ブロックに沿って地域連携促進の担当を分け、都道府県内及び地方ブロック内の文化財防災に関する相互連携体制の構築について、調査を行っている。2016（平成28）年度は宮城県及び福島県での東日本大震災被災文化財の保全活動を通じた連携体制について、会議等に参加して今後の連携維持に関する調査を行い、随時提言を行った。8月の台風10号による岩手県遠野市立図書館博物館の図書資料水損被害に関して、宮城県所在の東北大学での真空凍結乾燥作業実現に向けて、体制構築について東北大学との共同研究を実施した。
  2. **文化財保護のための動態記録作成に関する調査研究**：千葉県匝瑳市木積地区において、民俗技術における防災モデルケースとして藤箕製作技術の映像記録作成調査を実施し、報告書とDVD映像資料を作成した。7月に熊本志で実施された文化財レスキュー活動の動画記録撮影と編集作業、2015（平成27）年6月に実施された福島県双葉町阿弥陀堂の文化財救出活動の動画記録の編集作業を行った。
  3. **地方指定等文化財情報に関する収集・整理・共有化事業**：2015（平成27）年度からの継続で、都道府県・市町村指定文化財のリストのデータベース化を進めた。文化財保護に関連する条例を収集し、データベース化を行った。データ収集・整理のモデルケースとして、京都府が所蔵する文化財建造物写真原板（ガラス乾板）からのデジタル化を行った。文化財に関する情報取得のため、2015（平成27）年度から継続して、都道府県史・市町村史を収集した。計7回にわたって都道府県の文化財担当者を東文研に招き「無形文化遺産の防災」連絡会議を実施した。和歌山県において、データベース項目策定のモデルケースとして無形民俗文化財に関する調査を実施した。
  4. **文化財防災体制構築のための調査研究**：地域内における技術連携と緊急時の情報収集のための連絡システムについての考察の成果を、報告としてまとめ、発表した。
  5. **保存科学等に基づく被災文化財等の保管環境に関する調査研究**：福島県旧相馬女子高校一時保管施設の空気環境調査と評価、改善案の提示を行った。岩手県立博物館において、臭気を発する処置済み水損資料の原因物質調査、再処置の要否、保管方法についての検討を行った。陸前高田市博物館において、被災資料一時保管庫の状況確認、環境モニタリング手法、資料の種類ごとの収納方法、手順等に関する助言、市関係者との協議を行った。
  6. **文化財防災・救出に関する指導、助言、研修及び普及啓発**：10月11日・12日、熊本地震で被災し雨水等によって水損した紙資料の保全と処置方法に関する研修会を、奈文研との共同で熊本県博物館ネットワークセンター（宇城市）において開催した。
  7. 7月中旬に開始された熊本地震被災文化財レスキュー活動へ9月までに4名の職員が参加した。

**報 告**・岡田健：「文化財災害対策における地域体制整備に向けた重要な課題―技術連携と緊急連絡システム―」『保存科学』56号 pp.189-198 東京文化財研究所

**刊行物**・『木積の箕をつくる 千葉県匝瑳市木積』（映像によるDVD 5枚組み詳細記録集を含む）

**研究組織** ○岡田健、吉田直人、森井順之（以上、保存科学研究センター）、佐野千絵、二神葉子、皿井舞、安永拓世（以上、文化財情報資料部）、飯島満、久保田裕道、今石みぎわ、菊池理予、佐野真規（以上、無形文化遺産部）

## 4. 個人の研究業績

## 凡 例

### 氏 名

- (1 公刊図書等)
- (2 報告)
- (3 論文)
- (4 解説、翻訳等)
- (5 学会発表)
- (6 講演会、研究会発表等)
- (7 所属学会、委員等)
- (8 教育等)

**安倍 雅史** ABE Masashi (文化遺産国際協力センター)

(3 論文) デイルムンの起源と専門化の発展 『早稲田大学西アジア考古学勉強会設立25周年記念シンポジウム「考古学から捉える社会変化—モノづくりと専門化—」予稿集』 pp.35-38 早稲田大学西アジア考古学勉強会 17.3

(3 論文) 古代デイルムン王国の起源を求めて—バハレーン、ワーディー・アッ=サイル考古学プロジェクト(後藤健、西藤清秀、安倍雅史、上杉彰紀、濱崎一志、吉村和久、岡崎健治、堀岡晴美、鈴木崇司、成田峻) 『第24回西アジア発掘調査報告会報告集』 pp.94-99 日本西アジア考古学会 17.3

(3 論文) ワーディー・アッ=サイル古墳群から見た古代デイルムンの系譜(安倍雅史、上杉彰紀、西藤清秀、後藤健) 『西アジア考古学』 18 pp.1-15 日本西アジア考古学会 17.3

(4 編集) *Protection and Research on Cultural Heritage in the Chuy Valley, the Kyrgyz Republic* (KAZUYA Yamauchi, AMANBAEVA Bakit, ABE Masashi, KUME Shogo, KANSHA Hiroo, YAMAFUJI Masatoshi) 125p

Institute of History and Cultural Heritage of the National Academy of Sciences of the Kyrgyz Republic and Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 17.3

(5 学会発表) バハレーン島の洞窟(吉村和久、西藤清秀、安倍雅史、日本バハレーン考古学調査団、鮎沢潤) 日本洞窟学会第42回大会 三原文化会館 16.8.20

(5 学会発表) バハレーン、ワーディー・アッ=サイル考古学プロジェクト第2次調査の報告(安倍雅史、後藤健、西藤清秀、上杉彰紀、堀岡晴美) 日本オリエント学会第58回大会 慶應義塾大学 16.11.13

(6 発表) シリア内戦下における文化遺産の被災状況 シンポジウム「シリア内戦と文化遺産—世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援—」 東京国立博物館平成館 16.11.20

(6 発表) 平成28年度文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流) シリア内戦下における被災文化財に関する調査 文化遺産国際協力コンソーシアム第28回西アジア分科会 東京文化財研究所 16.12.7

(6 発表) Japanese Archaeological Mission at Wai as Sail: Preliminary Results of the First and Seconde Missions Bahrain National Museum 17.1.29

(6 発表) 古代デイルムンの系譜: アモリ人王朝仮説の提唱 アラビア半島の遊牧化: 調査の現状と課題 東京国立博物館平成館 17.2.11

(6 発表) 東京文化財研究所によるシルクロード世界遺産登録に向けた人材育成研修 教育改革 GP 学外研修参加促進プログラム成果報告会 金沢大学 17.3.3

(6 発表) デイルムンの起源と専門化の発展 考古学から捉える社会変化—モノづくりと専門化— 早稲田大学戸山キャンパス 17.3.18

(6 発表) Tobunken's Vision for Safeguarding Syrian Cultural

Heritage Workshop Preparing the Manuals for the Protection of Syrian Cultural Heritage 筑波大学 17.3.23

(6 発表) 古代デイルムン王国の起源を求めて: バハレーン、ワーディー・アッ=サイル考古学プロジェクト 2016(後藤健、西藤清秀、安倍雅史、上杉彰紀、濱崎一志、吉村和久、岡崎健治、堀岡晴美、鈴木崇司、成田峻) 第24回西アジア発掘調査報告会—2016年度発掘調査の速報— 池袋サンシャインシティ文化会館7階会議室705室 17.3.25-26

(7 所属学会) 日本オリエント学会、日本西アジア考古学会

(8 教育) 山形大学非常勤講師、早稲田大学エクステンションセンター非常勤講師

**飯島 満** IJIMA Mitsuru (無形文化遺産部)

(2 報告) 伝統芸能を支える力—人形浄瑠璃文楽を事例として— 『無形文化遺産国際シンポジウム—技と心を受け継ぐ—報告書』 pp.11-16 アジア太平洋無形文化遺産研究センター 17.3

(4 資料紹介) 七代目豊沢広助『義太夫 節と手順』 『無形文化遺産研究報告』 11 pp.17-37 17.3

(6 発表) 伝統芸能を支える力—人形浄瑠璃文楽を事例として— 無形文化遺産国際シンポジウム—技と心を受け継ぐ— サンスクエア堺 16.11.19

(7 所属学会) 楽劇学会、歌舞伎学会、日本演劇学会、日本近世文学会

(7 委員会等) 国際芸術交流支援事業協力者会議審査委員

**石井 美恵** ISHII Mie (客員研究員)

(1 共著) Conserving an ainu robe within the framework of Japan's cultural property preservation policy, in *Refashioning and redress: conserving and displaying dress*. Mary M. Brooks and Dinah D. Eastop eds., Getty Publications, pp.33-48 17.2

(5 学会発表) Conserving Tutankhamun Textiles: Introducing the JICA Grand Egyptian Museum Conservation Center Project Training Course and a Review on Conservation of Ancient Egyptian Textiles 2nd International Tutankhamun Conference, Egypt. The Great Egyptian Museum, Giza, Egypt. 16.5.7-10

(5 学会発表) アルメニア共和国における染織文化財保護の国際協力—アルメニア歴史博物館とエチミアジン大聖堂付属博物館(石井美恵、有村誠) 第38回文化財保存修復学会 東海大学 16.6.25-26

(6 講義) "Cleaning", "General Information on Dyes", "Identification of Dyes" (Mie ISHII, Masato KATO) International Course on the Conservation of Textile 国立台湾師範大学 文物保存維護研究発展センター 16.8.10-12

(7 所属学会) ICOM、ICOM-CC、照明学会、文化財保存修復学会



(8 教育) 佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授

**石田 真弥** ISHIDA Shinya (アソシエイトフェロー)

(3 論文) 群馬県内における煉瓦の基準寸法に関する一考察—煉瓦建造物の保存活用に関する研究—11『日本建築学会2016年度大会学術講演梗概集』 pp.681-682 一般社団法人 日本建築学会 16.7.20

(3 論文) 明治・大正期の博覧会出品煉瓦の寸法変遷に関する考察—煉瓦建造物の保存・活用に関する研究—13『2016年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ』 pp.611-614 一般社団法人 日本建築学会関東支部 17.2.20

(3 論文) 内国勧業博覧会出品煉瓦の寸法変遷に関する考察—煉瓦建造物の保存・活用に関する研究—12『日本建築学会研究報告 九州支部』56 pp.513-516 一般社団法人 日本建築学会九州支部 17.3.1

(5 学会発表) 群馬県内における煉瓦の基準寸法に関する一考察—煉瓦建造物の保存活用に関する研究—11 2016年度日本建築学会大会(九州) 福岡大学 2016.8.24-26

(5 学会発表) 明治・大正期の博覧会出品煉瓦の寸法変遷に関する考察—煉瓦建造物の保存・活用に関する研究—13 2016年度第87回日本建築学会関東支部研究発表会 日本大学 17.2.27-28

(5 学会発表) 内国勧業博覧会出品煉瓦の寸法変遷に関する考察—煉瓦建造物の保存・活用に関する研究—12 2016年度第56回日本建築学会九州支部研究発表会 長崎大学 17.3.5

(6 発表) 事例報告: 前橋市を中心とした絹遺産の煉瓦建造物 シルクロードネットワーク新庄フォーラム 2016 新庄ニューグランドホテル 16.6.25

(6 発表) 事例報告: 前橋市内に残る歴史的建造物について「まちの宝を活かしたまちづくり」 赤煉瓦ネットワーク第26回全国大会2016半田大会 半田赤レンガ建物 16.11.5

(7 所属学会) 産業考古学会、日本建築学会

**石村 智** ISHIMURA Tomo (無形文化遺産部)

(4 解説) 書評 Prehistoric Marine Resource Use in the Indo-Pacific Regions『東南アジア考古学』36 pp.79-80 16.11

(4 解説) 書評 Prehistoric Marine Resource Use in the Indo-Pacific Regions People and Culture in Oceania, 32 pp.71-74 17.2

(4 編集)『平成27年度文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業 大洋州島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業報告書』41p 東京文化財研究所 16.4

(4 編集)『日韓無形文化遺産研究Ⅱ』東京文化財研究所 17.3

(4 編集)『選定保存技術資料集 A Handbook for Selected Conservation Techniques』東京文化財研究所 17.3

(4 資料紹介) [資料紹介] 木島正夫による青花紙製作の

映像記録『無形文化遺産研究報告』11 pp.101-113 17.3  
(4 資料紹介) [資料紹介] 田辺尚雄の南洋調査ノート『無形文化遺産研究報告』11 pp.115-124 17.3

(5 学会発表) 気候変動が文化に及ぼす影響: 大洋州地域において 第62回考古学研究会総会・研究集会 岡山大学 16.4.16-17

(5 学会発表) Safeguarding Cultural Heritage from Negative Impacts of Climate Change: A Case Study in Oceania 8th World Archaeology Congress 同志社大学 16.9.2

(5 学会発表) 第一回カヌーサミット開催報告 日本オセアニア学会第34回研究大会・総会 松江しんじ湖温泉夕景湖畔すいてんかく 17.3.26

(6 発表) 標津の「ほこるべきもの」を共有する 公開ゼミナール「文化資源としての標津の語り」 標津町生涯学習センターあすばるホール 16.9.16

(6 発表) 誰にとつての『遺産』か?:『ユネスコ世界遺産』と『奄美遺産』をめぐって 地域共有資源としての奄美の景観: 自然と文化が織りなす景観の価値 加計呂麻島展示・交流体験館 17.1.15

(6 講演) 謎の航海民ラピタ人の交易システム: 海の社会からみる適応戦略 南山大学人類学博物館講座 南山大学 16.6.11

(6 講演) 太平洋の巨石文明の謎を探る ウインディーグループ・セミナー 南伊豆町役場 16.9.24

(6 司会) Keynote Presentation: Objectives and Programme of the Canoe Summit Canoe Summit at the 12th Festival of Pacific Art Latte of Freedom/Hall of Governor 16.5.26

(7 所属学会) 東南アジア考古学会、日本イコモス国内委員会、考古学研究会、日本オセアニア学会、日本動物考古学会、史学研究会

(7 委員会等) 日本オセアニア学会評議員

**犬塚 将英** INUZUKA Masahide (保存科学研究センター)

(2 報告) 可搬型X線回折分析装置を用いた銅造釈迦如来像(飛鳥大仏)の材質調査(犬塚将英、早川泰弘、皿井舞、藤岡穰)『保存科学』56 pp.65-75 17.3

(2 報告) 文化財の材質調査のための2次元イメージング検出器の開発(犬塚将英、房安貴弘)『保存科学』56 pp.135-142 17.3

(2 報告) 煉瓦造文化遺産の保存環境と塩類析出に関する調査—INAX ライブミュージアム「窯のある資料館」を事例に—(佐々木淑美、犬塚将英)『保存科学』56 pp.175-187 17.3

(2 報告) 湿度制御した温風熱処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定(竹口彩、藤原裕子、藤井義久、木川りか、佐藤嘉則、古田嶋智子、犬塚将英)『保存科学』56 pp.165-174 17.3

(2 報告) 史跡川尻石器時代遺跡出土黒曜石資料の産地分析(菅頭明日香、建石徹、新免歳靖、犬塚将英、二宮修治) 文化庁補助事業報告書 17.3

(3 論文) Investigation of Layer Structure of the

Takamatsuzuka Mural Paintings by Terahertz Imaging Technique (M.Inuzuka, Y.Kouzuma, N.Sugioka, K.Fukunaga, T.Tateishi) *Journal of Infrared, Millimeter, and Terahertz Waves* 38(4) pp.380-389 Springer 17.1

(3 論文) テラヘルツイメージング技術による文化財の調査 (犬塚将英、滝下俊彦、小林秀樹、高妻洋成、杉岡奈穂子、福永香、建石徹) 『映像情報メディア学会誌』 71 pp.235-239 17.3

(3 論文) 石人山古墳装飾石棺表面に形成した着生生物群の構造解析 (佐藤嘉則、西澤智康、小沼奈那美、犬塚将英、森井順之、木川りか、朽津信明) 『保存科学』 56 pp.1-14 17.3

(4 記事) 最先端の光学技術で文化財を守る『OPTRONICS』 414 pp.80-86 16.6

(5 学会発表) テラヘルツ波イメージング技術による高松塚古墳壁画の層構造調査 (犬塚将英、高妻洋成、杉岡奈穂子、福永香、建石徹) 日本文化財科学会第33回大会 奈良大学 16.6.4-5

(5 学会発表) サントリー美術館所蔵 重要文化財四季花鳥図屏風の彩色材料調査 (早川泰弘、犬塚将英、城野誠治) 日本文化財科学会第33回大会 奈良大学 16.6.4-5

(5 学会発表) 高徳院国宝銅造阿弥陀如来坐像の科学的金属状態調査 (藤澤明、犬塚将英、増淵麻里耶、森井順之、早川典子、佐藤孝雄) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25-26

(5 学会発表) STRIPIXチップを用いたガス検出器によるイメージング測定評価 (中北慎太郎、池野正弘、犬塚将英、内田智久、杉山晃、千代浩司、田中真伸、長谷川琢哉、房安貴弘、身内賢太郎) 日本物理学会2016年秋季大会 宮崎大学 16.9.21-24

(6 講演) 黒曜石産地分析結果—中間報告— (菅頭明日香、濱田翠、新免歳靖、三浦麻衣子、犬塚将英、早川泰弘、建石徹、二宮修治) 津南シンポジウム12 農と縄文の体験実習館 16.10.1-2

(6 講演) テラヘルツイメージング技術による文化財の調査 保存科学研究集会2016「文化財調査におけるイメージング技術の諸問題」 奈良文化財研究所 17.3.3

(7 所属学会) IIC、日本建築学会、日本物理学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) ひたちなか市史跡保存対策委員、文化財の保存と公開における熱湿気環境WG委員

(8 教育) 和光大学非常勤講師

#### 今石 みぎわ IMAISHI Migiwa (無形文化遺産部)

(2 報告) 無形文化遺産と防災—リスクマネジメントと復興サポート 『第11回無形民俗文化財研究協議会報告書』 pp.1-6 東京文化財研究所 17.3

(3 論文) 本州の社寺に奉納された明治期のイナウについて 『民具マンスリー』 49(12) pp.1-10 神奈川大学日本常民文化研究所 17.3

(3 論文) 無形の民俗文化財としての「民俗技術」とその

保護 『日韓無形文化遺産研究Ⅱ』 pp.146-159 東京文化財研究所 17.3

(4 解説) Japanese Shipbuilding Skills and Traditions *ICH Courier* 29 pp.20-21 International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region under the auspices of UNESCO 16.11

(4 編集) 『木積の藤箕をつくる—千葉県匝瑳市木積』 57p 東京文化財研究所 17.3

(5 学会発表) 明治期の奉納イナウにみる和人とアイヌの文化交渉について 日本民俗学会第68回年会 千葉商科大学 16.10.2

(6 講演) 箕の製作技術と民俗—全国の事例から 国指定重要無形民俗文化財「論田・熊無の藤箕製作技術」周知事業 熊無公民館 16.12.4

(7 所属学会) 東北民俗の会、日本植生史学会、日本民具学会、日本民俗学会

(7 委員会等) 岐阜市鵜飼観覧船事業のあり方検討委員、岐阜市長良川鵜飼総合調査専門委員、「大島半島のニソの杜の習俗」調査員

#### 元 喜載 WON Heejae (アソシエイトフェロー)

(2 報告) *Adhesives for soko* 『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2016』 pp.28-30 17.3

(4 編集) 『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2016』 107p 17.3

(6 講義) *Adhesives for soko* International Course on Conservation of Paper in Latin America メキシコ文化省国立人類学歴史機構・国立文化遺産保存修復調整機関 16.11.9-25

(6 講義) *Urauchi, Urauchi-misu-* (KAMON Kazuhiko, WON Heejae) International Course on Conservation of Paper in Latin America メキシコ文化省国立人類学歴史機構・国立文化遺産保存修復調整機関 16.11.9-25

#### 宇高 健太郎 UDAKA Kentaro (日本学術振興会特別研究員)

(4 解説) 諏訪敦が挑む! 超絶技巧・筋目描き (諏訪敦、荒井経、宇高健太郎) 『芸術新潮』 2016 (5) pp.58-63 新潮社 16.4

(5 学会発表) 膠の性状に関する研究 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25-26

(6 講演) 膠研からのお知らせ—リーフレット発行について— 膠文化研究会第9回公開研究会 愛知県立芸術大学 16.7.9

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

(7 委員会等) 膠文化研究会運営委員会

#### 江村 知子 EMURA Tomoko (文化遺産国際協力センター)

(1 公刊図書) 『世界遺産用語集 (改訂版)』 (江村知子、境野飛鳥、橋本広美、二神葉子、増淵麻里耶) 東京文化財研究所 150p 17.3

(3 論文) 尾形光琳の江戸在住と画風転換—フリーア美

術館所蔵「白梅図屏風」を中心に 『美術研究』 421 pp.1-20 東京文化財研究所 17.3  
 (4 解説) 〈歴史の証人 写真による収蔵品紹介〉江戸の泰平の世から見る太平記の世界 『歴博』 199 pp.20-23 国立歴史民俗博物館 16.11  
 (4 校閲) (江村知子、増渕麻里耶) 『各国の文化財保護法令シリーズ [21] トルコ【文化・自然遺産保護法】』 125p 東京文化財研究所 17.3  
 (5 学会発表) 尾形光琳の江戸在住と画風転換について—尾形光琳筆「白梅図屏風」(フリーア美術館所蔵)を中心に— 美術史学会東支部例会 東京藝術大学 16.10.1  
 (7 所属学会) 美術史学会

#### 大河原 典子 OKAWARA Noriko (客員研究員)

(2 報告) Materials and Techniques -Painting on silk- 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2016』 PP.25-27 17.3  
 (2 報告) Painting on silk『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2016』 P.28 17.3  
 (5 学会発表) 補彩用絵具として使用される棒絵具の接着剤について (山田祐子、大河原典子、早川典子) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25-26  
 (6 講義) "Materials and Techniques -Painting on silk-", "Painting on Silk" Basic - Japanese Paper and Silk Cultural Properties -, Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 16.7.6-8  
 (7 所属学会) 文化財保存修復学会  
 (8 教育) 鎌倉女子大学児童学部専任講師、大正大学仏教学部非常勤講師

#### 大場 詩野子 OBA Shinoko (客員研究員)

(5 学会発表) 地域文化遺産の保存—高橋源吉と山形— 筑波大学芸術学美術史学会 筑波大学 16.4.23  
 (7 所属学会) 美術史学会、文化財保存修復学会、明治美術学会、筑波大学芸術学美術史学会  
 (8 教育) 学校法人専門学校東洋美術学校保存修復科講師

#### 岡田 健 OKADA Ken (保存科学研究センター)

(2 報告) 東日本大震災から五年を経て一繰り返される自然災害と文化財被害—『絲綢之路』 81 pp.4-5 公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 16.6.21  
 (2 報告) 外部からの支援01 国立文化財機構 『宮城県被災文化財等保全連絡会議活動報告書』 56 p.60 宮城県被災文化財等保全連絡会議 17.2.9  
 (2 報告) 文化財災害対策における地域体制整備に向けた重要な課題—技術連携と緊急連絡システム— 『保存科学』 56 pp.189-198 17.3  
 (5 学会発表) 敦煌莫高窟第285窟東壁壁画の劣化に対

する砂塵の影響 (三箇山茜、鈴木修一、小椋大輔、岡田健、蘇伯民) 日本建築学会平成28年度近畿支部研究発表会 大阪保健医療大学 16.6.26

(5 学会発表) Experience in Fukushima -Gained from Rescue Efforts for Cultural Properties Affected by the Great East Japan Earthquake- 世界考古学会 (Wac 8) 同志社大学 16.8.30

(6 講演) 記憶するかたち、見つけるかたち—“文化財”の意味と価値 第50回オープンレクチャー 東京文化財研究所 16.11.5

(6 講演) 敦煌莫高窟第286窟壁画材料技法研究的成果和発現的課題 北京大学考古文博学院 16.11.18

(6 講演) 初唐仏教絵画としての金堂壁画 法隆寺シンポジウム—法隆寺金堂壁画はなぜ世界の至宝か (朝日新聞社) 有楽町朝日ホール 16.12.3

(6 講演) 文化財防災ネットワーク推進事業について 文化財防災ネットワーク推進事業 中部・近畿文化財関係者による文化財防災連絡会議 京都国立博物館 16.12.13

(6 講演) 法隆寺・国宝九面観音像考 総合研究会 東京文化財研究所 17.3.14

(6 パネリスト) 熊本文化財レスキューから学ぶ (朝賀浩、稲葉継陽、岡田健、平井貴、和田仁、小泉恵英) 平成29年度「美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業」独立行政法人国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム 地域と共に考える文化財の防災・減災「熊本地震と文化財レスキュー」九州国立博物館 16.12.4

(6 パネリスト) なぜ、仏像の修理は、現状維持でないといけないのか (多川俊英、藪内佐斗司、岡田健、みうらじゅん、小滝ちひろ) 興福寺シンポジウム「阿修羅像を未来へ—文化財のこれからを考える—」(興福寺、朝日新聞社) 有楽町朝日ホール 17.2.25

(7 所属学会) 日本建築学会、東アジア文化遺産保存学会、美術史学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 文化庁文化財等災害対策委員会、奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員、東瀬戸内文化圏の世界遺産化に向けた有識者会議

(8 教育) 東京藝術大学大学院・美術研究科システム保存学連携教授

#### 小田 桃子 ODA Momoko (アソシエイトフェロー)

(4 編集) 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2016』 103p 17.3

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

#### 加藤 雅人 KATO Masato (文化遺産国際協力センター)

(2 報告) Materials and technique -Converting paper- 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2016』 pp.29-30 17.3

(2 報告) Chinese ink on paper (Rika YAMANOUE, Masato

KATO) 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2016』 pp.31-32 17.3

(2 報告) Materials and technique -Paper- 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2016』 pp.33-36 17.3

(2 報告) Conservation of cultural properties on paper and silk in Japan 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2016』 pp.37-40 17.3

(2 報告) Karibari -Temporary drying under tension- (Masato KATO, Takayuki KIMISHIMA) 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2016』 pp.87-99 17.3

(2 報告) Report of restoration of "Karako (Chinese children)" (Masato KATO, Takayuki KIMISHIMA) 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2016』 pp.100-102 17.3

(2 報告) Paper conservation in Japan『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2016』 pp.16-17 17.3

(2 報告) Restoration of Japanese hanging scroll "Karako (Chinese children)"『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2016』 pp.18-24 17.3

(2 報告) Karibari -The Japanese drying technique-『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2016』 pp.33-35 17.3

(2 報告) Paper basics 『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2016』 pp.40-42 17.3

(2 報告) Variety of washi and those characteristics『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2016』 p.43 17.3

(2 報告) Fiber furnish analysis『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2016』 p.44 17.3

(4 編集)『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2016』 103p 17.3

(4 編集)『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2016』 107p 17.3

(5 学会発表) 画絹の生糸形状が発色に与える影響 (山田祐子、志村明、秋本賀子、加藤雅人、吉田直人) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25-26

(6 講演)『モノ』が持つ情報とその保全 ～科学・技術の限界～ 平成28年度文部科学省共通政策課題 文化的学術的資料の保存シンポジウム「書物の構成要素としての紙について 本の分析学」一橋大学国立キャンパス インテリジェントホール 17.2.15

(6 講義) "Materials and technique -Converting paper-", "Chinese ink on paper", "Materials and technique -Paper-", "Conservation of cultural properties on paper and silk in Japan", "Karibari -Temporary drying under tension-", "Report of restoration of Karako (Chinese children)" Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 16.7.6-15

(6 講義) "Paper conservation in Japan", "Paper basics"

International Course on Conservation of Japanese Paper 東京文化財研究所 16.8.29-9.16

(6 講義) "Paper conservation in Japan", Restoration of Japanese hanging scroll "Karako (Chinese children)", "Karibari -The Japanese drying technique-", "Paper basics", "Variety of washi and those characteristics", Fiber furnish analysis International Course on Conservation of Paper in Latin America メキシコ国立人類学歴史機構 国立文化遺産保存修復機関 16.11.9-25

(7 所属学会) 日本文化財科学会、日本木材学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 知覧特攻平和会館保存検討委員会、保存修復学会学会誌編集委員

#### 亀井 伸雄 KAMEI Nobuo (所長)

(4 記事) 伊藤先生の思い出 『文建協通信』 No.123 pp.8-10 文建協 16.1

(4 記事) 祝辞 『NPO 法人日本瓦葺技能継承会設立30周年記念誌』 p.5 NPO 法人日本瓦葺技能継承会 16.6

(6 講演) Preservation System for the Historic district in Japan ワークショップ Conference on the Preservation of Historic Settlements in Kathmandu Valley Local Development Training Academy office カトマンズ (ネパール国) 16.11.30

(6 講演) Conservation of rural houses in Japan Workshop on 7th March 2017 DCHS office ティンブー (ブータン王国) 17.3.7

(6 講義) 文化財保護の新たな取り組み NPO 法人日本瓦葺技術継承会 技能講習会 磐田グランドホテル 研修室 16.7.16

(6 講義) 文化財修理と倫理 国宝修理装演師連盟 初級講習会 京都国立博物館 16.11.25

(7 所属学会) 土木学会、日本建築学会、建築史学会、文化財建造物保存修理研究会

#### 河合 大介 KAWAI Daisuke (客員研究員)

(4 翻訳) アーサー・C・ダント『芸術の終焉のあと』(山田忠彰監訳、河合大介、原友昭、桑和沙共訳) 三元社 17.2

(4 翻訳) W・K・ウィムザット&モンロー・ピアズリー「意図の誤謬」『フィルカル』3 17.3

(4 記事)「物故者」 赤瀬川原平 『日本美術年鑑 平成27年版』 pp.516-517 17.3

(6 発表)《模型千円札》をめぐる赤瀬川原平の理論形成に関する予備的考察 文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 17.1.31

(7 所属学会) 美学会、美術史学会、メルロ=ポンティ・サークル

(7 委員会等)『フィルカル』編集委員

(8 教育) 成城大学文芸学部非常勤講師、日本大学理工学部非常勤講師



**川嶋 陶子** KAWASHIMA Toko (アソシエイトフェロー)

(4 記事) 文化遺産国際協力コンソーシアム設立10周年『カレントアウェアネス-E』315 <http://current.ndl.go.jp/e1861> 国立国会図書館 2016.11.24

**川野邊 渉** KAWANOBE Wataru (特任研究員)

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会  
(7 委員会等) 国宝臼杵磨崖仏保存修理委員会委員、日本航空協会評議員、田川市世界記憶遺産保存等指導委員会、ICCROM理事、アジア太平洋地域世界遺産等文化財保護協力保護協力推進事業に係る選定委員会

**間舎 裕生** KANSHA Hiroo (客員研究員)

(2 報告) *Protection and Research on Cultural Heritage in the Chuy Valley, the Kyrgyz Republic: Ak-Beshim and Ken Bulun* (Kazuya Yamauchi, Bakit Amanbaeva, Masashi Abe, Shogo Kume, Hiroo Kansha, Masatoshi Yamafuji (eds.)) 125p Institute of History and Cultural Heritage of the National Academy of Sciences of the Kyrgyz Republic and the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 17.3

(2 報告) Pottery Sherds (Hiroo Kansha, Shogo Kume, Masatoshi Yamafuji) *Protection and Research on Cultural Heritage in the Chuy Valley, the Kyrgyz Republic: Ak-Beshim and Ken Bulun*, pp.40-54 Institute of History and Cultural Heritage of the National Academy of Sciences of the Kyrgyz Republic and the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 17.3

(2 報告) Other Materials (Masashi Abe, Hiroo Kansha, Shogo Kume) *Protection and Research on Cultural Heritage in the Chuy Valley, the Kyrgyz Republic: Ak-Beshim and Ken Bulun*, pp.54-59 Institute of History and Cultural Heritage of the National Academy of Sciences of the Kyrgyz Republic and the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 17.3

(5 学会発表) 武力紛争下の文化財・文化遺産—シリア—(西藤清秀、安倍雅史、間舎裕生) 第82回日本考古学協会総会 学芸大学 16.5.29

(7 所属学会) 日本オリエント学会、日本西アジア考古学会

(8 教育) 慶應義塾大学文学部非常勤講師

**菊池 理予** KIKUCHI Riyo (無形文化遺産部)

(3 論文) 染織技術保護における原材料と道具 『日韓無形文化遺産研究Ⅱ』 pp.86-113 東京文化財研究所 17.3

(4 編集) 無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究会Ⅲ「現在に伝わる明治の超絶技巧」セッション「明治工芸を現代に活かす」(山崎剛、鈴田由紀夫、原田一敏、長崎巖、荒川正明、(編集校正 菊池理予)) 『無形文化遺産研究報告』11 pp.125-139 17.3

(6 発表) 無形文化遺産の保護及び伝承に関する日韓研

究交流(2012~2016年) 日韓研究交流成果発表会 国立無形遺産院(大韓民国) 16.8.30

(6 発表) (趣旨説明) 現在に伝わる明治の超絶技巧 無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究会Ⅲ 東京文化財研究所 16.10.17

(6 発表) (趣旨説明) 麻のきもの・絹のきもの 第11回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座 文化クイントサロン 17.1.18

(6 講演) 無形文化遺産としての青花紙生産—「わざ」を文化遺産として考える意義— あおばなフェスタ 2016 草津市立水生植物公園みずの森 16.7.31

(6 講義) Protection of Craft Techniques: Present Condition and Transitions 国際研修紙の保存と修復 東京文化財研究所 16.9.12

(7 所属学会) 国際服飾学会、美術史学会、服飾文化学会、文化財保存修復学会

**貴田 啓子** KIDA Keiko (客員研究員)

(3 論文) 緑青焼け絹本絵画における裏打紙の劣化現象(貴田啓子、岡泰央、稲葉政満、早川典子) 『マテリアルライフ学会誌』28(2) pp.41-48 16.5.31

(5 学会発表) 緑青および焼緑青が和紙に及ぼす影響〜灰汁中の銅イオンの存在〜(貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25-26

(5 学会発表) 粒度の異なる緑青顔料が和紙の劣化に及ぼす影響(貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子) マテリアルライフ学会第27回研究発表会 滋賀県立大学 交流センター 16.7.14-15

(5 学会発表) 緑青顔料由来の銅成分が和紙の劣化に及ぼす影響(貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子) マテリアルライフ学会第21回春季研究発表会 関東学院大学関内メディアセンター 17.2.24

(6 講義) 保存科学演習(稲葉政満、桐野文良、塚田全彦、田口智子、大野直志、貴田啓子、蔵品真理、水本和美) 東京藝術大学大学院美術研究科 16.4.12-26

(6 講義) 化学実験(堀越篤史、高木晋作、大原啓子、中村和彦、満田深雪、小林淳) 東京都市大学世田谷キャンパス 16.4.11-17.1.24

(6 講義) 博物館資料保存論 博物館学4 帝京大学理工学部 16.9.16-17.1.20

(6 講習会) 緑青焼けによる紙の劣化 科学的な材料とその使用方法の講習会 東京文化財研究所 16.8.8-9

(6 講習会) ジェランガムについて 修復素材「ジェランガム」についての説明聴取会 国立国会図書館 17.2.9

(7 所属学会) セルロース学会、文化財保存修復学会、マテリアルライフ学会

(8 教育) 東京藝術大学大学院美術研究科非常勤講師、帝京大学理工学部非常勤講師、東京都市大学非常勤講師



**北河 大次郎** KITAGAWA Daijiro (保存科学研究センター)

- (1 共著) 地域文化の再生『日本土木史 平成3年～平成22年』土木学会 pp.113-122 17.3
- (1 共著) 土木遺産の保存・活用『日本土木史 平成3年～平成22年』土木学会 pp.1597-1601 17.3
- (2 報告) 調査の概要、調査のまとめ(北河大次郎、中山俊介)『近代産業遺産(美術工芸品)に関する海外事例調査事業報告書』pp.2-4、pp.108-110 東京文化財研究所 17.3
- (6 発表) 近代水道遺産の活用に向けて 全国近代化遺産活用連絡協議会 金沢21世紀美術館 16.10.20
- (7 所属学会) ICOMOS、土木学会
- (7 委員会等) 文化庁文化財部・調査員、文化庁・近現代建造物の保存と活用の在り方に関する協力者会議委員、全国近代化遺産活用連絡協議会・協力者会議委員、佐渡市建造物保存活用に関する専門家会議委員、岩国市・錦帯橋報告書編纂作業部会委員、土木学会図書館委員会・委員、日本航空協会・航空遺産継承基金専門委員
- (8 教育) 東京大学工学部社会基盤学専攻非常勤講師

**橘川 英規** KIKKAWA Hideki (文化財情報資料部)

- (2 報告) 閉架書庫に発生したカビ対策事例(橘川英規、安永拓世、皿井舞、津田徹英、佐野千絵)『保存科学』56 pp.99-112 17.3
- (4 記事)「物故者」門坂流『日本美術年鑑』平成27年版 p.497 東京文化財研究所 17.3
- (4 記事)『日本美術年鑑』創刊80周年によせて一その編纂とウェブ発信(塩谷純、橘川英規)『TOBUNKEN NEWS』62 pp.34-35 東京文化財研究所 16.11
- (6 発表) Expansion of Cultural Archives at National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo (NRICP): Providing Contents of *The Yearbook of Japanese Art* for Global Academic Information Infrastructure. The 27th annual conference of the EAJRS: International Cooperation Between Japanese Studies Libraries University of Bucharest 16.9.14-17
- (6 講演) ドキュメンテーション活動とアーカイブズ『日本美術年鑑』をめぐる資料群とその発信について ドキュメンテーション活動とアーカイブズ『日本美術年鑑』をめぐる資料群とその発信について 第50回オープンレクチャー 東京文化財研究所 16.11.4-5
- (6 講義) 図書館に発生したカビとその防除対策事例 第37回文化財防虫防菌処理実務講習会 国立オリンピック記念青少年総合センター 16.10.13-14
- (7 所属学会) アート・ドキュメンテーション学会
- (7 委員会等) 京都国立近代美術館規格競争審査委員会(美術系図書の書誌情報遡及入力業務)

**朽津 信明** KUCHITSU Nobuaki (保存科学研究センター)

- (1 共著) 日本地形学連合 編『地形の辞典』朝倉書店

17.2.10

- (3 論文) Conservation of Wareishi-jizo statue carved on granite cliff on the seashore (M. Morii, N. Kuchitsu, T. Kawaguchi, H. Matsuda, S. Tokimoto) *Science and Art: A Future for Stone*, pp.1211-1218 16.11
- (3 論文) 保存科学から見た被災遺構の保存・活用の歴史(朽津信明、森井順之)『保存科学』56 pp.15-32 17.3
- (3 論文) 石人山古墳装飾石棺表面に形成したに形成した着生物群集の構造解析(佐藤嘉則、西澤智康、小沼奈那美、犬塚将英、森井順之、木川りか、朽津信明)『保存科学』56 pp.1-14 17.3
- (5 学会発表) 終末期古墳における目地漆喰使用箇所の検討(朽津信明、前川佳文) 日本文化財科学会第33回大会 奈良大学 16.6.4-5
- (5 学会発表) 後期・終末期古墳における目地材料の骨材について(前川佳文、朽津信明) 日本文化財科学会第33回大会 奈良大学 16.6.4-5
- (5 学会発表) 透明な覆屋の文化財保護効果に関する検討(朽津信明、森井順之、渡邊尚恵、佐多麻美) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25
- (5 学会発表) 風化形態の違いによる砂岩の侵蝕速度の違い(朽津信明、森井順之、西山賢一) 日本応用地質学会平成28年度研究発表会 日立システムズホール仙台 16.10.26-27
- (6 講義) 色の話 科学的な材料とその使用方法の講習会 東京文化財研究所 16.8.8
- (7 所属学会) 日本応用地質学会、日本地形学連合、日本地質学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会、日本地球惑星科学連合
- (7 委員会等) 清戸迫横穴保存委員会委員、臼杵磨崖仏保存修理査委員、臼杵市内キリシタン遺跡調査指導委員会委員、大悲山石仏保存整備指導委員会委員、「通潤橋」保存活用検討委員会委員、西谷戸横穴墓群整備検討委員会委員、屋形古墳群整備基本計画策定委員会委員、竹原古墳整備計画策定委員会委員、小豆島町「世界遺産化」運営委員会委員、南島原市文化財専門委員会委員、歴史遺産の地盤工学研究に関する研究委員、市川市国指定史跡下総国分寺跡附北下瓦窯跡保存活用計画策定検討会委員、大規模震災における古墳の石室及び横穴墓等の被災状況調査の方法に関する検討委員会委員
- (8 教育) 東京藝術大学大学院美術研究科連携教授、東京大学理学部非常勤講師

**久保田 裕道** KUBOTA Hiromichi (無形文化遺産部)

- (2 報告) 震災から五年―被災地芸能の現状と展望―(古水力、久保田裕道、茂木栄、小島美子)『民俗芸能研究』61 pp.18-24 16.9
- (2 報告) 日本の重要無形民俗文化財の現況と実態『国家重要無形文化財済州チルモリ堂燃燈グッの発展方向

と課題』 pp.86-98 済州チルモリ堂燃燈グッ保存会 16.11

(2 報告) 問題提起 『第11回無形民俗文化財研究協議会報告書』 pp.73-78 東京文化財研究所 17.3

(3 論文) 民俗芸能・祭礼の被災と復興『東日本大震災神社・祭りー被災の記録と復興ー本編』96 pp.184-191 神社新報社 16.7

(3 論文) 清沢の神楽 『民俗芸能』96 pp.34-45 16.11

(3 論文) 小正月・テボルムをめぐるいくつかの課題ー無形民俗文化財の指定に関わる問題提起としてー 『日韓無形文化遺産研究Ⅱ』 pp.206-226 東京文化財研究所 17.3

(4 解説) 早池峰神楽概説 『国立劇場50周年記念 民俗芸能』 pp.4-7 日本芸術文化振興会 17.1

(4 記事) 地域ごとに多様な価値 魅力見直し活用を 『東京新聞』 p.8 17.2.5

(4 連載) 災いを流し去る人形 『四季の味』84 pp.72-75 ニューサイエンス社 16.4

(4 連載) 雨の降る七夕 『四季の味』85 pp.78-81 ニューサイエンス社 16.7

(4 連載) 鉄瓶の恋しい季節 『四季の味』86 pp.116-119 ニューサイエンス社 16.10

(4 連載) 神さまの酒 『四季の味』87 pp.70-73 ニューサイエンス社 17.1

(6 発表) 今後の研究交流の方法について 韓日無形遺産研究交流成果発表会 国立無形遺産院 16.8.30

(6 発表) 日本の重要無形民俗文化財の現況と実態 済州チルモリ堂燃燈グッ保存会 済州チルモリダン・ヨンドンクッ伝修館 16.11.19

(6 講演) 九州の神楽とユネスコ無形文化遺産 九州の神楽シンポジウム2017 メディキット県民文化センター 17.3.10

(6 講義) 無形文化遺産時代の神楽 儀礼文化学会 儀礼文化学会研修室 16.11.13

(7 所属学会) 静岡県民俗学会、日本宗教民俗学会、日本民俗学会、民俗芸能学会、儀礼文化学会

(7 委員会等) 文化庁文化財部調査員、文化庁文化財部無形文化遺産特別委員会作業部会構成員、武蔵野市文化財保護委員、独立行政法人国際交流基金文化事業部アドバイザー、独立行政法人日本芸術文化振興会民俗芸能公演及び琉球芸能公演専門委員、公益財団法人東京都歴史文化財団平成28年度都民芸術フェスティバル助成対象事業外部専門家評価者、公益社団法人全日本郷土芸能協会理事、一般財団法人日本青年館第65回全国民俗芸能大会企画委員、民俗芸能学会理事

#### 久米正吾 KUME Shogo (アソシエイトフェロー)

(2 報告) (Kazuya Yamauchi, Bakit Amanvaeva, Masahi Abe, Shogo Kume, Hiroo Kansha, and Masatoshi Yamafuji (eds.)) *Protection and Research on Cultural Heritage in the Chuy Valley, the Kyrgyz Republic Ak-Beshim and Ken*

*Bulun, The Conservation of Cultural Heritage in Central Asia Volume 13* 125p Institute of History and Cultural Heritage of the National Academy of Sciences of the Kyrgyz Republic/Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 17.3

(7 所属学会) 日本オリエント学会、日本考古学協会、日本西アジア考古学会

#### 小林公治 KOBAYASHI Koji (文化財情報資料部)

(2 報告) 螺鈿に使われる貝殻の分析ー主にヤコウガイ、アワビについて(矢崎純子、南條沙也香、小林公治、松田泰典、小松博) 『平成28年度宝石学会(日本) 講演会・総会プログラム』 p.19 宝石学会 16.6

(2 報告) 螺鈿に使われる貝殻の構造的特徴ーヤコウガイ、アワビについて(矢崎純子、南條沙也香、小林公治、松田泰典、小松博) 『文化財保存修復学会第38回大会研究発表要旨集』 pp.54-55 文化財保存修復学会 16.6

(2 報告) パルトガルに伝世する南蛮漆器及び関連漆器の現況 漆サミット(第3日目) プログラム pp.2-3 日本漆アカデミー 16.11

(2 報告) アジアの螺鈿史瞥見ー真珠光沢への希求ー琉球の漆文化と科学2016ー螺鈿と文化ー pp.3-4 浦添市美術館・明治大学(本多研究室) 16.11

(2 報告) 南蛮漆器の多源性を探る 問題点の把握と提起 『公開研究会予稿集 南蛮漆器の多源性を探る』 pp.6-9 東京文化財研究所 17.3

(2 報告) 南蛮漆器の制作年代(小林公治、吉田邦夫) 『公開研究会予稿集 南蛮漆器の多源性を探る』 pp.14-15 東京文化財研究所 17.3

(4 編集) 『公開研究会予稿集 南蛮漆器の多源性を探る』 33p 東京文化財研究所 17.3

(5 学会発表) 螺鈿に使われる貝殻の分析ー主にヤコウガイ、アワビについて(矢崎純子、南條沙也香、小林公治、松田泰典、小松博) 平成28年度宝石学会 北海道大学 16.6.11

(5 学会発表) 螺鈿に使われる貝殻の構造的特徴ーヤコウガイ、アワビについて(矢崎純子、南條沙也香、小林公治、松田泰典、小松博) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.26

(6 発表) 慶長期後半から寛永期前半にかけて流行した漆器文様・技法ー絵画資料と伝世漆器との対話ー 文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 16.10.25

(6 発表) パルトガルに伝世する南蛮漆器及び関連漆器の現況 漆サミット2016 明治大学 16.11.5

(6 発表) アジアの螺鈿史瞥見ー真珠光沢への希求ー琉球の漆文化と科学2016ー螺鈿と文化ー 浦添市美術館 16.11.19

(6 発表) 甲賀市藤栄神社所蔵の十字形洋剣に対する検討(小林公治、永井晃子、末兼俊彦、池田素子、原田一敏) 文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 17.2.24

(6 発表) 南蛮漆器の多源性を探索 問題点の把握と提起 公開研究会 南蛮漆器の多源性を探索 東京文化財研究所 17.3.4

(6 発表) 南蛮漆器の制作年代 公開研究会 南蛮漆器の多源性を探索 東京文化財研究所 17.3.4

(6 司会) 総合討論 公開研究会 南蛮漆器の多源性を探索 東京文化財研究所 17.3.5

(7 所属学会) 東南アジア考古学会、日本考古学協会

#### 小林 達朗 KOBAYASHI Tatsuro (文化財情報資料部)

(4 記事)「物故者」田口榮一 『日本美術年鑑』平成27年版 pp.491-492 東京文化財研究所 17.3

(6 講習会) 技術の歴史と技法—彩色・加彩法 第8回文化財(美術工芸品)修理技術者講習会 文化庁 16.11.17

(7 所属学会) 美術史学会、九州藝術学会

(7 委員会等) 東京国立博物館修理請負候補者選定委員会、文化庁買取評価員

#### 小堀 信幸 KOBORI Nobuyuki (客員研究員)

(2 報告) 船舶：欧州及び米国の事例について『近代産業遺産(美術工芸品)に関する海外事例調査事業報告書』pp.6-40 東京文化財研究所 17.3

(7 所属学会) 日本海事史学会

(7 委員会等) 慶長使節船復元船サン・ファン・パウティスタの今後のあり方検討委員会(宮城県)

#### 小峰 幸夫 KOMINE Yukio (アソシエイトフェロー)

(2 報告) 日光の歴史的木造建造物における新たな害虫モニタリング手法の実用性の検討(小峰幸夫、原田正彦、斉藤明子、佐藤嘉則、木川りか、藤井義久) 『保存科学』56 pp.77-88 17.3

(4 解説) 身近に見られるシバンムシ類の種類とその調査方法 『寄せ蛾記』162 pp.3-10 埼玉昆虫談話会 16.6

(6 講義) 室内昆虫の同定法について(文化財害虫・家屋害虫・衛生害虫等) 都市有害生物管理学会 IPM中級技術者養成 実験講座 ライカマイクロシステムズ東京本社 17.3.10

(7 所属学会) 文化財保存修復学会、都市有害生物管理学会、石川むしの会、足立区郷土芸能保存会理事

(7 委員会等) 重要文化財建造物輪王寺本堂保存修理専門委員会委員

#### 酒井 清文 SAKAI Kiyofumi (客員研究員)

(3 論文) ポリビニルアルコール分解酵素の劣化ポリビニルアルコール除去への応用—酵素と接着剤および色材間の相互作用—(酒井清文、早川典子、楠京子、山中勇人、川野邊渉) 『文化財保存修復学会誌』60 pp.22-35 17.3

(7 所属学会) 文化財保存修復学会、日本農芸化学会、

日本生物工学会、高分子学会

(7 委員会等) 近畿化学協会、バイオインダストリー協会

#### 境野 飛鳥 SAKAINO Asuka (アソシエイトフェロー)

(1 公刊図書)(江村知子、境野飛鳥、二神葉子、増淵麻里耶)『世界遺産用語集(改訂版)』東京文化財研究所 150p 17.3

(7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会、日本歴史学会

#### 佐藤 桂 SATO Katsura (アソシエイトフェロー)

(2 報告) プレア-ヴィヘア寺院の概略と研究史 Outline of Character and History of Previous Studies of Preah Vihear (石塚充雄、佐藤桂、萩原周) Research Report of Preah Vihear, Collaboration Project between National Authority for Preah Vihear, Meijo University and Waseda University pp.19-31 17.3

(5 学会発表) アンコール・タネイ遺跡における SfM 三次元写真測量の試み 日本建築学会大会学術講演会(九州) 福岡大学 16.8.26

(5 学会発表) Cultural heritage value of the Minang houses at Padang in West Sumatra Province, Indonesia (Katsura SATO, Masahiko TOMODA) 11th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA) 東北大学 16.9.22

(7 所属学会) ICOMOS、東南アジア考古学会、日本建築学会、建築史学会、文化財建造物保存修理研究会

#### 佐藤 嘉則 SATO Yoshinori (保存科学研究センター)

(2 報告) 高松塚・キトラ両古墳からの主要細菌分離株: *Bacillus*・*Ochrobactrum* 両属分離株の分子系統学的位置(半田豊、立里臨、佐藤嘉則、木川りか、佐野千絵、杉山純多) 『保存科学』56 pp.33-48 17.3

(2 報告) 日光の歴史的木造建造物における新たな害虫モニタリング手法の実用性の検討(小峰幸夫、原田正彦、斉藤明子、佐藤嘉則、木川りか、藤井義久) 『保存科学』56 pp.77-88 17.3

(2 報告) 博物館施設におけるゾーニングへのバイオエアロゾル測定の実用性(間瀬創、佐藤嘉則) 『保存科学』56 pp.89-98 17.3

(2 報告) 湿度制御した温風処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定(竹口彩、藤原裕子、藤井義久、木川りか、佐藤嘉則、古田嶋智子、犬塚将英) 『保存科学』56 pp.165-174 17.3

(3 論文) *Mycoavidus cysteinexigens* gen. nov., sp. nov., an endohyphal bacterium isolated from a soil isolate of the fungus *Mortierella elongata* (Shoko Ohshima, Yoshinori Sato, Reiko Fujimura, Yusuke Takashima, Moriyuki Hamada, Tomoyasu Nishizawa, Kazuhiko Narisawa, Hiroyuki Ohta) *International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology*, 66(5) 2052-2057 16.5



(3 論文) Polyphasic insights into the microbiomes of the Takamatsuzuka Tumulus and Kitora Tumulus (Junta Sugiyama, Tomohiko Kiyuna, Miyuki Nishijima, Kwang-Deuk An, Yuka Nagatsuka, Nozomi Tazato, Yutaka Handa, Junko Hata-Tomita, Yoshinori Sato, Rika Kigawa, Chie Sano) *The Journal of General and Applied Microbiology*, In press, Applied Microbiology, Molecular and Cellular Biosciences Research Foundation 17.1.25

(3 論文) 石人山古墳装飾石棺表面に形成した着生生物群集の構造解析 (佐藤嘉則、西澤智康、小沼奈那美、犬塚将英、森井順之、木川りか、朽津信明) 『保存科学』56 pp.1-14 17.3

(5 学会発表) *Mortierella* 属糸状菌に内生する細菌の多様性解析 (生田目光、高島勇介、佐藤嘉則、西澤智康、成澤才彦、太田寛行) 日本土壌微生物学会 2016 年度大会 岐阜大学 16.6.11

(5 学会発表) 糸状菌に内生する細菌の系統と相互作用に関する考察 (太田寛行、佐藤嘉則、西澤智康、成澤才彦) 日本土壌微生物学会 2016 年度大会 岐阜大学 16.6.11

(5 学会発表) Strain change on surface of wood and Urushi layer under humidity controlled warm air treatment (Aya Takeguchi, Yuko Fujiwara, Yoshihisa Fujii, Rika Kigawa, Yoshinori Sato, Tomoko Kotajima, Masahide Inuzuka) 2nd International symposium Wood Science and Craftsmanship Kyoto University 16.8.22

(5 学会発表) 様々な紙試料におけるカビ調査 (松本美奈子、高島美奈子、久米田裕子、佐藤嘉則、高島浩介) 日本防菌防黴学会第 43 回年次大会 品川区立総合区民会館 16.9.26

(6 講演) 文化財の微生物劣化 日本防菌防黴学会第 43 回年次大会シンポジウム 品川区立総合区民会館 16.9.27

(6 講演) 博物館等におけるカビ等の迅速検出法について 平成 28 年度 九州国立博物館 IPM セミナー 九州国立博物館 16.10.26

(6 講演) 装飾古墳における生物劣化と対策—石室石材の表面状態の保存— 東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター公開講演会「遺跡における微生物の問題と対策」 東北芸術工科大学 17.1.14

(6 講義) 環境制御 (虫菌害対策) 平成 28 年度アーカイブズ・カレッジ 史料管理学研修会 国文学研究資料館 16.9.6

(6 講義) 生物被害のリスク 国立文化財機構防災ネットワーク推進事業研修会 ～水損紙資料の応急処置～ 熊本県博物館ネットワークセンター 16.10.10

(6 講義) 有害生物対策 平成 28 年度 アーカイブズ研修Ⅲ／公文書管理研修Ⅲ 国立公文書館 16.11.14

(6 講義) 水損紙資料の微生物被害と応急処置 平成 28 年度 文化財等防災ネットワーク研修 奈良文化財研究所 17.1.24

(6 講義) 文化財のカビ対策の最近の動向について 資

料のカビ対策に関する説明聴取会 国立国会図書館 17.1.26

(7 所属学会) International Biodeterioration & Biodegradation Society、日本土壌微生物学会、日本微生物生態学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) ひたちなか市史跡保存対策委員会、Microbes and Environments production editor、日本文化財科学会編集委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院文化財保存学専攻連携准教授

佐野 千絵 SANO Chie (文化財情報資料部)

(1 共著) 「第 4 章 空気汚染」(三浦定俊、佐野千絵、木川りか) 『文化財保存環境学 第 2 版』朝倉書店 pp.71-93 16.11

(2 報告) 閉架書庫に発生したカビ対策事例 (橘川英規、安永拓世、皿井舞、津田徹英、佐野千絵) 『保存科学』56 pp.99-112 17.3

(2 報告) 津波被災紙資料における ATP + AMP 拭き取り検査の活用 (内田優花、佐野千絵、赤沼英男) 『保存科学』56 pp.113-120 17.3

(2 報告) 津波被災紙資料から発生する臭気の分析と発生メカニズムの推定 (佐野千絵、内田優花、赤沼英男) 『保存科学』56 pp.121-133 17.3

(2 報告) 神奈川県立金沢文庫の展示・収蔵環境調査 『金澤文庫研究』338 pp.41-45 17.3

(2 コメント) 文化財の微生物対策の突破口はどこに 『日本防菌防黴学会誌』44 (11) pp.600 16.11

(2 コメント) 博物館施設における美術工芸品の展示設備 特に、展示ケースの温湿度管理や空気質調査について 『文化庁委託事業 美術工芸品の公開活用の現状調査事業報告書』丹青研究所 17.3

(3 論文) 高松塚・キトラ両古墳からの主要最近分離株: 「*Bacillus*」、 「*Ochromactrum*」 両属分離株の分子系統学的位置 (半田豊、立里臨、佐藤嘉則、木川りか、佐野千絵、杉山純多) 『保存科学』56 pp.33-48 17.3

(4 解説) 博物館・美術館の望ましい展示収蔵環境 IBEC 37-2 (215) pp.2-7 建築環境・省エネルギー機構 16.7

(4 解説) 博物館、美術館における照明と LED 照明の導入について 『文化財の虫菌害』72 pp.2-9 16.12

(4 解説) VIII 復元建物の整備と維持管理 2 史跡公園造成前の留意事項 『史跡北代遺跡復元建物等再整備事業報告書—北代遺跡歴史活き活き! 史跡等総合活用整備事業報告書—』富山市教育委員会 17.3

(4 解説) 2.美術館・博物館照明に求められる要件 2.1 展示物の保護・損傷防止 『美術館・博物館の次世代照明基準に関する研究調査委員会報告書』一般社団法人照明学会 17.3

(4 資料紹介) 美術館・博物館の資料保護に向けた光曝露量の評価方法 (黄川田翔、吉田直人、佐野千絵) 日経テクノロジー online, <http://techon.nikkeibp.co.jp/>

atcl/feature/15/367653/072000011 日経BP社 16.7

(5 学会発表) 津波被災紙資料から発生する臭気の同定とその対策 (佐野千絵、内田優花) 日本文化財科学会第33回大会 奈良大学 16.6.4-5

(5 学会発表) 岩手県津波被災紙資料の表面清浄度調査方法の検討 (内田優花、佐野千絵) 日本文化財科学会第33回大会 奈良大学 16.6.4-5

(5 学会発表) 展示台からの酢酸ガス遮蔽材料についての検討 (佐野千絵、古田嶋智子、呂俊民) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25

(5 学会発表) 実験用実大展示ケースを用いたケース内空気環境の研究—展示ケースのガス濃度評価方法の提案— (呂俊民、古田嶋智子、林良典、須賀政晴、佐藤瑠璃、佐野千絵) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25

(5 学会発表) 実験用実大展示ケースを用いたケース内空気環境の研究—展示ケース内温湿度の測定とCFD解析— (古田嶋智子、呂俊民、林良典、須賀政晴、佐藤瑠璃、佐野千絵) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25

(5 学会発表) 実験用実大展示ケースを用いたケース内空気環境の研究—気流性状の測定とCFD解析— (須賀政晴、呂俊民、古田嶋智子、林良典、佐藤瑠璃、佐野千絵) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25

(5 学会発表) 美術館・博物館における展示空間の空気環境に関する研究その3. 空気清浄化機能を有した実験用展示ケースの評価 (呂俊民、古田嶋智子、林良典、須賀政晴、佐野千絵) 2016年度日本建築学会大会 (九州) 福岡大学 16.8.24-26

(6 講演) 博物館、美術館における照明とLED照明の導入について 第38回文化財の虫菌害・保存対策研修会、文化財虫菌害研究所 代々木オリンピックセンター 16.6.17

(6 講演) 文化財防災と放射化学 日本文化財科学会公開講演会シリーズ「文化遺産と科学」文化財と自然災害 ふくしまの被災文化遺産の継承 コラッセふくしま 16.10.15

(6 講演) かたちを伝える技術—展覧会の裏側へようこそ 第50回オープンレクチャー 東京文化財研究所 16.11.5

(6 講演) 展示施設の諸要件 2016年度文化財保存修復学会公開シンポジウム 文化財を伝える—展示技術と保存修復学 東京文化財研究所 17.1.29

(6 講演) 群馬県立歴史博物館における改修工事について 関東地区博物館協会研究会 群馬県立歴史博物館 16.7.29

(6 講演) 収蔵庫の漏水—群馬県立歴史博物館を例に 日本博物館協会研究協議会 栃木県立博物館 17.3.9

(6 講義) ビジネスアーカイブズでの資料の保存と管理 企業史料協議会第21回ビジネスアーキビスト研修講座

東京大学 16.11.17

(6 講義) IPMから見た博物館等の施設管理—施設管理と運用— 第6回文化財IPMコーディネータ資格取得講習会、文化財虫菌害研究所 九州国立博物館 16.12.14

(7 所属学会) ICOM、ICOM-CC、IIC、IIC-Japan、室内環境学会、照明学会、繊維学会、大気環境学会、日本化学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会、マテリアルライフ学会、防菌防黴学会、漆を科学する会

(7 委員会等) 文化審議会専門委員、国立歴史民俗博物館運営会議委員、国立民族学博物館運営会議委員、「美術工芸品の公開活用」の現状調査事業」ワーキングチーム委員、東京国立博物館本館保存活用計画検討委員会委員、科学研究費委員会専門委員、公益財団法人文化財虫菌害研究所総合調整委員会委員、文化財虫菌害防除薬剤等認定委員会委員、法隆寺金堂壁画保存活用委員会「保存環境」ワーキンググループ委員、千葉県文化財保護審議会委員、群馬県文化財保護審議会審議委員、長野県信濃美術館整備委員会委員、平成27年度石川県文化財保存修復工房運営委員会 委員、宗像市史跡保存整備審議会委員、郡山市公文書・歴史情報館基本構想に関わる懇談会委員、対馬市博物館建設推進会議における有識者会議構成員、一般社団法人文化財保存修復学会理事、文化財保存修復学会第39回大会実行委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院文化財保存学専攻システム保存学連携教授、国際基督教大学非常勤講師

**佐野 真規** SANO Masaki (アソシエイトフェロー)

(4 撮影・編集) 木積の藤箕をつくるDVD1~5 (今石みぎわ、佐野真規) 『木積の藤箕をつくる』 17.3

(6 撮影映像提供) 復刻銘仙の工程記録展示『VMD MEISEN—la sfavillante moda kimono moderna—』イタリアローマ日本文化会館 16.4.22-6.4

(6 撮影映像提供) 復刻銘仙の工程記録展示『VMD 銘仙—きらめきのモダンきもの—』足利市立美術館 16.10.22-12.25

(6 撮影映像提供) 『アオバナ紙の製作工程』草津市・栗東市連携展示夏季テーマ展「KURITA BLUE 一名産青花紙の生産と流通」草津市街道交流館 16.7.30-9.4

(6 撮影映像提供) 『ECHIGO JOFU 越後上布』ウェブサイト『Made in Japan: 日本の匠』

(6 発表) 文化財防災ネットワーク推進事業について「無形文化遺産の防災」連絡会議 東京文化財研究所

**皿井 舞** SARAI Mai (企画情報部)

(2 報告) 平等院鳳凰堂東面中央扉「上品上生図」の彩色に関する科学調査 (皿井舞、城野誠治、早川泰弘) 『鳳翔学叢』13 平等院 17.3

(4 解説) 「春日権現験記絵」概要 『春日権現験記絵巻一・巻二光学調査報告書』東京文化財研究所 17.3

(4 解説) 聖徳太子及天台高僧像の光学調査の意義 『聖徳太子及天台高僧像 光学調査報告書』奈良国立博物



館・東京文化財研究所 17.3

(7 所属学会) 日本仏教総合研究学会、美術史学会、密教図像学会

**塩谷 純** SHIOYA Jun (文化財情報資料部)

(3 論文) 佐竹永湖一文晁派の伝道者として 『明治21年の佐竹永湖とその周辺 松戸神社神楽殿の絵画と修復展』図録 pp.8-13 松戸市教育委員会 17.1

(4 解説) 省亭の歴史画 『渡辺省亭一花鳥画の孤高なる輝き』 p.81 東京美術 17.2

(4 解説) 作品解説2点 『渡辺省亭一花鳥画の孤高なる輝き』 pp.82-83 東京美術 17.2

(4 記事) 『日本美術年鑑』創刊80周年によせて—その編纂とウェブ発信 (塩谷純、橘川英規) 『TOBUNKEN NEWS』62 pp.34-35 東京文化財研究所 16.11

(6 講演) 佐竹永湖一文晁派の伝道者として 明治21年の佐竹永湖とその周辺 松戸神社神楽殿の絵画と修復展講演会 松戸市民会館 17.2.5

(6 パネリスト) 省亭の歴史画一師・容斎を越えて 没後100年渡辺省亭とその時代— 日仏近代美術の黎明 日仏会館 17.3.10

(7 所属学会) 美術史学会、明治美術学会

(8 教育) 明治学院大学大学院非常勤講師、九州大学文学部非常勤講師、金沢美術工芸大学芸術学専攻非常勤講師

**嶋原 由美** SHIGIHARA Yumi (アソシエイトフェロー)

(2 報告) (前川佳文、増淵麻里耶、嶋原由美) 『ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究 平成28年度成果報告書』 58p 東京文化財研究所 17.3

(2 報告) キトラ古墳壁画再構成モデル作製記録『平成28年度 特別史跡キトラ古墳 保存対策等調査業務報告書』 pp.25-32 東京文化財研究所 17.3

(2 報告) ケルン市博物館東洋美術館収蔵庫見学 『ワークショップ「漆工品の保存と修復」2016』 p.29 東京文化財研究所 17.3

(2 報告) 漆工品の調査 『ワークショップ「漆工品の保存と修復」2016』 p.33 東京文化財研究所 17.3

(4 編集) 『ワークショップ「漆工品の保存と修復」2016』 65p 東京文化財研究所 17.3

(4 編集) 『トルコ共和国における壁画技法と保存管理体制に関する報告 平成28年度成果報告書』 32p 東京文化財研究所 17.3

(4 翻訳) 漆工品の保存：保管、輸送および展示 『ワークショップ「漆工品の保存と修復」2016』 pp.14-28 東京文化財研究所 17.3

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

**城野 誠治** SHIRONO Seiji (文化財情報研究室)

(2 報告) 平等院鳳凰堂東面正面扉「上品上生図」の彩色

に関する科学調査 (皿井舞、城野誠治、早川泰弘)

『鳳翔学叢』13 平等院 17.3

(2 報告) 琉球絵画に使われている彩色材料について (早川泰弘、城野誠治) 『琉球絵画 光学調査報告書』 pp.164-173 東京文化財研究所 17.3

(2 報告) 春日権現験記絵の彩色材料調査 (巻一、巻二) (早川泰弘、城野誠治、皿井舞) 『春日権現験記絵 巻一、巻二 光学調査報告書』 pp.XRF3-XRF10 東京文化財研究所 17.3

(4 解説) 写真を利用した文化財の調査 『日本写真学会誌』79 (III) pp.280-284 16.8

(5 学会発表) サントリー美術館所蔵 重要文化財四季花鳥図屏風の彩色材料調査 (早川泰弘、犬塚将英、城野誠治) 日本文化財科学会第33回大会 奈良大学 16.6.4-5

(6 発表) 文化財写真に必要とする情報—写真で何を捉えられるのか— 文化財写真に関するワークショップ 東京文化財研究所 16.12.20

(7 所属学会) 日本法科学技術学会、日本写真学会、日本写真家協会

**杉山 恵助** SUGIYAMA Keisuke (客員研究員)

(2 報告) Advanced – Restoration of Japanese hanging scrolls - (Takayuki KIMISHIMA, Keisuke SUGIYAMA) 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2016』 pp.47-96 17.3

(6 講義) (Takayuki KIMISHIMA, Keisuke SUGIYAMA) Advanced – Restoration of Japanese hanging scrolls -, Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 16.7.11-15

(7 所属学会) 文化財保存修復学会、英国保存修復学会 (ICON)

**高桑 いづみ** TAKAKUWA Izumi (特任研究員)

(2 報告) 能のコトバー表現にこめられた演者の思い 『楽劇学』24 pp.64-75 楽劇学会 17.3

(3 論文) 地拍子の古態—早歌からの継承— 『能と狂言』14 pp.67-77 能楽学会 16.9

(4 解説) 副音声解説 NHKテレビ「古典芸能への招待」NHK 16.9.25

(4 解説) 求塚断章 『TTR能パンフレット』 pp.4-5 TTR 17.1.28

(4 解説) 副音声解説 NHKテレビ「古典芸能への招待」NHK 17.1.28

(4 資料紹介) 観世文庫の文書87 移之譜 『観世』83 (6) 裏表紙 檜書店 16.6

(5 学会発表) イロ再考—二段オトシとイロー— 能楽学会第14回大会 早稲田大学 16.5.15

(6 発表) 世界文化遺産「能」の魅力 NHKラジオ第二放送 16.7~9 (全13回)

- (6 発表) ラジオ深夜便 にっぽんの音 (一噌幸弘、大蔵基誠) NHK ラジオ第一放送 16.12.25
- (6 講演) 能のコトバ―表現にこめられた演者の思い 楽劇学会第24回大会 国立能楽堂大講義室 16.7.3
- (6 講演) 楽器―かたちの変遷― 国立能楽堂公開講座 国立能楽堂大講義室 16.9.15
- (6 講演) 長唄に摂取された能 (配川美加、坂本清恵) 日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画 日本女子大学 16.12.12
- (6 司会) 女性が舞台上で声を発するには (岡本章、鶴沢久、小田幸子) 楽劇学会第94回例会 法政大学 17.2.14
- (6 パネリスト) 横道楽劇学の再検証―創作編― (野村萬、羽田昶、観世鍬之丞、岡本章) 楽劇学会第92回例会 国立能楽堂大講義室 16.10.11
- (7 所属学会) 楽劇学会、日本演劇学会、能楽学会

#### 田所 泰 TADOKORO Tai (アソシエイトフェロー)

- (3 論文) 栗原玉葉に関する基礎研究 『美術研究』420 pp.105-142 東京文化財研究所 16.12
- (4 編集) 西田俊英年譜 『西田俊英展 忘るるなゆめ』図録 pp.110-124 そごう美術館 16.10
- (4 編集) 西田俊英主要参考文献 『西田俊英展 忘るるなゆめ』図録 pp.125-126 そごう美術館 16.10
- (4 記事) 「物故者」朝倉摂、宮脇愛子 『日本美術年鑑』平成27年版 pp.415-497、508-509 東京文化財研究所 17.3
- (5 学会発表) 栗原玉葉の《朝妻桜》に関する考察 美術史学会東支部例会 早稲田大学 17.1.28
- (6 発表) 栗原玉葉に関する基礎研究 文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 16.6.28
- (6 発表) 栗原玉葉の画業におけるキリスト教画題作品の意義 文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 17.1.12
- (7 所属学会) 美術史学会、早稲田大学美術史学会

#### 田中 淳 TANAKA Atsushi (客員研究員)

- (6 発表) 原田直次郎と明治美術 黒田清輝との比較から 国際シンポジウム「美術の19世紀―ドイツと日本」(「原田直次郎展」関連企画) 神奈川県立近代美術館 16.5.8
- (7 所属学会) 美術史学会、明治美術学会
- (7 委員会等) 千葉県美術館資料審査委員会委員、岩手県立美術館美術品収集評価委員会委員、佐倉市立美術館運営協議会委員、公益信託倫雅美術奨励基金運営委員、茨城県近代美術館美術資料審査委員会委員、愛知県美術館美術品収集委員会委員、小杉放菴記念日光美術館評議員

#### 近松 鴻二 CHIKAMATSU Koji (客員研究員)

- (3 論文) 「江戸町人社会とシェアの思想」『Re』191 pp.20-23 一般財団法人建築保全センター 16.7.1

- (6 講演) 「江戸のシェア」I「長屋」、II「井戸・惣後架」、III「町」、えどはくカルチャー 江戸東京博物館大ホール 16.7.29、16.7.26、16.9.18
- (6 講演) 「江戸幕府の最高権力者 徳川将軍」I「徳川氏の血統」、II「歴代将軍一覧」、III「徳川氏の「妻妾」」えどはくカルチャー 江戸東京博物館大ホール 17.2.4、17.2.24、17.3.24
- (7 所属学会) 鹿大史学会
- (8 教育) 国士舘大学非常勤講師、学習院大学非常勤講師、松蔭大学非常勤講師、学習院大学史料館客員研究員、東京都江戸東京博物館客員研究員

#### 津田 徹英 TSUDA Tetsuei (文化財情報資料部)

- (1 公刊図書) 『組織論―制作した人々― (仏教美術論集6)』(津田徹英編) 竹林舎 422p 16.6
- (3 論文) 親鸞の欠画文字・異体字とその書風 『組織論―制作した人々― (仏教美術論集6)』 pp.247 ~ 264 竹林舎 16.6
- (4 資料紹介) 美術史料紹介 東寺観智院金剛蔵本 (建武二年写)『諸説不同記』巻第八 (上) 解題・翻刻・校註・影印 (津田徹英、石井千紘、加藤詩乃、上村顕太郎、部政人) 『パラゴネ』4 pp.1-35 17.3
- (6 発表) 詞書の筆跡からみた遊行上人縁起絵―伝本諸本の位相― 文化財情報資料部研究会「遊行上人縁起絵の諸相」 東京文化財研究所 17.3.28
- (6 講演) 湖北地域の仏像―最近の知見から― 高月観音の里資料館友の会総会記念講演 滋賀県高月公民館 16.4.24
- (6 講演) 美術史料としての称名寺聖教 連続講座「国宝 称名寺聖教・金沢文庫文書を学ぶ」第二回 神奈川県立金沢文庫 16.9.3
- (6 講演) 文化財としての浄土真宗の法宝物を考える 秋季特別展「浄土真宗と本願寺の名宝―受け継がれる美とところ―」記念講演会 龍谷ミュージアム (龍谷大学大宮学舎) 16.10.16
- (6 講演) On some characteristics of Japanese traditional portraits known as Nise-e (likeness picture) Third Thursday Lecture セインズベリー日本藝術研究所 17.2.16
- (7 所属学会) 日本宗教文化史学会、美術史学会、密教図像学会、三田藝術学会
- (7 委員会等) 密教図像学会常任委員
- (8 教育) 青山学院大学文学部比較芸術学科非常勤講師

#### 堤 一郎 TSUTSUMI Ichiro (客員研究員)

- (2 報告) 鉄道：欧州の事例について『近代産業遺産 (美術工芸品) に関する海外事例調査事業報告書』 pp.92-102 東京文化財研究所 17.3
- (3 論文) 課題製作実習を通して見た学生のものづくり 観と実践力 (堤一郎、安田健一) 『茨城大学教育学部紀要 (教育科学)』66 pp.633-642 17.3
- (6 発表) 島根県における社寺参詣鉄道の系譜と技術文

化史的意義—旧大社線大社駅を通して—（堤一郎、城市孝志、和田昇司、陰山健二、小川千春）日本技術史教育学会2016年度全国大会（松江）サンラポーむらくも 16.12.10

（6 発表）日本における鉄道車両製造技術史と関連遺産 日本技術史教育学会関西支部2016年度総会講演会 大阪産業大学梅田サテライトキャンパス 17.3.5

（6 発表）旧北九州鉄道片ボギー式内燃動車の系譜（堤一郎、池森 寛、緒方正則、吉田敬介）日本機械学会九州支部2016年度総会講演会 佐賀大学 17.3.15

（6 講演）日本の近代化と鉄道技術—歴史と文化財の視点から—（一社）日本鉄道車両機械技術協会関西支部講演会 米子ワシントンホテルプラザ 16.5.26

（6 講演）鉄道の技術史—山陽鉄道開業から山陽新幹線開業まで— 広島県立歴史博物館企画展開催講演会・博物館大学 広島県立歴史博物館 16.8.20

（6 講演）近代化産業遺産（鉄道記念物等）の保存について 233号機関車「重要文化財指定」記念講演会 京都鉄道博物館 16.10.14

（6 講演）日本の近代化と鉄道技術—歴史と文化財の視点から—（一社）日本鉄道車両機械技術協会関西支部講演会 中之島 LOVE CENTRAL 17.3.3

（7 所属学会）産業考古学会、日本機械学会、日本技術史教育学会

（8 教育）茨城大学教育学部特任教授、中央大学理工学部精密機械工学科兼任講師、神奈川工科大学工学部非常勤講師、武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科非常勤講師、サレジオ工業高等専門学校本科及び専攻科非常勤講師

#### 友田 正彦 TOMODA Masahiko（文化遺産国際協力センター）

（2 報告）*Post-earthquake Damage Assessment Survey of Cultural Heritage Buildings at Bagan Archaeological Zone - Quick Report*（友田正彦、北河大次郎、中内康雄、多幾山法子、アレハンドロ・マルティネス、金善旭、佐藤弘美、ダビデ・メツツィーノ）66p 東京文化財研究所 16.12

（4 編集）（Masahiko Tomoda, Hiroki Yamada）*Project for Investigation of Damage Situation of Cultural Heritage in Nepal, Survey of Historic Settlement* 114p TNRICP 16.8

（4 編集）（友田正彦、山田大樹）『ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業 歴史的建造物の構造に関する調査報告書』110p 東京文化財研究所 16.10

（4 編集）（Masahiko Tomoda, Hiroki Yamada）*Project for Investigation of Damage Situation of Cultural Heritage in Nepal, Structural Survey of Historic Buildings* 110p TNRICP 16.10

（4 編集）『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成28年度成果報告書』144p 東京文化財研究所 17.3

（4 編集）*Safeguarding of Cultural Heritage in Myanmar*

137p TNRICP 17.3

（4 編集）（友田正彦、山田大樹）『平成28年度 文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」報告書 80p 東京文化財研究所 17.3

（4 編集）『平成28年度 文化庁委託文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）「ミャンマー・バガン遺跡群における地震被害に関する調査」事業報告書』118p 東京文化財研究所 17.3

（4 記事）ネパール建築遺産の震災被害と復旧に向けた課題 JAPAN ICOMOS / INFORMATION 10(5) pp.28-29 日本イコモス国内委員会 17.3.15

（6 発表）文化遺産保護国際協力の現状と今後 JICA地球ひろば設立10周年記念感謝祭における活動発表 JICA市ヶ谷ビル 16.5.28

（6 発表）Conservation of Built heritage in Bagan Expert Consultation Meeting on Strategic Action Planning for the Management of Bagan Hotel Mandalay, Myanmar 16.7.28

（6 発表）Preventive measures for a brick monument from salt weathering – An on-site study at Wat Mahathat, Ayutthaya (Masahiko TOMODA (on behalf of Nobuaki KUCHITSU)) International Symposium on the Conservation of Brick Monuments at World Heritage Sites Classic Kameo Hotel, Ayutthaya, Thailand 16.10.19

（6 発表）ネパールにおける東京文化財研究所協力事業の現況 文化遺産国際協力コンソーシアム第30回東南アジア・南アジア分科会 東京文化財研究所 16.12.6

（6 発表）ミャンマー・バガン遺跡の震災被害状況について 文化遺産国際協力コンソーシアム第30回東南アジア・南アジア分科会 東京文化財研究所 16.12.6

（6 発表）ネパール建築遺産の震災被害と復旧に向けた課題 日本イコモス研究会 東京文化財研究所 16.12.10

（6 発表）考古学的知見から見た北部ベトナムの古代木造建築 研究会「考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築」東京文化財研究所 17.2.13

（6 発表）Results of previous survey on the traditional rammed earth buildings in Bhutan Workshop on the preservation of traditional rural houses in Bhutan Department of Culture, Thimpu, Bhutan 17.3.7

（6 講義）バガンにおける建築遺産の保全 JICA研修「ミャンマー地域観光開発のための観光インフラ」における講義 東京文化財研究所 16.5.31

（6 講義）日本における木造建造物修理の歴史 タイ文化省芸術局建造物課職員来日研修における講義 東京文化財研究所 16.6.6

（6 講義）Necessary works and investigations for developing the plan Workshop on the conservation, management and enhancement plan for Ta Nei temple APSARA headquarters, Siem Reap, Cambodia 17.1.26

(6 パネリスト) reviewer for SEASREP workshop “Heritage Conservation in Southeast Asia” Hoi An, Vietnam 16.4.15-16

(6 パネリスト) シンポジウム「シリア内戦と文化遺産—世界遺産/パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援」東京文化財研究所 16.11.20

(6 パネリスト) Conference on the preservation of historic settlements in Kathmandu Valley における 共同議長 Local Development Training Academy, Lalitpur, Nepal 16.11.30

(6 パネリスト) 平成28年度「平泉の文化遺産」拡張登録に係る研究集会「奥州藤原氏が構想した理想世界」アドバイザー 平泉レストハウス 16.12.3-4

(6 パネリスト) ACCU 奈良国際会議「アジア太平洋地域における文化遺産保護人材養成の実情と課題」ホテルフジタ奈良 16.12.13-14

(7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会

**長島 宏行** NAGASHIMA Hiroyuki (客員研究員)

(2 報告) 航空機部品の調査結果 『万世特攻平和祈念館 金属類収蔵品劣化対策事前調査事業調査報告書』 pp. 5-6 東京文化財研究所 16.10

(2 報告) 「デジタル化を行った資料」、「資料の活用・公開」(長島宏行、荻田重賀) 『平成28年度一般財団法人日本航空協会との共同研究 航空資料保存の研究(継続) 報告書』 pp. 4-10 東京文化財研究所 17.3

(2 報告) 航空機: 米国の事例について『近代産業遺産(美術工芸品)に関する海外事例調査事業報告書』 pp.61-90 東京文化財研究所 17.3

(7 所属学会) 日本航空協会

**中野 照男** NAKANO Teruo (客員研究員)

(4 記事) 「物故者」上野アキ 『日本美術年鑑』平成27年版 pp.513-514 東京文化財研究所 17.3

(7 所属学会) ICOMOS、美術史学会、九州藝術学会

(8 教育) 成城大学文芸学部第2世紀特任教授、大東文化大学文学部非常勤講師、日本大学通信教育部非常勤講師

**中山 俊介** NAKAYAMA Shunsuke (文化遺産国際協力センター)

(2 報告) パネルディスカッション“海事遺産(文化財)としての帆船日本丸の保存に向けて”『帆船日本丸保存シンポジウム 講演録』 pp.23-36 公益財団法人帆船日本丸記念財団 16.10

(2 報告) 近代文化遺産の保存と修復(付録・4シンポジウム配布資料) 『機械遺産・アロー号からみた近代文化遺産の保存/活用』 pp.85-87 博多湾岸《金印ロード》資源活用プロジェクト実行委員会 17.3

(2 報告) 近代文化遺産の保存理念と修復理念 『近代文化遺産の保存理念と修復理念』 pp.5-10 17.3

(2 報告) 近代文化遺産の保存と修復 『機械遺産・アロー

号からみた近代文化遺産の保存/活用』 pp.39-44 博多湾岸《金印ロード》資源活用プロジェクト実行委員会 17.3

(2 報告) ディスカッション“近代化遺産・機械遺産の保存・活用について”『機械遺産・アロー号からみた近代文化遺産の保存/活用』 pp.55-60 博多湾岸《金印ロード》資源活用プロジェクト実行委員会 17.3

(2 報告) Conservation and Restoration of Western Paper 『Conservation and Restoration of Western Paper』 pp.5-11 17.3

(6 司会) 帆船日本丸保存シンポジウム パネルディスカッション 帆船日本丸保存シンポジウム 日本丸訓練センター 16.10.1

(7 所属学会) 日本船舶海洋工学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(8 教育) 公立大学法人長岡造形大学非常勤講師

**早川 典子** HAYAKAWA Noriko (保存科学研究センター)

(1 刊行図書) 平等院鳳凰堂東面中央扉に使用した剥落止め材料について 『鳳翔学叢』13 pp.1-5 17.3

(3 論文) 緑青焼け絹本絵画における裏打紙の劣化現象(貴田啓子、岡泰央、稲葉政満、早川典子) 『マテリアルライフ学会誌』28(2) pp.41-48 16.5.31

(3 論文) ポリビニルアルコール分解酵素の劣化ポリビニルアルコール除去への応用—酵素と接着剤および色材間の相互作用—(酒井清文、早川典子、楠京子、山中勇人、川野邊渉) 『文化財保存修復学会誌』60 pp.22-35 17.3

(5 学会発表) 文化財保存修復に用いられる Paraloid™ B-72 と溶媒の相互作用に関する研究(岡本駿、早川典子、本多貴之) 日本文化財科学会第33回大会 奈良大学 16.6.4-5

(5 学会発表) 緑青および焼緑青が和紙に及ぼす影響～灰汁中の銅イオンの存在～(貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25

(5 学会発表) 琉球漆器の堆錦技法に用いる焼漆製作工程の調査研究(小川歩、當眞茂、舘川修、内田優花、早川典子) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.26

(5 学会発表) 紙に付着した粘着テープの劣化—有機溶媒を用いた粘着テープおよびテープ痕除去方法の検討—(内田優花、早川典子) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.26

(5 学会発表) 補彩用絵具として使用される棒絵の具類の接着剤について(山田祐子、大河原典子、早川典子) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.26

(5 学会発表) 高德院国宝銅造阿彌陀如来坐像の科学的金属状態調査(藤澤明、犬塚将英、増淵麻里耶、森井順之、早川典子、佐藤孝雄) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.26



(5 学会発表) 高徳院国宝銅造阿彌陀如来坐像の状態調査および表面クリーニング(邊牟木尚美、及川崇、小林芳妃、伊藤一洋、渡辺真樹子、鈴木恵梨子、森井順之、早川典子、佐藤孝雄) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.26

(5 学会発表) 粒度の異なる緑青顔料が和紙の劣化に及ぼす影響(貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子) マテリアルライフ学会第27回研究発表会 滋賀県立大学 交流センター 16.7.14-15

(6 講演) キトラ古墳壁画を守る キトラ古墳壁画「四神の館」開館記念シンポジウム 明日香村中央公民館 16.9.18

(6 講義) 修理技術者に必要な科学 国宝修理演師連盟 新任者研修 京都国立博物館 16.4.14

(6 講義) 修理技術者に必要な科学(中・上級) 国宝修理装演師連盟中級上級者研修 京都国立博物館 16.7.8

(6 講義) 保存科学特論 文化財建造物主任技術者講習会(上級) 黒田記念館 16.8.23

(6 講義) 接着の科学 美術工芸品修理技術者講習会 経済産業省 16.11.15

(6 講義) 修復のための合成樹脂 美術工芸品修理技術者講習会 経済産業省 16.11.16

(6 講義) 漆芸品分析調査概論 漆工品ワークショップ バガン漆芸大学 17.2.8

(6 講習会) 接着剤・汚れの除去 科学的な材料とその使用方法の講習会 東京文化財研究所 16.8.8-9

(6 講習会) クロスセクション作成実習 漆工品ワークショップ バガン漆芸大学 17.2.7

(6 講習会) 接着剤・クリーニングに関する講義 国会図書館講習会 国会図書館 17.2.24

(7 所属学会) IIC、高分子学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会、マテリアルライフ学会

(7 委員会等)「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」壁画ワーキンググループ 材料調査班専門委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院美術研究科連携准教授

#### 早川 泰弘 HAYAKAWA Yasuhiro (保存科学研究センター)

(2 報告) 日本絵画における白色顔料—江戸期の絵図に使われている鉛白と胡粉について—『色の博物誌—江戸の色材を視る・読む—』展覧会図録 pp.72-75 目黒区美術館 16.10

(2 報告) 国絵図の彩色材料調査 『色の博物誌—江戸の色材を視る・読む—』展覧会図録 pp.178-179 目黒区美術館 16.10

(2 報告) 平等院鳳凰堂東面正面扉「上品上生図」の彩色に関する科学調査(皿井舞、城野誠治、早川泰弘) 『鳳翔学叢』13 平等院 17.3

(2 報告) 琉球絵画に使われている彩色材料について(早川泰弘、城野誠治) 『琉球絵画 光学調査報告書』pp.164-173 東京文化財研究所 17.3

(2 報告) 春日権現験記絵の彩色材料調査(巻一、巻二)

(早川泰弘、城野誠治、皿井舞) 『春日権現験記絵 巻一、巻二 光学調査報告書』pp.XRF3-XRF10 東京文化財研究所 17.3

(2 報告) 沖縄県所在の陶芸作品に用いられている青色顔料の分析(早川泰弘、園原謙、外間一先、上江洲安亨) 『沖縄県立博物館・美術館紀要』10 pp.65-78 沖縄県立博物館・美術館 17.3

(2 報告) 名物裂に使用されている金属系の材質調査(吉田滯代、早川泰弘、本多貴之) 『五島美術館研究紀要』5 pp.106-114 五島美術館 17.3

(3 論文) 一宮市博物館所蔵の陣羽織に使用されている金属系の材質調査(吉田滯代、早川泰弘、伊藤和彦、成河端子) 『日本文化財科学会誌』72 pp.15-28 日本文化財科学会 17.2

(3 論文) 国宝慈光寺経における真鍮泥の利用について 『保存科学』56 pp.49-63 17.3

(3 論文) 可搬型X線回折分析装置を用いた銅造釈迦如来坐像(飛鳥大仏)の材質調査(犬塚将英、早川泰弘、皿井舞、藤岡穰) 『保存科学』56 pp.65-75 17.3

(4 解説) 水俣条約に影響を受ける文化財とその材料・技術 『月刊 文化財』10 pp.8-11 文化庁文化財部 16.10

(5 学会発表) 蝦夷錦に使用されている金属系の科学調査(吉田滯代、早川泰弘、中村和之) 第76回分析化学討論会 岐阜薬科大学 16.5.29

(5 学会発表) サントリー美術館所蔵 重要文化財四季花鳥図屏風の彩色材料調査(早川泰弘、犬塚将英、城野誠治) 日本文化財科学会第33回大会 奈良大学 16.6.4-5

(5 学会発表) 16-17世紀在日本創作的西洋風格絵画調査 国家美術藏品保存修復国際検討会 中国美術館(北京、中国) 16.7.6-7

(6 発表) 文化財における金属の利用と分析 日本鉄鋼協会第173回春季講演大会 首都大学東京 17.3.17

(6 講演) 伊藤若冲 動植綵絵の色と描写 東京都市大学 ユメキャンパス講演会 東京都市大学 16.11.6

(7 所属学会) 日本文化財科学会、日本分析化学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 琉球王国文化遺産集積・再興事業実施計画業務に係る監修委員、京都国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員、九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院非常勤講師、金沢美術工芸大学非常勤講師

#### 福永 八朗 FUKUNAGA Hachiro (アソシエイトフェロー)

(3 論文) 東京文化財研究所の文化財データベース—刊行物アーカイブを中心とした、アーカイブ・データベースの目的、要件およびその実現の方法について 『美術研究』420 pp.17-26 16.6

(3 論文) ウェブデータベースによる画像情報の公開—尾高鮮之助調査撮影記録を例に—(小山田智寛、福永



八朗、高橋佑太、二神葉子)『保存科学』56 pp.155-164 17.3

(5 学会発表) 尾高鮮之助調査撮影記録のデータベース化とその活用事例(二神葉子、福永八朗、小山田智寛、高橋佑太) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.26

(6 発表) 東京文化財研究所の広域ネットワークを利用した取り組み 広帯域ネットワーク利用に関するワークショップ「ADVNET2016」 東京大学 16.10.14

#### 藤井 義久 FUJII Yoshihisa (客員研究員)

(2 コメント) 大工の木づかい 『建築研究協会誌』30 pp.1-2

(3 論文) 燃料としての木炭の品質評価に関する考察(兵道健太、藤井義久)『京都大学フィールド科学教育研究センター 森林研究』79 pp.43-53

(4 解説) シロアリ防除技術の住宅生産技術への落とし込みの難しさ『関東シロアリ対策協会 協会ニュース』7 pp.13-14

(5 学会発表) 葺込銅板のあるこけら葺屋根モデルの屋外暴露試験 こけら板表面への銅付着量の経時変化(村上奈央、藤原裕子、藤井義久、高妻洋成) 日本木材保存協会第32回年次大会 メルパルク東京 16.5.24-25

(5 学会発表) 博物館展示資料の加湿温風による殺虫処理について 山笠土台部材の処理事例(木川りか、北原博幸、秋山桃子、赤田昌倫、藤井義久、藤原裕子、岩崎神奈子、泊智子、光山文枝、山崎久美子、トムストラング、本田光子、今津節生) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.24-25

(5 学会発表) 含水率測定による木造大壁の劣化診断に関する研究(兼澤拓之、堤洋樹、藤井義久、森拓郎、築瀬佳之、田中圭) 2016年度日本建築学会大会(九州) 福岡大学 15.8.24

(5 学会発表) A possibility of quantitative evaluation of the fuzzy grain on a sanded wood surface using acoustic emission generated by the peeling of an adhesive tape attached to the surface (Hayato Furukawa, Yuko Fujiwara, Yoshiyuki Yanase, Yutaka Sawada, Yoshihisa Fujii) Wood Science and Craftsmanship 2016 Kyoto University 16.9.20-23

(5 学会発表) Effect of Japanese traditional techniques to wood surface preparation, Suriawase and Kigoroshi, on adhesive bond strength of edge grain joint (Yuta Katayama, Yutaka Sawada, Yoshiyuki Yanase, Yuko Fujiwara, Yoshihisa Fujii) Wood Science and Craftsmanship 2016 Kyoto University 16.9.20-23

(5 学会発表) Strain change on the surface of wood and Urushi layer during thermal treatment under humidity controlled condition (Aya Takeguchi, Yuko Fujiwara, Yoshihisa Fujii) Wood Science and Craftsmanship 2016 Kyoto University 16.9.20-23

(5 学会発表) Damage detection of timber using vibration analysis (Toshiyuki Fukui, Yoshiyuki Yanase, Yutaka Sawada, Yoshihisa Fujii) Wood Science and Craftsmanship 2016 Kyoto University 16.9.20-23

(5 学会発表) The influence of stage-floor vibration radiated from double bass vibration while playing (Katsunori Ogawa, Yutaka Sawada, Yoshiyuki Yanase, Yoshihisa Fujii) Wood Science and Craftsmanship 2016 Kyoto University 16.9.20-23

(5 学会発表) Relationship between fore-split and strain distribution around cutting edge in slow-speed orthogonal cutting of *hinoki* (*Chamaecyparis obtusa*) (Yosuke Matsuda, Yuko Fujiwara, Koji Murata, Yoshihisa Fujii) Wood Science and Craftsmanship 2016 Kyoto University 16.9.20-23

(5 学会発表) Preservative Effect of Copper Plates Introduced to Traditional Japanese Style Shake Roofs (Nao Murakami, Yuko Fujiwara, Yoshihisa Fujii) Wood Science and Craftsmanship 2016 Kyoto University 16.9.20-23

(5 学会発表) Strain distribution near machined surface measured by using a dic method and its relation to deformation of wood cells detected by x-ray ct scanning (Yosuke Matsuda, Yuko Fujiwara, Murata Koji, Yoshihisa Fujii) Wood Science and Craftsmanship 2016 Kyoto University 16.9.20-23

(5 学会発表) In-situ copper measurements of the traditional wooden building with a hand-held X-ray fluorescence analyzer (Hitomi Nakano, Satoko Nishikawa, Hidehiro Daidoji, Shintaro Komatani, Hiroshi Kurisaki, Yoshihisa Fujii) Wood Science and Craftsmanship 2016 Kyoto University 16.9.20-23

(5 学会発表) チビタケナガシクイの産卵行動の非破壊評価手法の検討(渡辺祐基、築瀬佳之、藤井義久) 第28回日本環境動物昆虫学会年次大会 信州大学 16.11.11-13

(5 学会発表) How can build Japanese style wooden house in Thailand The 2-nd KU-KUGSA Bilateral Symposium on Food, Environment and Life for the Next Generation Kyoto University 16.12.6-7

(5 学会発表) 画像相関法による切削仕上面付近のひずみ解析 大ひずみや境界面付近のひずみ解析用のアルゴリズムの検討(松田陽介、藤原裕子、村田功二、藤井義久) 日本木材加工技術協会第34回年次大会 宮崎市民プラザ 16.12.13-14

(5 学会発表) すり合わせ・木殺しを行った木材接合部のX線CT観察(片山雄太、澤田豊、築瀬佳之、藤原裕子、藤井義久) 日本木材加工技術協会第34回年次大会 宮崎市民プラザ 16.12.13-14

(5 学会発表) How can build Japanese style wooden house in Indonesia? 2nd JASTIP Bioresources and Biodiversity Lab Workshop Kyoto University 17.1.23

(5 学会発表) 画像相関法による切削仕上面近傍の大ひずみ解析—サブセットの拡大・縮小によるマッチング精度の向上—(松田陽介、藤原裕子、村田功二、藤井義久) 第67回日本木材学会大会 九州大学 17.3.17-19

(5 学会発表) 粘着テープ引きはがし時に発生するアコースティック・エミッションを利用した木材表面の毛羽立ちの程度の評価(第2報)(古川隼人、藤原裕子、築瀬佳之、澤田豊、藤井義久) 第67回日本木材学会大会 九州大学 17.3.17-19

(5 学会発表) すり合わせ・木殺しが木材の接着性能に及ぼす効果(片山雄太、澤田豊、築瀬佳之、藤原裕子、藤井義久) 第67回日本木材学会大会 九州大学 17.3.17-19

(5 学会発表) 損失係数による木材内部の含水率の推定(福井杜史之、築瀬佳之、澤田豊、藤井義久) 第67回日本木材学会大会 九州大学 17.3.17-19

(5 学会発表) 腐朽後乾燥した木材の微細構造と曲げ強度の関係(篠崎美帆、藤原裕子、築瀬佳之、澤田豊、藤井義久、森満範) 第67回日本木材学会大会 九州大学 17.3.17-19

(5 学会発表) X線CTおよびAE法によるチビタケナガシンクイの産卵行動の非破壊評価(渡辺祐基、築瀬佳之、藤井義久) 第67回日本木材学会大会 九州大学 17.3.17-19

(6 講演) 木に学び、木造を護る 全国国宝重要文化財所有者連盟 東京 16.6.23

(6 講演) 木材の基本的性質 近畿中国森林管理局平成28年度研修会 大阪 16.12.9

(6 講習会) 海外の木工機械業界事情 品質管理技術に注目して 全日本木工機械商業組合研修 東京 16.11.5

(6 講習会) 木材・木造の劣化と耐久性 ちりめん街道防災事業 京都府与謝野町 16.7.30-31、平成28年石川県ヘリテージマネージャー育成講習会 金沢 16.9.10、日本伝統建築棟梁研修 米原 16.11.21

(6 講習会) 木材の劣化診断技術・一次診断・二次診断 木材劣化診断士講習会 東京 16.8.2, 16.9.13

(6 講習会) 木造の劣化診断技術 住宅メンテナンス診断士講習会 大阪・名古屋・東京 16.8.5, 16.8.29, 16.11.8

(7 所属学会) International Research Group on Wood Protection、精密工学会、日本環境動物昆虫学会、日本建築学会、日本材料学会、日本文化財科学会、日本木材加工技術協会、日本木材学会、日本木材保存協会、文化財保存修復学会

(8 教育) 京都大学農学部森林科学科、京都大学大学院農学研究科、東京大学大学院農学生命科学研究科非常勤講師、京都府立大学農学部非常勤講師

## 二神 葉子 FUTAGAMI Yoko (文化財情報資料部)

(1 公刊図書) (江村知子、境野飛鳥、二神葉子、増渕麻里耶)『世界遺産用語集(改訂版)』東京文化財研究所 150p 17.3

(3 論文) Combining Statistical Tools and Ecological

Assessments in the Study of Biodeterioration Patterns of Stone Temples in Angkor (Cambodia) (G. Caneva, F. Bartoli, V. Savo, Y. Futagami & G. Strona) *Scientific Reports*, 6:32601 pp.1-8 16.9

(3 論文) ウェブデータベースによる画像情報の公開—尾高鮮之助調査撮影記録を例に—(小山田智寛、福永八朗、高橋佑太、二神葉子)『保存科学』56 pp.155-164 17.3

(3 論文) 無形文化遺産の保護に関する第11回政府間委員会の概要と課題『無形文化遺産研究報告』11 pp.1-16 17.3

(4 解説) 第40回世界遺産委員会ニュース『世界遺産年報』2017 pp.30-31 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 16.12

(5 学会発表) 尾高鮮之助調査撮影記録のデータベース化とその活用事例(二神葉子、福永八朗、小山田智寛、高橋佑太) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.26

(7 所属学会) ICOMOS、地理情報システム学会、日本第四紀学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 文化審議会専門委員(世界文化遺産・無形文化遺産部会世界文化遺産特別委員会)

## 本多 貴之 HONDA Takayuki (客員研究員)

(2 報告) 南蛮漆器に使われた漆・接着剤『公開研究会予稿集 南蛮漆器の多源性を探る』pp.16-17 東京文化財研究所 17.3

(2 報告) 名物裂に使用されている金属糸の材質調査(吉田滯代、早川泰弘、本多貴之)『五島美術館研究紀要』5 pp.106-114 五島美術館 17.3

(4 解説) マイクロUV照射装置による高分子劣化機構の解析『マテリアルライフ学会誌』28 pp.29-35 マテリアルライフ学会 16.5

(5 学会発表) PY-GC/MS analysis of the coloring materials of a Yomeimon gate of the Nikko Toshogu Shrine (Honda Takayuki, Nobuhiko Kitano, Noritake Sato) PYRO2016 France, Nancy, Factory of Pharmacy 16.5.9-12

(5 学会発表) 文化財保存修復に用いられる Paraloid™ B-72 と溶媒の相互作用に関する研究(岡本駿、早川典子、本多貴之) 日本文化財科学会第33回大会 奈良大学 16.6.4-5

(6 講演) 科学分析で見えてくる繊維と文化財の関わり 平成28年度繊維学会年次大会 タワーホール船堀 16.6.9

(6 講演) スウェーデンの南蛮漆器の特徴と科学 漆サミット2016 明治大学 グローバルフロント 16.11.5

(6 講演) 南蛮漆器に使われた漆・接着剤 公開研究会 南蛮漆器の多源性を探る 東京文化財研究所 17.3.5

(7 所属学会) 高分子学会、日本化学会、日本文化財科学会、高分子分析研究懇談会、日本塗装技術協会

**前川佳文** MAEKAWA Yoshifumi (文化遺産国際協力センター)

(2 報告) Cenacolo di Sant'Apollonia CRISTO IN PIETA', Studio, Ricerca e Intervento di Restauro (Yoshifumi Maekawa, Gioia Germani, Ottaviano Caruso, Bartolomeo Ciccone) La Soprintendenza Archeologia Belle Arti e Paesaggio per la città metropolitana di Firenze e per le province di Pistoia e Prato 16.9.20

(2 報告) コンスウエムヘヴ墓壁画の保存修復に向けた事前調査報告 『早稲田大学エジプト学研究』23 早稲田大学エジプト学研究所 17.3

(2 報告) 『ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究 平成28年度成果報告書』(前川佳文、増淵麻里耶、嶋原由美) 58p 東京文化財研究所 17.3

(2 報告) 『トルコ共和国における壁画技法と保存管理体制に関する報告 平成28年度成果報告書』(前川佳文、増淵麻里耶) 32p 東京文化財研究所 17.3

(2 報告) ミャンマー・バガン遺跡群における壁画の地震被害に関する調査 『平成28年度 文化庁委託文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「ミャンマー・バガン遺跡群における地震被害に関する調査」事業報告書』 pp.63-68 東京文化財研究所 17.3

(5 学会発表) 終末期古墳における目地漆喰使用箇所の検討(朽津信明、前川佳文) 日本文化財科学会第33回大会 奈良大学 16.6.4-5

(5 学会発表) 後期・終末期古墳における目地材料の骨材について(前川佳文、朽津信明) 日本文化財科学会第33回大会 奈良大学 16.6.4-5

(5 学会発表) アッシャーノ・サンティッポリート教会主祭壇壁画の調査研究と保存修復—彩色層補強と補彩作業— 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25-26

(6 講演) Wall paintings Conservation projects by Japan Center for International Cooperation in Conservation in Bagan 国際協力機構(JICA)「遺跡保全地における観光インフラに関する研修」東京文化財研究所 16.5.31

(6 講演) バガン遺跡煉瓦造建造物外壁の保存修復について ミャンマー宗教文化省考古国立博物館局バガン支局 16.7.27

(6 講演) トルコでの壁画保存事業計画について ガーズィ大学芸術学部文化財学科/東京文化財研究所合同セミナー ガーズィ大学(トルコ)、トルコ共和国文化観光省文化遺産博物館局/東京文化財研究所合同セミナー トルコ共和国文化観光省、トルコ共和国文化観光省ネヴシェヒル保存修復センター/東京文化財研究所合同セミナー アルゴスホテル・カップドキア 16.10.31、16.11.1、16.11.3

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会、Associazione Bastioni、Associazione Amici dell'Opificio

**前原 恵美** MAEHARA Megumi (無形文化遺産部)

(2 報告) 常磐津節の伝授と家元制度をめぐって 『近代における能楽の伝授と受容の諸相—免状に見る梅若家と素人弟子』 pp.125-140 三浦裕子(研究代表者) 17.3

(2 報告) 『「吉原細見」に見られる男芸者一覧(稿)』 109p 前原恵美(研究代表者) 17.3

(4 資料紹介) 三味線音楽の旋律型研究—町田佳聲をめぐって—(資料DVD付) 『楽劇学』24 pp.126-128 楽劇学会 17.3

(4 エッセイ) 江島弁財天に寄せる女性芸能者の心意気「相州江之嶋弁財天開帳参詣群集之図」『宮城會々報』227 巻頭カラー 2p 箏曲宮城会 17.1

(6 講義) 能楽おもしろ対談 響き合う中世と近世の音楽—能・狂言と常磐津(ときわづ)—(三浦裕子、前原恵美) 武蔵野大学生涯学習講座 武蔵野大学千代田サテライト教室 17.3

(7 所属学会) 楽劇学会、東洋音楽学会

(7 委員会等) 文化庁文化財部伝統文化課芸能部門非常勤調査員

**増淵 麻里耶** MASUBUCHI Mariya (アソシエイトフェロー)

(1 公刊図書)(江村知子、境野飛鳥、橋本広美、二神葉子、増淵麻里耶)『世界遺産用語集(改訂版)』東京文化財研究所 150p 17.3

(1 公刊図書)【分担翻訳】第五章 予想通りの災難—イラク国立博物館の掠奪【著】ローレンス・ロスフィールド/【監訳】山内和也『掠奪されたメソポタミア』NHK出版 pp.149-179 16.6

(2 報告) 中央アナトリアにおける製鉄文化解明の試み(8) 一放射光を用いた鉄製品の組成分析と非破壊観察方法の開発—『2016年度トルコ調査報告会/第27回トルコ調査研究会』 pp.48-49 中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所 17.3

(2 報告) 『ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究 平成28年度成果報告書』(前川佳文、増淵麻里耶、嶋原由美) 58p 東京文化財研究所 17.3

(2 報告) 『トルコ共和国における壁画技法と保存管理体制に関する報告 平成28年度成果報告書』(前川佳文、増淵麻里耶) 32p 東京文化財研究所 17.3

(3 論文) 中央アナトリア、カマン・カレホユック出土鉄製品に見る「鉄器時代」のはじまりに関する一考察『西アジア考古学』17 pp.89-103 日本西アジア考古学会 16.5

(3 論文) The Chemical Characterization of Iron and Steel Objects from Kaman-Kalehöyük *Anatolian Archaeological Studies*, 20 pp.51-62 Japanese Institute of Anatolian Archaeology 17.2

(4 編集) Chapter 4 Field Arts and Crafts - Lacquer Crafts *Project of Networking Core Centers for International Cooperation on the Conservation of Cultural Heritage*,

*Safeguarding of Cultural Heritage in Myanmar* pp.87-131  
Tokyo National Research Institute for Cultural Properties  
17.3

(4 校閲) (江村知子、増渕麻里耶) 『各国の文化財保護  
法令シリーズ[21] トルコ【文化・自然遺産保護法】』  
125p 東京文化財研究所 17.3

(5 学会発表) 高德院国宝銅造阿彌陀如来坐像の科学的  
金属状態調査(藤澤明、犬塚将英、増渕麻里耶、森井順之、  
早川典子、佐藤孝雄) 文化財保存修復学会第38回大  
会 東海大学 16.6.26

(5 学会発表) LA-ICP-MSを用いた鉄製文化財の組成分析  
—トルコ共和国出土古代鉄製品の特性化への応用— 日  
本分析化学会第65年会 北海道大学 16.9.16

(6 発表) 中央アナトリアにおける製鉄文化解明の試み  
(8) —放射光を用いた鉄製品の組成分析と非破壊観察  
方法の開発— 第27回トルコ調査研究会 学習院大学  
17.3.5

(6 講演) 東京文化財研究所のユーラシア東部における過  
去の壁画事業とカッパドキアでの事業の構想について  
ガーズィ大学芸術学部文化財保存修復学科/東京文化  
財研究所合同セミナー ガーズィ大学(トルコ)、トル  
コ共和国文化観光省文化遺産博物館局/東京文化財研  
究所合同セミナー トルコ共和国文化観光省、トルコ  
共和国文化観光省ネヴシェヒル保存修復センター/東  
京文化財研究所合同セミナー アルゴスホテル・カッ  
パドキア 16.10.31、16.11.1、16.11.3

(7 所属学会) IIC、日本西アジア考古学会、日本分析化  
学会

#### 間瀬 創 MABUCHI Hajime (客員研究員)

(2 報告) 三重県総合博物館におけるIPM実施事例 『文  
化財の虫菌害』72 pp.16-23 文化財虫菌害研究所  
16.12

(3 論文) 博物館施設におけるゾーニングへのバイオエ  
アロゾル測定法の活用(間瀬創、佐藤嘉則) 『保存科学』  
56 pp.89-98 17.3

(6 講演) 三重県総合博物館におけるIPM実施事例 文  
化財虫菌害研究所第38回文化財の虫菌害・保存対策  
研修会 国立オリンピック記念青少年総合センター  
16.6.17

(6 講演) 博物館における展示環境の構築・管理につい  
て 2016年度文化財保存修復学会公開シンポジウム  
東京文化財研究所 17.1.29

(6 講義) 三重県総合博物館におけるカビ対策 書庫管  
理(カビ対策)に関する説明聴取会 国立国会図書館  
17.2.17

(7 所属学会) 室内環境学会、文化財保存修復学会

#### 丸川 雄三 MARUKAWA Yuzo (客員研究員)

(4 解説) 展示におけるデジタルビューアの導入と活用  
『季刊民族学』40 (4) pp.77-80 16.10

(4 エッセイ) デジタルで見る衣食住 (1) 「近代日本の身  
装文化」 毎日新聞(夕刊) 16.9.8

(4 エッセイ) デジタルで見る衣食住 (2) 「変わりゆく食  
文化」 毎日新聞(夕刊) 16.9.15

(4 エッセイ) デジタルで見る衣食住 (3) 「家を建てる」  
毎日新聞(夕刊) 16.9.29

(5 学会発表) 文化遺産オンラインにおける制作者情報  
の統合研究 アート・ドキュメンテーション学会第9  
回秋季研究集会 東京都写真美術館 16.11.3

(5 学会発表) 身装画像データベース〈近代日本の身装文  
化〉: 画像データの特性と検索システムの構築(高橋晴  
子、丸川雄三) 2016年度アート・ドキュメンテーシ  
ョン学会年次大会 奈良国立博物館 16.6.12

(6 講演) みんなの資料をあつめてみよう—データベー  
スを活用した仮想展示のつくり方— 第449回 みんな  
ウィークエンド・サロン 国立民族学博物館 16.12.25

(6 講演) 連想技術によるデータベース間の関連性の発  
見と活用 映画におけるデジタル保存と活用のための  
シンポジウム 東京国立近代美術館フィルムセンター  
17.1.27

(6 講演) 写真原板データベースの価値について—所蔵  
資料の情報化と活用— page2017「日本写真保存セ  
ンター」セミナー 池袋サンシャイン文化会館7階  
17.2.8

(6 講義) 文化財情報におけるデジタル・アーカイブズ  
の活用 立命館大学映像学部「デジタル・アーカイブ」  
立命館大学充光館(衣笠キャンパス) 16.11.10

(6 講義) 連想による文化財デジタル・アーカイブズの  
活用 立命館大学大学院文学研究科・行動文化情報学  
専攻「情報人文の最前線」立命館大学アート・リサ  
ーチセンター 17.1.11

(7 所属学会) アート・ドキュメンテーション学会

(8 教育) 総合研究大学院大学比較文化学専攻担当教員、  
立命館大学大学院文学研究科・行動文化情報学専攻非  
常勤講師

#### マルティネス・アレハンドロ MARTINEZ Alejandro

(アソシエイトフェロー)

(2 報告) *Post-earthquake Damage Assessment Survey of  
Cultural Heritage Buildings at Bagan Archaeological Zone -  
Quick Report* (友田正彦、北河大次郎、中内康雄、多幾  
山法子、アレハンドロ・マルティネス、金善旭、佐藤弘美、  
ダビデ・メツツイーノ) 66p 東京文化財研究所 16.12

(2 報告) 第4章 カンボジアにおける文化遺産保存修復  
協力、第5章 ミャンマーにおける文化遺産保存修復協  
力、第8章 「考古学的知見から読み取る大陸部東南ア  
ジアの古代木造建築」の開催 『東南アジア諸国等文化  
遺産保存修復協力 平成28年度成果報告書』 pp.23-62、  
pp.63-70、pp.121-132 東京文化財研究所 17.3

(3 論文) 「木造建築遺産の修理方針に関する日欧の比較  
検討 後編—日本の修理事例の分析」 『文化財建造物



研究—保存と修理』2 pp.46-67 文化財建造物保存修理研究会 17.3

(5 学会発表) "The Current Principles for the Preservation of Historic Wooden Monuments in Japan" ICOMOS International Wood Committee 20th International Conference and Symposium ファールン鉱山博物館 16.4.14

(6 講演) "Conservation of Wooden Built Heritage in Japan" Seminar on the Conservation of Wooden Structures in Kizhi Island キジ博物館 16.8.12

(6 司会) 研究会「考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築」東京文化財研究所 17.2.13

(7 所属学会) ICOMOS、建築史学会、日本建築学会、文化財建造物保存修理研究会

### 三浦 定俊 MIURA Sadatoshi (客員研究員)

(1 共著)「第1章温度、第2章湿度、第3章光、第6章衝撃と振動、第7章火災、第8章地震、第9章気象災害、第10章盗難・人的破壊、第11章文化財公開施設に関する法規、第12章博物館資料保存に関する倫理」(三浦定俊、佐野千絵、木川りか)『文化財保存環境学(第2版)』朝倉書店 208p 16.11

(6 講演) 防災を考えた日常管理 みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム事業 第2回研修会 熊本市現代美術館 17.2.1

(6 講習会) 目視による施設調査 文化財IPM実践のための研修会 新宿歴史博物館 16.11.17

(6 講習会) 一歩進んだ温湿度調査 文化財IPM実践のための研修会 新宿歴史博物館 16.11.17

(6 講習会) 文化財のIPM概論 文化財IPMコーディネータ資格講習会 九州国立博物館 16.12.14-16

(7 委員会等) 文化財保存修復学会理事長、IIC-Japan 副会長、ICOM日本委員会監事、東京都文化財保護審議会委員、日本銀行金融研究所貨幣博物館諮問委員、特定非営利法人文化財保存支援機構理事

(8 教育) 上智大学文学部非常勤講師、武蔵野美術大学造形学部非常勤講師

### 三上 豊 MIKAMI Yutaka (客員研究員)

(1 公刊図書)『麻生三郎アトリエ』せりか書房 138p 16.9

(4 編集)『ヨシダ・ヨシエへの手がかり』50p 和光大学三上豊研究室 16.7

(4 記事) 冊子『ヨシダ・ヨシエへの手がかり』をつくって『美術の窓』397 p.84 16.10

(4 エッセイ) 王様コレクションの作家たち『山口長男とM氏コレクション展』図録 pp.2-4 ときの忘れもの 16.10

(7 所属学会) アート・ドキュメンテーション学会

(7 委員会等) アートドキュメンテーション学会評議委員、町田市立国際版画美術館運営協議会委員、町田市

文化プログラム推進計画策定検討委員会委員長 (8 教育) 和光大学表現学部芸術学科教授

### 森井 順之 MORII Masayuki (保存科学研究センター)

(3 論文) 国宝銅造阿弥陀如来坐像の地震対策評価 その1 過去の地震被害および対策(森井順之、安井佑佳、花里利一)『日本建築学会2016年度大会学術講演梗概集』構造II pp.705-706 16.8

(3 論文) 国宝銅造阿弥陀如来坐像の地震対策評価 その2 常時微動測定(安井佑佳、森井順之、佐藤成、花里利一)『日本建築学会2016年度大会学術講演梗概集』構造II pp.707-708 16.8

(3 論文) Conservation of Magai-Wareishi-jizo, A Buddha Statue Carved into a Granite Rockface on the Seashore (M. Morii, N. Kuchitsu, T. Kawaguchi, H. Matsuda and S. Tokimoto) *Science and Art: A Future for Stone* pp.1211-1218 University of the West Scotland 16.10

(3 論文) Conservation of Machu Picchu Archaeological Site: Investigation and Experimental Restoration Works of the "Temple of the Sun" (T. Nishiura, I. Ono, A. Ito, H. Fujita, M. Morii, F. Astete and C. Cano) *Science and Art: A Future for Stone* pp.1227-1236 University of the West Scotland 16.10

(3 論文) 石人山古墳装飾石棺表面に形成した着生生物群集の構造解析(佐藤嘉則、西澤智康、小沼奈那美、犬塚将英、森井順之、木川りか、朽津信明)『保存科学』56 pp.1-14 17.3

(3 論文) 保存科学から見た日本の災害史と被災遺構の保存(朽津信明、森井順之)『保存科学』56 pp.15-32 17.3

(5 学会発表) 透明な覆屋の文化財保護効果に関する検討(朽津信明、森井順之、渡邊尚恵、佐多麻美)文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25-26

(5 学会発表) 高徳院国宝銅造阿弥陀如来坐像の状態調査および表面クリーニング(邊年木尚美、及川崇、小林芳妃、伊藤一洋、渡辺真樹子、鈴木恵梨子、森井順之、早川典子、佐藤孝雄)文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25-26

(5 学会発表) 高徳院国宝銅造阿弥陀如来坐像の科学的金属状態調査(藤澤明、犬塚将英、増淵麻里耶、森井順之、早川典子、佐藤孝雄)文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25-26

(5 学会発表) 国宝銅造阿弥陀如来坐像の地震対策評価 その1 過去の地震被害および対策(森井順之、安井佑佳、花里利一)2016年度日本建築学会大会(九州)福岡大学 16.8.25

(5 学会発表) 国宝銅造阿弥陀如来坐像の地震対策評価 その2 常時微動測定(安井佑佳、森井順之、佐藤成、花里利一)2016年度日本建築学会大会(九州)福岡大学 16.8.25

(5 学会発表) Conservation of Magai-Wareishi-jizo, A Buddha



Statue Carved into a Granite Rockface on the Seashore (M. Morii, N. Kuchitsu, T. Kawaguchi, H. Matsuda and S. Tokimoto) 13th International Congress on the Deterioration and Conservation of Stone University of the West Scotland 16.9.6-10

(5 学会発表) Conservation of Machu Picchu Archaeological Site: Investigation and Experimental Restoration Works of the "Temple of the Sun" (T. Nishiura, I. Ono, A. Ito, H. Fujita, M. Morii, F. Astete and C. Cano) 13th International Congress on the Deterioration and Conservation of Stone University of the West Scotland 16.9.6-10

(5 学会発表) 風化形態の違いによる砂岩の侵蝕速度の違い (朽津信明、森井順之、西山賢一) 平成28年度日本応用地質学会研究発表会 日立システムズホール仙台 16.10.26-27

(7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会、東アジア文化遺産保存学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 羅漢寺五百羅漢調査委員、大悲山石仏保存整備指導委員会委員、屋形古墳群整備基本計画策定委員、日本建築学会熱環境運営委員会湿気小委員会文化財の保存と活用のための環境制御ワーキンググループ委員

(8 教育) 慶應義塾大学文学部非常勤講師

#### 安永 拓世 YASUNAGA Takuyo (文化財情報資料部)

(4 解説) 祇園南海 熊野勝景図巻、野呂介石 松溪清暑図軸 『中国国華博物館国際交流系列叢書 東方美術15至19世紀中韓日絵画』 pp.74-79、pp.84-85 時代出版伝媒股份有限公司 16.11

(4 記事) 展覧会評「我が名は鶴亭」展を観て 『美術研究』421 pp.21-30 17.3

(6 発表) 売立目録のデジタル化事業について 東京文化財研究所 平成28年度 第3回総合研究会 東京文化財研究所 16.7.5

(6 発表) 与謝蕪村筆「十宜図」について 第1回 表象文化研究会 研究発表会 青山学院大学 16.11.26

(6 講演) 野呂介石の交友と門人一紀州画壇への影響を中心にー和歌山市立博物館 特別展「城下町和歌山の絵師たちー江戸時代の紀州画壇ー」展 講演会 和歌山市立博物館 16.11.12

(7 所属学会) 美術史学会、和歌山地方史研究会

(7 委員会等) 八尾市史専門部会員

#### 山田 大樹 YAMADA Hiroki (アソシエイトフェロー)

(2 報告) Investigation on the Transformation of Townscape: Case Study of the Townscape along Nyala Dan Street (Hiroki Yamada, Naoaki Furukawa) *Project for Investigation of Damage Situation of Cultural Heritage in Nepal, Survey of Historic Settlement* pp.35-62 TNRICP16.6

(2 報告) Conjecture on the Factors Affecting the Damage

Level of Buildings, Based on Investigation on the Transformation of the Townscape (Hiroki Yamada, Naoaki Furukawa) *Project for Investigation of Damage Situation of Cultural Heritage in Nepal, Survey of Historic Settlement* pp.89-98 TNRICP 16.6

(2 報告) イランの建築と文化 (山田大樹、山内和也) 『平成27年度 武庫川女子大学 トルコ文化研究センター 研究会 講演録』 pp.5-30 武庫川女子大学 トルコ文化研究センター 17.2

(2 報告) ネパール国における文化遺産保存修復協力 『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成28 年度成果報告書』 pp.72-112 東京文化財研究所 17.3

(3 論文) ネパール・カトマンズ盆地の歴史的集落コカナの町並み変容とその要因 ～Nyala Dan 通り沿いにおけるケーススタディ～ (山田大樹、古川尚彬) 『日本建築学会2016年度大会学術講演梗概集』都市計画 pp.1009-1010 日本建築学会 16.8

(3 論文) The transformation of the traditional building units and lots of the historical town of Khokana in Kathmandu valley from 1934 until immediately after the 2015 Nepal Gorkha earthquake : Case study along Nyala Dan street (Hiroki Yamada, Naoaki Furukawa) ISIA2016 pp.1883-1888 ISIA 16.9

(4 編集) (友田正彦、山田大樹) 『ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業 歴史的建造物の構造に関する調査報告書』 110p 東京文化財研究所 16.10

(4 編集) (Masahiko Tomoda, Hiroki Yamada) *Project for Investigation of Damage Situation of Cultural Heritage in Nepal, Structural Survey of Historic Buildings*, 110p TNRICP 16.10

(4 編集) (友田正彦、山田大樹) 『平成28年度 文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」報告書』 80p 東京文化財研究所 17.3

(4 翻訳) 第一章 イラクにおける文化遺産保護 (二〇〇三年以前)ー長期的な考察ー (ローレンス・ロスフィールド) 『掠奪されたメソポタミア』 pp.27-53 NHK出版 16.6

(5 学会発表) ネパール・カトマンズ盆地の歴史的集落コカナの町並み変容とその要因 ～Nyala Dan 通り沿いにおけるケーススタディ～ (山田大樹、古川尚彬) 日本建築学会2016年度大会 福岡大学 16.9.4

(5 学会発表) The transformation of the traditional building units and lots of the historical town of Khokana in Kathmandu valley from 1934 until immediately after the 2015 Nepal Gorkha earthquake : Case study along Nyala Dan street (Hiroki Yamada, Naoaki Furukawa) ISIA2016 東北大学 16.9.26

(6 発表) Overview of the project and result Presentation meeting on "The Project for Investigation of Damage Situation of Cultural Heritage in Nepal" The office of

Department of Archaeology, Nepal 16.5.3  
 (6 講演) Transformation of the Townscape of Khokana  
 Presentation meeting on the Reconstruction and  
 Rehabilitation of Historical settlement of Khokana  
 Monastery hall in Khokana 16.9.5  
 (6 講演) Current Issues on the Historic Urban Landscape  
 The Conference on the Historic Urban Landscape Tabriz,  
 Iran 17.1.7  
 (6 講義) エスファハーンにおける世界遺産の現状と課  
 題 中世建築研究会 東京大学 16.11.5  
 (6 講義) Background of the Historic Townscape in Japan  
 On-site Training Program in Japan, on the Preservation  
 and Management of the Historic Settlements/Districts  
 金沢大学 17.3.6  
 (6 講義) Discussion for our next activities On-site Training  
 Program in Japan, on the Preservation and Management  
 of the Historic Settlements/Districts 東京文化財研究所  
 17.3.11  
 (6 司会) The Conference on the preservation of Historic  
 Settlements in Kathmandu Valley Local Development  
 Training Academy in Lalitpur 16.11.30  
 (7 所属学会) 日本イコモス国内委員会、日本建築学会、  
 日本都市計画学会

#### 山梨 絵美子 YAMANASHI Emiko (副所長)

(2 報告) JAL2016WS「日本美術の資料に関わる情報発信  
 の向上のための提言III」への対応―“またもや”感を越え  
 て(水谷長志、江上敏哲、安江明夫、茂原暢、永崎研宣、  
 小篠景子、山梨絵美子)『JALプロジェクト2016「海外  
 日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」  
 公開ワークショップ「日本美術の資料に関する情報発  
 信力向上のための提言III」報告書』pp.155-210 JALプ  
 ロジェクト2016「海外日本美術資料専門家(司書)の招  
 へい・研修・交流事業」実行委員会 17.3.31  
 (3 論文) 日本における美術史関連文献の分類の変遷―  
 『日本美術年鑑』を例に『「美術」概念の再構築』  
 pp.273-287 brucke 17.1.27  
 (6 発表) Materials and Database for the Study of Japanese  
 Cultural Properties at Tokyo National Research Institute for  
 Cultural Properties JALプロジェクト海外ワークショッ  
 プ 米国ピッツバーグ大学 16.10.17  
 (6 発表) ギャラリートーク「描かれた女たち」展関連  
 企画 八王子市夢美術館 16.10.23  
 (6 発表) JAL2014-2016の提言を受けて JAL アンサーシ  
 ンポジウム 東京国立近代美術館 17.3.2  
 (6 講演) 黒田清輝のひとと芸術「生誕150年黒田清輝近  
 代絵画の巨匠展」講演会 調布市文化会館たづくり く  
 すのきホール、中野ZERO視聴覚ホール、あきるの市  
 中央公民館、新宿歴史博物館 16.4.6、16.4.11、16.4.13、  
 16.4.16  
 (6 講演) 絵画における女性美 中山道広重美術館

16.5.21  
 (6 講演) 描かれた女たち―画家はなぜ女性を描くのか  
 北見文化センター 16.7.23  
 (6 講演) 生誕150年黒田清輝とその時代 北区ことぶ  
 き大学 北区赤羽会館 16.9.27  
 (6 講演) 黒田清輝と五味清吉 岩手県立美術館 17.1.14  
 (6 パネリスト) 黒田清輝のABC(山梨絵美子、三浦篤、  
 松嶋雅人)「生誕150年黒田清輝 近代絵画の巨匠展」  
 開催記念企画トークレクチャーシリーズ 青山ブック  
 センター 16.4.19  
 (7 委員会等) 秋田市千秋美術館協議会美術作品等評価  
 審査委員会委員、秋田県立美術館アドバイザー会議委  
 員、大分市美術館美術品収集委員会委員、迎賓館の改  
 修に関する懇談会委員、文化庁文化審議会美術品補償  
 会議委員、静岡県立美術館専門委員、横須賀市美術館  
 美術品選定評議委員、豊島区文化デザイン課美術品活用  
 委員、江戸東京博物館作品収蔵委員会委員、東京都美  
 術館運営委員会委員

#### 山村みどり YAMAMURA Midori (日本学術振興会特別研究員)

(1 公刊図書) Rakuko Naito White Stone Gallery pp.3-7  
 16.9  
 (4 解説) 表象から表現へ：李文(リー・ウェン)の《鳥た  
 ち》Lee Wen pp.2-3 17.3  
 (4 翻訳) From Representation to Articulation: Lee Wen's  
 Birds Series Lee Wen pp.2-3 17.3  
 (4 記事) Yukinori Yanagi Art in America, p.93 17.1  
 (6 発表) 広島で地球を針治療する一口ベルト・ヴィ  
 リャヌエヴァのエコ・アート 東京文化財研究所  
 16.10.3  
 (6 発表) 国吉以降のニューヨーク〜草間彌生の場合(千  
 住博、高橋秀治、山村みどり、杉村浩哉、赤木里香子、  
 奥村一郎、山田隆行、才士真司) 日系アメリカ人アー  
 ティスト研究シンポジウム 岡山大学 16.10.9  
 (6 講演) Revisiting the 1960s, Globalization, Monopoly,  
 and Art Outlaws: Yayoi Kusama and the Rise of the Leo  
 Castelli Gallery ニューヨーク大学 17.2.13  
 (6 講習会) Yayoi Kusama: Inventing the Singular 出版記  
 念会 Ortigas Library 16.7.29  
 (6 パネリスト) (Young Moon, Sooran Choi, Brynn Hatton,  
 Elizaveta Butakova, Young Ji Lee) Dismantling Center/  
 Periphery Model in Global Art History: Art and Politics from  
 the 1960s to the 1980s College Art Association Annual  
 Conference, New York 17.2.16  
 (6 パネリスト) In Conversation: Kusama's Path to Infinity  
 Smithsonian Hirshhorn Museum and Sculpture Garden  
 17.3.9

#### 山本 記子 YAMAMOTO Noriko (客員研究員)

(7 所属学会) ICOM、IIC、IIC-Japan、文化財保存修復学会  
 (8 教育) 京都嵯峨芸術大学 造形専門演習・造形専門

**横山 晋太郎** YOKOYAMA Shintaro (客員研究員)

(7 委員会等) 日本航空協会航空遺産継承基金専門委員

**吉田 直人** YOSHIDA Naoto (保存科学研究センター)

(3 論文) 彩色材料への直管形蛍光灯と白色LED光照射時における反射スペクトルの比較(吉田直人、山田祐子、石井恭子)『保存科学』56 pp.143-153 17.3

(4 解説) 水俣条約による博物館照明への影響—白色LEDへの転換期を迎えて—『月刊文化財 平成28年10月号』pp.12-15 16.10

(5 学会発表) 画絹の生糸形状が発色に与える影響(山田祐子、志村明、秋本賀子、加藤雅人、吉田直人) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.26

(6 講演) 文化財施設における 保存環境の把握について 文化庁 公開承認施設担当者会議 都道府県会館 16.8.1

(6 講演) 文化財建造物における博物館環境管理 —資料を守るために— 神奈川県立歴史博物館 人文講座 宇徳ビル 16.11.12

(6 講演) 展示に用いる素材の選択 2016年度文化財保存修復学会公開シンポジウム 文化財を伝える—展示技術と保存修復学— 東京文化財研究所 17.1.29

(6 講義) 文化財保存の科学 文化庁 第10回 指定文化財(美術工芸品) 企画・展示セミナー 東京国立博物館 16.7.4、京都国立博物館 16.10.24

(6 講義) 環境制御(保存環境管理) 平成28年度アーカイブズ・カレッジ 国文学研究資料館 16.9.4

(6 講義) 博物館・美術館の次世代照明の可能性と課題—白色LEDへの転換期を迎えて— 平成28年度埼玉県博物館連絡協議会 後期研究会 埼玉県立歴史と民俗の博物館 16.11.10

(6 講義) 展示照明としての白色LED—現状と課題— 平成28年度しまねミュージアム協議会 秋の研修会 島根県立石見美術館 16.12.1

(6 講習会) 見る光と調べる光—史料の科学調査— 科研基盤研究C「日本絵画の〈復元〉に関する基礎的研究」主催第2回ワークショップ 東京大学 16.12.17

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会  
(7 委員会等) 文化財保存修復学会理事、文化財保存修復学会第39回大会プログラム作成委員会副委員長、2016年度文化財保存修復学会公開シンポジウム実行委員会委員、2016年度日本文化財科学会会誌編集委員、

「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」保存環境ワーキング・グループ専門委員、文化庁「美術工芸品の公開活用の現状調査事業」技術審査専門委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院文化財保存学専攻システム保存学連携教授、大妻女子大学非常勤講師

**呂 俊民** RO Toshitami (客員研究員)

(4 解説) 文化財のための美術館・博物館における空気清浄の役割『空気清浄』56(6) pp.40-47 17.3.31

(5 学会発表) 実験用実大展示ケースを用いたケース内空気環境の研究—展示ケースのガス濃度評価方法の提案—(呂俊民、古田嶋智子、林良典、須賀政晴、佐藤瑠璃、佐野千絵) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25-6.26

(5 学会発表) 実験用実大展示ケースを用いたケース内空気環境の研究—展示ケース内温湿度の測定とCFD解析—(古田嶋智子、呂俊民、林良典、須賀政晴、佐藤瑠璃、佐野千絵) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25-6.26

(5 学会発表) 実験用実大展示ケースを用いたケース内空気環境の研究—気流性状の測定とCFD解析—(須賀政晴、呂俊民、古田嶋智子、林良典、佐藤瑠璃、佐野千絵) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25-6.26

(5 学会発表) 展示台からの酢酸ガス遮蔽材料についての検討(佐野千絵、古田嶋智子、呂俊民) 文化財保存修復学会第38回大会 東海大学 16.6.25-6.26

(5 学会発表) 美術館・博物館における展示空間の空気環境に関する研究 その3. 空気清浄化機能を有した実験用展示ケースの評価(呂俊民、古田嶋智子、林良典、須賀政晴、佐野千絵) 2016年度日本建築学会大会(九州) 福岡大学 16.8.24-8.26

(6 講義) 有害な化学物質のガス濃度測定について 第36回文化財防虫防菌処理実務講習会 国立オリンピック記念青少年センター 16.10.13-14

(6 講義) 温湿度環境の測定と解析 第6回文化財IPMコーディネータ資格取得講習会 九州国立博物館 16.12.14-16

(7 所属学会) 室内環境学会、日本建築学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 室内環境学会化学物質分科会

(8 教育) 武蔵野美術大学学芸員課程非常勤講師

## 5. 研究交流

1. 職員の海外渡航 .....	151
2. 招へい研究員等 .....	156
3. 海外研究者等の来訪 .....	158
4. 主要来訪者、施設見学 .....	159





## 1. 職員の海外渡航

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
友田正彦	ベトナム	28.4.14 ～ 4.18	SEASREP シンポジウムへの参加	先方負担(国際交流基金アジアセンター)
久米正吾	キルギス	28.4.22 ～ 4.26	モル・ブラク 1 遺跡の発掘調査	科学研究費
友田正彦	ネパール	28.4.22 ～ 4.26	協力協定書署名、現地関係者打合せ、被災建造物調査等	受託 (文化庁・ネパール)
山田大樹	ネパール	28.4.27 ～ 5.8	調査成果報告会開催、被災建造物調査等	受託 (文化庁・ネパール)
岡田健	アメリカ	28.4.30 ～ 5.9	アメリカの美術館等所蔵の中国仏教造像及び造像銘の調査	先方負担 (龍谷大学)
石村智 鈴木絢香	グアム	28.5.21 ～ 5.29 28.5.25 ～ 5.29	太平洋芸術祭でのワークショップ参加及び準備	受託 (文化庁・大洋州)
山田大樹	ネパール	28.5.28 ～ 6.4	被災建造物応急補強のための準備作業等	受託 (文化庁・ネパール)
友田正彦	ネパール	28.6.13 ～ 6.19	被災建造物応急補強工事实施支援、専門家会合参加等	受託 (文化庁・ネパール)
亀井伸雄 中山俊介 増渕麻里耶 前川佳文	トルコ	28.6.18 ～ 6.24	壁画の保存状態現地調査 カッパドキア岩窟教会群壁画の状態調査及び文化観光省等の訪問	所長裁量(壁画保存状態現地調査) コ 03
加藤雅人 小田桃子 元喜載 後藤里架 山之上理加	ドイツ	28.7.3 ～ 7.16 28.7.3 ～ 7.17 28.7.4 ～ 7.8	ワークショップ 「紙本・絹本文化財の保存と修復」開催	コ 05
古澤誠		28.7.6 ～ 7.10	ワークショップ 「紙本・絹本文化財の保存と修復」現地視察	運営交付金 (管理物件費)
石村智	フィリピン	28.7.3 ～ 7.8	「無形文化遺産と災害リスクマネジメント」事業で実施するフィリピン調査への参加	先方負担 (無形センター)
山田大樹	ネパール	28.7.3 ～ 7.9	被災建造物応急補強工事实施支援等	受託 (文化庁・ネパール)
早川泰弘	中国	28.7.5 ～ 7.8	中国美術館での国際シンポジウム参加	先方負担 (中国美術館)
前川佳文 嶋原由美 増渕麻里耶	ミャンマー	28.7.18 ～ 7.29 28.7.20 ～ 7.29	バガン遺跡煉瓦造建造物の保存修復に向けた材料実験及び現地関係者打合せ	コ 03
友田正彦		28.7.23 ～ 7.29	バガン遺跡群調査及び現地関係者打合せ、マンダレーにおける専門家会合出席	コ 02
中山俊介		28.7.24 ～ 7.29	ミャンマーの文化遺産保護に係る現地視察	所長裁量(壁画保存状態現地調査)
皿井舞	イタリア	28.7.30 ～ 8.11	「日本仏像展」開催に伴う会場運営業務	先方負担(文化庁)

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
加藤雅人	台湾	28.8.9 ～ 8.13	国際研修「染織品の保存と修復」事業のための協議	コ 05
小田桃子				
菊池理予				
林昌宏				運営交付金 (管理物件費)
二神葉子	モンゴル	28.8.9 ～ 8.15	ハン・ヘンティプロジェクトに係る調査	科学研究費
石村智	キリバス	28.8.16 ～ 8.23	スカイスケープ科研の調査協力	先方負担 (南山大学・科学研究費)
友田正彦	ブータン	28.8.28 ～ 9.3	版築造民家の類型と編年に関する現地調査	科学研究費
亀井伸雄		28.8.28 ～ 9.5		
増淵麻里耶	イギリス	28.8.29 ～ 9.7	鉄製品のサンプリング及び文献調査	科学研究費
飯島満	韓国	28.8.29 ～ 8.31	韓国国立無形遺産院との共同研究会への参加	ム 05
菊池理予				
今石みぎわ				
石村智				
二神葉子				
久保田裕道				
前川佳文	イタリア	28.8.30 ～ 9.16	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡の壁画調査、 現地関係者打合せ	科学研究費
山田大樹	ネパール	28.8.31 ～ 9.11	歴史的集落調査成果報告会開催、 被災建造物調査等	受託 (文化庁・ネパール)
友田正彦		28.9.4 ～ 9.9		
森井順之	イギリス	28.9.4 ～ 9.10	第13回石の劣化と保存に関する国際会議での発表	ホ 04
橘川英規	ルーマニア	28.9.12 ～ 9.18	2016 EAJRS conference in Bucharest での講演及び 参加	先方負担 (日本資料 専門家欧州協会)
小林公治	ポルトガル スペイン トルコ	28.9.17 ～ 10.8	各国内での南蛮漆器およびアジア製漆器等の調査 と意見交換	科学研究費
中山俊介	スウェーデン ドイツ イギリス	28.9.18 ～ 9.30	近代文化遺産 (美術工芸品) の保存活用に関する 先進事例調査	受託 (文化庁・近代 産業遺産)
北河大次郎	スウェーデン ドイツ イギリス イタリア ギリシャ	28.9.18 ～ 10.7		受託 (文化庁・近代 産業遺産)、 所長裁量 (組積造 建造物調査)
前川佳文	ミャンマー	28.9.24 ～ 9.30	バガン考古遺跡群における建造物及び壁画の地震 被害状況調査	コ 03
金善旭				コ 02
友田正彦	アルメニア イラン	28.9.26 ～ 10.6	アルメニア及びイランにおける協力事業予備調査	コ 02
安倍雅史				
佐野千絵	イラン	28.10.1 ～ 10.6	イランにおける協力事業予備調査	コ 02
山田大樹		28.10.1 ～ 10.14	イランにおける協力事業予備調査 / 町並み保存に 関する調査	コ 02、 科学研究費
石村智	ネパール	28.10.4 ～ 10.9	カトマンズ・コカナにおける無形文化遺産 (祭礼) の調査	受託 (文化庁・ネパール)
久保田裕道				

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
山梨絵美子	アメリカ	28.10.15 ～ 10.19	招へい者グッド長橋広行氏(ピッツバーグ大学図書館)への現地ヒアリングならびにセミナー講師	先方負担 (JAL2016 実行委員会)
二神葉子	イタリア フランス	28.10.17 ～ 10.28	文化財防災に関する調査 第40回世界遺産委員会継続審議出席	科学研究費、 所長裁量 (世界遺産継続審議)
鈴木絢香	フランス	28.10.22 ～ 10.30	第40回世界遺産委員会継続審議出席及び近代文化遺産の調査	所長裁量 (世界遺産継続審議)
中山俊介	フランス トルコ	28.10.22 ～ 11.5	第40回世界遺産委員会継続審議出席及び近代文化遺産の調査 / 壁画保存事業に関する打合せ	所長裁量 (世界遺産継続審議)
友田正彦	タイ	28.10.18 ～ 10.22	ユネスコ主催「世界遺産サイトにおける煉瓦造遺跡の保存に関する国際シンポジウム」出席	先方負担 (ユネスコ)
石村智	フィジー	28.10.22 ～ 10.30	「無形文化遺産と災害リスクマネジメント」事業で実施するフィジー調査への参加	先方負担(無形センター)、受託(文化庁・大洋州)
増渕麻里耶	トルコ	28.10.25 ～ 11.14	鉄製品の調査及び壁画の保存管理体制についての調査	コ 03、 科学研究費
前川佳文		28.10.29 ～ 11.14	壁画の保存管理体制についての調査	コ 03
北河大次郎	ミャンマー	28.10.25 ～ 10.30	バガン考古遺跡群における建造物の地震被害調査	受託 (文化庁・ミャンマー)
友田正彦		28.10.25 ～ 11.3		
金善旭		28.10.27 ～ 11.3		
マルティネス アレハンドロ		28.10.27 ～ 11.6		
皿井舞	イタリア	28.10.27 ～ 10.31	7th International Conference of Art Libraries への参加	シ 01
川野邊渉	イタリア	28.11.7 ～ 11.12	ICCROM 理事会出席	先方負担 (文化庁)
中村恵	メキシコ	28.11.7 ～ 11.14	国際研修 「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営交付金 (管理物件費)
中山俊介		28.11.7 ～ 11.19		コ 05
加藤雅人				
小田桃子				
元喜載		28.11.7 ～ 11.27		
久保田裕道	韓国	28.11.18 ～ 11.20	済州チルモリ堂燃燈グッ保存会が開催する国際会議「国家重要無形文化財済州チルモリ堂燃燈グッの発展方向と課題」への参加	先方負担 (済州チルモリ堂燃燈グッ保存会)
山田大樹	ネパール	28.11.23 ～ 12.6	歴史的集落の保全に関する会議開催、被災建造物調査等	受託 (文化庁・ネパール)
友田正彦		28.11.25 ～ 12.2		
金善旭				
亀井伸雄		27.11.26 ～ 12.2	歴史的集落の保全に関する会議における講演及び現地視察	コ 02
中山俊介	ドイツ	28.11.27 ～ 12.5	ワークショップ「漆工品の保存と修復」の開催	コ 05
嶋原由美		28.11.27 ～ 12.14		
後藤里架		28.12.2 ～ 12.9		
江村知子		28.12.7 ～ 12.14		
山梨絵美子				

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
前川佳文	イタリア	28.11.28 ~ 12.11	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡の壁画調査、 現地関係者打合せ	科学研究費
増渕麻里耶		28.12.4 ~ 12.11		
石村智	カンボジア	28.12.10 ~ 12.15	ポスト・アンコール期遺跡の調査	科学研究費
久保田裕道	ベトナム	28.12.14 ~ 12.21	「無形文化遺産と災害リスクマネジメント」事業 で実施するベトナム調査への参加	先方負担 (無形センター)
安倍雅史	イラン	28.12.20 ~ 12.27	国立博物館所蔵資料の分析	科学研究費
森井順之	ネパール	28.12.24 ~ 12.28	歴史的建造物の常時微動測定、劣化状態調査	科学研究費
前川佳文	エジプト	28.12.27 ~ 1.6	ルクソール西岸コンスウエムヘヴ墓壁画の保存修 復に向けた材料研究及び現地調査	科学研究費
山田大樹	イラン	29.1.1 ~ 1.11	イラン歴史的建造物保存シンポジウム出席、タブ リーズ・イスラーム芸術大学における講義、マシュ ハド歴史的地区における都市計画的調査	科学研究費
安倍雅史	バーレーン	29.1.5 ~ 1.31	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査	科学研究費
岡田健	中国	29.1.10 ~ 1.17	敦煌研究院保護研究所共同研究室の廃止にともな う整理事業、情報収集	所長裁量経費(敦 煌研究院保護研究所)
マルティネス アレハンドロ	カンボジア	29.1.22 ~ 1.29	タネイ遺跡保存整備計画策定のためのワークショッ プ開催及びアンコール国際調整委員会会合出席	コ 02
友田正彦		29.1.23 ~ 1.29		
早川典子	ミャンマー	29.2.5 ~ 2.9	漆工品ワークショップの開催	ホ 05
山府木碧		29.2.5 ~ 2.21	漆工品ワークショップの開催及び バガン遺跡壁画群の調査	コ 03
嶋原由美		29.2.5 ~ 2.28	バガン遺跡煉瓦造建造物の保存修復に向けた材料 実験及び現地関係者打合せ	コ 03、受託(文 化庁・ミャンマー)
前川佳文		29.2.12 ~ 2.16	文化財カタログに関する聞き取り調査	コ 01
二神葉子	イタリア	29.2.12 ~ 2.16	文化財カタログに関する聞き取り調査	コ 01
津田徹英	イギリス	29.2.13 ~ 2.18	欧文日本美術関係文献入力に関する協議・講演	シ 01
塩谷純				
亀井伸雄	イギリス/ イタリア	29.2.14 ~ 2.22	欧文日本美術関係文献入力に関する協議・講演 他	運営交付金 (管理物件費)
橘川英規	アメリカ	29.2.13 ~ 2.20	アーカイブ視察、The College Art Association: Annual Conference への参加 他	科学研究費
友田正彦	ネパール	29.2.14 ~ 2.19	被災建造物調査、現地関係者打合せ等	受託 (文化庁・ネパール)
加藤雅人	ドイツ	29.2.27 ~ 3.3	日本絵画作品の調査	コ 04
元喜載		29.2.27 ~ 3.4		
江村知子		29.2.27 ~ 3.4		
亀井伸雄	ブータン	29.3.4 ~ 3.10	版築造民家の類型と編年に関する現地調査	科学研究費
友田正彦		29.3.4 ~ 3.14		
マルティネス アレハンドロ		29.3.7 ~ 3.14		
中山俊介	アメリカ	29.3.5 ~ 3.16	近代産業遺産の保存活用に関する現地調査	受託(文化庁・近 代産業遺産)
北河大次郎				

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
皿井舞	アメリカ	29.3.9 ～ 3.17	日本美術史に関する国際大学院生会議の委員として当該会議への出席	先方負担 (鹿島美術財団助成金・日米友好基金)
山梨絵美子	アメリカ	29.3.19 ～ 3.23	矢代幸雄・バーナード・ベレンソン関係資料調査	科学研究費
橘川英規	アメリカ	29.3.19 ～ 3.24	ゲッティ研究所との「日本美術の共同研究推進に関する協定」に関する打合せ及び関連施設視察	シ 01
加藤雅人	アメリカ	29.3.21 ～ 3.24	日本絵画作品の調査	コ 04
江村知子				
元喜載				

平成28年度における国外から国外への派遣申請については下記のとおりである。

派 遣 期 間	氏 名	所 属	用 務 地	経 費
---------	-----	-----	-------	-----

派遣理由：太平洋芸術祭でのワークショップ参加及び準備

28.5.20 ～ 6.6	Elia Nakoro	フィジー博物館	グアム	受託（文化庁・大洋州）
28.5.21 ～ 5.29	Mario Benito	ポロワット島伝統航海師		
28.5.22 ～ 5.30	Luke Vaikawi	ヴァカ・タウマコ・プロジェクト		
28.5.23 ～ 5.29	Peter Nuttall	南太平洋大学		
28.5.24 ～ 5.29	Marianne George	ヴァカ・タウマコ・プロジェクト		

派遣理由：ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」開催

28.7.4 ～ 7.17	王 瓊霞	国立台湾師範大学	ベルリン	コ 05
28.7.5 ～ 7.9	楠 京子	大英博物館		

派遣理由：バガン遺跡煉瓦造建造物の保存修復に向けた材料実験及び現地関係者打合せ

28.7.17 ～ 7.26	Daniele Angellotto	フィレンツェ国立修復研究所	バガン考古遺跡群	コ 03
----------------	--------------------	---------------	----------	------

派遣理由：ポンペイ及びエルコラーノ遺跡の壁画調査及び現地関係者打合せ

28.9.2 ～ 9.4	Stefania Franceschini	保存修復 S.F	ポンペイ	科学研究費
--------------	-----------------------	----------	------	-------

派遣理由：カッパドキアでの意見交換会の調整及び通訳

28.11.2 ～ 11.5	Serap Özdemir	ガーズィ大学芸術学部文化財保存修復学科	カッパドキア 岩窟教会群	コ 03
----------------	---------------	---------------------	-----------------	------

派遣理由：ワークショップ「漆工品の保存と修復」における講師

28.11.27 ～ 12.13	Balázs Lencz	ハンガリー国立博物館	ケルン市博物館 東洋美術館	コ 05
------------------	--------------	------------	------------------	------



## 2. 招へい研究員等

平成 28 年度における海外からの招へいについては、下記のとおりである。

派遣期間	氏名	国籍	所属	経費
------	----	----	----	----

招へい理由：「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」にかかる技術移転及び研究

28.3.7 ~ 6.29	Anna Dalila Terrazas Santillán	メキシコ	メキシコ文化省国立人類学歴史機構 国立文化遺産保存修復調整機関 グラフィックアート・文書部門保存修復技術者	コ 05
---------------	--------------------------------	------	---	------

招へい理由：国際研修「紙の保存と修復」への参加

28.8.28 ~ 9.17	Anna Dymarek	ポーランド	ブィドゴシュチュ国立公文書館 公文書保存修復技術者	コ 05
	Iva Gobić Vitolović	クロアチア	リエカ国立公文書館 保存修復技術部長	
28.8.28 ~ 9.17	Signe Hjerriid Smedemark	デンマーク	アウルトニ・マグヌッソンアイスランド学術機構 保存修復技術者	
	Aušra Čiuladienė	リトアニア	リトアニア科学アカデミー ヴルブレフスキ図書館 修復技術者	
	Seon-Hwa Jeong	韓国	韓国国立文化財研究所 文化財保存科学センター紙保存修復技術者	
	Laura Mirebeau	フランス	ニュージーランド国立図書館 テ・プナ・マタウランガノアレクサンダー・ターンブル図書館 本および紙保存修復技術者	
	Sara Moheieldin Noureldin Moheieldin	エジプト	エジプト考古省 エジプト考古学博物館 紙保存修復技術者	
	Clara Maria Prieto De La Fuente	スペイン	マドリッド文化財保存修復学校 紙本および写真保存修復技術学教授	
	Estelle Van Geyts	ベルギー	ブリュッセル ラカンブル国立美術学校 紙本保存修復技術学教授	
	Tendi Wangmo	ブータン	ブータン国立博物館 保存修復技術者補佐	

招へい理由：文化遺産国際協力コンソーシアム設立10周年記念「文化遺産からつながる未来」(シンポジウム) 及び特別講演会「ミャンマーにおける文化遺産保護の現況と課題」での講演

28.9.23 ~ 9.28	Nyunt Han	ミャンマー	東南アジア教育大臣機構 考古学・美術センター上級研究員	受託(文化庁・コンソーシアム)
----------------	-----------	-------	-----------------------------	-----------------

招へい理由：中国壁画の保護に関する日中共同研究

28.11.10 ~ 11.28	武 發思	中国	敦煌研究員保護研究所副研究館員	セ 06
------------------	------	----	-----------------	------

招へい理由：「シリア内戦と文化遺産」シンポジウムへの参加

28.11.17 ~ 11.26	Bartosz Markowski	ポーランド	ユネスコ・シリア文化遺産 緊急保護プロジェクト専門家	受託 (文化庁・シリア)
	Robert Zukowski	ポーランド	ポーランド科学アカデミー 考古学・民俗学研究所 研究員	
28.11.18 ~ 11.25	Hammam Saad	シリア (在フランス)	パリ・ソルボンヌ大学 地中海世界宗教社会高等研究所 研究員	
28.11.19 ~ 11.24	Nada al Hassan	レバノン (在フランス)	ユネスコ世界遺産センター アラブ諸国ユニット主任	

派遣期間	氏名	国籍	所属	経費
------	----	----	----	----

招へい理由：研究会「考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築」への参加

29.2.12 ~ 2.16	Tran Ky Phuong	ベトナム	ベトナム少数民族文化芸術協会 特別研究員	コ 02
	Chhay Rachna	カンボジア	アンコール地域保存整備機構・アンコール調査記録国際センター アンコール陶磁器研究室室長	
	Phusi Nattaya	タイ	文化省芸術局・スコータイ第6事務所 考古学専門官	
	Zaw Myo Kyaw	ミャンマー	宗教文化省・考古国立博物館局 発掘・遺物・碑文部副部長	

招へい理由：公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」パネリストおよび国内調査

29.2.28 ~ 3.16	Christine Guth	アメリカ	ヴィクトリア&アルバート美術館 シニア・リサーチ・フェロー	シ 04
29.3.1 ~ 3.23	Ulrike Körber	ドイツ	ポルトガル・エヴォラ大学	

招へい理由：在外日本古美術品保存修復協力事業

29.3.5 ~ 3.11	Marta Weronika Winiarczyk	ポーランド	National Museum in Krakow 紙保存修復技術者助手	コ 04
---------------	---------------------------	-------	---	------

招へい理由：歴史的集落 / 地区の保存とマネジメントに関する研修への参加

29.3.5 ~ 3.12	Bijaya Krishna Shrestha	ネパール	クオパ工科大学大学院 都市デザイン・修復学科 教授	コ 02
	Suresh Suras Shrestha		文化観光民間航空省・考古局 世界遺産課長	
	Barsha Shrestha		カリャビナヤ市 主任建築士	
	Krishna Bhola Maharjan		キルティプル市 主任技術者	
	Prem Kumar Somname		パナウティ市 都市開発計画課長・主任技術者	
	Bal Krishna Manandhar		シャンカラプール市文化遺産課 主任技術者	
	Ram Govinda Shrestha		バクタプル市 文化遺産課長	
	Chandra Shova Shakya		ラリトプル副首都庁 遺産文化考古保存課長	

招へい理由：文化財目録に関する調査研究

29.3.13 ~ 3.16	Kittiporn Chaiboon	タイ	文化省文化振興局文化研究所 研究開発部長・上級専門級文化担当官	シ 05
	Sukanya Yensuk		文化省文化振興局 無形文化遺産保護部長・専門級文化担当官	先方負担

招へい理由：「カヌー文化研究会」への参加

29.3.20 ~ 3.25	Peter Nuttall	フィジー	南太平洋大学 PaCE-SD 研究所研究員	受託(文化庁・大洋州)
	Kaiafa Ledua		南太平洋大学研究協力者	
	Alison Newell		南太平洋大学 PaCE-SD 研究所研究員	
	Samual Nuttall		南太平洋大学 PaCE-SD 研究所研究協力者	

招へい理由：「イラン文化遺産セミナー」での講演

29.3.27~4.1	Mohammad Hassan Talebian	イラン	イラン文化遺産手工芸観光庁次官	コ 02
	Seyed Mohammad Beheshti		イラン文化遺産観光研究所所長	

### 3. 海外研究者等の来訪

#### (1) 来訪研究員

来訪期間	氏 名	国 籍	所 属	備 考
28.7.9～30.7.8	山村みどり	アメリカ	フォーダム大学	平成 28 年度日本学術振興会外国人研究者招へい事業外国人特別研究員（推薦）
28.12.12～29.3.31	Magdalena Maria Kozar	ポーランド	ドレスデン国立美術館陶磁器資料館	自己負担（ただし、研究に係る費用については在外日本古美術品保存修復協力事業）

#### (2) 表敬訪問ほか

日 程	来 訪 者	国籍	所 属 等	目 的
28.9.5	Reynaldo S. Lita	フィリピン	フィリピン国家歴史委員会 歴史保存課長	表敬訪問
28.11.18	Robert Zukowski	ポーランド	ポーランド科学アカデミー 考古学・民族学研究所 研究員	表敬訪問、 施設見学
	Bartosz Markowski		保存修復家	
28.11.28	Alvin Tan	シンガポール	シンガポール国家遺産庁 最高執行官（政策・コミュニティ担当）補佐	表敬訪問、 協議、 施設見学
	Marshall Penafort		シンガポール国家遺産庁 マネージャー（遺産研究・評価担当）	
	Joanna Toh		シンガポール文化社会青年省 マネージャー（芸術・遺産部門）	
29.3.11	Bijaya Krishna Shrestha	ネパール	クオパ工科大学大学院 都市デザイン・修復学科 教授	表敬訪問、 研修会
	Suresh Suras Shrestha		文化観光民間航空省考古局 世界遺産課長	
	Barsha Shrestha		カリヤビナヤ市 主任建築士	
	Krishna Bhola Maharjan		キルティプル市 主任技術者	
	Prem Kumar Somname		パナウティ市 都市開発計画課長・主任技術者	
	Bal Krishna Manandhar		シャンカラプール市 文化遺産課 主任技術者	
	Ram Govinda Shrestha		バクタプル市 文化遺産課長	
	Chandra Shova Shakya		ラリトプル副首都庁 遺産文化考古保存課長	
29.3.27	Chung May Khuen	シンガポール	シンガポール 国立遺産保護センター (HCC) 副センター長	表敬訪問、 施設見学
	Hanna M. Szczepanowska	アメリカ	シンガポール 国立遺産保護センター (HCC) 主任保存科学者	
	Chen Zhihui Adeline	シンガポール	シンガポール 国立遺産保護センター (HCC) レジスター	
29.3.29	Mohammad Hassan Talebian	イラン	イラン文化遺産手工芸観光庁次官	表敬訪問、 協定書署名
	Seyed Mohammad Beheshti		イラン文化遺産観光研究所所長	

## 4. 主要来訪者、施設見学

日 程	来訪者及び視察者等	備 考
28.6.20	一般社団法人日本分析機器工業会 15 名	施設見学
28.6.24	国際交流基金平成 28 年度中央アジアシンポジウム招へい者 15 名	施設見学
28.8.31	「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」事業実行委員会 11 名	施設見学
28.9.14	ICCROM 国際研修「紙の保存と修復」研修生 10 名、通訳 1 名	研修・施設見学
28.9.21	金沢美術工芸大学芸術学専攻 2 年生 15 名、引率教員 2 名	施設見学
28.9.26	文化遺産国際協力コンソーシアム特別講演会登壇者 2 名	施設見学
28.11.7	株式会社乃村工藝社 23 名	施設見学
28.11.17	文化庁美術工芸品修理技術者講習会 32 名	施設見学
28.12.5	共立女子大学家政学部 2 名	施設見学
29.1.13	牧園大 schools 微生物ナノ素材学科 3 年生 8 名	施設見学
29.2.13	公益財団法人文化財建造物保存技術協会 6 名、公益財団法人和歌山県文化財センター 1 名、京都府 1 名、株式会社文化財保存計画協会 1 名、財団法人京都伝統建築技術協会 1 名	施設見学
29.3.27	凸版印刷株式会社 2 名	施設見学





## 6. 資料

1. 主な所蔵資料 .....	163
1. 図書資料 .....	163
2. その他 .....	164
2. 研究所関係資料 .....	165
1. 設立の経緯 .....	165
2. 年代別重要事項 .....	165
3. 歴代所長（昭和5年～平成28年度） .....	168
4. 名誉研究員 .....	169
5. 2016（平成28）年度予算等 .....	170
3. 独立行政法人国立文化財機構中期計画 .....	175
4. 東京文化財研究所関係事業索引 .....	193



# 1. 主な所蔵資料

## 1. 図書資料

### (1) 美術関係図書

日本・東洋・欧米の美術に関するものを中心に、各地方公共団体刊行の文化財関係調査報告書、展覧会の図録・目録類、売立目録など欧文あわせて約 150,857 冊の図書に加え、和文 5,471 種、韓文 51 種、中文 152 種、欧文 507 種におよぶ美術関係雑誌約 158,763 冊を所蔵している。

その他江戸期の写本版本をはじめ、明治大正期刊行の大型美術図録や美術雑誌、また明治から昭和初期に開催された各種博覧会展覧会資料など、多くの貴重書を所蔵している。

### (2) 無形文化遺産関係図書

古典芸能・民俗芸能・寺事・伝統的な技術、その他我が国の無形文化遺産の研究に必要な図書 17,415 冊を所蔵している。そのなかには、雅楽画報・演芸画報・歌舞伎新報・歌舞伎（第 1 次）・テアトロ（第 1 次）・新劇・上方・民俗芸能・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説など現在では入手しにくい雑誌、国立劇場ほかで行われる芸能公演の上演資料や声明本・謡本・囃子手付本・丸本などの台本・譜本など、多くの貴重書を含んでいる。本年度は 166 冊を登録し、現在進行中である。

### (3) 保存科学・修復技術関係図書

伝統的生産および工芸技術書、技術史またはそれらの科学的究明を試みたもの、修理工事報告書及び化学・物理学・生物学部門の保存科学の関連和洋書、あわせて約 7,000 冊を所蔵している。

### (4) 日本国外の文化遺産関係図書

国際資料室では、外国の文化財や文化財保存、文化財保存国際協力や文化財保護制度に関する国内外の図書資料を約 12,000 点所蔵する。また、文化財保護関連機関のパンフレットなど図書以外の文献資料の収集、さらに国内外の文化財保護関連法令資料の収集を実施している。2016（平成 28）年 1 月の施設改修に伴い、国際資料室蔵書は資料閲覧室書庫に移動した。

平成28年度における収集数（韓文・中文図書は、和漢書として計上）

区分(2015 年度)	美術関係	無形文化遺産 関係	保存修復関係	日本国外の 文化遺産関係	計
和漢書	9,879 冊	159 冊	58 冊	9 冊	10,105 冊
洋書	53 冊	7 冊	9 冊	18 冊	87 冊
合計	9,932 冊	166 冊	67 冊	27 冊	10,192 冊

## 2. その他

### (1) 美術関係資料

文化財情報資料部が管理している写真資料は、絵画・彫刻・工芸・建築等の台紙貼写真、売立目録カードなど総数約 26 万点である。写真原板は、モノクロ 4×5 フィルム約 49,740 点、カラー 4×5 フィルム約 8,980 点、半切ほかガラス乾板約 21,000 点をはじめとして、各種サイズのモノクロフィルム約 3,450 点、X線フィルム・赤外線フィルム約 3,300 点などを所蔵している。また、当研究所旧職員梅津次郎、秋山光和、田中一松、久野健各氏寄贈研究資料の公開に向けた整理のほか、鈴木敬氏旧蔵写真資料の整理を行っている。このほか、拓本類、作家伝記資料、落款印章資料、近現代作家・団体・画廊・作品資料、資料スクラップ等と図版カード、各種索引類などを管理している。

### (2) 無形文化遺産関係資料

無形文化遺産部では、雅楽・能・歌舞伎・邦楽・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能の技法を、録音・録画、写真撮影等の形で記録することを重要な業務としてきた。これまでに、現地での実況や所内舞台での演奏を記録したオープンリールテープ約 2,300 点、ビデオ 1,191 点、スチール写真は関連する文書の記録写真等も含め約 19 万点、CD はオープンリールテープをデジタル化した物を中心に 1,976 点、DVD 3,793 点、BD 707 点を作成してきた。本年度は、DVD 37 点、BD 123 点を登録した。加えて Hi8 のデジタル化にも着手し、DVD 19 点を作成した。また、市販された伝統芸能関係の資料の収集も進めている。ことに、1960（昭和 35）年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションは、明治・大正・昭和 3 代にわたって発売された各種邦楽の SP レコードを網羅した約 6,000 枚の一大コレクションで、近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。レコードの収集枚数は現在約 7,300 枚に及んでいる。その他これまでに、市販のビデオ 530 点、CD 1,849 点、DVD 1,278 点を収集してきた。うち本年度は、市販のビデオ 8 点、CD 15 点、DVD 86 点を登録した。なお SP レコードコレクションの詳細は『音盤目録Ⅰ～Ⅴ』（東京国立文化財研究所刊 1966～1996）で公表している。

### (3) 保存科学・修復技術関係資料

保存修復科学センターでは、考古遺物や美術工芸品など、諸部門の文化財を撮影した X 線フィルムを多数所蔵する。X 線透過撮影は昭和 20 年代から力を注いで行っており、近年それらのデータをデジタル化し、整理する作業を進めている。

### (4) 国際関係資料

文化遺産国際協力センターでは、日本の文化財保護に関する国際協力の分野で活躍した専門家の資料を受け入れている。関野克氏旧所蔵資料には、国際機関での会議や個別の文化遺産保存に関わる記録が含まれている。特にユネスコの条約や勧告に関わる資料には、草案や日本政府の意見書なども含まれ、その成立の経緯や日本政府の関与なども知ることができる。また、千原大五郎氏旧蔵資料には、ボロブドゥール修復事業関連の会議録、書簡類、修復案、図面、オランダ統治時代の研究書や、その他の東南アジア諸国の遺跡に関する文献や図面、写真も数多く含まれる。さらに、野口英雄氏が収集した、文化財の危機管理やユネスコ日本信託基金による保存修復事業などに関する資料を受け入れている。

## 2. 研究所関係資料

### 1. 設立の経緯

東京文化財研究所は、2001（平成 13）年 4 月 1 日に東京国立文化財研究所が独立行政法人化され独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。その前身である東京国立文化財研究所は、1952（昭和 27）年 4 月 1 日に発足し、その母体となったものは、1930（昭和 5）年に創設された政府機関の帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、1924（大正 13）年 7 月、帝国美術院長子爵故黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために寄附出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選択を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原鐸二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、またわが国美術研究の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立の上は一切これを政府に寄附すること。

### 2. 年代別重要事項

期 日	事 項
昭和元年 12 月 25 日	前記の事業を遂行するため委員会が組織され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業については東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列については東京美術学校教授久米桂一郎・岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建物造営については東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務については遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。
昭和 2 年 2 月 1 日	美術研究所準備事業を開始した。
同年 10 月 28 日	東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階 2 階建、延面積 1,192㎡の建物 1 棟を起工した（本館）。
昭和 3 年 9 月	前記の建物が竣工したので、黒田記念館と名付け、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、黒田清輝の作品を陳列した。
昭和 4 年 5 月 29 日	遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金 15 万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。
昭和 5 年 6 月 28 日	勅令第 125 号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。
同年 10 月 17 日	美術研究所開所式を挙行了した。
昭和 7 年 1 月 1 日	美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物『美術研究』を創刊した。
同年 4 月 18 日	株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う 5 か年間毎年 5 千円、合計 2 万 5 千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。
同年 5 月 26 日	帝国美術院はこの申出を受理した。 明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。
昭和 9 年 10 月 18 日	毎年 10 月 18 日を開所記念日と定めた。
昭和 10 年 1 月 28 日	鉄筋コンクリート造、2 階建、延面積 129㎡の書庫が竣工した。
同年 4 月	『日本美術年鑑』の編纂事務を開始した。
同年 6 月 1 日	勅令第 148 号により美術研究所官制が公布された。



期 日	事 項
昭和10年 6月 1日	研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。
昭和12年 6月24日	勅令第 281 号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。
同年11月29日	美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。
昭和13年 2月12日	木造、平屋建、延面積 97㎡の写真室 1 棟が竣工した。
昭和19年 8月10日	黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。
昭和20年 5月28日	美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町 1 丁目本間家倉庫 3 棟に疎開した。
同年 7～8月	酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。
昭和21年 3月29日	酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。
同年 4月 4日	酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し、引揚げを完了した。
同年 4月16日	東京都西多摩郡に疎開中の黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。
昭和22年 5月 3日	美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。 国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた（保存科学部の前身）。昭和 23 年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室（66㎡）に設けた。
昭和25年 8月29日	文化財保護法の制定にともない、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。
昭和26年 1月31日	美術研究所組織規程が定められ、第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。
昭和27年 4月 1日	文化財保護法の一部が改正、東京文化財研究所組織規程が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の 3 部 1 室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。 また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。
同年 7月 1日	芸能部研究室として東京藝術大学音楽学部邦楽科教室 2 室を同大学から借用し、研究を開始した。
昭和28年 4月26日	保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫 132㎡を改造のうえ移転した。
昭和29年 7月 1日	東京文化財研究所組織規程の一部が改正され、東京国立文化財研究所となった。
昭和32年 3月22日	東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平屋建、8 ㎡の保存科学部の薬品庫が竣工した。
同年11月30日	従来の 2 階建書庫の上にさらに 1 階を増築 3 階建とし、増築分延面積 71㎡が竣工した。
昭和34年 4月30日	東京国立文化財研究所研究受託規程が定められ、この年度から受託研究が開始された。
昭和36年 9月16日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、従来の庶務室は庶務課となった。
昭和37年 3月31日	東京国立博物館内に保存科学部庁舎（保存科学部実験室）として、鉄筋コンクリート造、2 階建、延面積 663㎡の建物 1 棟が竣工した。
同年 7月 1日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。
同年 7月20日	芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工にともない、旧保存科学部庁舎に移転した。
昭和43年 6月15日	文部省設置法の一部が改正され、本研究所は文化庁附属機関となった。
昭和44年 8月23日	保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎（延 1,950.41㎡）の起工式が行われた。
昭和45年 3月25日	前記の別館が竣工したので、同年 5 月 26 日竣工式が行われた。芸能部は、別館 3 階に移転した。
同年 5月 8日	保存科学部は別館の地階～2 階に実験用機械類の移転据付を完了した。
同年 6月29日	保存科学部庁舎の 1 階の模様替工事に着手し、同年 10 月 15 日工事が完了した。
同年11月 2日	所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の 1 階に移転した（本館は、美術部庁舎となる）。これにより研究所の所在地表示は「12 番 53 号」から「13 番 27 号」に変更された。
昭和46年 4月 1日	保存科学部庁舎及び別館の敷地 2,658㎡を東京国立博物館から所管換えされた。

期 日	事 項
昭和48年 4月12日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。
昭和52年 4月18日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。
昭和53年 3月20日	本館構内の写場等（木造、平屋建、延面積 144㎡）を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積 569.95㎡の建物が竣工した。
同年 4月 5日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部に第三修復技術研究室が置かれた。
昭和59年 6月28日	文部省組織令が改正され、本研究所は文化庁施設等機関となった。
平成 2年10月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、新たにアジア文化財保存研究室が置かれ、5部1室1課となった。
平成 5年 4月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、アジア文化財保存研究室は、国際文化財保存修復協力室となった。
平成 7年 4月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力室が廃止され、新たに国際文化財保存修復協力センターが設置された。同センターには、企画室及び環境解析研究指導室が置かれ、1センター5部1課となった。 東京藝術大学と「東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻の教育研究に対する連携・協力に関する協定書」が交わされ、連携併任分野として独立専攻大学院文化財保存学専攻（システム保存学）が設置された。
平成 9年10月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力センターに保存計画研究指導室が置かれた。
平成12年 2月 4日	新宮庁舎として、鉄筋コンクリート造、地上4階地下1階、延面積 10,557.99㎡（建築面積 2,258.48㎡）が竣工した。
同年 2月21日	新宮庁舎の竣工にともない、別館（庶務課・芸能部・保存科学部・修復技術部・国際文化財保存修復協力センター）部分の移転が開始された。
同年 3月 6日	新宮庁舎の竣工にともない、本館（美術部・情報資料部）の移転が開始された。
同年 3月22日	建設省関東地方建設局宮繕部より、新宮庁舎の外構工事、植栽等の引き渡しを受け、新宮庁舎関係の工事が完了した。
同年 5月11日	新宮庁舎の竣工を記念し、開所記念式典を挙行了した。 この式典の挙行に際し、毎年5月11日を開所記念日と定めた。
平成13年 3月29日	黒田記念館改修工事が竣工し、展示スペースが黒田記念室及び展示室の2室になった。
同年 4月 1日	東京国立文化財研究所は、奈良国立文化財研究所と統合され、独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。 この独立行政法人化にともない、東京文化財研究所は、管理部、協力調整官一情報調整室、美術部、芸能部、保存科学部、修復技術部、国際文化財保存修復協力センターの1センター5部1協力調整官一情報調整室となった。
平成15年 9月19日	黒田記念館にエレベーターを設置し、門扉、外構の改修工事を行った。
平成18年 4月 1日	文化財研究所組織規程の一部が改正されて、協力調整官一情報調整室は企画情報部に、芸能部は無形文化遺産部に、国際文化財保存修復協力センターは文化遺産国際協力センターとなった。
平成19年 4月 1日	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所は、独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館との統合により、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、黒田記念館は、東京国立博物館に移管された。 この統合にともない、東京文化財研究所は、美術部を企画情報部に、保存科学部と修復技術部は保存修復科学センターに統合し、3部2センターとなった。
平成22年 4月 1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、管理部は研究支援推進部となった。
平成28年 4月 1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、企画情報部は文化財情報資料部に、保存修復科学センターは保存科学研究センターとなった。

### 3. 歴代所長（昭和5年～平成28年度）

役 職	氏 名	期 間
主 事	正木直彦	昭和 5. 6.28 ～昭和 6.11.24
主 事	矢代幸雄	昭和 6.11.25 ～昭和 10. 5.31
所長事務取扱	和田英作	昭和 10. 6. 1 ～昭和 11. 6.21
所 長	矢代幸雄	昭和 11. 6.22 ～昭和 17. 6.28
所長事務取扱	田中豊蔵	昭和 17. 6.29 ～昭和 22. 8.15
所 長	田中豊蔵	昭和 22. 8.16 ～昭和 23. 5.10
所 長 代 理	福山敏男	昭和 23. 5.11 ～昭和 24. 8.30
所 長	松本栄一	昭和 24. 8.31 ～昭和 27. 3.31
所長事務代理	矢代幸雄	昭和 27. 4. 1 ～昭和 28.10.31
所 長	田中一松	昭和 28.11. 1 ～昭和 40. 3.31
所 長	関野 克	昭和 40. 4. 1 ～昭和 53. 4. 1
所 長	伊藤延男	昭和 53. 4. 1 ～昭和 62. 3.31
所 長	濱田 隆	昭和 62. 4. 1 ～平成 3. 3.31
所 長	西川杏太郎	平成 3. 4. 1 ～平成 8. 3.31
所 長	渡邊明義	平成 8. 4. 1 ～平成 13. 3.31
(独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に移行)		
所 長	渡邊明義	平成 13. 4. 1 ～平成 16. 3.31
所 長	鈴木規夫	平成 16. 4. 1 ～平成 19. 3.31
(独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所に移行)		
所 長	鈴木規夫	平成 19. 4. 1 ～平成 22. 3.31
所 長	亀井伸雄	平成 22. 4. 1 ～現在

## 4. 名誉研究員

氏 名	退 職 時 官 職 名	在 所 期 間	名誉研究員 発令年月日
江上 綏	情報資料部主任研究官	昭和 38. 5.18 ～昭和 59. 3.31	昭和 59.10.18
猪川和子	情報資料部文献資料研究室長	昭和 22. 6.27 ～昭和 60. 3.31	昭和 60.10.18
三隅治雄	芸能部長	昭和 27.10. 1 ～昭和 63. 3.31	昭和 63.10.18
見城敏子	保存科学部物理研究室長	昭和 34. 4. 1 ～平成 元. 3.31	平成 元.10.18
濱田 隆	所長	昭和 62. 4. 1 ～平成 3. 3.31	平成 3.10.18
関口正之	美術部長	昭和 42. 2. 1 ～平成 3. 3.31	平成 3.10.18
佐藤道子	芸能部長	昭和 34. 4. 1 ～平成 4. 3.31	平成 4.10.18
馬淵久夫	保存科学部長	昭和 50.10. 1 ～平成 4. 3.31	平成 4.10.18
新井英夫	保存科学部長	昭和 45. 9. 1 ～平成 5. 3.31	平成 5. 4. 1
西川杏太郎	所長	平成 3. 4. 1 ～平成 8. 3.31	平成 8. 4. 1
三輪英夫	美術部第二研究室長	昭和 53. 8. 1 ～平成 8. 3.31	平成 8. 4. 1
蒲生郷昭	芸能部長	昭和 56. 4. 1 ～平成 10. 3.31	平成 10. 4. 1
中里壽克	修復技術部第一修復技術研究室長	昭和 39. 4. 1 ～平成 10. 3.31	平成 10. 4. 1
宮本長二郎	国際文化財保存修復協力センター長	平成 6. 4. 1 ～平成 11. 3.31	平成 11. 4. 1
羽田 昶	芸能部音楽舞踊研究室長	昭和 51. 4. 1 ～平成 12. 3.31	平成 12. 4. 1
中村茂子	芸能部民俗芸能研究室長	昭和 39. 7. 1 ～平成 13. 3.31	平成 13. 4. 1
増田勝彦	修復技術部長	昭和 48. 8. 1 ～平成 13. 3.31	平成 13. 4. 1
米倉迪夫	情報資料部長	昭和 50. 9. 1 ～平成 13. 3.31	平成 13. 4. 1
星野 紘	芸能部長	平成 10. 4. 1 ～平成 14. 3.31	平成 14. 4. 1
平尾良光	保存科学部化学研究室長	昭和 62. 4. 1 ～平成 15. 3.31	平成 15. 4. 1
井手誠之輔	協力調整官一情報調整室長	昭和 62. 7. 1 ～平成 16. 3.29	平成 16. 3.30
斎藤英俊	国際文化財保存修復協力センター長	平成 11. 4. 1 ～平成 16. 3.30	平成 16. 3.31
西浦忠輝	保存科学部長	昭和 50. 7. 1 ～平成 16. 3.31	平成 16. 4. 1
鈴木廣之	美術部日本東洋美術研究室長	昭和 54. 9. 1 ～平成 17.11.30	平成 17.12. 1
青木繁夫	文化遺産国際協力センター長	昭和 49. 7. 1 ～平成 19. 3.31	平成 19. 3.31
三浦定俊	副所長	昭和 48. 8. 1 ～平成 20. 3.31	平成 20. 4. 1
鎌倉恵子	無形文化遺産部無形文化財研究室長	昭和 63. 4. 1 ～平成 20. 3.31	平成 20. 4. 1
鈴木規夫	所長	平成 16. 4. 1 ～平成 22. 3.31	平成 22. 4. 1
中野照男	副所長	平成 4. 4. 1 ～平成 23. 3.31	平成 23. 4. 1
清水真一	文化遺産国際協力センター長	平成 19. 4. 1 ～平成 23. 3.31	平成 23. 4. 1
石崎武志	副所長	平成 8.12. 1 ～平成 26. 9.30	平成 26.10. 1
田中 淳	副所長	平成 6.11. 1 ～平成 28. 3.31	平成 28. 4. 1
川野邊涉	文化遺産国際協力センター長	昭和 63.10. 1 ～平成 28. 3.31	平成 28. 4. 1
岡田 健	保存科学研究センター長	平成 4. 4. 1 ～平成 29. 3.31	平成 29. 4. 1

## 5. 2016(平成28)年度予算等

(単位：千円)

### (1) 予 算

事 項	予 算 額
一般管理費	126,965
基礎研究事業費	57,232
応用研究事業費	59,422
国際遺産保護事業費	120,029
情報公開事業費	100,037
研修協力事業費	3,355
合 計	467,040

### 予算とプロジェクトとの対応

#### 文化財情報資料部

略番	分 類 項 目	プロジェクト名	事 業 区 分
シ 01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	情報公開事業費
シ 02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	日本東洋美術史の資料学的研究	基礎研究事業費
シ 03	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	基礎研究事業費
シ 04	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	基礎研究事業費
シ 05	④情報収集・成果公開に関する事業	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	情報公開事業費
シ 06	④情報収集・成果公開に関する事業	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	情報公開事業費
シ 07	⑤刊行物に関する事業	平成27年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	情報公開事業費
シ 08	④情報収集・成果公開に関する事業	平成28年度オープンレクチャー(調査・研究成果の公開)	情報公開事業費

#### 無形文化遺産部

略番	分 類 項 目	プロジェクト名	事 業 区 分
ム 01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	基礎研究事業費
ム 02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	基礎研究事業費
ム 03	③国際協力・交流等に関する事業	無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	情報公開事業費
ム 04	⑤刊行物に関する事業	無形文化遺産部出版関係事業	情報公開事業費
ム 05	③国際協力・交流等に関する事業	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	国際遺産保護事業費

#### 保存科学研究センター

略番	分 類 項 目	プロジェクト名	事 業 区 分
ホ 01	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	応用研究事業費
ホ 02	②保存修復に関する調査研究事業	保存と活用のための展示環境の研究	応用研究事業費
ホ 03	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	応用研究事業費
ホ 04	②保存修復に関する調査研究事業	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 05	②保存修復に関する調査研究事業	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 06	②保存修復に関する調査研究事業	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 07	⑤刊行物に関する事業	『保存科学』第56号の出版	情報公開事業費
ホ 08	⑥指導助言・研修等に関する事業	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	研修協力事業費



## 文化遺産国際協力センター

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
コ01	④情報収集・成果公開に関する事業	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	情報公開事業費
コ02	③国際協力・交流等に関する事業	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	国際遺産保護事業費
コ03	③国際協力・交流等に関する事業	保存修復技術の国際的応用に関する研究	国際遺産保護事業費
コ04	③国際協力・交流等に関する事業	在外日本古美術品保存修復協力事業	国際遺産保護事業費
コ05	③国際協力・交流等に関する事業	国際研修	国際遺産保護事業費

## (2) 科学研究費助成事業交付一覧

(単位：千円)

研究課題	研究代表者	交付額
<b>基盤研究 (B)</b>		
対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	小林公治	5,460
酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発—旧修理材料や微生物痕の除去—	早川典子	2,210
<b>基盤研究 (B) 海外</b>		
ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	前川佳文	4,940
ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究	亀井伸雄	6,110
<b>基盤研究 (C)</b>		
虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究	犬塚将英	1,820
黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—	大河原典子	1,560
環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	朽津信明	1,040
津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	佐野千絵	1,430
日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究	早川泰弘	1,300
空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用	二神葉子	650
平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究	小林達朗	1,430
平安時代前期における神仏習合の展開とその彫刻に関する研究	皿井舞	910
江戸～昭和期の常磐津節演奏家に関する基盤研究	前原恵美	1,322
<b>挑戦的萌芽</b>		
実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の—指針として—	菊池理予	780
<b>若手研究 (A)</b>		
染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—	菊池理予	4,810
墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—	宇高健太郎	2,210
<b>若手研究 (B)</b>		
紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	貴田啓子	1,690
アイヌと和人の文化交渉史に関する研究—明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に—	今石みぎわ	1,560
イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	山田大樹	1,560
リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究	間渕創	910
放射光を用いた中央アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発	増渕麻里耶	1,300
肥沃な三日月地帯の東翼ザグロス地域における新石器化に関する考古学的研究	安倍雅史	1,591
<b>特別研究員奨励費</b>		
墨、煤、膠の製法と性状の体系化	宇高健太郎	1,430
毘沙門天像の成立と展開—唐・宋・元から平安・鎌倉へ—	佐藤有希子	325
彩色材と和紙からなる紙質文化財における和紙の劣化機構	貴田啓子	1,430

研 究 課 題	研究代表者	交付額
特別研究員奨励費（外国人特別研究員）		
2018年出版予定の書籍のための、1989年以降の日本の現代美術の研究	橘川英規	900
研究活動スタート支援		
江戸時代における初期文人画の基礎的研究—中国絵画学習とその地域性について—	安永拓世	1,300

※交付額が括弧内に記載された研究課題は前年度からの繰越により実施

### （３） 受託調査研究一覧

（単位：千円）

研 究 課 題	依 頼 元	研究代表者	契約総額
文化遺産国際協力拠点交流事業（大洋州島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業）	文化庁	石村智	5,977
文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	文化庁	友田正彦	20,799
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化庁	中山俊介	44,024
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	文化庁	岡田健	42,460
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	文化庁	岡田健	24,783
近代産業遺産（美術工芸品）に関する海外事例調査事業	文化庁	中山俊介	5,076
絵金屏風の保存修理に関する調査研究	公益財団法人 熊本市美術文化振興財団	岡田健	250
万世特攻平和祈念館金属類収藏品劣化対策事前調査事業	南さつま市	北河大次郎	2,502
文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）「ミャンマー・バガン遺跡群における地震被害に関する調査」	文化庁	友田正彦	4,617
文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）「シリア内戦下における被災文化財に関する調査」	文化庁	安倍雅史	5,988
日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討（平成26年から平成29年まで）	公益財団法人 日光社寺文化財保存会	佐藤嘉則	0 (16,200)

※複数年度にまたがる事業については括弧内に予算総額を記載

### （４） 共同研究等一覧

（単位：千円）

研 究 課 題	共同研究者	研究代表者	金 額
航空資料保存の研究	一般財団法人日本航空協会	北河大次郎	400

### （５） 助成金一覧

（単位：千円）

研 究 課 題	助 成 元	研究代表者	助成額
「遊行上人縁起絵」の調査・研究 —遊行寺（清浄光寺）本を中心に—	一般財団法人仏教美術協会	津田徹英	825
タイ及び日本所在の幕末期日本製伏彩色螺鈿製品に関する調査研究	公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団	二神葉子	300
日本絵画の色と材料「Color & Material」	公益財団法人出光文化福祉財団	早川泰弘	4,000

## (6) 寄付金一覧

(単位：千円)

研 究 課 題	寄 付 者	担当部局	受入額
東京文化財研究所における研究事業の助成	株式会社東京美術倶楽部	文化財情報資料部	1,000
東京文化財研究所における研究成果の公表(出版事業)	東京美術商協同組合	文化財情報資料部	1,000

## 年度内主要事業一覧

期 日	事 業 名
28年5月13日	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会研究所・センター調査研究等部会
28年5月14日	研究会「アート・アーカイヴのいま」
28年5月24日	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会総会(東京国立博物館)
28年5月26日	第12回太平洋芸術祭「第1回カヌーサミット」(グアム ラッテオブフリーダム)
28年6月16日	フォローアップ研修「展示照明用白色LEDの開発と評価に関する最新の動向」
28年7月 6日 ~15日	ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」(ベルリン博物館群アジア美術館)
28年7月11日 ~22日	博物館・美術館等保存担当学芸員研修
28年8月22日 ~23日	「無形文化遺産の防災」連絡会議 (28年12月5日、29年1月20日、23日、29日、2月10日、20日にも開催)
28年8月30日	日韓無形遺産研究交流成果発表会(韓国国立無形遺産院)
28年8月29日 ~9月16日	国際研修「紙の保存と修復」
28年10月17日 ~18日	無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究会Ⅲ「現在に伝わる明治の超絶技巧」
28年11月 4日 ~5日	第50回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」
28年11月 9日 ~25日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」(メキシコ国立文化遺産保存修復機関)
28年11月20日	シンポジウム『シリア内戦と文化遺産—世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援—』 (東京国立博物館)
28年11月23日	シンポジウム『シリア内戦と文化遺産—世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援—』 (東大寺金鐘ホール)
28年11月30日	「カトマンズ盆地内の歴史的集落の保全に関する会議」(ラリトプル市地域開発研修院)
28年12月 9日	第11回無形民俗文化財研究協議会「無形文化遺産と防災—リスクマネジメントと復興サポート」
28年11月30日 ~12月10日	ワークショップ「漆工芸品の保存と修復」
28年12月20日	文化財写真に関するワークショップ
29年1月18日	第11回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「麻のきもの・絹のきもの」 (文化学園文化クイントサロン)
29年2月13日	研究会「考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築」
29年2月20日	保存と活用のための展示環境に関する研究会 「次世代の美術館・博物館照明指針を考える—LED・有機EL照明の活用に向けて—」
29年2月23日	第30回近代文化遺産の保存理念と修復理念に関しての研究会 「日伊における歴史的な組積造建造物の震災対策について」
29年3月 4日 ~5日	公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」
29年3月29日	イラン文化遺産セミナー



### 3. 独立行政法人国立文化財機構中期計画

平成28年3月31日

文部科学大臣認可

#### (序 文)

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十条の規定により、独立行政法人国立文化財機構が中期目標を達成するための中期計画（以下「中期計画」という。）を次のとおり定める。

#### (基本方針)

独立行政法人国立文化財機構（以下「機構」という。）は、我が国における文化財施策の一翼を担い、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図り、次代へ継承するとともに、国内外に我が国の歴史・伝統文化を発信するため、我が国の博物館及び文化財研究に関する中核的拠点として、有形文化財の収集・保存・管理・展示等に取り組む。また、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究、文化財の保存と活用のための研究、並びにそれらに関する調査手法の研究開発を総合的に実施するとともに、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護及びそのための研究の促進、並びに文化財等の防災・救援に寄与する。さらに、これら機構の取組の成果についての積極的な公開・活用に取り組む。

また、「文化芸術の振興に関する基本的な方針」（第4次基本方針）（平成27年5月22日閣議決定）において、地方創生やグローバル化への対応、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする文化プログラムの実施等、社会を挙げて文化芸術を振興していくことが求められている。

上記を踏まえ、機構は、我が国の博物館及び文化財研究に関するナショナルセンターとしての政策実施機能を的確に発揮しつつ効果的かつ効率的な業務運営を確保するため、中期目標期間において特に以下の事項に重点的に取り組む。

#### 1. 展覧事業の充実

外国人来館者の急増が見込まれるなか、日本の歴史・伝統文化を国内外に強く印象付けるような展覧会を企画するとともに、展示解説等の多言語化に取り組む。

また、東京国立博物館の本館及び表慶館、京都国立博物館の本館並びに奈良国立博物館の本館については、博物館としての機能の維持向上とともに、重要文化財である建造物そのものの価値を維持し積極的に発信すべく、改修や設備の更新等所要の措置を講ずる。

#### 2. 調査研究事業の促進

文化財施策への貢献を目指し、調査研究において達成すべき目標及び達成時期を明確にし、着実に実施する。また、調査研究の成果を一層広く周知できる方策を検討し、必要な措置を講ずる。

#### 3. 国内外の博物館との連携

2019年ICOM（国際博物館会議）京都大会（以下、「2019年ICOM京都大会」）を契機とした国内外の博物館・美術館や研究機関等との連携・役割分担を通じて、博物館活動全体の活性化に貢献する。

#### 4. 収蔵庫等保管施設の狭隘化への対応

博物館の収蔵庫等については、収蔵量が許容範囲を超える状況となっており、東京国立博物館、京都国立博物館及び奈良国立博物館では、施設の改修等を行い、収蔵庫等保管施設の充実を図る。



## 5. 組織の見直し

2019年ICOM京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、機構の事業全体を通じて、各施設横断的に国際業務を戦略的に推進する体制を整備する。

また、各施設においては中期目標に掲げた任務を果たすため、以下の役割を担う。

### (東京国立博物館)

我が国を代表する人文系の総合博物館として、日本を中心にして広くアジア諸地域等にわたる文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行う。

### (京都国立博物館)

平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行う。

### (奈良国立博物館)

仏教美術及び奈良を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行う。

### (九州国立博物館)

日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行う。なお、事業の実施に当たっては、福岡県等との連携協力を行う。

### (東京文化財研究所)

我が国の文化財の研究を、有形・無形文化財等を対象に、基礎的なものから先端的、実践的なものまで総合的に行い、我が国の文化財研究の拠点としての役割を果たすとともに、この成果をもとに文化財の保護に貢献する。また、文化財担当者の研修、地方公共団体への専門的な助言を行う。さらに、保存科学・修復技術に関する我が国の中核としての役割を果たす。

また、世界の文化遺産保護に関する国際的な研究交流、保護事業への協力、専門家の養成、情報の収集と活用等を実施し、文化遺産保護における国際協力の拠点としての役割を担う。

### (奈良文化財研究所)

主に遺跡・建造物・庭園等土地に結び付いた文化財に関する調査研究の中核的拠点としての役割を果たす。また、平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の発掘調査に基づく古代都城の総合的研究とその成果の公開・展示、南都諸大寺を中心とする歴史資料・建造物並びに全国的な文化的景観・伝統的建造物群等の調査研究、保存科学や遺跡整備等の文化財の保存・活用に関する調査研究、遺跡探査等の調査手法の研究開発を行うとともに、データベースの充実と発信、文化財研修や専門的助言等による文化財行政への協力を行う。

あわせて、海外研究機関との研究交流並びにアジア地域等での文化遺産保護事業と専門家養成に協力する。

### (アジア太平洋無形文化遺産研究センター)

ユネスコの「無形文化遺産の保護に関する条約」(以下、「無形文化遺産保護条約」という。)の観点から、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護研究の実態把握、無形文化遺産保護の政策や多様な方法論、無形文化遺産保護の優良事例の調査研究を通じて、無形文化遺産保護及びそのための研究に貢献する。

## I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

#### (1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

##### ①博物館の施設設備の整備

施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継

続的に発展させる。

**(東京国立博物館)**

開館後約 80 年が経過した本館の空調設備、収蔵・展示施設について、建物が重要文化財に指定されていることに配慮し、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も視野に入れつつ、改修等計画を推進する。

**(京都国立博物館)**

京都国立博物館本館（明治古都館）の改修に当たっては、重要文化財に指定された建造物としての保存とともに展示施設としての活用に配慮した改修計画及び観覧環境の再整備計画を進める。

**(奈良国立博物館)**

構内のバリアフリー化やエントランスの拡張等観覧環境等の改善及び展示施設の改修等を図るとともに、奈良における文化財の調査研究等の拠点として必要な研究設備を整備する。

**(九州国立博物館)**

開館から 10 年が経過しており、監視カメラ・空調システム等の施設設備備品に老朽化がみられる。よって展示施設の維持管理を目的とした改修等計画を推進する。

## ②有形文化財の収集等

### 1) 有形文化財の収集

体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。

**(東京国立博物館)**

日本を中心にして広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

**(京都国立博物館)**

京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

**(奈良国立博物館)**

仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

**(九州国立博物館)**

日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

### 2) 寄贈・寄託品の受入れ等

収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

## ③有形文化財の管理・保存・修理等

### 1) 有形文化財の管理

国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

### 2) 有形文化財の保存

適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

### 3) 有形文化財の修理

修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

### 4) 文化財修理施設等の運営

文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。

## (2) 展覧事業

展覧事業については、我が国の博物館の中核的拠点として、国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、かつ国際文化交流にも配慮しながら、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にして、質の高い魅力あるものを目指す。また、2019年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた政府の文化政策と連動した活動を実施する。

さらに、見やすさ分かりやすさに配慮した展示や解説、並びに音声ガイド等の導入により、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化についての理解を深められるよう工夫するとともに、展覧事業について常に点検・評価を行い、改善を図る。

### ① 平常展

平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。

なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

### ② 特別展等

#### 1) 特別展

特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。

特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。

(東京国立博物館) 年 3～4 回程度

(京都国立博物館) 年 1～2 回程度

(奈良国立博物館) 年 2～3 回程度

(九州国立博物館) 年 2～3 回程度

なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

#### 2) 海外展等

海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

### ③ 観覧環境の向上等

国民に親しまれる博物館を目指し、来館者に配慮した観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。

#### 1) 快適な観覧環境の提供

博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

#### 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、

ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。

### (3) 教育・普及活動

日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、教育活動、広報の充実を図る。また、展覧事業同様、2019年 ICOM 京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた関係機関の文化政策と連動した活動を実施する。

#### ①教育活動の充実等

日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。なお、講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

##### 1) 学習機会の提供

講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

##### 2) ボランティア活動の支援

教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

##### 3) 大学との連携事業等の実施

インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

##### 4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

##### 5) 博物館支援者増加への取組

企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

#### ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実

文化財に関する情報の発信に努めるとともに、展覧事業及び各種事業に関し、積極的な広報を行う。

##### 1) 有形文化財に関する情報の発信

ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

##### 2) 資料の収集と公開

美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

##### 3) 広報活動の充実

展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

#### (4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。

##### ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究

収蔵品・寄託品をはじめとする文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究、各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関する基礎的かつ総合的な調査研究、及び歴史・伝統文化の理解促進に資する展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究等を実施し、その成果を展覧事業・教育普及活動等に反映し、広く一般に発信する。

##### ②その他有形文化財に関連する調査研究

文化財の収集・保存・修理・管理ほか、文化財及び博物館の業務に関連する調査研究を実施する。また、将来的に展覧事業や教育活動等に結びつく基礎的な調査研究を実施する。

##### ③国内外の博物館等との学術交流等

我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに、2019年ICOM京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。

##### ④調査研究成果の公表

文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

#### (5) 国内外の博物館活動への寄与

##### ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

##### ②国内外の博物館等への援助・助言等

国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

## 2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査研究を行う。

### (1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための調査研究に取り組む。その成果は、基礎的データの増大や学術的知見の蓄積、文化財指定等の基礎資料の提供につながり、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関し、個別的・総合的に寄与する。



### ①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究

有形文化財、伝統的建造物群に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等、並びに有形文化財の保存修復等に寄与する。

#### 1) 我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究

我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。

#### 2) 建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究

建造物に関しては、古代建築の保存に資するため、法隆寺古材調査を中心とする古代建築調査を行って古代建築及びその修理過程等を明らかにする。また、近世・近代の建造物等の調査研究を行い、成果を公開する。伝統的建造物群については、その保存と活用に資するため、重要伝統的建造物群保存地区を目指している地区の調査を行い、成果を公開するとともに、各地の歴史的建造物の保存に協力する。

#### 3) 歴史資料・書跡資料に関する調査研究

我が国の歴史、文化の解明及び理解の促進等を図るため、薬師寺・仁和寺等の近畿地方を中心とした寺社の歴史資料・書跡資料等に関する調査研究を行う。

### ②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究

無形文化財、無形民俗文化財等に関する以下の課題に取り組み、その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与する。

#### 1) 重要無形文化財等の保存・活用に資する調査研究

重要無形文化財を中心とする古典芸能・伝統工芸技術及びそれらに関わる文化財保存技術について、調査研究・情報収集・記録作成に努め、その保存伝承に資する成果を公開する。

#### 2) 重要無形民俗文化財等の保存・活用に資する調査研究

無形民俗文化財においては、全国の民俗芸能・風俗慣習・民俗技術の情報を収集記録し、その保存及び活用に貢献しうる研究成果を公開する。

### ③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究

記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。

#### 1) 史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究

記念物のうち史跡については、その保存・活用のためのマネジメントに関する調査研究を地域振興の観点に基づき国際的動向も踏まえながら進める。名勝については、近世の庭園に関する調査研究を実施し、成果を公開する。

#### 2) 古代日本の都城遺跡に関する調査研究

古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。

#### 3) 重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究

文化的景観の保存・活用の促進等を図るため、重要文化的景観に関する情報を収集・整理し、成果を公開する。あわせて、複数の事例研究により文化的景観の調査手法の体系化を行う。

#### 4) 全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究

遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。

## 5) 水中文化遺産に関する調査研究

国内の水中文化遺産の調査に取り組むとともに、主に海外の水中文化遺産に関する調査研究及び保存活用の事例を調査し、今後の取組に資する。

## (2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

文化財の価値や保存に関する研究の進展を図るため、下記の研究開発及び調査研究に取り組む。

### ①文化財の調査手法に関する研究開発

文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。

#### 1) デジタル画像の形成方法等の研究開発

文化財の現状及び経年劣化等の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成や3D記録製作等について研究開発を進める。

#### 2) 埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発

遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の探査・計測等の調査手法に関する研究開発を進める。

#### 3) 年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発

年輪年代調査による木造文化財の年代確定に資するため、年輪データの地域性に関する研究を進める。また、年輪年代の非破壊調査等の新たな手法に関する研究開発を進める。

#### 4) 動植物遺存体の分析方法の研究開発

過去の生活・生業活動の解明等を図るため、分析に必要不可欠な現生の動植物標本を収集・整理するとともに、発掘調査等で出土した動植物遺存体等の調査手法に関する研究開発を進める。

### ②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究

文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。

以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。

#### 1) 生物被害の予防と対策に関する調査研究

大規模燻蒸に替わる虫菌害対策のシステム化をより向上させるため、浮遊微生物量の短時間・連続測定など新しいモニタリング技術について基礎研究を行う。屋外環境においては、木造建造物や古墳など環境制御が困難な場所における生物被害の予防策および対処法に関する調査研究を行う。

#### 2) 文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究

文化財の展示照明として導入が進む白色LED、有機EL光源が文化財の保存に与える影響並びにその展示照明としての評価方法を検討する基礎研究を実施し、照明に関する新たな基準作成に資する。また、文化財に影響を与える展示ケース内汚染物質の軽減方法に関して検討を行い、空気清浄化マニュアルを作成して成果普及を図る。

#### 3) 可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究

各種の可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造に関する調査方法を確立し、日本絵画における顔料の変遷についての研究を進めるとともに、金工品等における黄銅（真鍮）材料の利用実態を明らかにする。新たに可搬型X線回折装置を導入し、各種文化財の保存状態等に関する調査研究を進める。

#### 4) 屋外文化財の劣化対策に関する調査研究

屋外に所在する石造物や木造建造物等について、凍結劣化や塩類風化、頻繁な生物被害などの屋外特有の保存環境要因、及び地震や水害などの自然災害による劣化・破損を軽減するための方法につい

て調査研究を行う。

5) 文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究

美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため、伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い、その安定性についての評価を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。

6) 考古遺物の保存処理法に関する調査研究

考古遺物の診断調査から得られる情報を活用し、金属製遺物の脱塩・安定化法や木製遺物のシステムティックな含浸処理法等、考古遺物を安定した状態で保存・活用するための新規の保存処理法に関する調査研究を行う。

7) 遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究

遺構周辺の熱水分性状に関する環境調査及び物質移動、埋蔵環境についてモデル化を行い、遺構と埋蔵環境下にある遺物の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究を行う。

8) 建造物の彩色に関する調査研究

南都の寺社等の歴史的建造物の塗装彩色の修理に資するため、技法及び材料調査を実施するとともに、復元された平城宮跡大極殿において塗装彩色の経年変化のモニタリング法に関する研究を行う。

9) 近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究

コンクリート構造物やレンガ構造等による産業・交通・土木関連の施設や機械類、合成樹脂等の複合的な材料が使われている美術工芸品など、近代文化遺産の保存や修復に必要とされる理念・技術・方法を研究し、保存管理計画等の策定に寄与する。

10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究

高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。

### (3) 文化遺産保護に関する国際協働

#### ①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。

1) 文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信

海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みながら毎年、優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令について条文を和訳し、法令集として刊行する。

また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。

2) 文化遺産保護協力事業の推進

諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。

また、その成果をもとに、日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなどASEAN諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。

3) 文化遺産の保存・修復に関する人材育成等

諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を進める。研修は一時的な技術移転に留まらず、国際的な文化遺産保護に関

する情報交換、技術移転、相互協力を行い、国際貢献に努める。

## ②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

アジア太平洋地域において活動する研究者・研究機関と連携のもと、無形文化遺産保護の実践及び方法論についての国際会議やシンポジウム及び専門家会合並びに出版等の事業を通じた研究の活性化、研究情報の収集及びその活用戦略の検討と開発を通じて、当該地域における無形文化遺産保護のための研究を促進する。特に、自然災害等によって危機に瀕した無形文化遺産に注意を払い、その実態や保護事例についての調査研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。

## (4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する。

### ①文化財情報基盤の整備・充実

文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。なお、文化財に関するデータベースの公開件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

### ②調査研究成果の発信

文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物や公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多角的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。なお、定期刊行物等の刊行件数及び講演会等の開催回数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

### ③展示公開施設の充実

平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。なお、公開施設における特別展・企画展の開催件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成する。

## (5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修について、研修項目、課程等の体系を示し、地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施し、文化財保護に携わる人材を育成する。

また、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行う。

### ①文化財に関する研修の実施

文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。

なお、研修の実施件数及び受講者数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、アンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。

### ②文化財に関する協力・助言等

国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協



力・助言を行う。

### ③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。

### ④連携大学院教育の推進

連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。

### ⑤文化財等の防災・救援等への寄与

巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。

#### 1) 体制づくり

有事における文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりに向けた検討を行う。

#### 2) 調査研究等の実施

ア 文化財等の防災・救援に関する調査研究を行い、情報の収集と発信を行う。

イ 保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、保存環境、安定化処置及び修理等に関する研究を行う。

ウ 無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を行う。

#### 3) 人材育成等の実施

文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発・普及活動を実施する。

## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1. 業務改善の取組

#### (1) 組織体制の見直し

組織の機能向上のため、組織・体制等の見直しを行う。特に、2019年ICOM京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、機構の事業全体を通じて、各施設横断的に国際業務を戦略的に推進する体制を整備する。

#### (2) 人件費管理等の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

#### (3) 契約・調達方法の適正化

「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、引き続き取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行い、随意契約によることができる事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施する。

#### (4) 共同調達等の取組の推進

各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について、周辺他機関等との共同調達等の取組を推進する。



## (5) 一般管理費等の削減

中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項(2)及びIX 4. に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。このため、事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。

具体的には下記の措置を講じる。

- ① 機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化
- ② 計画的なアウトソーシング
- ③ 使用資源の減少
  - ・ 省エネルギー
  - ・ 廃棄物減量化
  - ・ リサイクルの推進

## 2. 業務の電子化

機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図ることとし、IT技術を活用した業務の効率化に努める。

## 3. 予算執行の効率化

運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。

# III 財務内容に関する目標を達成するためにとるべき措置

## 1. 自己収入拡大への取組

展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

## 2. 固定的経費の節減

管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うことにより、固定的経費の節減を図る。

## 3. 決算情報・セグメント情報の充実等

機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。

## 4. 保有資産の処分

保有資産の見直し等については、「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本視点について」(平成26年9月2日付け総管査第263号総務省行政管理局通知)に基づき、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

## Ⅳ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化並びに積極的な自己収入の増加に向けた取組を踏まえた予算及び収支計画による運営を行う。

### 1. 予算（中期計画の予算）

別紙1のとおり

### 2. 収支計画

別紙2のとおり

### 3. 資金計画

別紙3のとおり

## Ⅴ 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は、20億円

短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。

## Ⅵ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画

なし。

## Ⅶ 重要な財産の処分等に関する計画

なし。

## Ⅷ 剰余金の使途

決算において、剰余金が発生した時は、次の経費等に充てる。

1. 文化財の購入・修理
2. 調査研究、出版事業の充実
3. 展覧事業の充実
4. 来館者サービス、情報提供の質的向上
5. 国際協力
6. 老朽化した施設設備への対応の充実

## IX その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1. 内部統制

コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境や規定を整備し、運用する。また、内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行う。

### 2. その他

#### (1) 自己評価

外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業に関する自己評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。

#### (2) 情報セキュリティ対策

情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。

また、自己点検、監査を通じて情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、その結果に基づいて改善する。

### 3. 施設設備に関する計画

施設設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙4のと通りの計画に沿った整備を推進する。

### 4. 人事に関する計画

#### (1) 方針

- ①中長期的な人事計画等を策定し、理事長の裁量によって一定数の職員を配置できる仕組を導入する。  
また、国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ、職員個々の能力向上を通じて、組織のパフォーマンスを高めるための制度を導入する。
- ②性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力、適性に応じた採用及び人事配置を行い、職員の多様な働き方を促進する。
- ③多様性を受容できる組織風土の醸成を図るため、例えば女性や障がいのある方の活躍を推進するなどし、それを支える就業環境の整備や教育・研修を実施する。
- ④職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画・立案する。特にグローバル化・多様化する社会に対応できる人材の育成を図る。

#### (2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。

中期目標期間中の人件費総額見込額 13,644百万円

但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。

### 5. 中期目標期間を超える債務負担

中期目標期間を超える債務負担については、機構の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて行う。

## 6. 積立金の使途

前中期目標期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

## (別紙1) 予算(中期計画の予算)

平成28年度～平成32年度 予算

(単位：百万円)

区 分	国立博物館等	文化財研究所等	合 計
<b>収 入</b>			
運営費交付金	29,448	12,076	41,524
施設整備費補助金	22,923	1,530	24,453
展示事業等収入	7,049	325	7,374
受託収入	143	2,741	2,884
その他寄附金等	1,690	62	1,752
計	61,253	16,734	77,987
<b>支 出</b>			
管理経費	6,599	1,850	8,449
うち人件費	2,984	1,132	4,116
うち一般管理費	3,615	718	4,333
業務経費	29,898	10,551	40,449
うち人件費	7,635	4,963	12,598
うち収集保管事業費	12,641	0	12,641
うち展覧事業費	5,588	0	5,588
うち教育普及事業費	468	0	468
うち博物館研究事業費	3,411	0	3,411
うち博物館支援事業費	155	0	155
うち基礎研究事業費	0	1,524	1,524
うち応用研究事業費	0	1,341	1,341
うち国際遺産保護事業費	0	810	810
うち情報公開事業費	0	1,851	1,851
うち研修協力事業費	0	62	62
施設整備費	22,923	1,530	24,453
受託事業費	143	2,741	2,884
その他寄附金等	1,690	62	1,752
計	61,253	16,734	77,987

【人件費の見積り】 期間中総額 13,644百万円を支出する。

但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。

## 〔運営費交付金の算定ルール〕

○運営費交付金 毎事業年度に交付する運営費交付金(A)については、以下の数式により決定する。

$$A(y) = P(y) + Pk(y) + R(y) + Rk(y) + \varepsilon(y) - E(y)$$

〈凡例〉

A(y) : 当該事業年度の運営費交付金

P(y) : 当該事業年度の業務経費の人件費(役職員に対する報酬・給与、賞与、手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。)

Pk(y) : 当該事業年度の管理経費の人件費(役職員に対する報酬・給与、賞与、手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。)

R(y) : 当該事業年度の業務経費(特殊要因を除く。)

Rk(y) : 当該事業年度の一般管理費(特殊要因を除く。)

$\varepsilon(y)$  : 当該事業年度における特殊要因経費

E(y) : 当該事業年度における自己収入の見積額

○人件費

$P(y) = P(y-1) \times \alpha \times \sigma$  (中期計画の初年度である平成28年度のP(y)は見積額とする。)

$Pk(y) = Pk(y-1) \times \alpha \times \sigma$  (中期計画の初年度である平成28年度のPk(y)は見積額とする。)

〈凡例〉

P(y) : 当該事業年度の業務経費の人件費(役職員に対する報酬・給与、賞与、手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。)

P(y-1) : 直前の事業年度のP(y)

Pk(y) : 当該事業年度の管理経費の人件費(役職員に対する報酬・給与、賞与、手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。)

Pk(y-1) : 直前の事業年度のPk(y)

$\alpha$  (アルファ) : 効率化係数。各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

$\sigma$  (シグマ) : 人件費調整係数。各事業年度の予算編成過程において、給与昇給率等を勘案し、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

○業務経費

$R(y) = R(y-1) \times \beta \times \theta \times \gamma$  (中期計画の初年度である平成28年度のR(y)は見積額とする。)

〈凡例〉

R(y) : 当該事業年度の業務経費(特殊要因を除く。)

R(y-1) : 直前の事業年度のR(y)

$\beta$  (ベータ) : 効率化係数。各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

$\theta$  (シータ) : 消費者物価指数。各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

$\gamma$  (ガンマ) : 業務政策係数。自己収入に係る支出を勘案し、また事業の進展により必要経費が大幅に変わることを勘案し、各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

○一般管理費

$Rk(y) = Rk(y-1) \times \pi \times \theta$  (中期計画の初年度である平成28年度のRk(y)は見積額とする。)

〈凡例〉

Rk(y) : 当該事業年度の一般管理費(特殊要因を除く。)

Rk(y-1) : 直前の事業年度のRk(y)

$\pi$  (パイ) : 効率化係数。各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

$\theta$  (シータ) : 消費者物価指数。各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

○特殊要因経費

$\varepsilon$  (イプシロン) : 毎事業年度の見積額

○自己収入

$E(y) = E(y-1) \times \mu \times \lambda$  (中期計画の初年度である平成28年度のE(y)は見積額とする。)

〈凡例〉

E(y) : 当該事業年度の自己収入(受託収入等を除く)

E(y-1) : 直前の事業年度のE(y)

$\mu$  (ミュー) : 収入政策係数。各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

$\lambda$  (ラムダ) : 収入調整係数。事業の見直し等による自己収入への影響等を勘案し、各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

[上記の算定式に基づき、以下の仮定の下に中期計画の予算を試算]

- ・運営費交付金の見積りにについては、特殊要因経費を除いて、平成27年度予算額を基準額として、中期計画期間中に、人件費(±0%)、一般管理費物件費(△15%)、業務経費物件費(△5%)とし、中期計画期間中に想定される特殊要因経費を加算して試算。
- ・退職手当については、中期計画期間中に想定される額を試算。
- ・施設整備費補助金については、平成28年度以降の施設・設備整備計画に基づき試算。



## (別紙2) 収支計画

### 平成28年度～平成32年度 収支計画

(単位：百万円)

区 分	国立博物館等	文化財研究所等	合 計
<b>費用の部</b>	28,393	15,255	43,648
経常経費	28,329	15,215	43,544
管理経費	6,331	1,789	8,120
うち人件費	2,984	1,132	4,116
うち一般管理費	3,347	657	4,004
事業経費	19,768	12,938	32,706
うち人件費	7,635	4,963	12,598
うち収集保管事業費	1,382	0	1,382
うち展覧事業費	5,173	0	5,173
うち教育普及事業費	433	0	433
うち博物館研究事業費	3,157	0	3,157
うち博物館支援事業費	155	0	155
うち基礎研究事業費	0	1,410	1,410
うち応用研究事業費	0	1,242	1,242
うち国際遺産保護事業費	0	749	749
うち情報公開事業費	0	1,714	1,714
うち研修協力事業費	0	57	57
うち受託事業費	143	2,741	2,884
うちその他寄附金等	1,690	62	1,752
減価償却費	2,230	488	2,718
財務費用	0	8	8
臨時損失	64	32	96
<b>収益の部</b>	28,410	15,227	43,637
運営費交付金収益	17,707	11,607	29,314
展示事業等の収入	6,555	325	6,880
受託収入	143	2,741	2,884
その他寄附金等	1,690	62	1,752
資産見返負債戻入	2,230	488	2,718
財務収益	4	0	4
臨時利益	81	4	85
<b>純利益</b>	17	△28	△11
<b>目的積立金取崩</b>	0	0	0
<b>総利益</b>	17	△28	△11

## (別紙3) 資金計画

### 平成28年度～平成32年度 資金計画

(単位：百万円)

区 分	国立博物館等	文化財研究所等	合 計
<b>資金支出</b>	61,257	16,734	77,991
業務活動による支出	25,422	16,258	41,680
投資活動による支出	35,835	468	36,303
財務活動による支出	0	8	8
<b>資金収入</b>	61,257	16,734	77,991
業務活動による収入	38,330	15,204	53,534
運営費交付金による収入	29,448	12,076	41,524
展示事業等による収入	7,049	325	7,374
受託収入	143	2,741	2,884
その他寄附金等	1,690	62	1,752
投資活動による収入	22,923	1,530	24,453
施設整備費補助金による収入	22,923	1,530	24,453
財務活動による収入	4	0	4
受取利息等による収入	4	0	4

## (別紙4)

### 施設整備に関する計画

(単位：百万円)

施 設 設 備 の 内 容	予 定 額	財 源
・ 東京国立博物館 仮収蔵庫等整備及び本館リニューアル工事 (平成28年度～32年度) 柳瀬荘黄林閣屋根茅葺工事 (28年度)	18,657 18,612 45	施設整備費補助金
・ 京都国立博物館 本館収蔵庫等改修及び本館免震改修等工事 (平成28年度～32年度)	4,266 4,266	施設整備費補助金
・ 奈良文化財研究所 本庁舎建替工事 (平成28年度～29年度)	1,530 1,530	施設整備費補助金

(脚注) 金額については見込みである。

また、施設・設備の老朽化等を勘案した改修(更新)等が追加されることがあり得る。

## 4. 東京文化財研究所関係事業索引

### 凡 例

- (1) この索引は、平成28年度に東京文化財研究所が実施したすべての事業を、財源の種類を問わず網羅している。  
(2) 事業は五十音順に配列し、各事業名称の末尾に次の略号を付すとともに、掲載頁を示した。

運営費交付金によるプロジェクト	【交付】
科学研究費助成事業	【科研】
受託調査研究	【受託】
共同研究	【共同】
助成金	【助成】
その他の調査研究	【その他】

あ	アイヌと和人の文化交渉史に関する研究—明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に	【科研】	94
	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	【交付】	49
	イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	【科研】	95
	絵金屏風の保存修理に関する調査研究	【受託】	113
	江戸～昭和期の常磐津節演奏家に関する基盤研究	【科研】	89
	江戸時代における初期文人画の基礎的研究—中国絵画学習とその地域性について—	【科研】	103
	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	【交付】	44
か	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	【科研】	83
	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	【交付】	37
	近代産業遺産(美術工芸品)に関する海外事例調査事業	【受託】	112
	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	【交付】	46
	空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用	【科研】	86
	黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—	【科研】	82
	航空資料保存の研究	【共同】	118
	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発—旧修理材料や微生物痕の除去—	【科研】	78
	国際研修	【交付】	52
	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	【受託】	110
さ	在外日本古美術品保存修復協力事業	【交付】	51
	彩色材と和紙からなる紙質文化財における和紙の劣化機構	【科研】	101
	紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	【科研】	93
	実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の一指針として—	【科研】	90
	墨、煤、膠の製法と性状の体系化	【科研】	99
	墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—	【科研】	92
	染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—	【科研】	91
	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	【交付】	55
た	タイ及び日本所在の幕末期日本製伏彩色螺鈿製品に関する調査研究	【助成】	120
	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	【科研】	77
	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	【交付】	47
	津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	【科研】	84
	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	【交付】	72

特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	【受託】	111
虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究	【科研】	81
な 2018年出版予定の書籍のための、1989年以降の日本の現代美術の研究	【科研】	102
日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討	【受託】	117
日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究	【科研】	85
日本絵画の色と材料「Color & Material」	【助成】	121
日本東洋美術史の資料学的研究	【交付】	36
は 博物館・美術館等保存担当学芸員研修	【交付】	67
万世特攻平和祈念館金属類収蔵品劣化対策事前調査事業	【受託】	114
毘沙門天像の成立と展開 一唐・宋・元から平安・鎌倉へ一	【科研】	100
美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	【交付】	71
美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	【交付】	38
肥沃な三日月地帯の東翼ザグロス地域における新石器化に関する考古学的研究	【科研】	98
ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究	【科研】	80
文化遺産国際協力拠点交流事業「大洋州島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業」	【受託】	107
文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	【受託】	108
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	【受託】	109
文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「シリア内戦下における被災文化財に関する調査」	【受託】	116
文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「ミャンマー・バガン遺跡群における地震被害に関する調査」	【受託】	115
文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	【交付】	58
文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	【交付】	45
文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	【交付】	53
文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	【交付】	35
文化財の材質・構造に関する調査・助言	【交付】	70
文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	【交付】	43
文化財の収集、保管に関する指導助言	【交付】	68
文化財の修復及び整備に関する調査・助言	【交付】	70
文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	【交付】	41
文化財の虫菌害に関する調査・助言	【交付】	69
文化財防災ネットワーク推進事業	【その他】	122
平安時代前期における神仏習合の展開とその彫刻に関する研究	【科研】	88
平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究	【科研】	87
平成27年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	【交付】	63
平成28年度オープンレクチャー(調査・研究成果の公開)	【交付】	56
放射光を用いた中央アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発	【科研】	97
『保存科学』第56号の出版	【交付】	63
保存修復技術の国際的応用に関する研究	【交付】	50
保存と活用のための展示環境の研究	【交付】	42
ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	【科研】	79
ま 無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	【交付】	57
無形文化遺産に関する助言	【交付】	69
無形文化遺産部出版関係事業	【交付】	63
無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	【交付】	48
無形文化財の保存・継承に関する調査研究	【交付】	39
無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	【交付】	40
や 『遊行上人縁起絵』の調査・研究―遊行寺(清浄光寺)本を中心に―	【助成】	119
ら リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究	【科研】	96





独立行政法人国立文化財機構  
東京文化財研究所年報 2016

発行日：2017年6月30日

発行所：独立行政法人国立文化財機構  
東京文化財研究所

〒110-8713  
東京都台東区上野公園13-43

TEL 03-3823-2241 (番号案内)  
FAX 03-3828-2434  
<http://www.tobunken.go.jp/>  
[info@tobunken.go.jp](mailto:info@tobunken.go.jp)

編集：文化財情報資料部

制作：CURIO EDITORS STUDIO (柴田 卓)

印刷：よしみ工産株式会社

Independent Administrative Institution National Institutes for Cultural Heritage  
Tokyo National Research Institute for Cultural Properties

ANNUAL REPORT 2016

Issued on 30 June, 2017

Published by Tokyo National Research Institute for Cultural Properties  
13-43, Uenokoen, Taito-ku, Tokyo 110-8713, JAPAN

Edited by Department of Art Research, Archives and Information Systems

Designed and DTP by Curio Editors Studio (SHIBATA Takashi)

Printed by Yoshimi Kohsan Corporation

© Tokyo National Research Institute for Cultural Properties, 2017